

横 浜 横 須 賀 道 路
釜 利 谷 第 二 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事

契 約 参 考 図 書
(率 計 上 工 事 及 び 概 算 数 量 、 図 面)

令 和 7 年 7 月

東 日 本 高 速 道 路 株 式 会 社 関 東 支 社
京 浜 管 理 事 務 所

・ 契 約 参 考 図 書 は 、 率 計 上 工 事 や 概 算 数 量 な ど を 提 示 す る 資 料 で あり 、 工 事 請 負 契 約 書 第 1 条
に いう 設 計 図 書 で は な い 。 (請 負 契 約 上 拘 束 力 は な い)
・ 当 該 内 容 は 、 受 注 後 に 協 議 を 開 始 す る 項 目 で あり ため 、 内 容 に 関 す る 質 問 は 受 け 付 け な い 。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事 図面目次
 契約参考図書(率計上項目及び概算数量、図面)

番号	図面名称	備考	番号	図面名称	備考
1	数量総括表(1)		釜利谷JCT第二橋		
2	数量総括表(2)		39	BP5橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)	
釜利谷JCT第一橋			40	BP5橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)	
3	P1橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)		41	撤去工(その1)	
4	P1橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		42	撤去工(その2)	
5	P2橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)		43	撤去工(その3)	
6	P2橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		釜利谷第二高架橋		
7	P3橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)		44	排水装置撤去・復旧図(その1)	
8	P3橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		45	排水装置撤去・復旧図(その2)	
9	P4橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)		46	排水装置撤去・復旧図(その3)	
10	P4橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		47	排水装置撤去・復旧図(その4)	
11	P4橋脚 排水装置撤去・復旧図(その3)		48	排水装置撤去・復旧図(その5)	
12	P4橋脚 排水装置撤去・復旧図(その4)		49	排水装置撤去・復旧図(その6)	
13	P4橋脚 排水装置撤去・復旧図(その5)		50	排水装置撤去・復旧図(その7)	
14	P4橋脚 排水装置撤去・復旧図(その6)		51	排水装置撤去・復旧図(その8)	
15	P5橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)		52	排水装置撤去・復旧図(その9)	
16	P5橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		53	構造物等取壊し工	
17	P9橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)		54	撤去・復旧工(その1)	
18	P9橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		55	撤去・復旧工(その2)	
19	P10橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)		56	撤去・復旧工(その3)	
20	P10橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		57	撤去・復旧工(その4)	
21	P12橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)		58	撤去工(その1)	
22	P12橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		59	撤去工(その2)	
23	P13橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)		60	撤去工(その3)	
24	P13橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		61	撤去工(その4)	
25	P14橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)		62	撤去工(その5)	
26	P14橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		63	撤去工(その6)	
27	P15橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)		64	撤去工(その7)	
28	P15橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		65	復旧工	
29	P16橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)				
30	P16橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)				
31	撤去・復旧工(その1)				
32	撤去・復旧工(その2)				
33	撤去・復旧工(その3)				
34	撤去・復旧工(その4)				
35	撤去・復旧工(その5)				
36	撤去・復旧工(その6)				
37	撤去・復旧工(その7)				
38	構造物等取壊し工				

数量総括表(1)

橋梁名	上下線 区分	橋脚	特-(9)														
			率計上工事に関する事項														
			排水装置	構造物等取壊し工			撤去・復旧工										
				排水管A	コンクリート構造物取壊し (TypeA)	コンクリート構造物取壊し (TypeB)	アスファルト舗装版取壊し(TypeA)	用排水溝 Pu・0.30・0.30	集水ます TypeA	石積工	排水管	立入防止柵 A	立入防止柵 A1	立入防止柵 B	立入防止柵 C	立入防止柵 A1の出入口	コンクリート 縁石
m	m3	m3	m2	m	箇所	m	m	m	m	m	m	m	箇所	m	個		
釜利谷JCT第一橋		A1															
		P1	5.7							5.4							
		P2	5.6							5.7							
		P3	6.7							7.7							
		P4	24.8							23.4							
		P5	3.3				3.6			13.3							
		P9	3.3				4.0			13.8							
		P10				4.5			9.4								
		P12	3.3			9.0	3.0		12.9								
		P13	3.3			5.5	2.4		11.8								
		P14	3.3				2.5		11.3								
		P15							12.1		4.0			1			
		P16							7.2		40.0						
		釜利谷JCT第二橋		A2													
BP4																	
BP5	2.8								15.1								
BP6																	
釜利谷第二高架橋	上り	A2															
		A1															
		P1					26.4			23.9			16.0				
		P2	2.4				5.0	1		7.9							
	下り	A2	7.7	7.3	2.8		45.4	1		5.1	73.1		37.5				
		A1													43.2	4	
		P1					24.9	2	14.0	24.4	14.0			15.2			
		P2	2.7				5.9	2		11.2							
合計		A2	6.5		3.4		18.0	1		11.8	35.6						
		81.4	7.3	6.2	19.0	141.1	7	14.0	233.4	122.7	44.0	53.5	15.2	1	43.2	4	

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	数量総括表(1)		
縮 尺		図面番号	1 / 65
設計会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

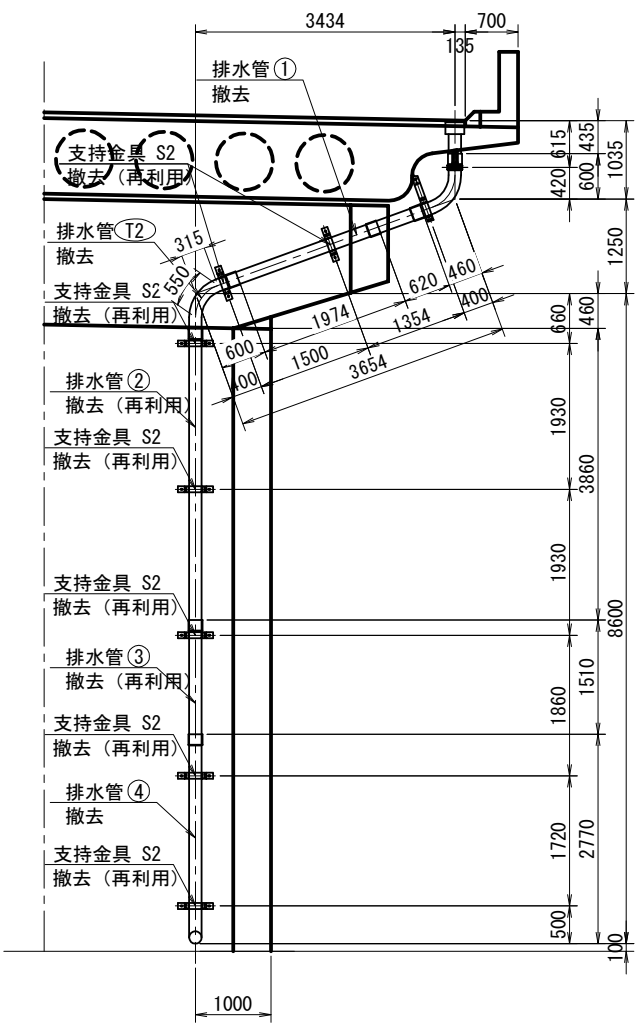
数量総括表(2)

橋梁名	上下線 区分	橋脚	特-(9)										備考
			率計上工事に関する事項										
			撤去・復旧工		撤去工					復旧工			
			ベンチ	テーブル・ベンチ	親杭横矢板	ハンドレール	排水管	補剛材	耐震連結装置	階段工	歩道工	ハンドレール	
			基	組	m	m	m	t	t	m	m	m	
釜利谷JCT第一橋		A1											
		P1					5.7						
		P2					5.7						
		P3					6.3						
		P4					24.8						
		P5					2.9						
		P9					2.9						
		P10											
		P12					2.9						
		P13					2.9						
		P14					2.9						
		P15											
		P16											
		A2											
釜利谷JCT第二橋		BP4					0.009	0.696					
		BP5					2.5						
		BP6											
		A2						0.010	0.816				
釜利谷第二高架橋	上り	A1						0.036					
		P1			16.0			0.026					
		P2					2.1	0.027					
		A2				45.7	7.9		0.321	12.8	12.3	45.7	
	下り	A1	2	2				0.039					
		P1						0.026					
		P2					2.1	0.027					
		A2					7.1		0.321		16.8		
合計			2	2	16.0	45.7	78.7	0.200	2.154	12.8	29.1	45.7	

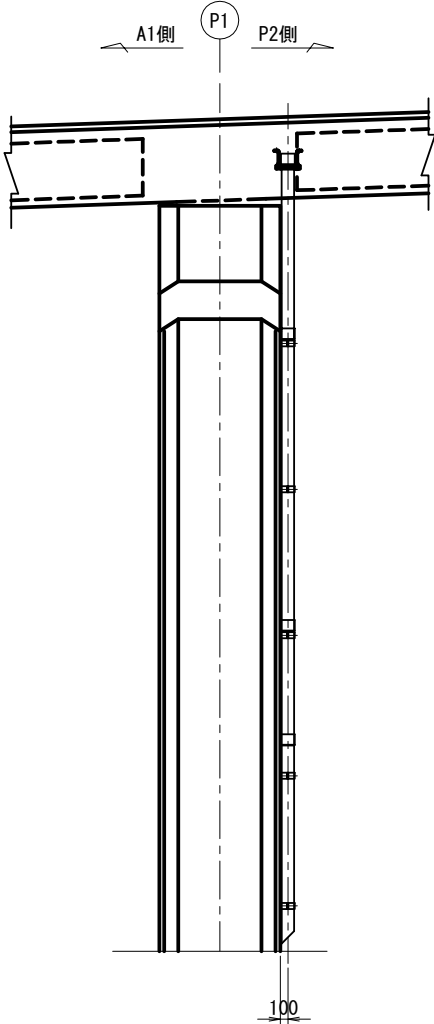
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	数量総括表(2)		
縮 尺		図面番号	2 / 65
設計会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

既設撤去図

正面図



側面図



撤去工 排水管

撤去流水延長

上部工

下部工 $L = 1.974 + 0.600 + 0.460 + 2.770 - 0.315 \times 2 + 0.550 = 5.724\text{m}$

＜撤去数量＞

直管

① 1-VP 150A x 2114(スリーブ付き)

④ 1-VP 150A x 2770(スリーブ付き)

曲管

② 1個 (VP150A)

撤去・復旧工 排水管

撤去・復旧流水延長

上部工

下部工 $L = 3.860 + 1.510 = 5.370\text{m}$

＜撤去・復旧数量＞

支持金具

S2 7個 (VP150A)

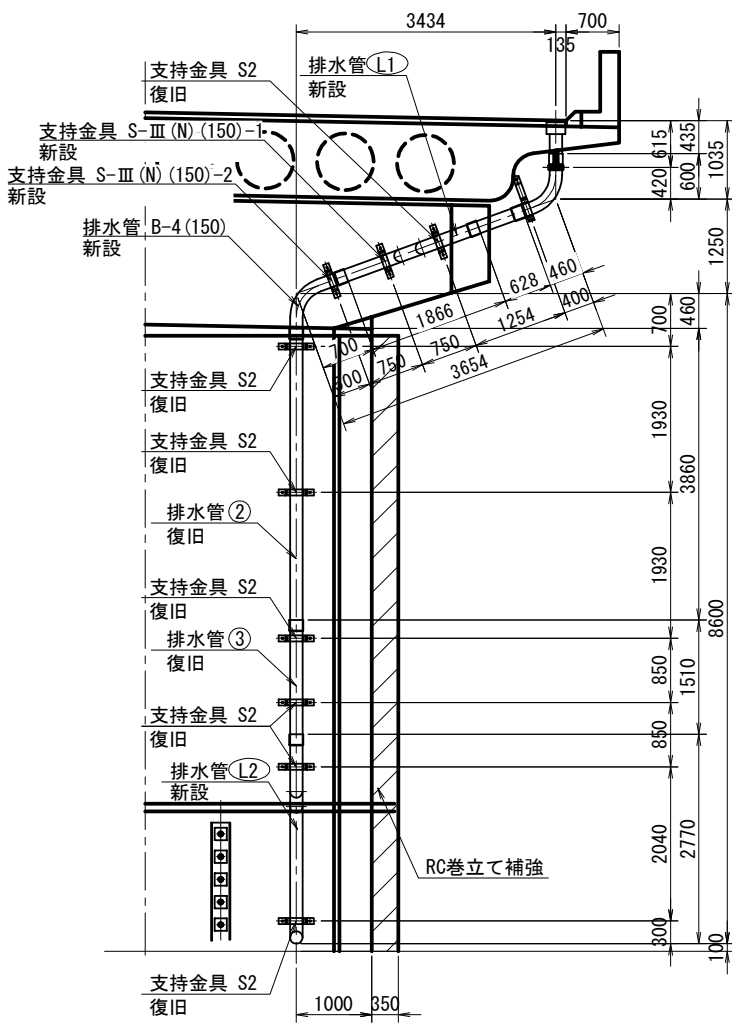
直管

② 1-VP 150A x 4000(スリーブ付き)

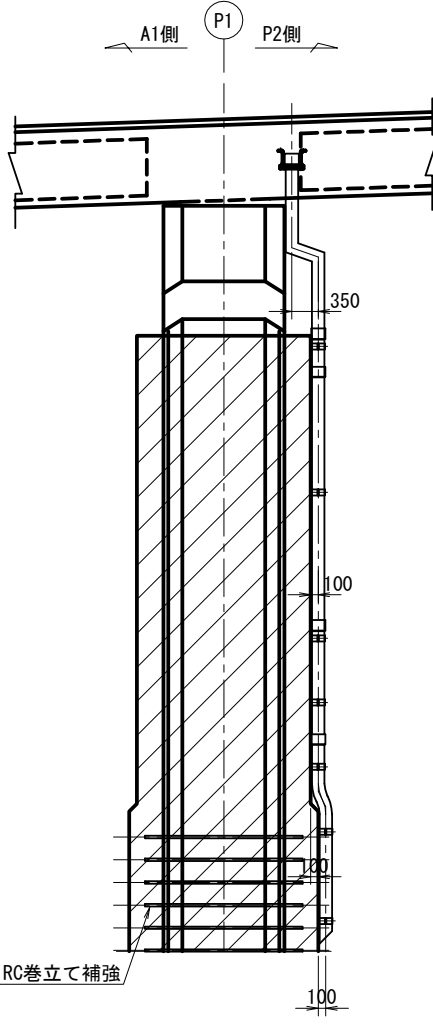
③ 1-VP 150A x 1650(スリーブ付き)

復旧図

正面図



側面図



排水装置 排水管 A

新規流水延長

上部工

下部工 $L = 1.975 + 1.088 + 2.655 = 5.718\text{m}$

＜新設数量＞

支持金具

S-Ⅲ (N) (150)-1 1個 (VP150A)

S-Ⅲ (N) (150)-2 1個 (VP150A)

曲管

B-4 (150) 1個 (VP150A)

S字管

① 1個 (VP150A)

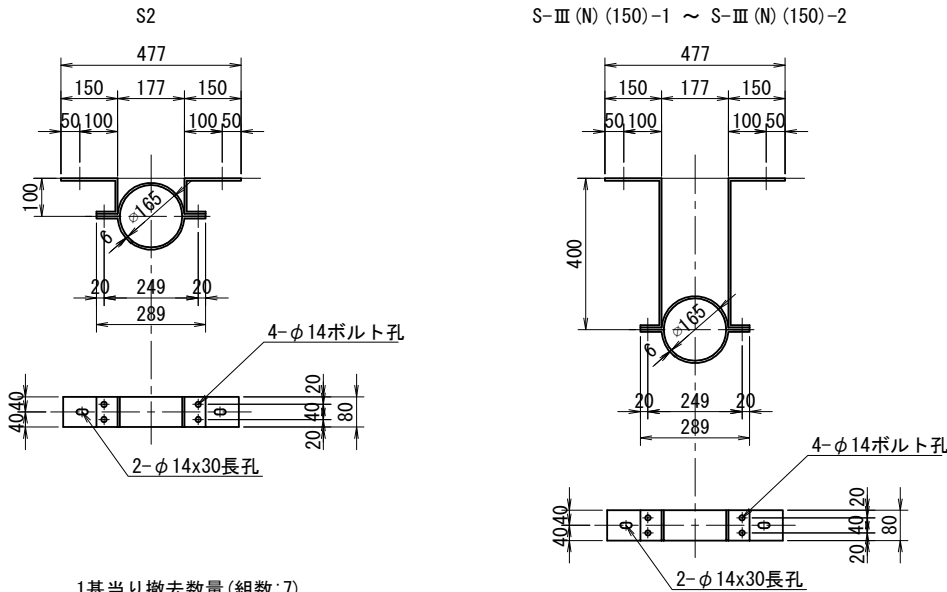
② 1個 (VP150A)

注 記

- 本図面は完成図より作成したものである。
また、補強一般図・構造一般図に記載している簡易計測での地形線とは異なる。
部材の製作及び施工する際には、現地確認および現地計測を行い、実施すること。
- 特記なき材質は、全てSS400とする。
- ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
- 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZT49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P1橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)			
	縮 尺	図 示	図面番号	3 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

支持金具詳細



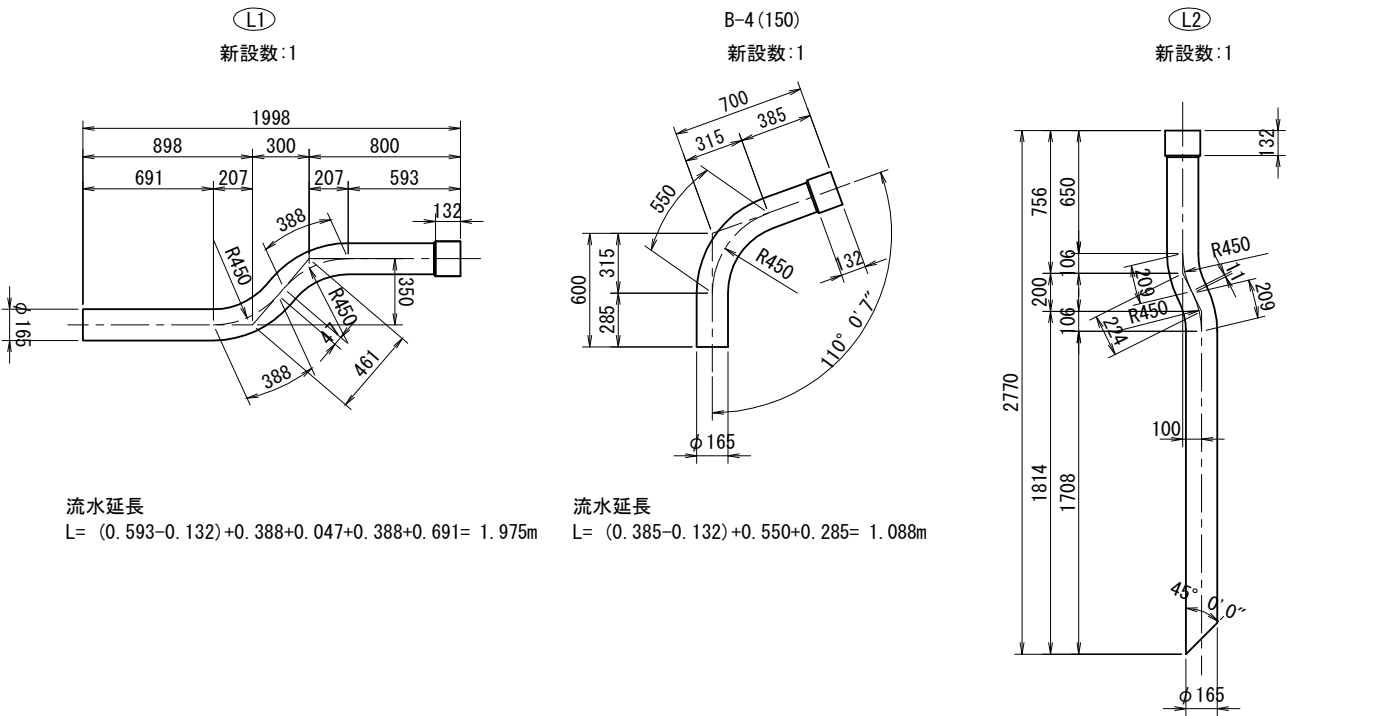
1基当り撤去数量(組数:7)
2-コンクリートアンカー M12x50 (1-N, 1-W付)

1基当り新設数量(組数:7)
2-コンクリートアンカー M12x100

1基当り撤去・復旧数量(組数:7)
2-PL 80 x 6 x 300
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40

1基当り新設数量(組数:2)
2-PL 80 x 6 x 600
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40
2-コンクリートアンカー M12x100

新設部材詳細図 S=1:40



流水延長
L= (0.593-0.132)+0.388+0.047+0.388+0.691= 1.975m

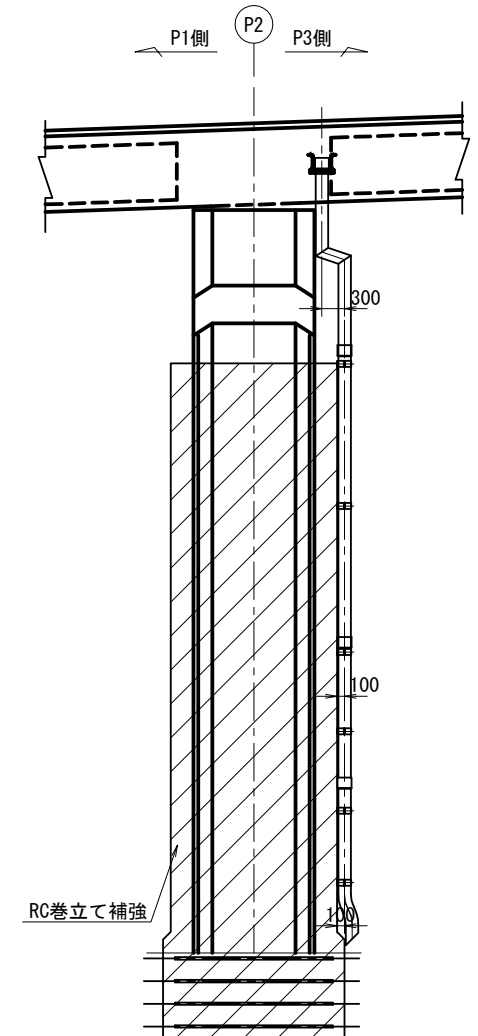
流水延長
L= (0.385-0.132)+0.550+0.285= 1.088m

流水延長
L= (0.650-0.132)+0.209+0.011+0.209+1.708= 2.655m

- 注 記
- 特記なき材質は、全てSS400とする。
 - ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
 - 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZT49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P1橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		
	縮 尺	図 示	図面番号 4 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

側面図



<p>横浜須賀野道路 金沢谷第二高架橋耐震補強工事</p>				
図面の種類	<p>金沢谷JCT第一橋 P2橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)</p>			
縮 尺	図 示	図面番号	5 / 65	
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	<p>東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜路管理事務所</p>			

既設撤去図

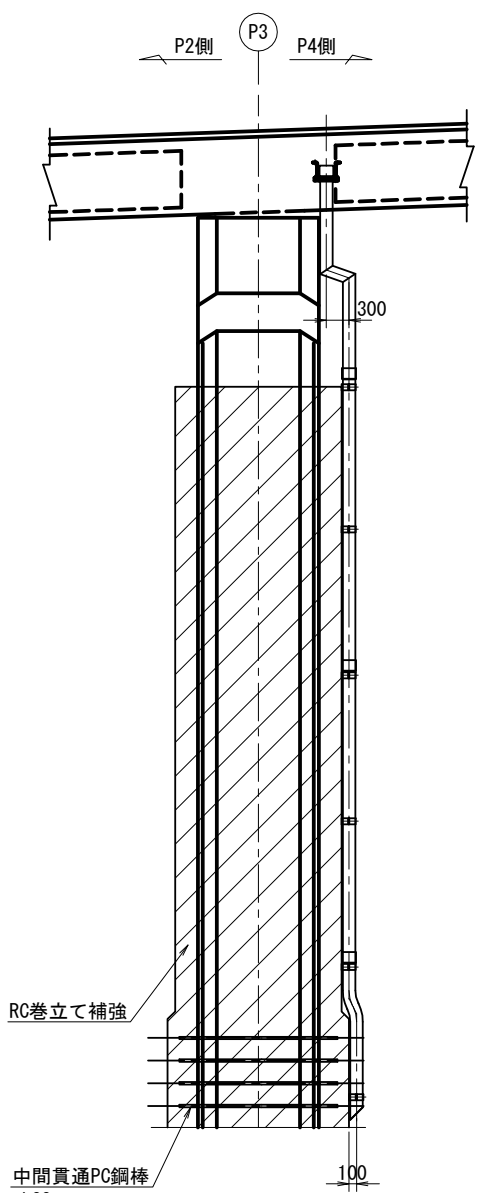
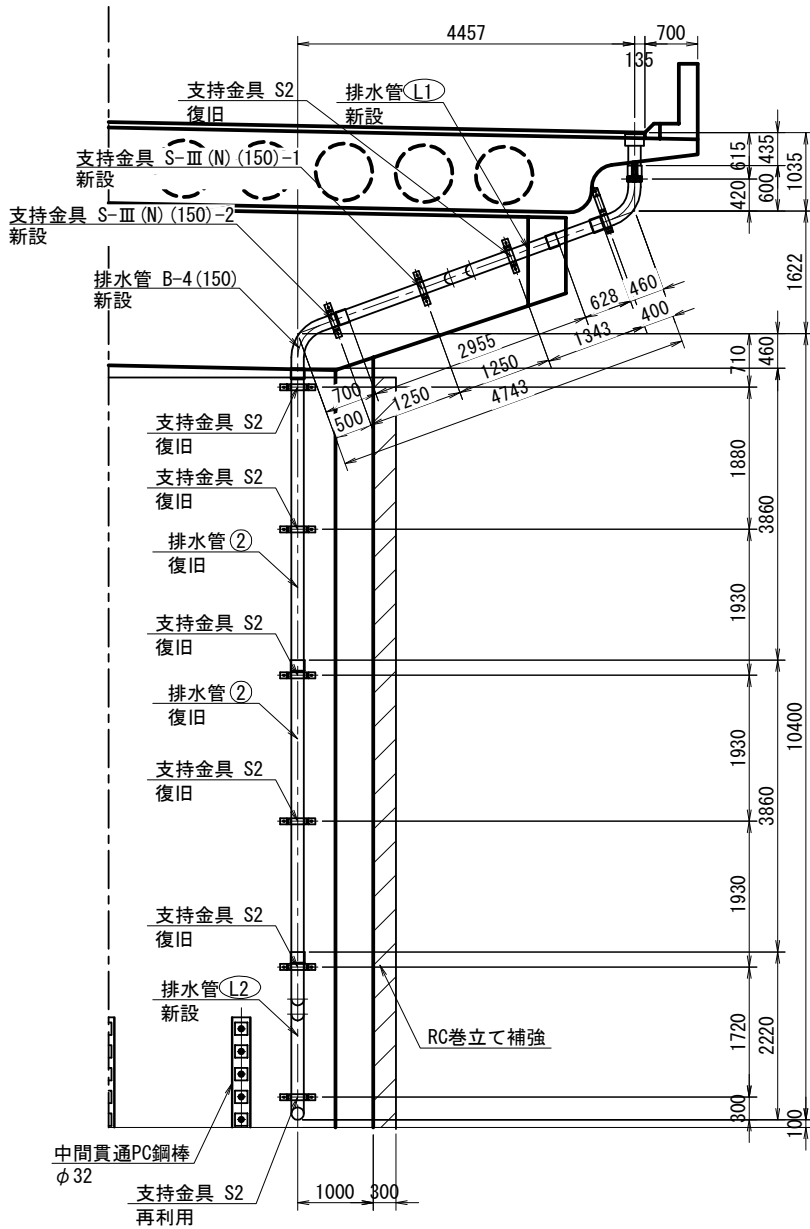
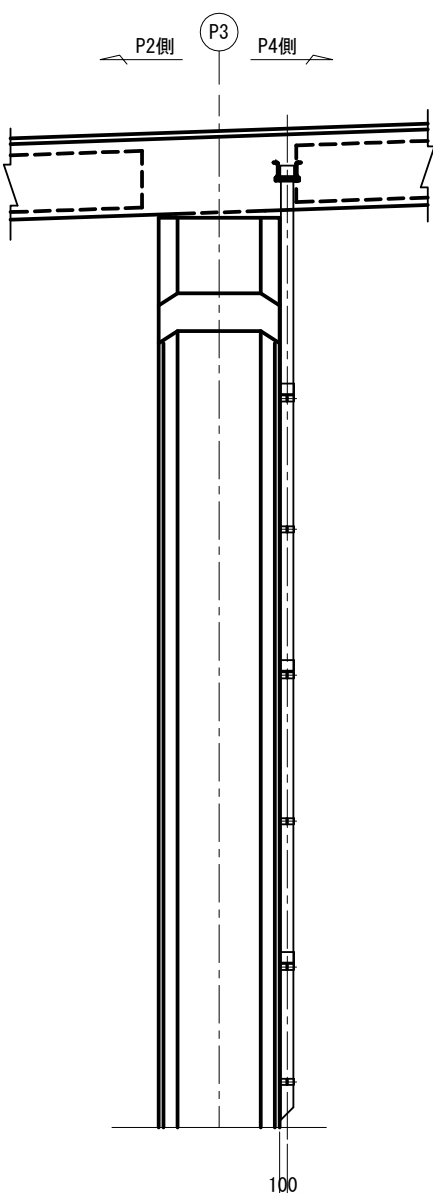
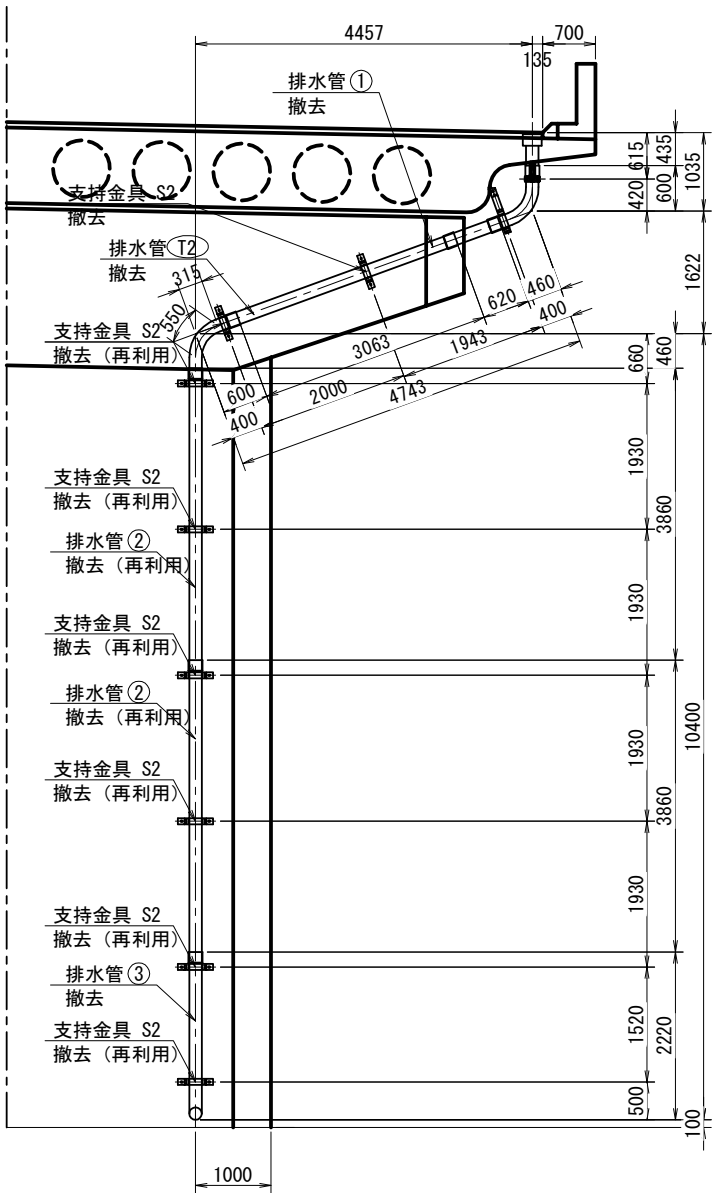
復旧図

正面図

側面図

正面図

側面図



撤去工 排水管

撤去流水延長
上部工
下部工 $L = 3.063 + 0.600 + 0.460 + 2.220 - 0.315 \times 2 + 0.550 = 6.263\text{m}$

〈撤去数量〉
直管
① 1-VP 150A x 3203(スリーブ付き)
③ 1-VP 150A x 2220(スリーブ付き)
曲管
T2 1個 (VP150A)

支持金具
S2 1個 (VP150A)

撤去・復旧工 排水管

撤去・復旧流水延長
上部工
下部工 $L = 3.860 + 3.860 = 7.720\text{m}$

〈撤去・復旧数量〉
支持金具
S2 7個 (VP150A)

直管
② 2-VP 150A x 4000(スリーブ付き)

排水装置 排水管 A

新規流水延長
上部工
下部工 $L = 3.040 + 1.588 + 2.104 = 6.732\text{m}$

〈新設数量〉
支持金具
S-III (N) (150)-1 1個 (VP150A)
S-III (N) (150)-2 1個 (VP150A)

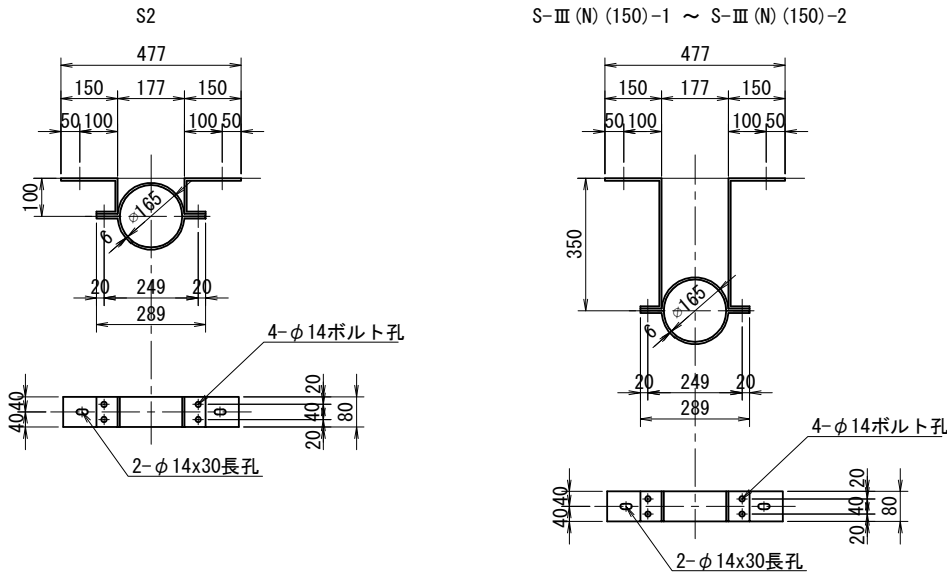
曲管
B-4 (150) 1個 (VP150A)

S字管
L1 1個 (VP150A)
L2 1個 (VP150A)

- 注 記
- 本図面は完成図より作成したものである。
また、補強一般図・構造一般図に記載している簡易計測での地形線とは異なる。
部材の製作及び施工する際には、現地確認および現地計測を行い、実施すること。
 - 特記なき材質は、全てSS400とする。
 - ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
 - 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャー類は、HDZT49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P3橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	7 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

支持金具詳細

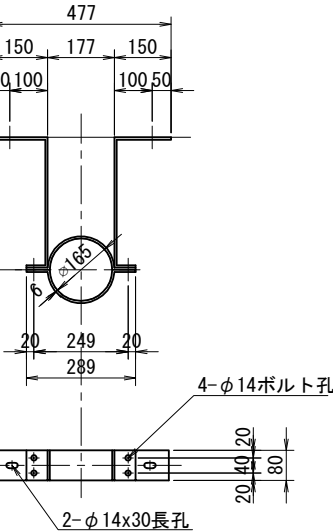


1基当り撤去数量(組数:7)
2-コンクリートアンカー M12x50 (1-N, 1-W付)
1基当り撤去数量(組数:1)
2-PL 80 x 6 x 300
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40
2-コンクリートアンカー M12x50 (1-N, 1-W付)

1基当り新設数量(組数:7)
2-コンクリートアンカー M12x100

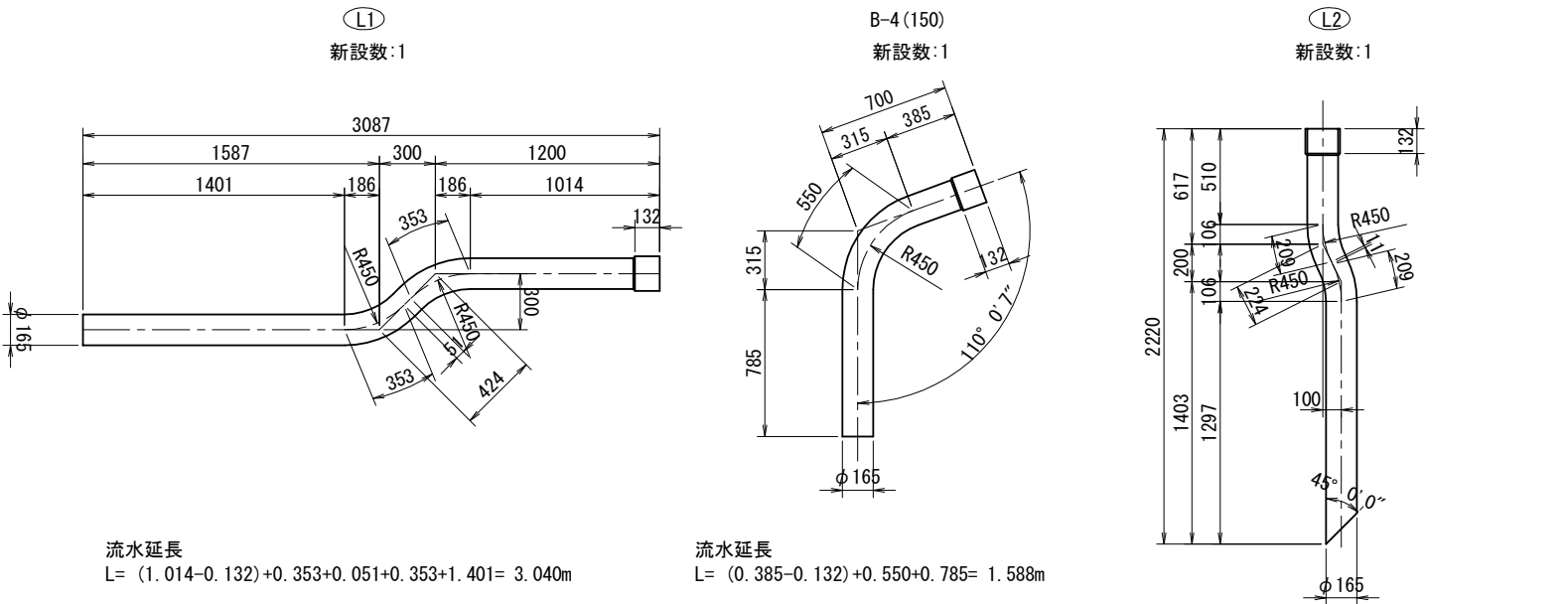
1基当り撤去・復旧数量(組数:7)
2-PL 80 x 6 x 300
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40

S-Ⅲ (N) (150)-1 ~ S-Ⅲ (N) (150)-2



1基当り新設数量(組数:2)
2-PL 80 x 6 x 550
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40
2-コンクリートアンカー M12x100

新設部材詳細図 S=1:40



流水延長
L= (1.014-0.132)+0.353+0.051+0.353+1.401= 3.040m

流水延長
L= (0.385-0.132)+0.550+0.785= 1.588m

流水延長
L= (0.510-0.132)+0.209+0.011+0.209+1.297= 2.104m

- 注 記
- 特記なき材質は、全てSS400とする。
 - ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
 - 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZT49とする。

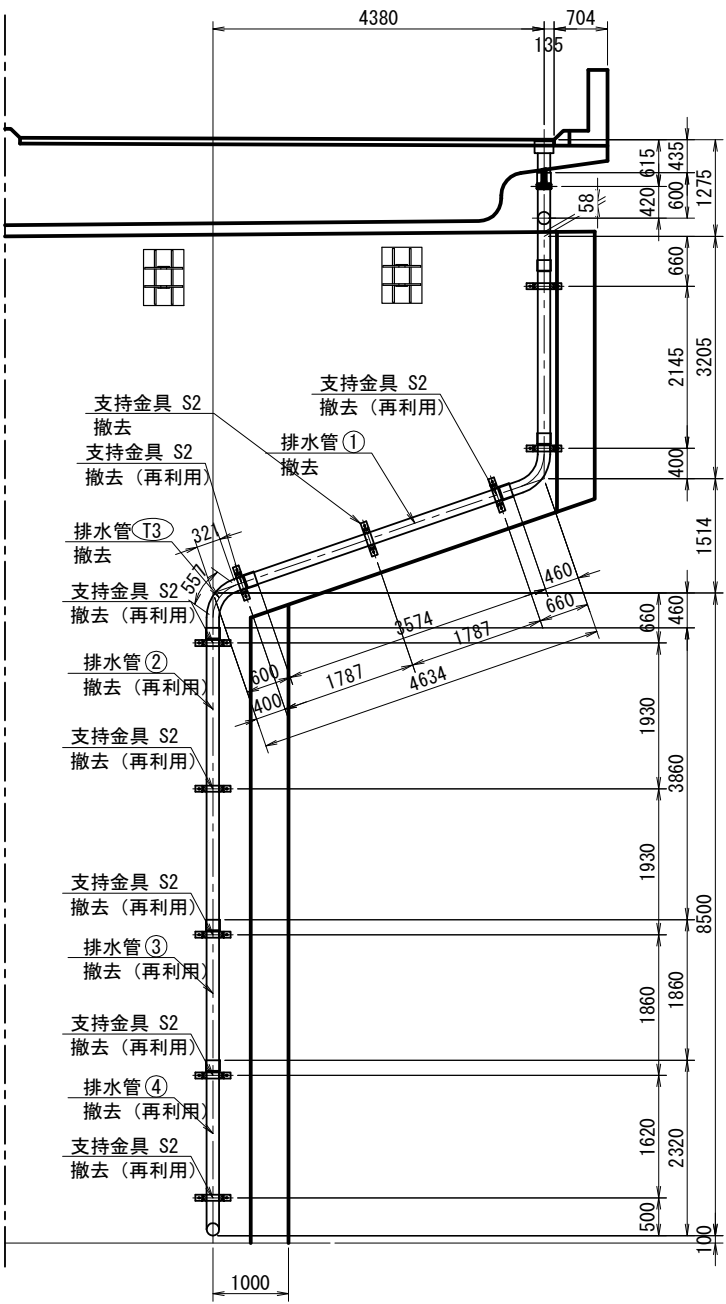
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P3橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		
	縮 尺	図 示	図面番号 8 / 65
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷JCT第一橋 P4橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)
起点 (P 3) 側

S=1:100

既設撤去図

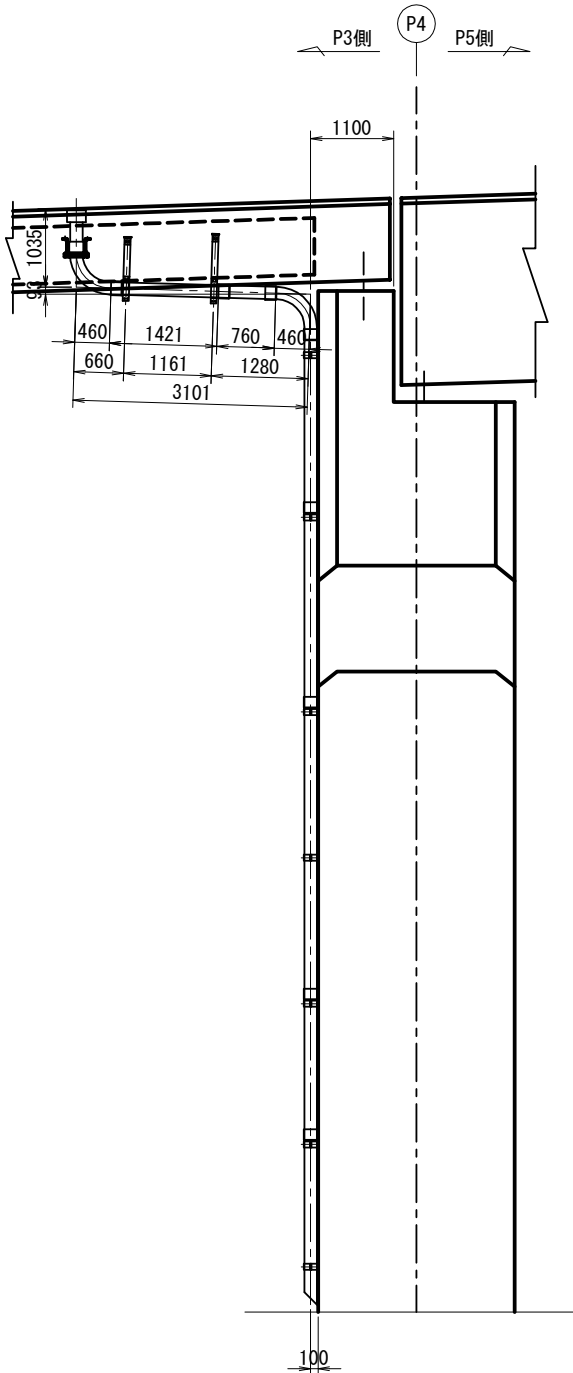
正面図



撤去工 排水管

撤去流水延長
上部工
下部工 $L = 3.574 + 0.600 + 0.460 - 0.321 \times 2 + 0.557 = 4.549\text{m}$
〈撤去数量〉
直管
① 1-VP 150A x 3714(スリーブ付き)
曲管
T3 1個 (VP150A)
支持金具
S2 1個 (VP150A)

側面図

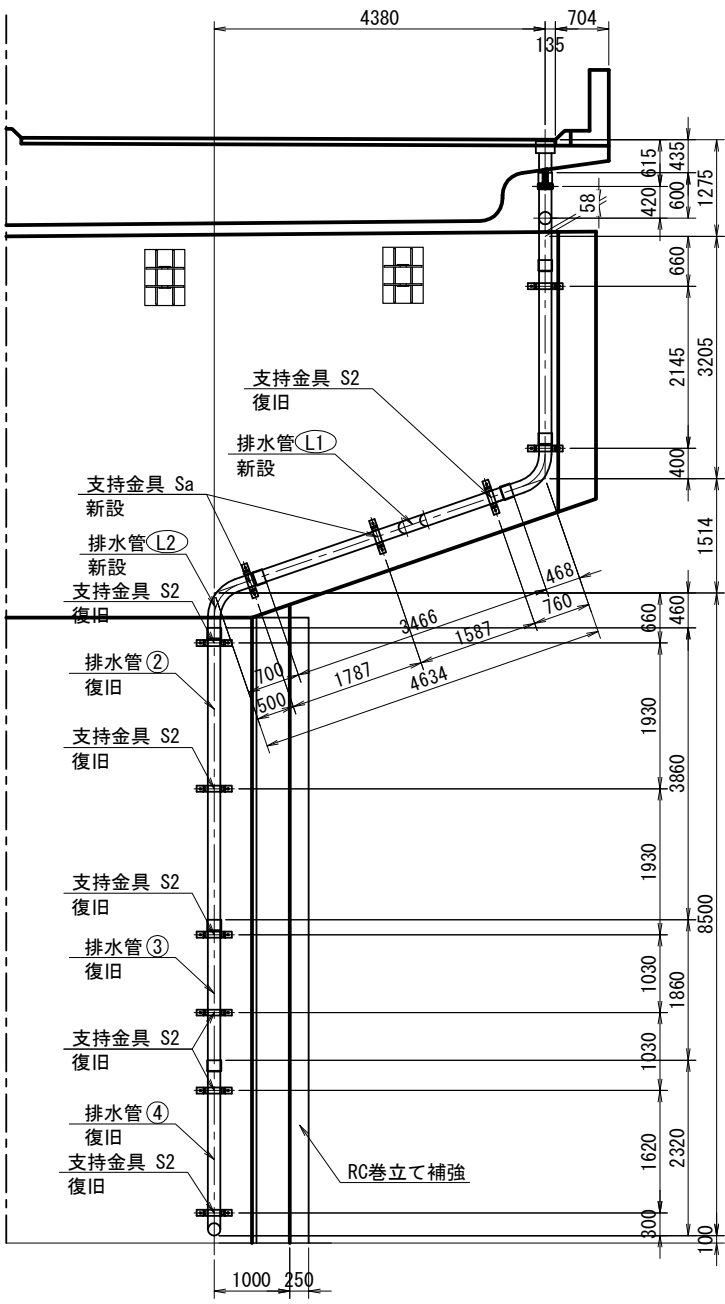


撤去・復旧工 排水管

撤去・復旧流水延長
上部工
下部工 $L = 3.860 + 1.860 + 2.320 = 8.040\text{m}$
〈撤去・復旧数量〉
支持金具
S2 7個 (VP150A)
直管
② 1-VP 150A x 4000(スリーブ付き)
③ 1-VP 150A x 2000(スリーブ付き)
③ 1-VP 150A x 2320(スリーブ付き)

復旧図

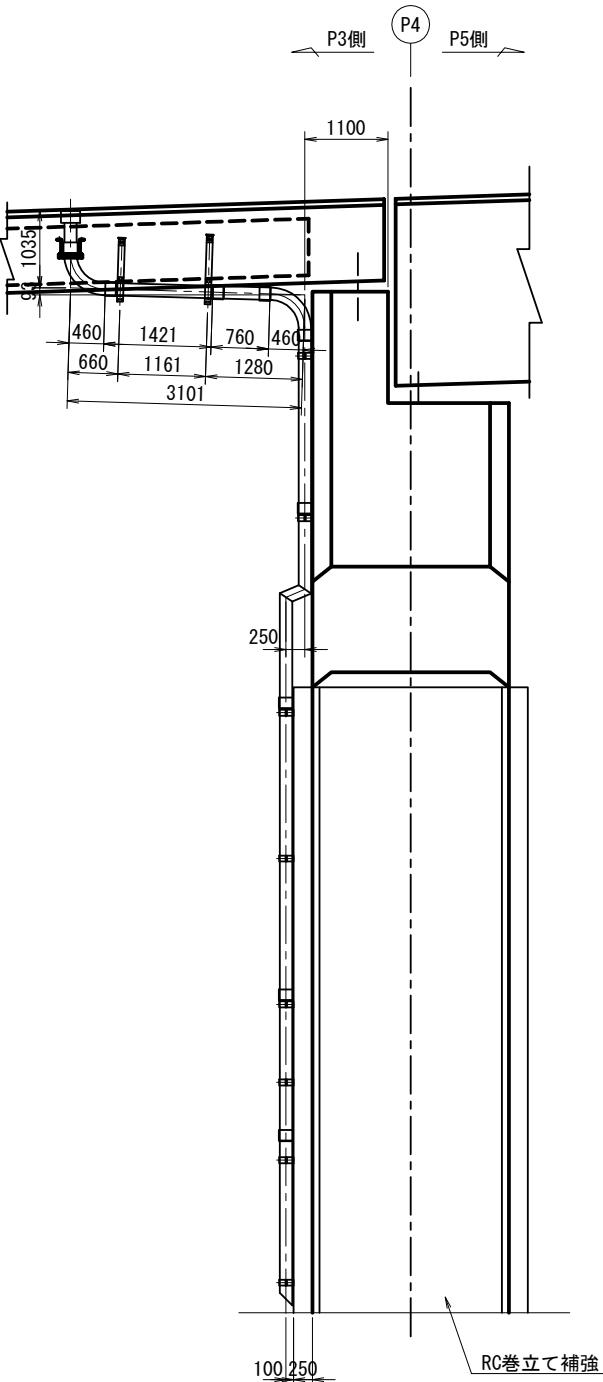
正面図



排水装置 排水管 A

新規流水延長
上部工
下部工 $L = 3.020 + 1.588 = 4.608\text{m}$
〈新設数量〉
S-a 2個 (VP150A)
S字管
L1 1個 (VP150A)
曲管
L2 1個 (VP150A)

側面図



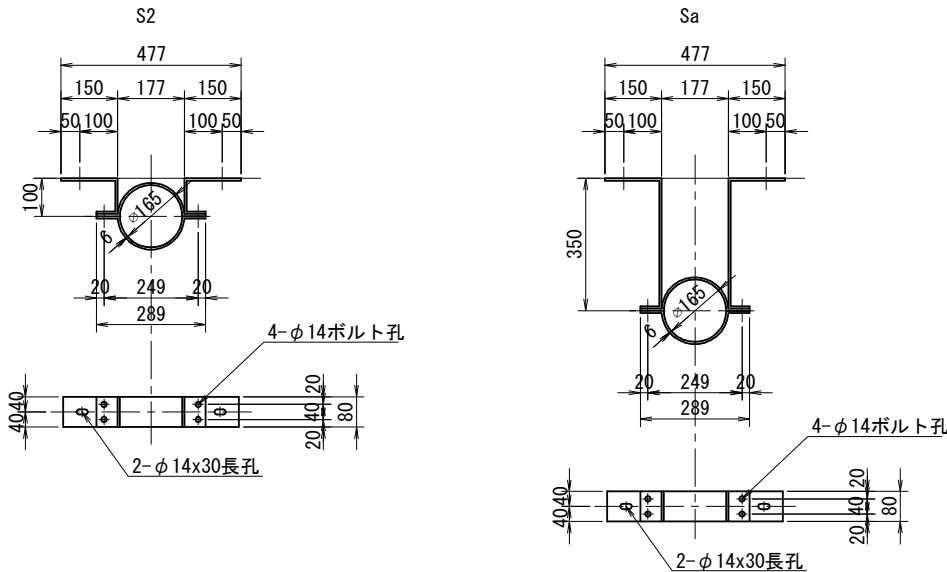
- 注 記
- 本図面は完成図より作成したものである。
また、補強一般図・構造一般図に記載している簡易計測での地形線とは異なる。
部材の製作及び施工する際には、現地確認および現地計測を行い、実施すること。
 - 特記なき材質は、全てSS400とする。
 - ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
 - 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZT49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P4橋脚 排水装置撤去・復旧図(図その1)			
縮 尺	図 示	図面番号	9 / 65	
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

釜利谷JCT第一橋 P4橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)
起点（P3）側

S=1:20

支持金具詳細



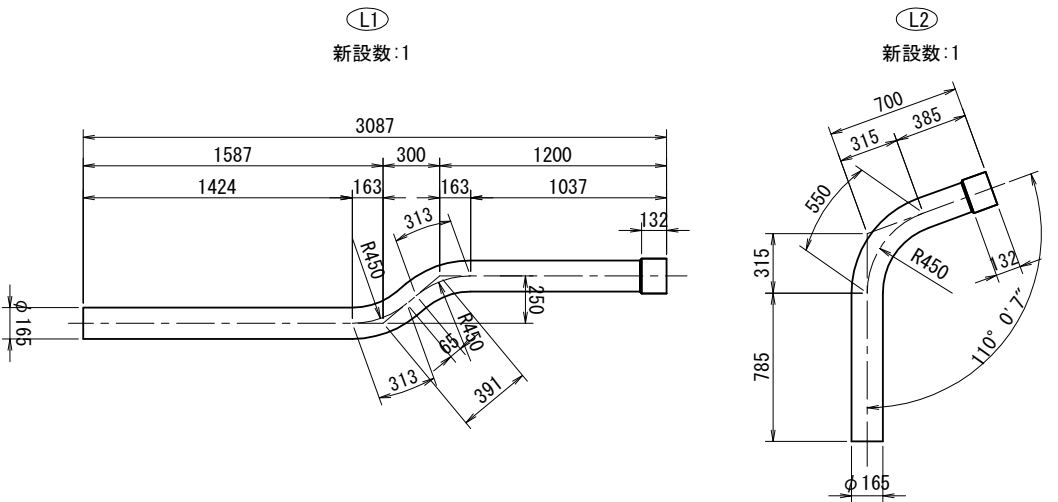
- 1基当り撤去数量(組数:7)
2-コンクリートアンカー M12x50 (1-N, 1-W付)
1基当り撤去数量(組数:1)
2-PL 80 x 6 x 300
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40
2-コンクリートアンカー M12x50 (1-N, 1-W付)

- 1基当り新設数量(組数:7)
2-コンクリートアンカー M12x100

- 1基当り撤去・復旧数量(組数:7)
2-PL 80 x 6 x 300
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40

- 1基当り新設数量(組数:2)
2-PL 80 x 6 x 550
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40
2-コンクリートアンカー M12x100

新設曲管詳細 S=1:40



流水延長
 $L = (1.037 - 0.132) + 0.313 + 0.065 + 0.313 + 1.424 = 3.020\text{m}$

流水延長
 $L = (0.385 - 0.132) + 0.550 + 0.785 = 1.588\text{m}$

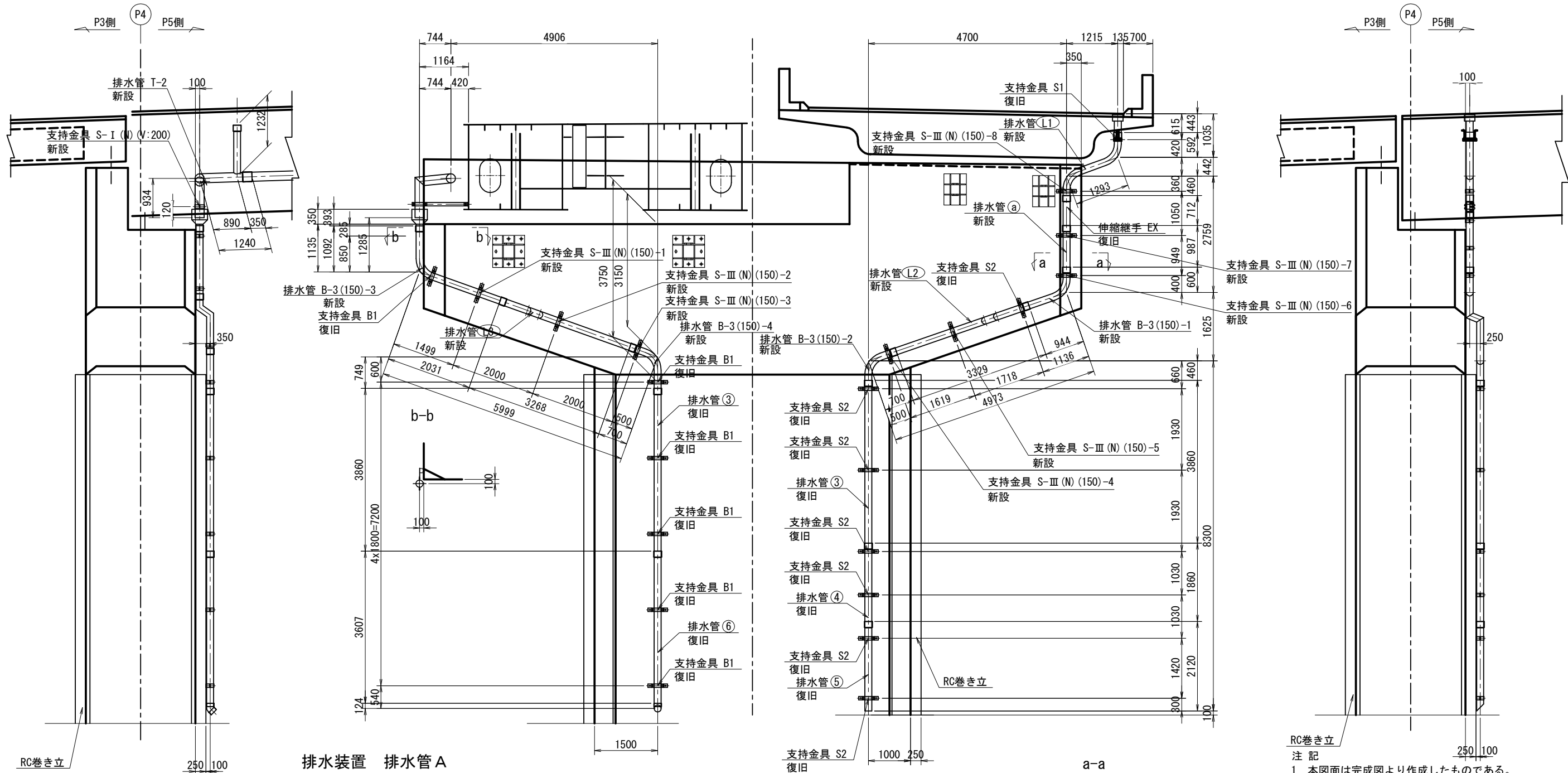
- 注 記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
3. 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
垂鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZT49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P4橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		
	縮 尺	図 示	図面番号 10 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

終点 (P5) 側
復旧図
正面図

側面図

側面図



排水装置 排水管 A

新規流水延長

上部工 L = 2.185 + 4.335 = 6.520m (詳細図参照)

下部工 L = 1.460 + 3.333 + 1.083 + 3.040 + 3.394 + 1.376 = 13.686m (詳細図参照)

<新設数量>

支持金具	
S-Ⅲ (N) (150)-1	1個 (VP150A)
S-Ⅲ (N) (150)-2	1個 (VP150A)
S-Ⅲ (N) (150)-3	1個 (VP150A)
S-Ⅲ (N) (150)-4	1個 (VP150A)
S-Ⅲ (N) (150)-5	1個 (VP150A)
S-Ⅲ (N) (150)-6	1個 (VP150A)
S-Ⅲ (N) (150)-7	1個 (VP150A)
S-Ⅲ (N) (150)-8	1個 (VP150A)
S-I (N) (V:200)	1個 (VP200A)

S字管	
L1	1個 (VP150A)
L2	1個 (VP150A)
L3	1個 (VP150A)

曲管	
B-3 (150)-1	1個 (VP150A)
B-3 (150)-2	1個 (VP150A)
B-3 (150)-3	1個 (VP150A)
B-3 (150)-4	1個 (VP150A)

チーズ管	
T-2	1個 (VP150A)

RC巻き立

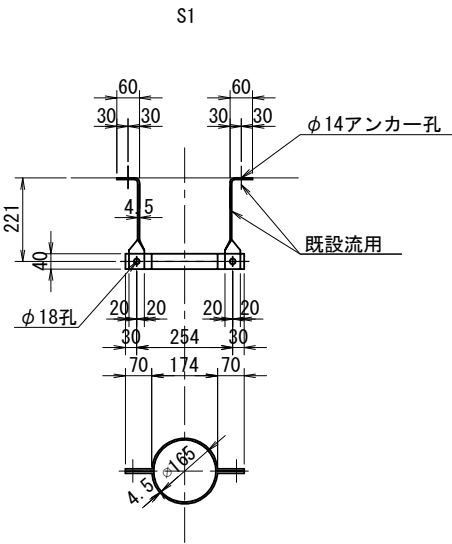
注記

- 本図面は完成図より作成したものである。
また、補強一般図・構造一般図に記載している簡易計測での地形線とは異なる。
部材の製作及び施工する際には、現地確認および現地計測を行い、実施すること。
- 特記なき材質は、全てSS400とする。
- ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
- 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャー類は、HDZT49とする。

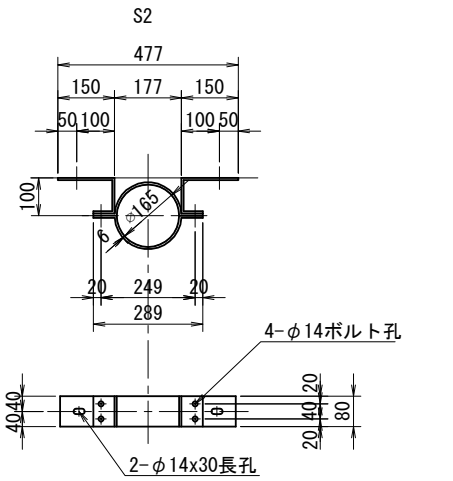
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P4橋脚 排水装置撤去・復旧図(その4)		
縮尺	図示	図面番号	12 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

終点（P5）側

支持金具詳細



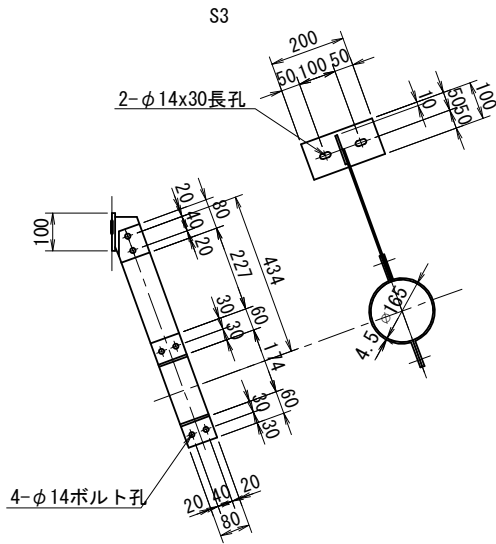
1基当り撤去・復旧数量(組数:1)
2-PL 40 x 4.5 x 406
2-BN M12 x 40



1基当り撤去数量(組数:14)
2-コンクリートアンカー M12x50 (1-N, 1-W付)
1基当り撤去数量(組数:5)
2-PL 80 x 6 x 300
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40
2-コンクリートアンカー M12x50 (1-N, 1-W付)

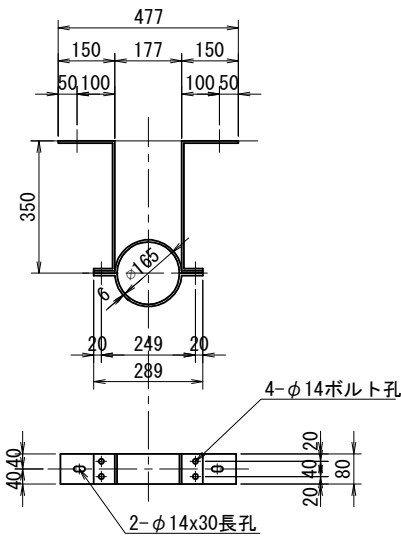
1基当り新設数量(組数:14)
2-コンクリートアンカー M12x100

1基当り撤去・復旧数量(組数:14)
2-PL 80 x 6 x 300
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40



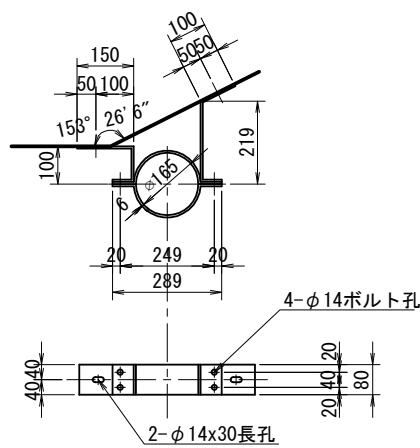
1基当り撤去数量(組数:1)
1-PL 100 x 8 x 200
1-PL 95 x 6 x 110
1-PL 80 x 6 x 367
2-PL 80 x 4.5 x 386
6-BN M12 x 40
2-コンクリートアンカー M12x50 (1-N, 1-W付)

S-Ⅲ (N) (150)-1 ~ S-Ⅲ (N) (150)-5



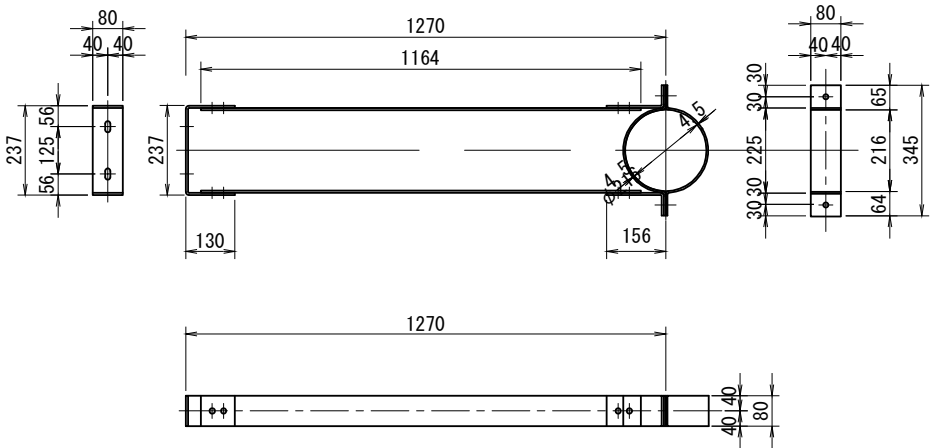
1基当り新設数量(組数:5)
2-PL 80 x 6 x 550
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40
2-コンクリートアンカー M12x100

S-Ⅲ (N) (150)-6 ~ S-Ⅲ (N) (150)-8



1基当り新設数量(組数:3)
1-PL 80 x 6 x 300
1-PL 80 x 6 x 369
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40
2-コンクリートアンカー M12x100

S-Ⅰ (N) (V:200)

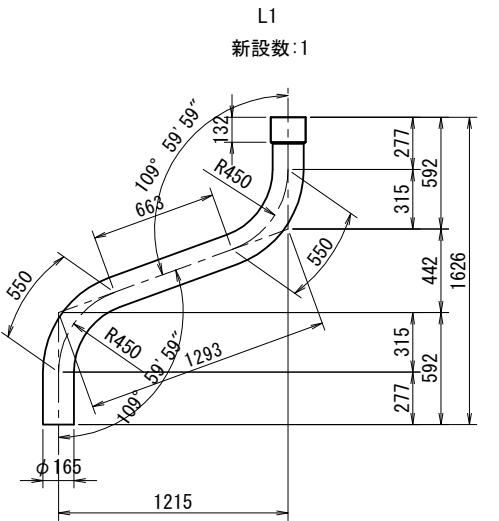


1基当り新設数量(組数:1)
2-PL 80 x 4.5 x 466
2-PL 80 x 6 x 210
2-PL 80 x 6 x 1164
1-PL 80 x 6 x 485
10- M12 x 45 (2-W, 1-SW)
2-ホールインアンカー M12

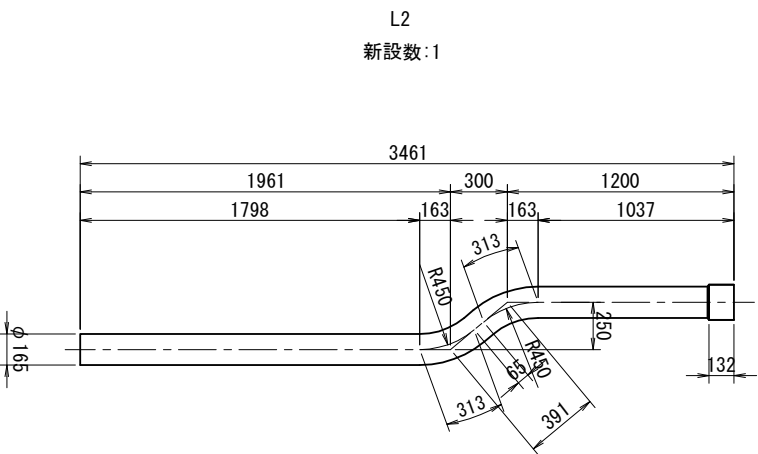
注 記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
3. 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZT49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P4橋脚 排水装置撤去・復旧図(その5)		
縮 尺	図 示	図面番号	13 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

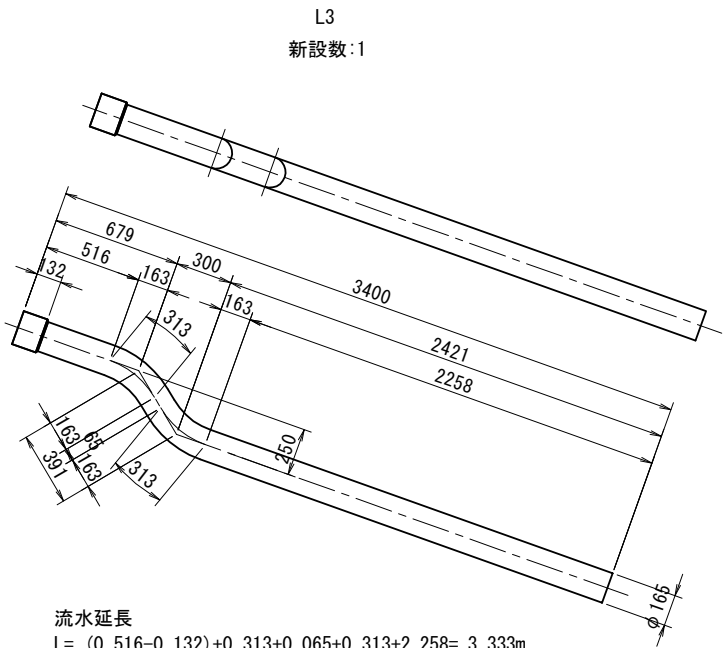
新設曲管詳細



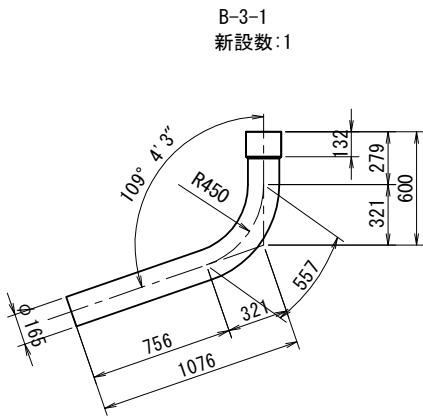
流水延長
 $L = (0.277 - 0.132) + 0.550 + 0.663 + 0.550 + 0.277 = 2.185\text{m}$



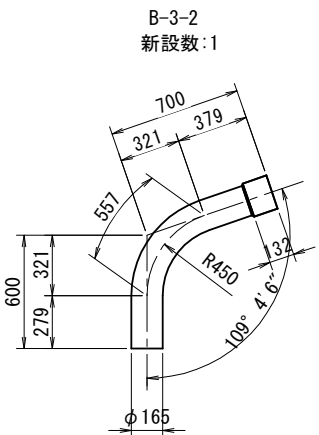
流水延長
 $L = 1.798 + 0.313 + 0.065 + 0.313 + (1.037 - 0.132) = 3.394\text{m}$



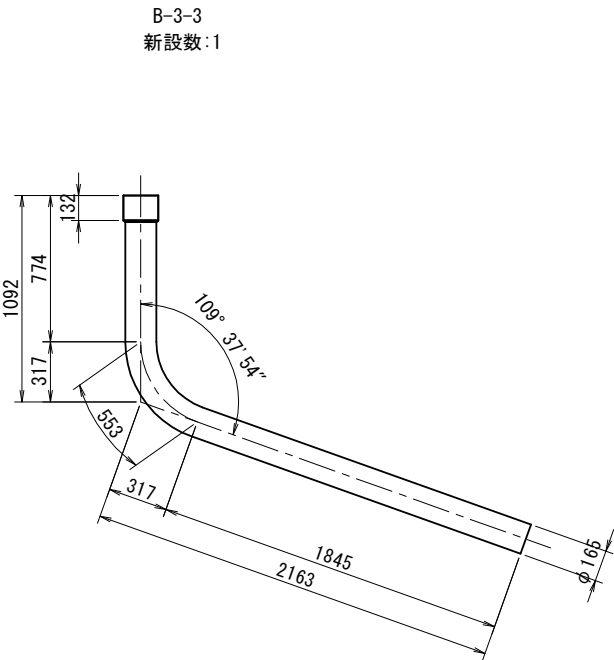
流水延長
 $L = (0.516 - 0.132) + 0.313 + 0.065 + 0.313 + 2.258 = 3.333\text{m}$



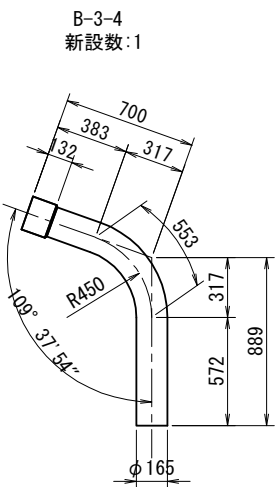
流水延長
 $L = (0.279 - 0.132) + 0.557 + 0.756 = 1.460\text{m}$



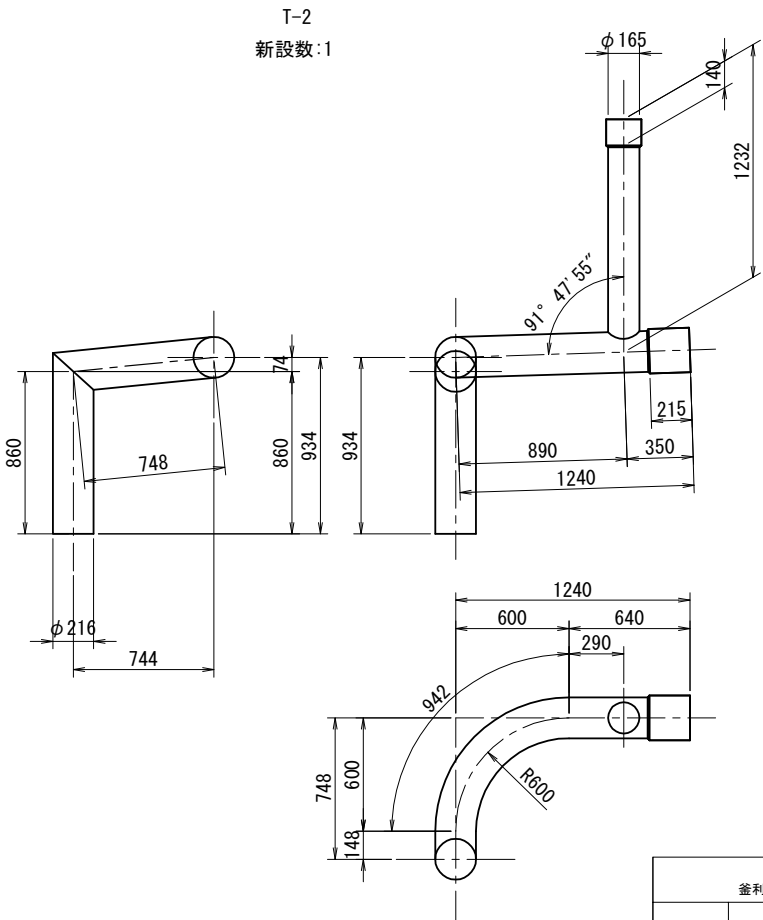
流水延長
 $L = (0.379 - 0.132) + 0.557 + 0.279 = 1.083\text{m}$



流水延長
 $L = (0.774 - 0.132) + 0.553 + 1.845 = 3.040\text{m}$



流水延長
 $L = (0.383 - 0.132) + 0.553 + 0.572 = 1.376\text{m}$

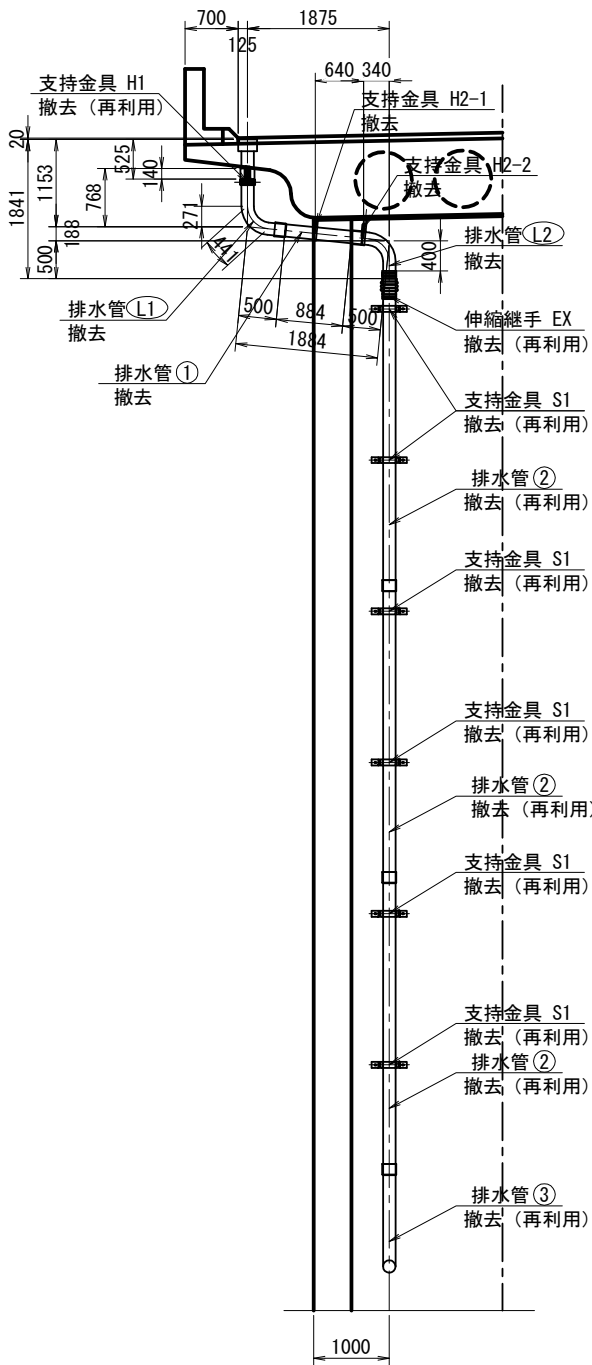


流水延長
 $L = 1.232 + 0.350 - 0.215 + 0.290 + 0.942 + 0.148 + 0.748 + 0.860 = 4.335\text{m}$

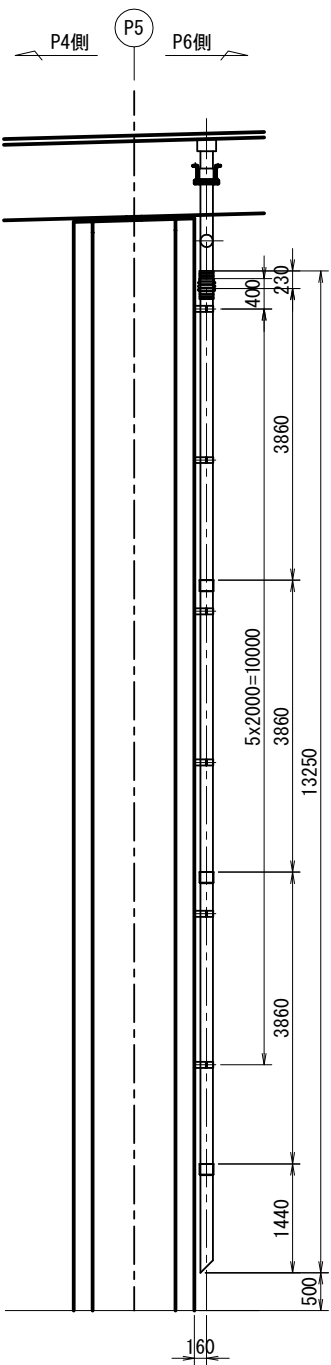
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P4橋脚 排水装置撤去・復旧図(その6)		
縮 尺	図 示	図面番号	14 / 65
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

既設撤去図

正面図



側面図



撤去工 排水管

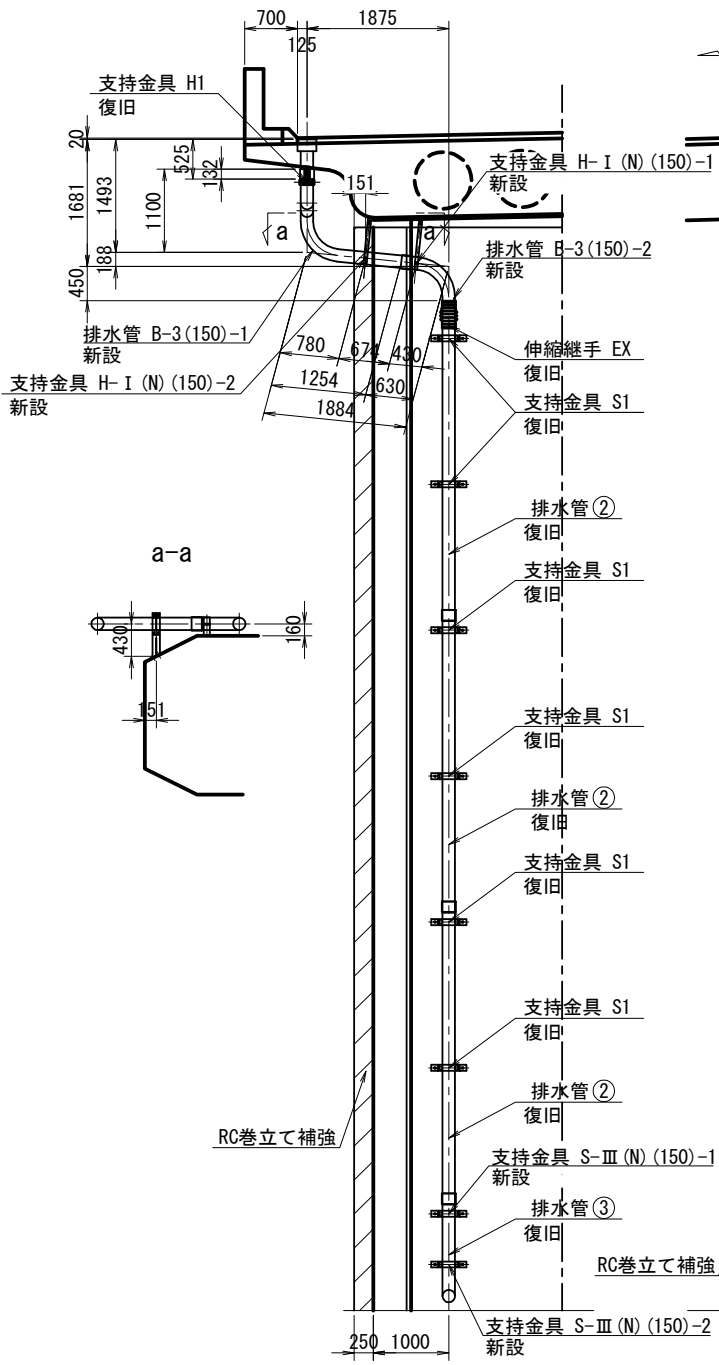
撤去流水延長
上部工 L= 0.768+1.884+0.400-0.271*4+0.441*2= 2.85m
下部工
〈撤去数量〉
支持金具
H2-1 1個 (VP150A)
H2-2 1個 (VP150A)
直管
① 1-VP 150A x 1164(スリーブ付き)
曲管
L1 1個 (VP150A)
L2 1個 (VP150A)

撤去・復旧工 排水管

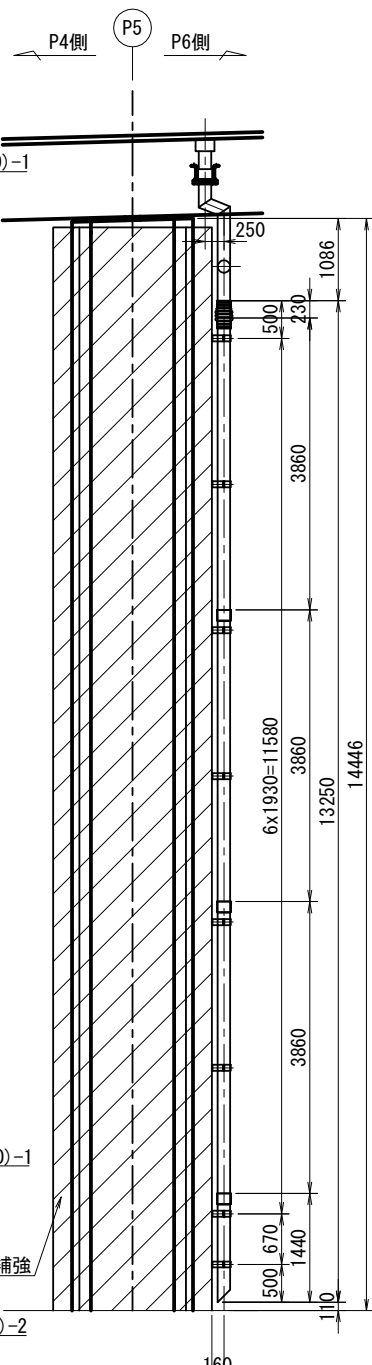
撤去・復旧延長
上部工
下部工 L= 13.250m
〈撤去・復旧数量〉
支持金具
S1 6個 (VP150A)
H1 1個 (VP150A)
直管
② 3-VP 150A x 4000(スリーブ付き)
③ 1-VP 150A x 1440(スリーブ付き)
伸縮継手
EX 1個 (VP150A)

復旧図

正面図



側面図



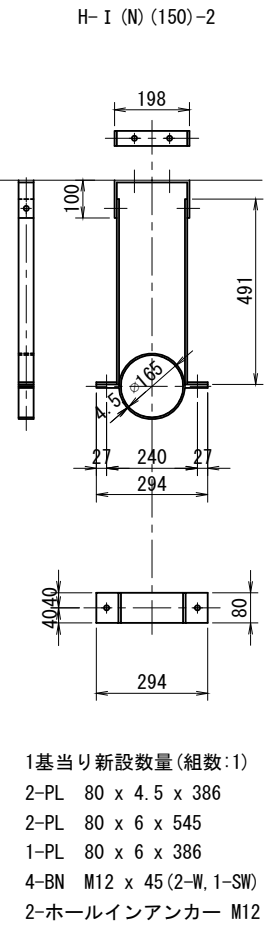
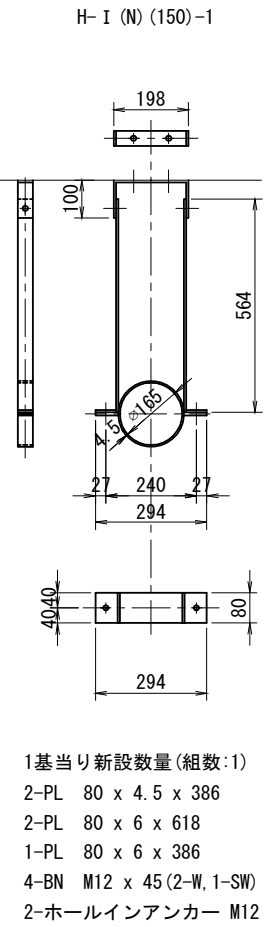
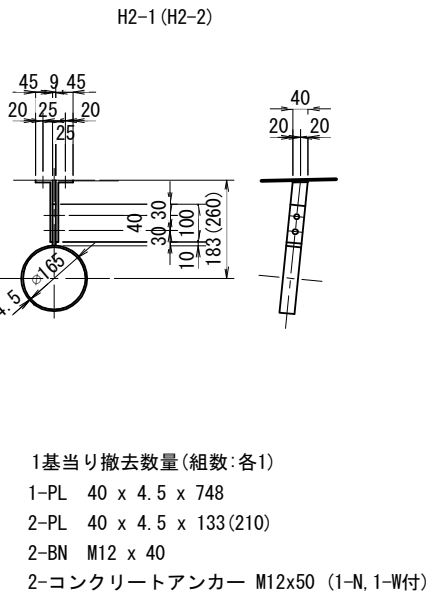
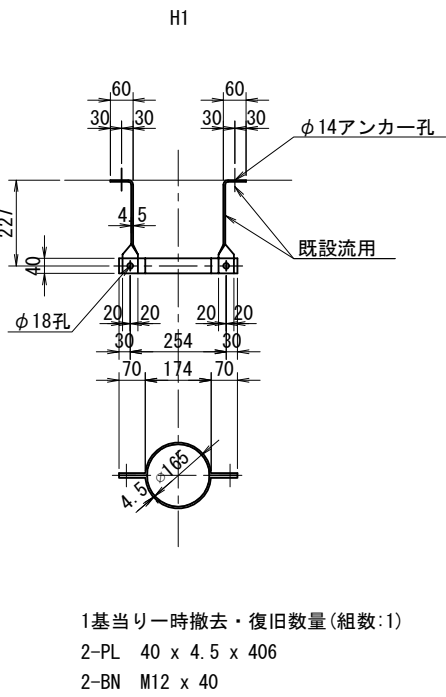
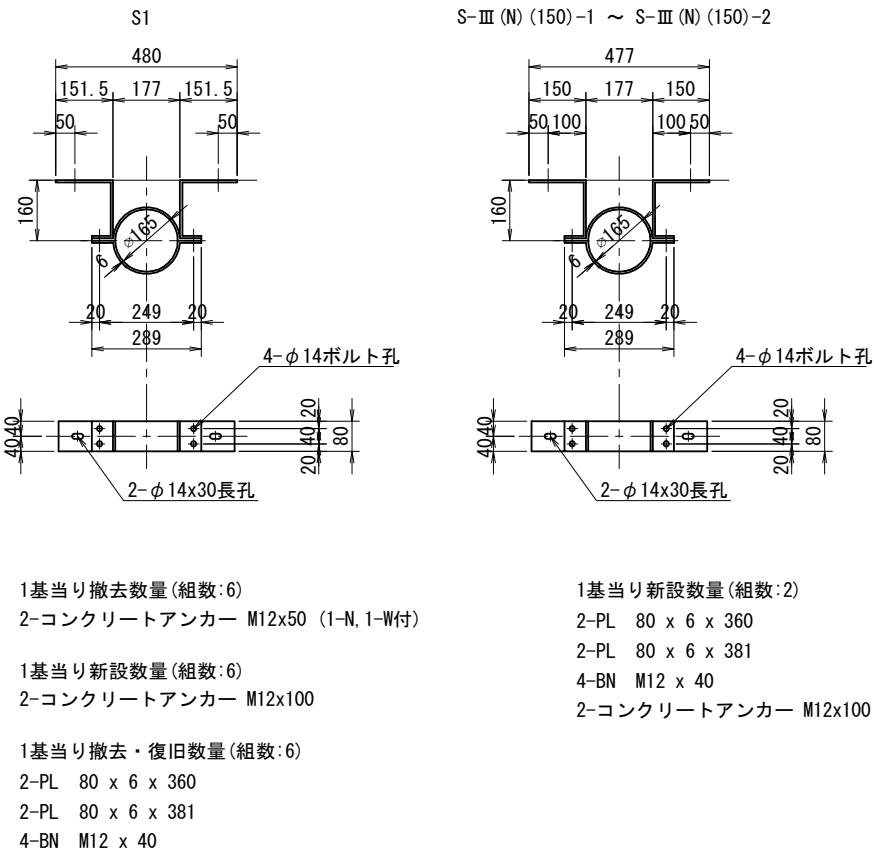
排水装置 排水管 A

新規流水延長
上部工 L = 2.426 + 0.896 = 3.322m
下部工
〈新設数量〉
支持金具
S-III (N) (150)-1 1個 (VP150A)
S-III (N) (150)-2 1個 (VP150A)
H-I (N) (150)-1 1個 (VP150A)
H-I (N) (150)-2 1個 (VP150A)
曲管
B-3 (150)-1 1個 (VP150A)
B-3 (150)-2 1個 (VP150A)

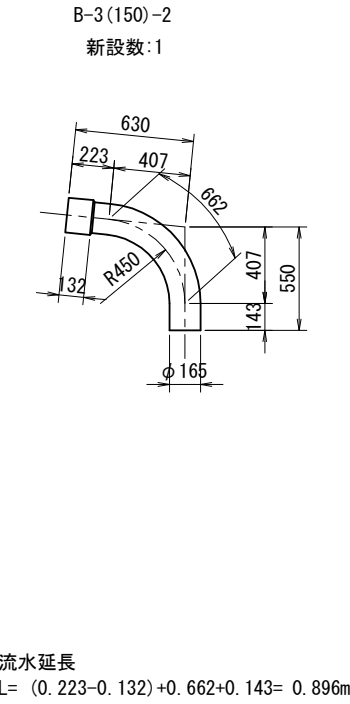
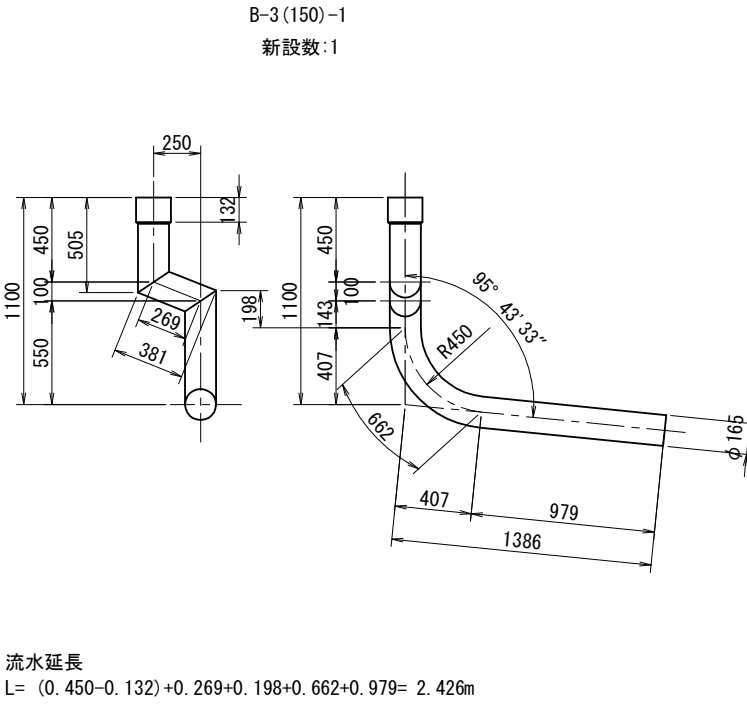
- 注 記
- 本図面は完成図より作成したものである。
また、補強一般図・構造一般図に記載している簡易計測での地形線とは異なる。
部材の製作及び施工する際には、現地確認および現地計測を行い、実施すること。
 - 特記なき材質は、全てSS400とする。
 - ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
 - 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZT49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P5橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)		
	縮 尺	図 示	図面番号 15 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

支持金具詳細



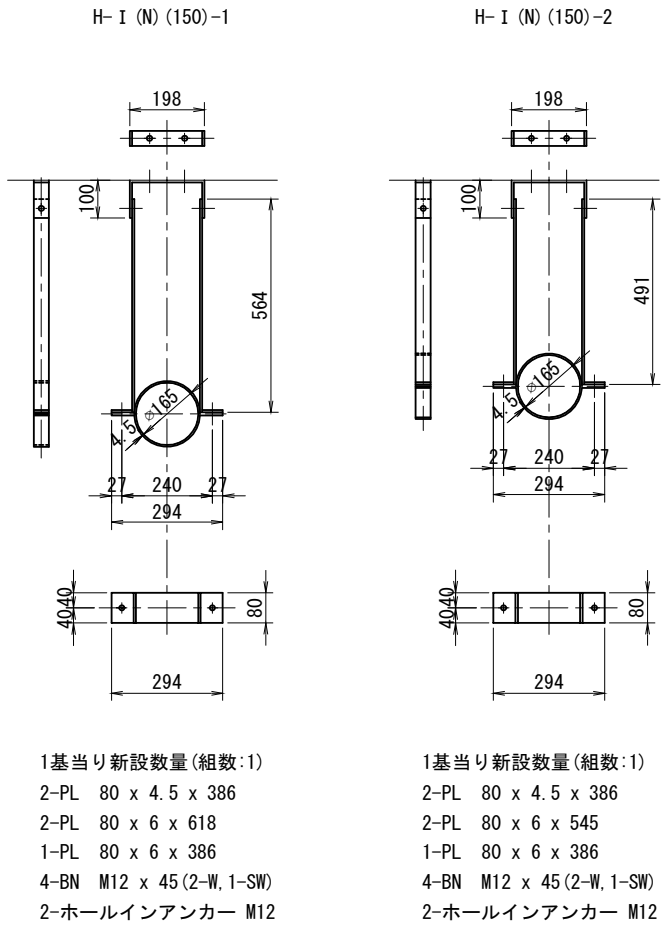
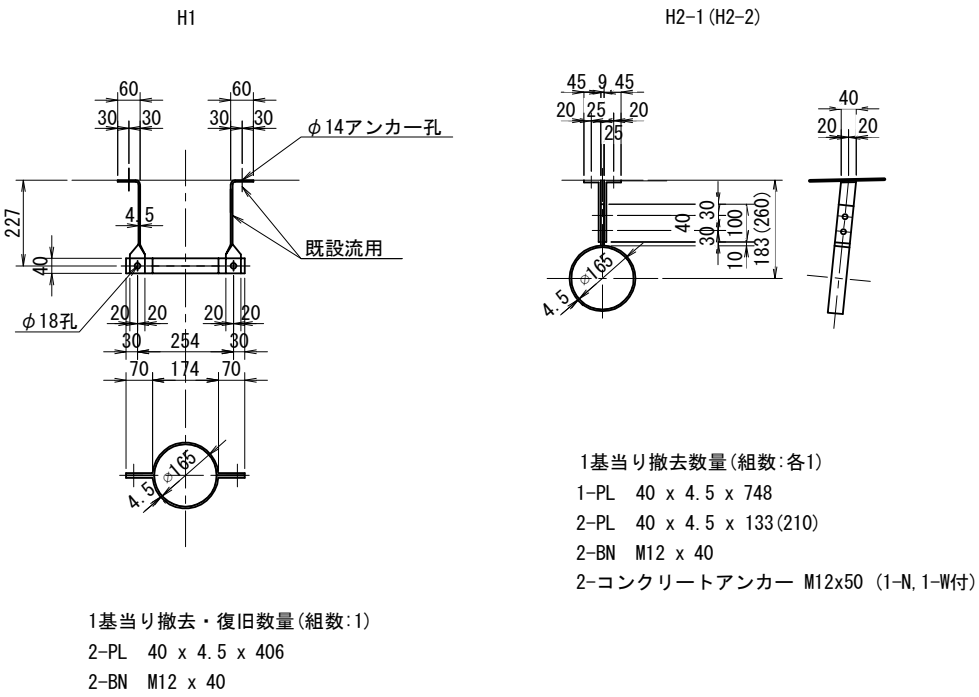
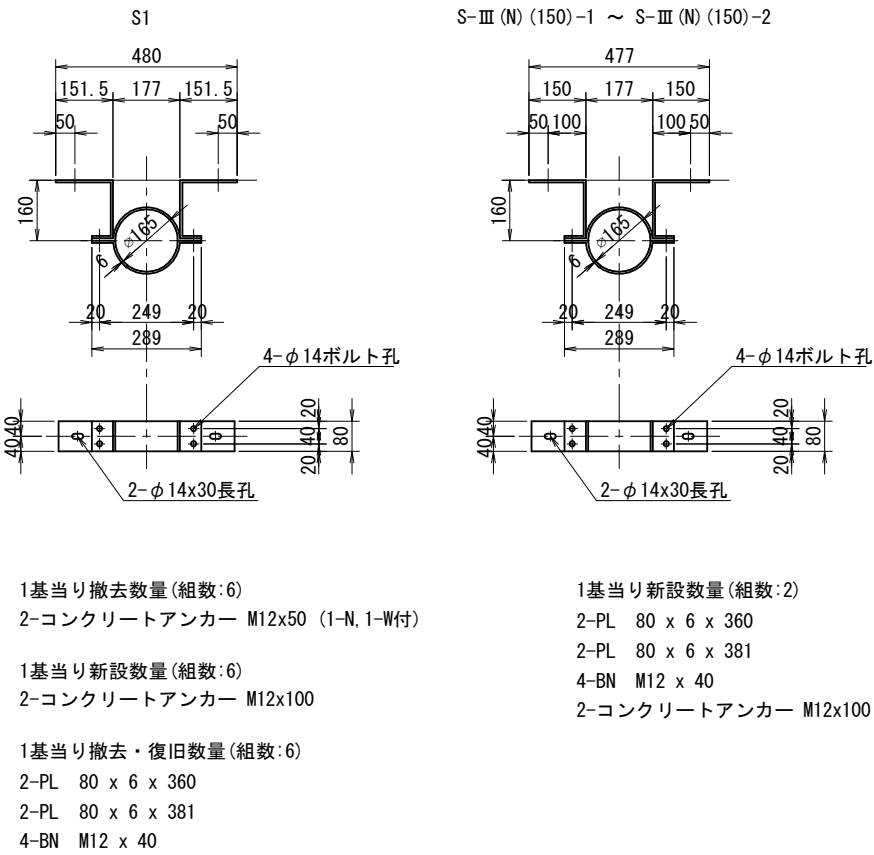
新設部材詳細図 S=1:40



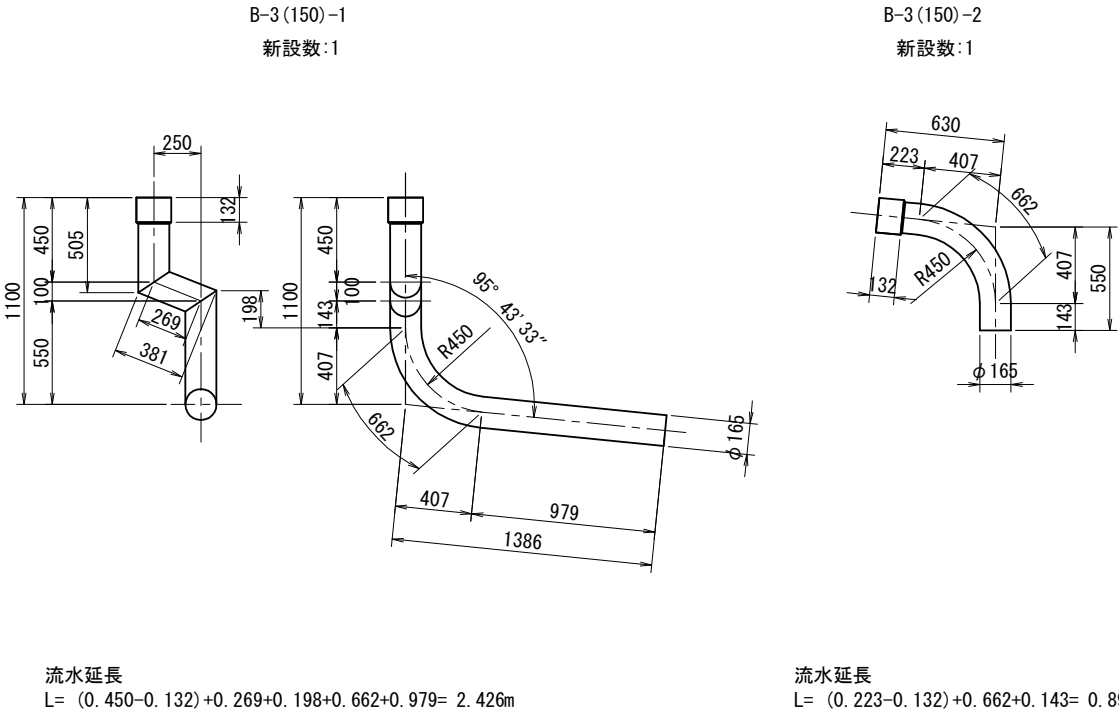
- 注 記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
 2. ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
 3. 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZT49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P5橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	16 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

支持金具詳細



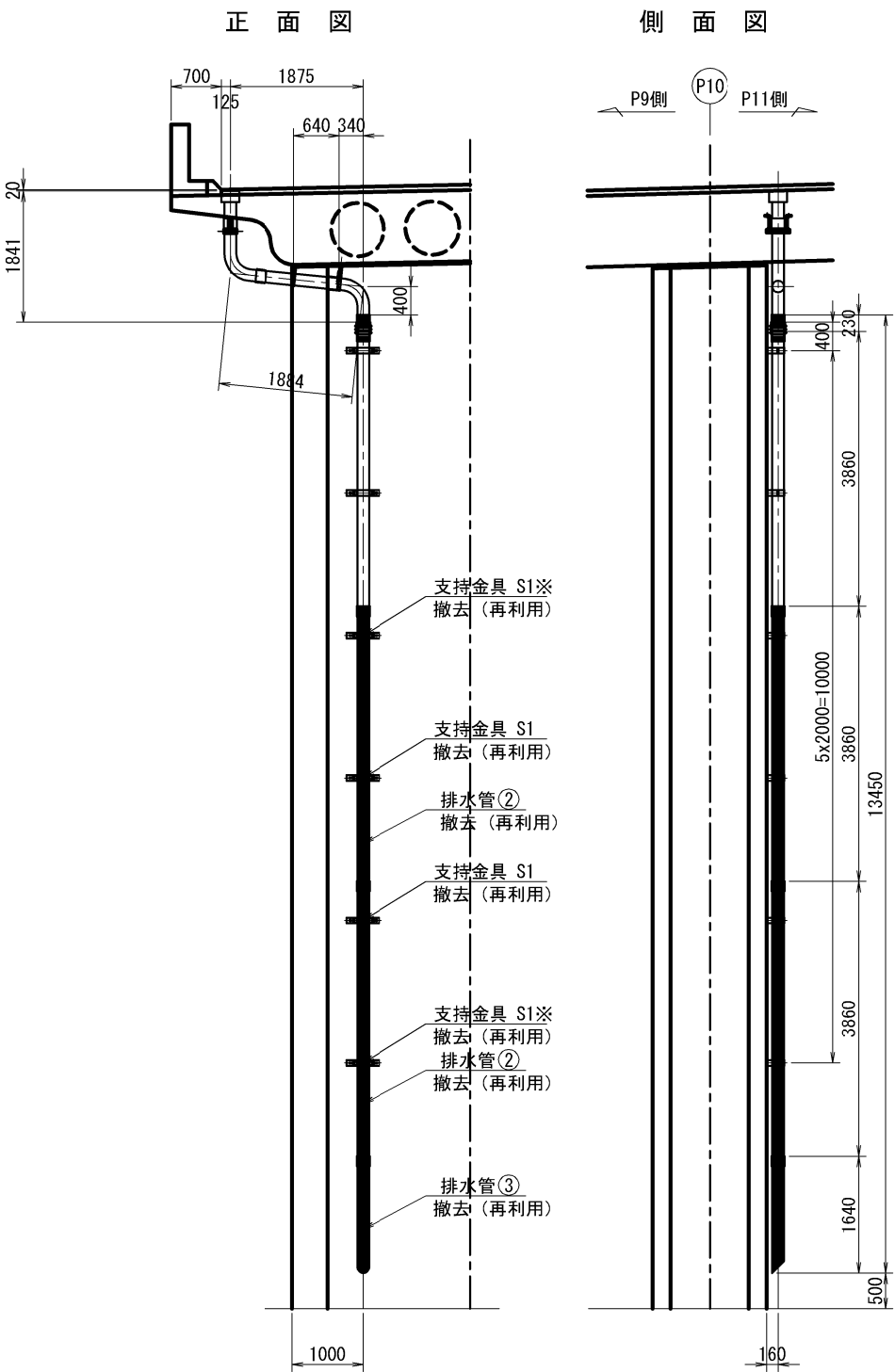
新設部材詳細図 S=1:40



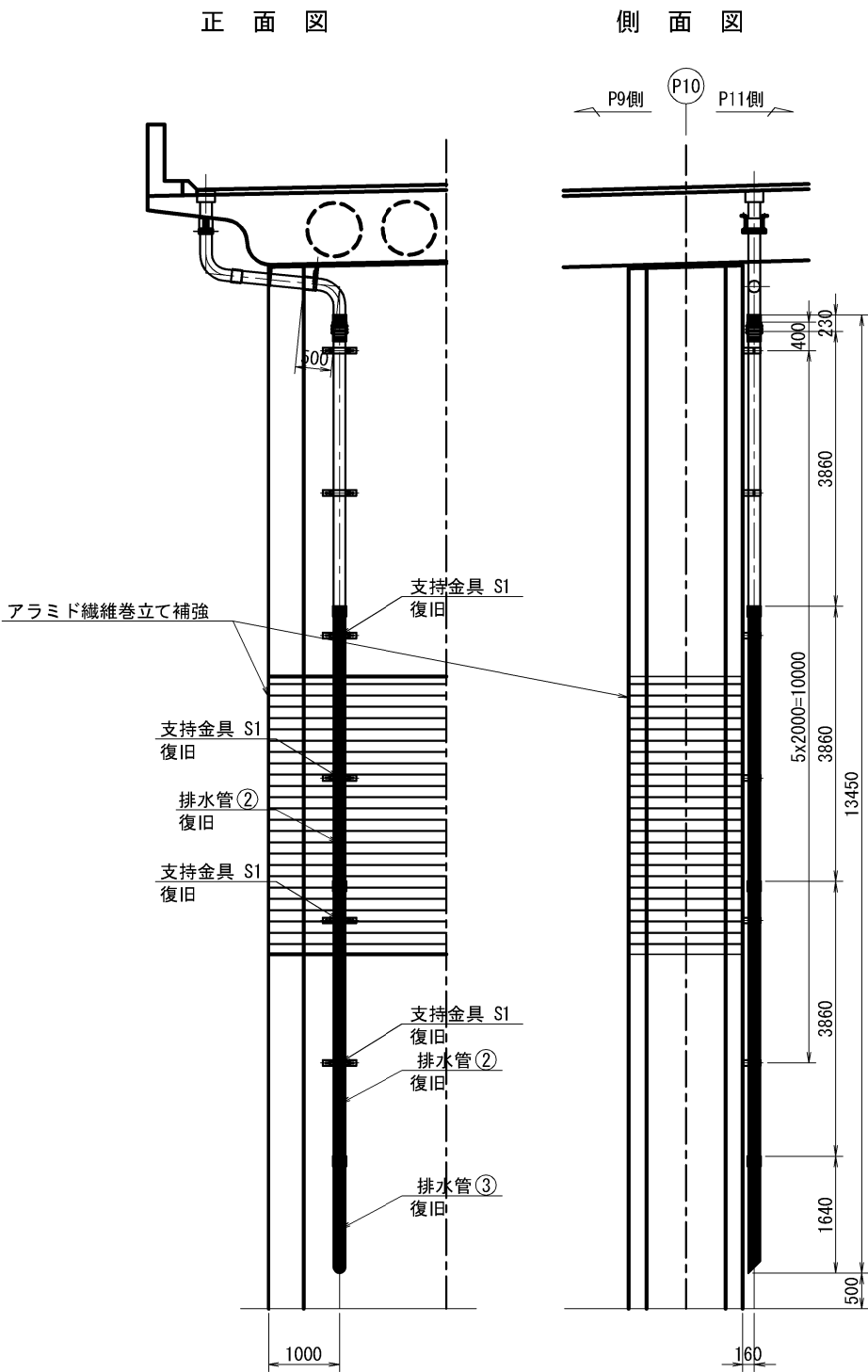
- 注 記
- 特記なき材質は、全てSS400とする。
 - ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
 - 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZT49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P9橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	18 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

既設撤去図



復旧図



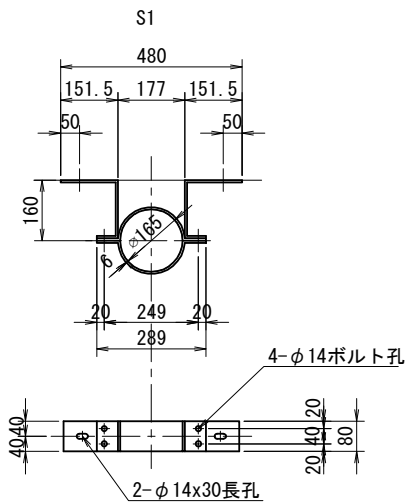
撤去・復旧工 排水管

撤去・復旧流水延長
上部工
下部工 L= 3,860*2+1,640= 9,36m
〈撤去・復旧数量〉
支持金具
S1 …………… 4個 (VP150A) ※箇所はアンカーも再利用
直管
② 2-VP 150A x 3860(スリーブ付き)
③ 1-VP 150A x 1640(スリーブ付き)

- 注 記
1. 本図面は完成図より作成したものである。
また、補強一般図・構造一般図に記載している簡易計測での地形線とは異なる。
部材の製作及び施工する際には、現地確認および現地計測を行い、実施すること。
 2. 特記なき材質は、全てSS400とする。
 3. ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
 4. 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZT49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P10橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	19 / 65
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

支持金具詳細



- 1基当り撤去数量(組数:2)
2-コンクリートアンカー M12x50 (1-N, 1-W付)
- 1基当り新設数量(組数:2)
2-コンクリートアンカー M12x100
- 1基当り撤去・復旧数量(組数:4)
2-PL 80 x 6 x 360
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40

- 注 記
- 特記なき材質は、全てSS400とする。
 - ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
 - 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZT49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P10橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		
	縮 尺	図 示	図面番号 20 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

既設撤去図

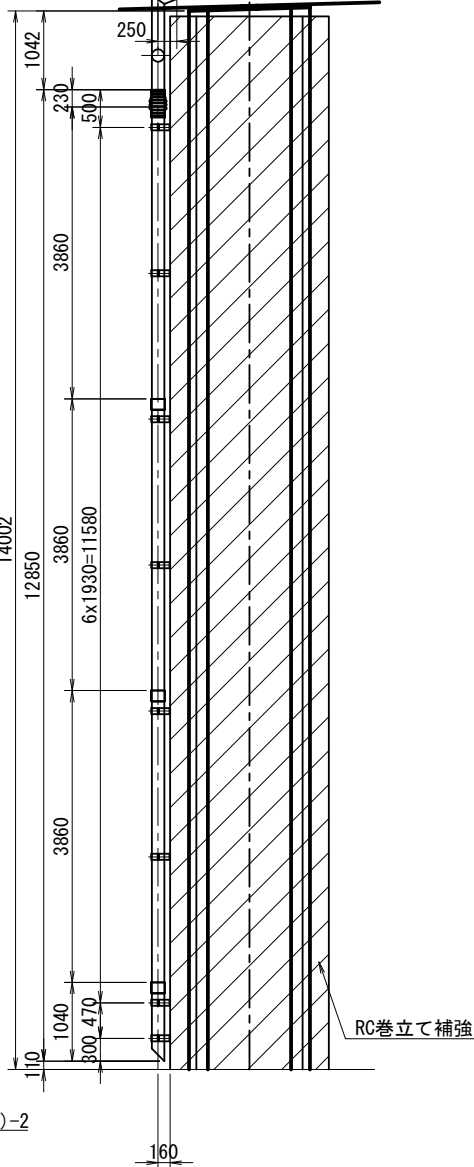
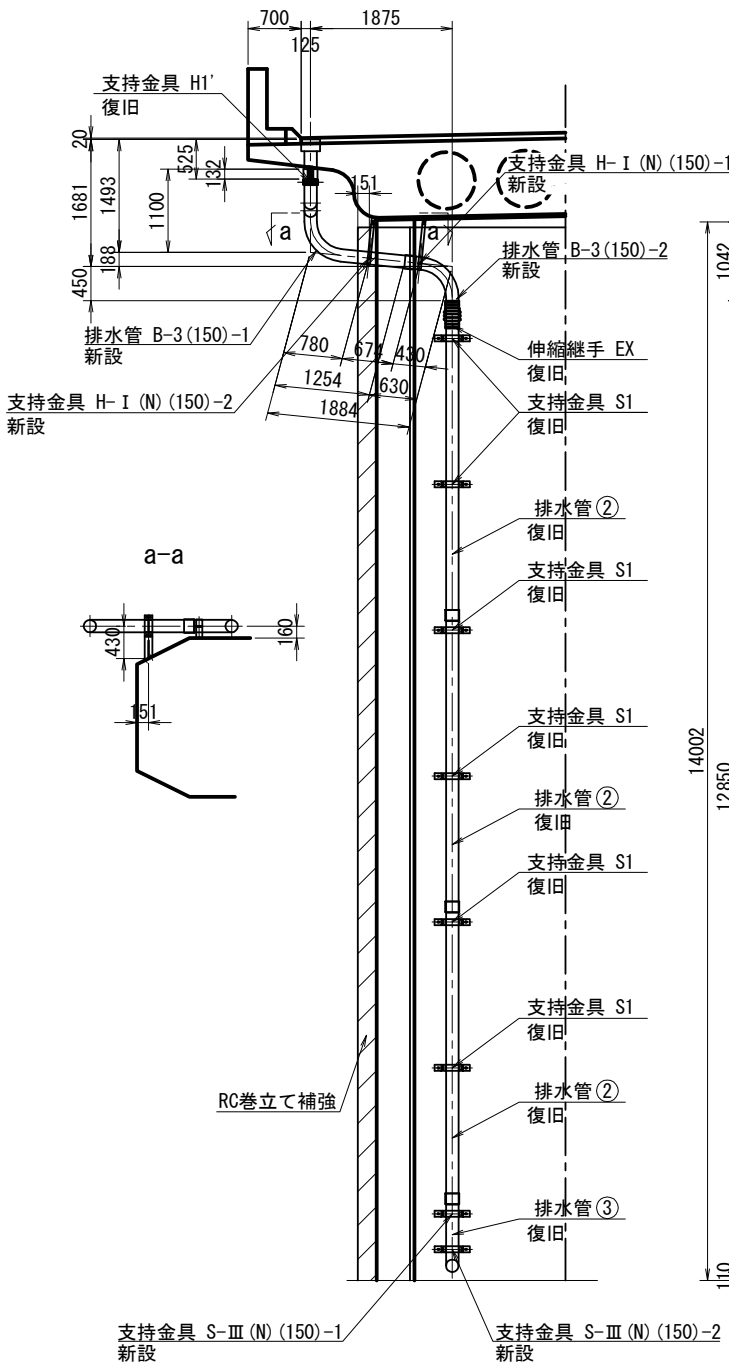
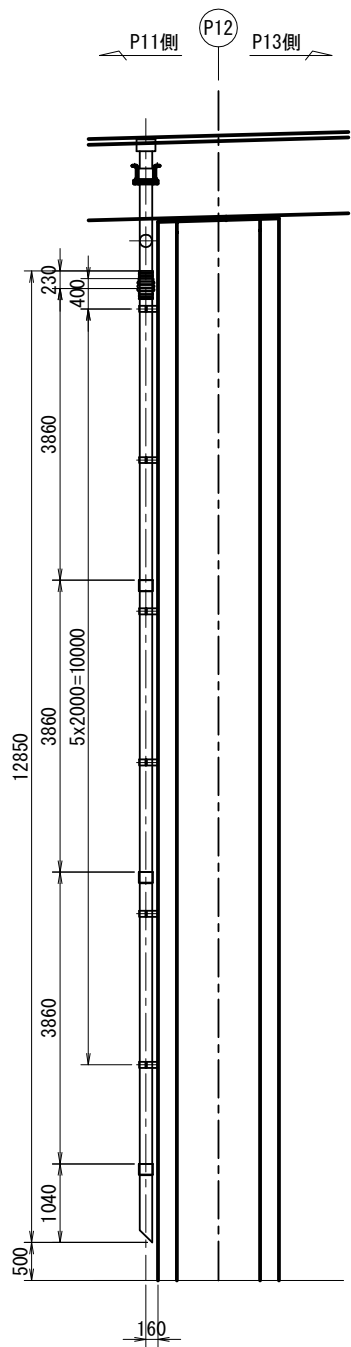
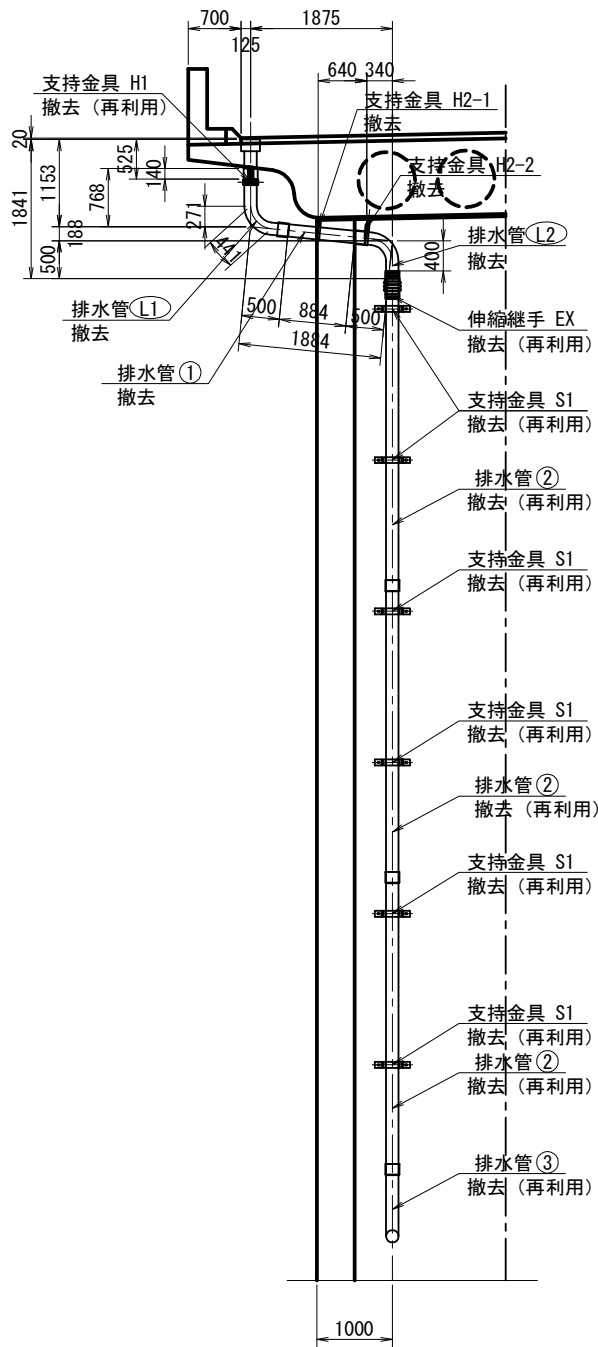
正面図

側面図

復旧図

正面図

側面図



撤去工 排水管

撤去流水延長

上部工 L= 0.768+1.884+0.400-0.271*4+0.441*2= 2.85m

下部工

〈撤去数量〉

支持金具

H2-1 1個 (VP150A)

H2-2 1個 (VP150A)

直管

① 1-VP 150A x 1164(スリーブ付き)

曲管

① 1個 (VP150A)

② 1個 (VP150A)

撤去・復旧工 排水管

撤去・復旧流水延長

上部工

下部工 L= 12.850m

〈撤去・復旧数量〉

支持金具

S1 6個 (VP150A)

H1 1個 (VP150A)

直管

② 3-VP 150A x 4000(スリーブ付き)

③ 1-VP 150A x 1040(スリーブ付き)

伸縮継手

EX 1個 (VP150A)

排水装置 排水管 A

新規流水延長

上部工 L = 2.426 + 0.896 = 3.322m

下部工

〈新設数量〉

支持金具

S-Ⅲ (N) (150)-1 1個 (VP150A)

S-Ⅲ (N) (150)-2 1個 (VP150A)

H-I (N) (150)-1 1個 (VP150A)

H-I (N) (150)-2 1個 (VP150A)

曲管

B-3 (150)-1 1個 (VP150A)

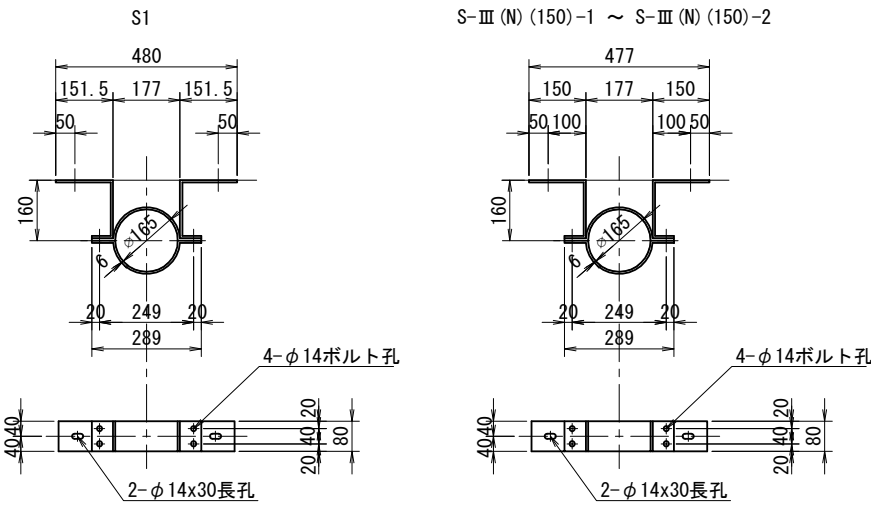
B-3 (150)-2 1個 (VP150A)

注 記

- 本図面は完成図より作成したものである。
また、補強一般図・構造一般図に記載している簡易計測での地形線とは異なる。
部材の製作及び施工する際には、現地確認および現地計測を行い、実施すること。
- 特記なき材質は、全てSS400とする。
- ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
- 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZT49とする。

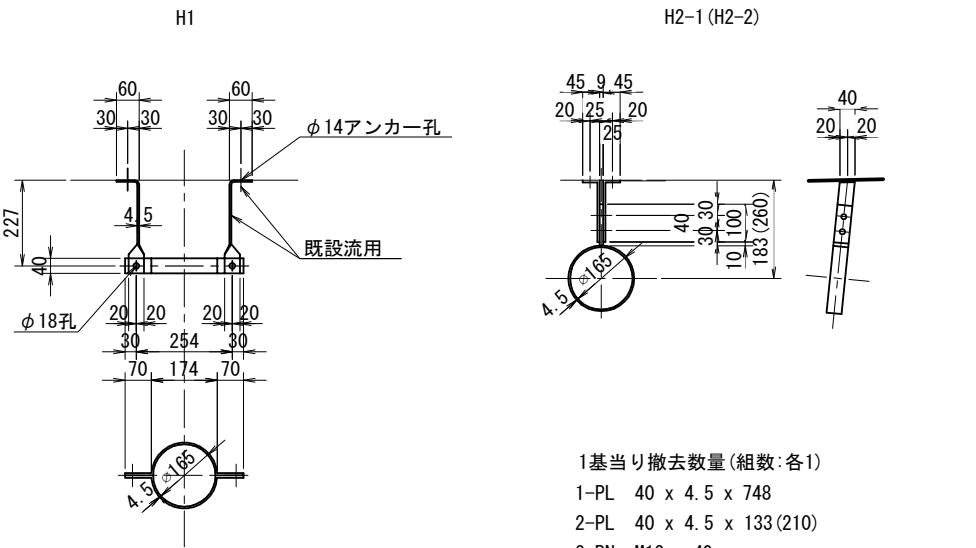
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P12橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)			
縮 尺	図 示	図面番号	21 / 65	
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

支持金具詳細



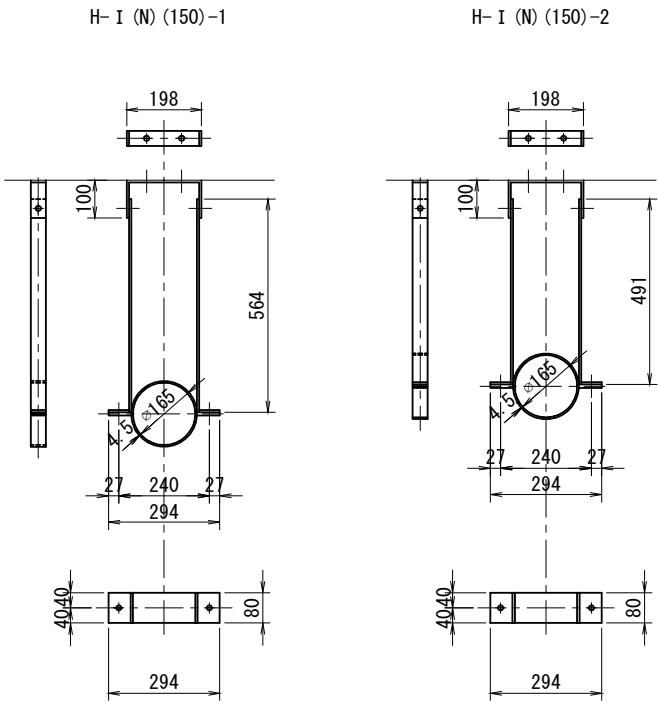
- 1基当り撤去数量(組数:6)
2-コンクリートアンカー M12x50 (1-N, 1-W付)
- 1基当り新設数量(組数:6)
2-コンクリートアンカー M12x100
- 1基当り撤去・復旧数量(組数:6)
2-PL 80 x 6 x 360
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40

- 1基当り新設数量(組数:2)
2-PL 80 x 6 x 360
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40
2-コンクリートアンカー M12x100



- 1基当り撤去数量(組数:各1)
1-PL 40 x 4.5 x 748
2-PL 40 x 4.5 x 133 (210)
2-BN M12 x 40
2-コンクリートアンカー M12x50 (1-N, 1-W付)

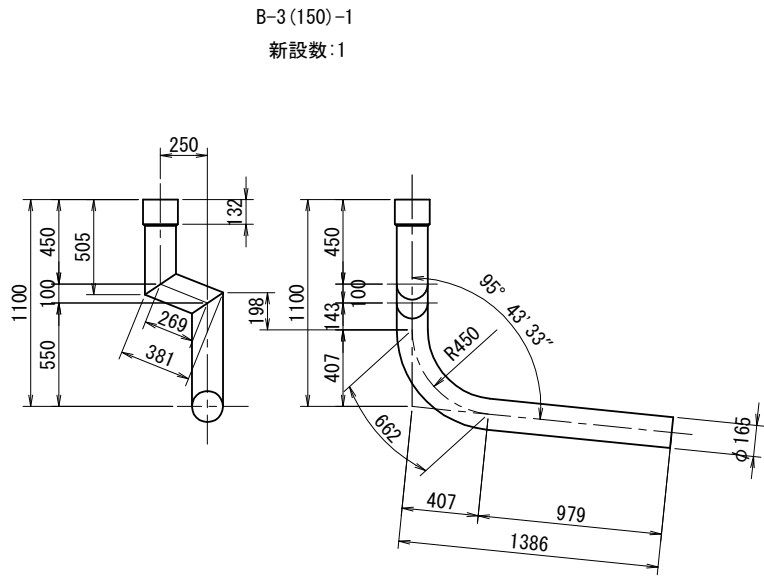
- 1基当り撤去・復旧数量(組数:1)
2-PL 40 x 4.5 x 406
2-BN M12 x 40



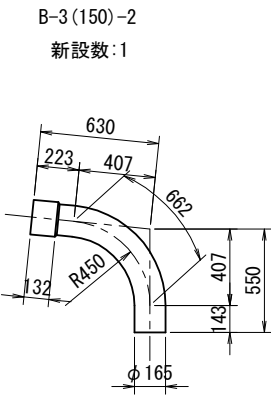
- 1基当り新設数量(組数:1)
2-PL 80 x 4.5 x 386
2-PL 80 x 6 x 618
1-PL 80 x 6 x 386
4-BN M12 x 45 (2-W, 1-SW)
2-ホールインアンカー M12

- 1基当り新設数量(組数:1)
2-PL 80 x 4.5 x 386
2-PL 80 x 6 x 545
1-PL 80 x 6 x 386
4-BN M12 x 45 (2-W, 1-SW)
2-ホールインアンカー M12

新設部材詳細図 S=1:40



流水延長
L= (0.450-0.132)+0.269+0.198+0.662+0.979= 2.426m

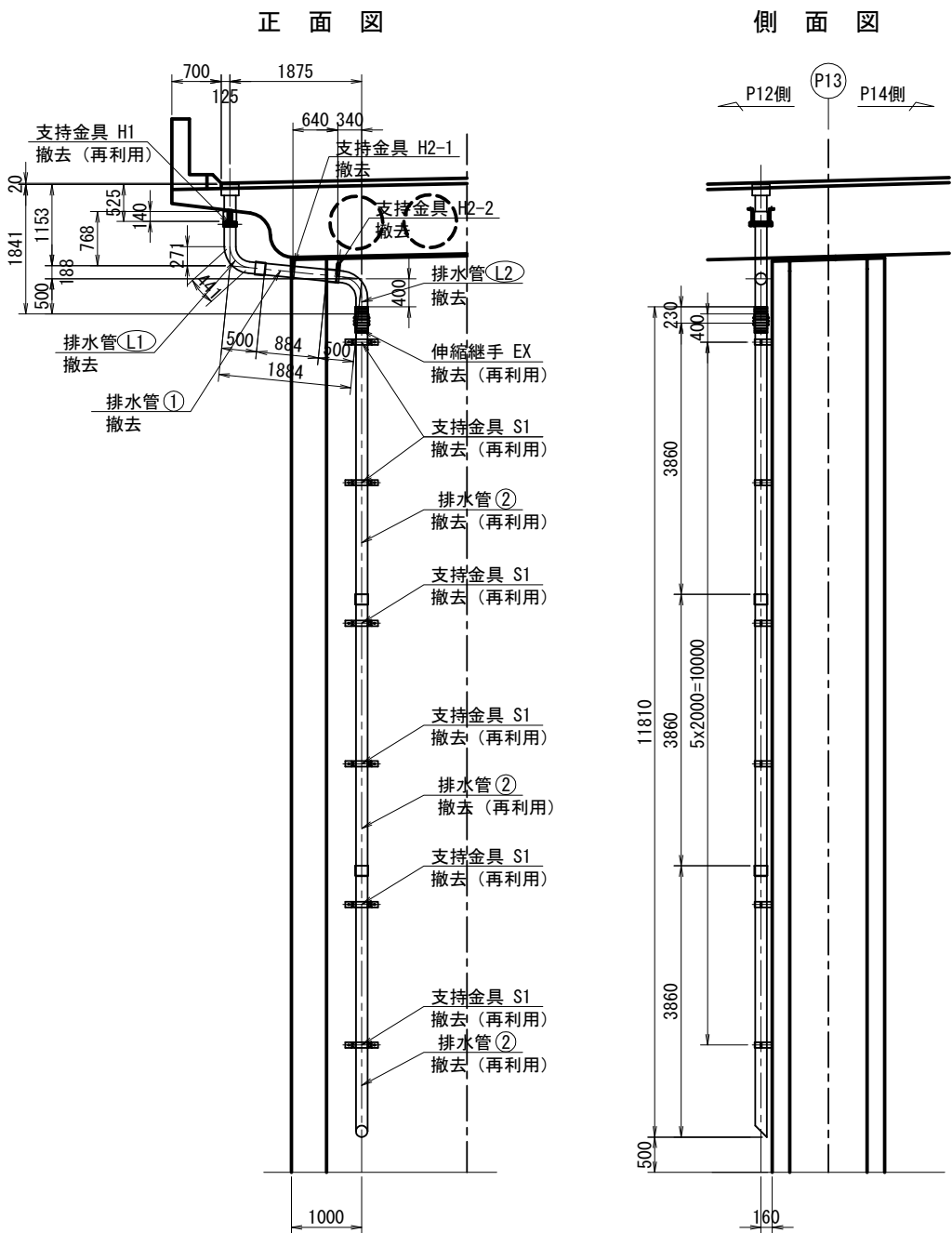


流水延長
L= (0.223-0.132)+0.662+0.143= 0.896m

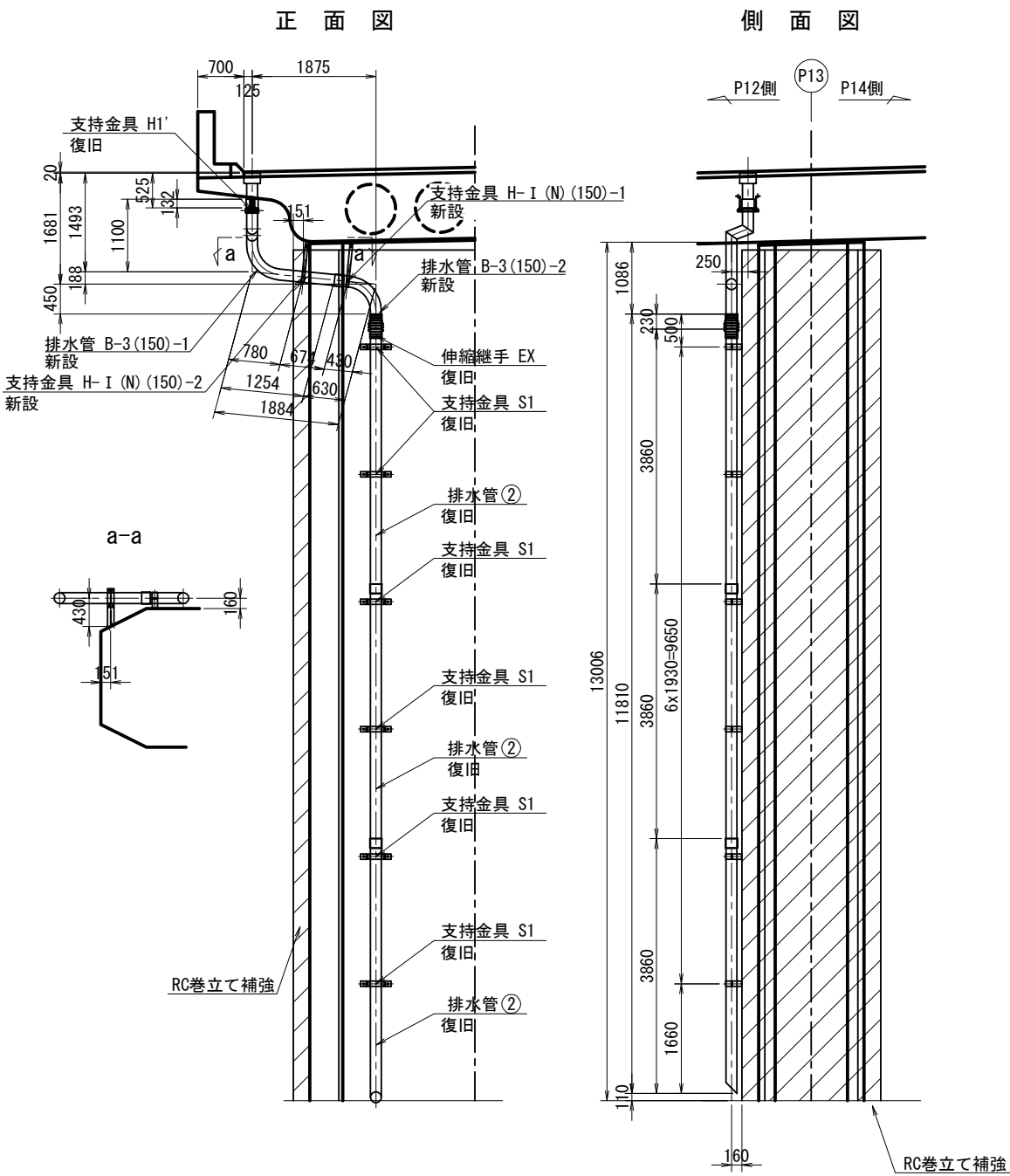
- 注 記
- 特記なき材質は、全てSS400とする。
 - ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
 - 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZT49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P12橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	22 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

既設撤去図



復旧図



撤去工 排水管

撤去流水延長

上部工 L= 0.768+1.884+0.400-0.271*4+0.441*2= 2.85m

下部工

〈撤去数量〉

支持金具

H2-1 1個 (VP150A)

H2-2 1個 (VP150A)

直管

① 1-VP 150A x 1164(スリーブ付き)

曲管

① 1個 (VP150A)

② 1個 (VP150A)

撤去・復旧工 排水管

撤去・復旧流水延長

上部工

下部工 L= 11.810m

〈撤去・復旧数量〉

支持金具

S1 6個 (VP150A)

H1 1個 (VP150A)

直管

② 3-VP 150A x 4000(スリーブ付き)

伸縮継手

EX 1個 (VP150A)

排水装置 排水管 A

新規流水延長

上部工 L= 2.426 + 0.896 = 3.322m

下部工

〈新設数量〉

支持金具

H-I (N) (150)-1 1個 (VP150A)

H-I (N) (150)-2 1個 (VP150A)

曲管

B-3 (150)-1 1個 (VP150A)

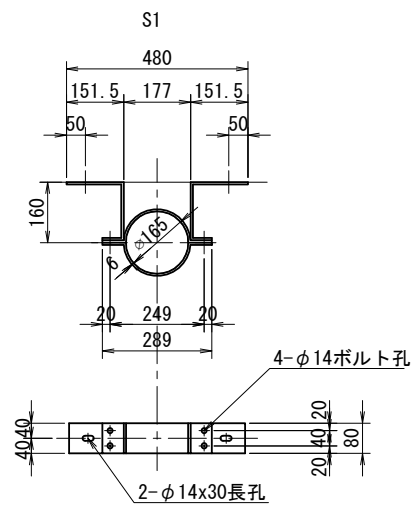
B-3 (150)-2 1個 (VP150A)

注 記

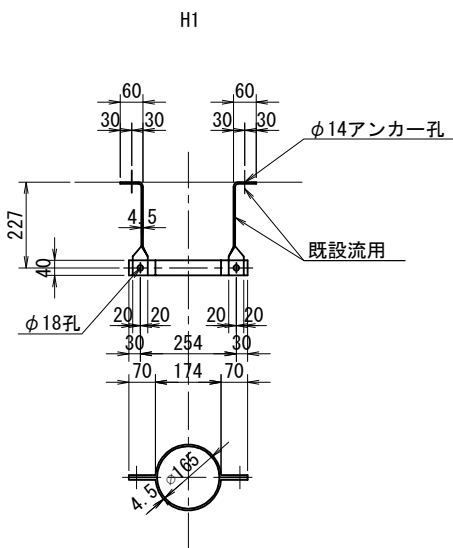
1. 本図面は完成図より作成したものである。
また、補強一般図・構造一般図に記載している簡易計測での地形線とは異なる。
部材の製作及び施工する際には、現地確認および現地計測を行い、実施すること。
2. 特記なき材質は、全てSS400とする。
3. ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZT49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P13橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	23 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

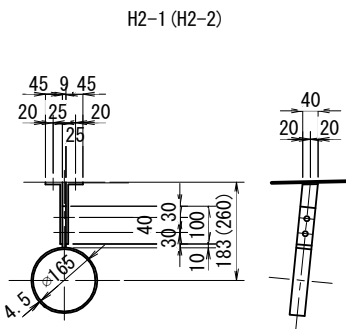
支持金具詳細



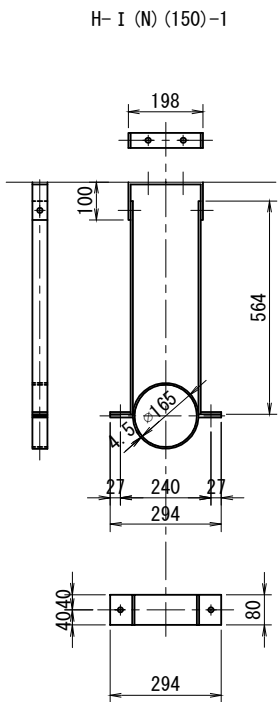
- 1基当り撤去数量(組数:6)
2-コンクリートアンカー M12x50 (1-N, 1-W付)
- 1基当り新設数量(組数:6)
2-コンクリートアンカー M12x100
- 1基当り撤去・復旧数量(組数:6)
2-PL 80 x 6 x 360
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40



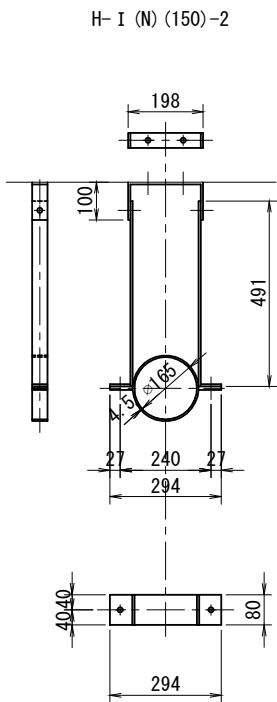
- 1基当り撤去・復旧数量(組数:1)
2-PL 40 x 4.5 x 406
2-BN M12 x 40



- 1基当り撤去数量(組数:各1)
1-PL 40 x 4.5 x 748
2-PL 40 x 4.5 x 133 (210)
2-BN M12 x 40
2-コンクリートアンカー M12x50 (1-N, 1-W付)

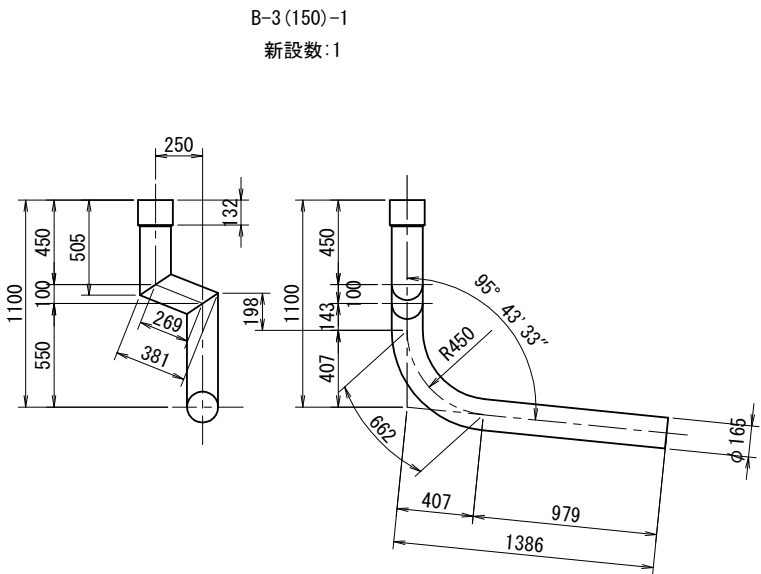


- 1基当り新設数量(組数:1)
2-PL 80 x 4.5 x 386
2-PL 80 x 6 x 618
1-PL 80 x 6 x 386
4-BN M12 x 45 (2-W, 1-SW)
2-ホールインアンカー M12

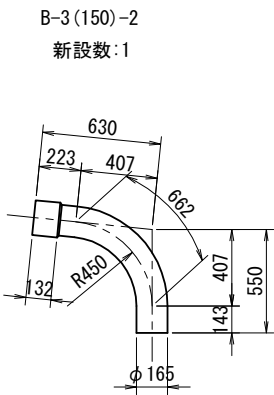


- 1基当り新設数量(組数:1)
2-PL 80 x 4.5 x 386
2-PL 80 x 6 x 545
1-PL 80 x 6 x 386
4-BN M12 x 45 (2-W, 1-SW)
2-ホールインアンカー M12

新設部材詳細図 S=1:40



流水延長
L= (0.450-0.132)+0.269+0.198+0.662+0.979= 2.426m

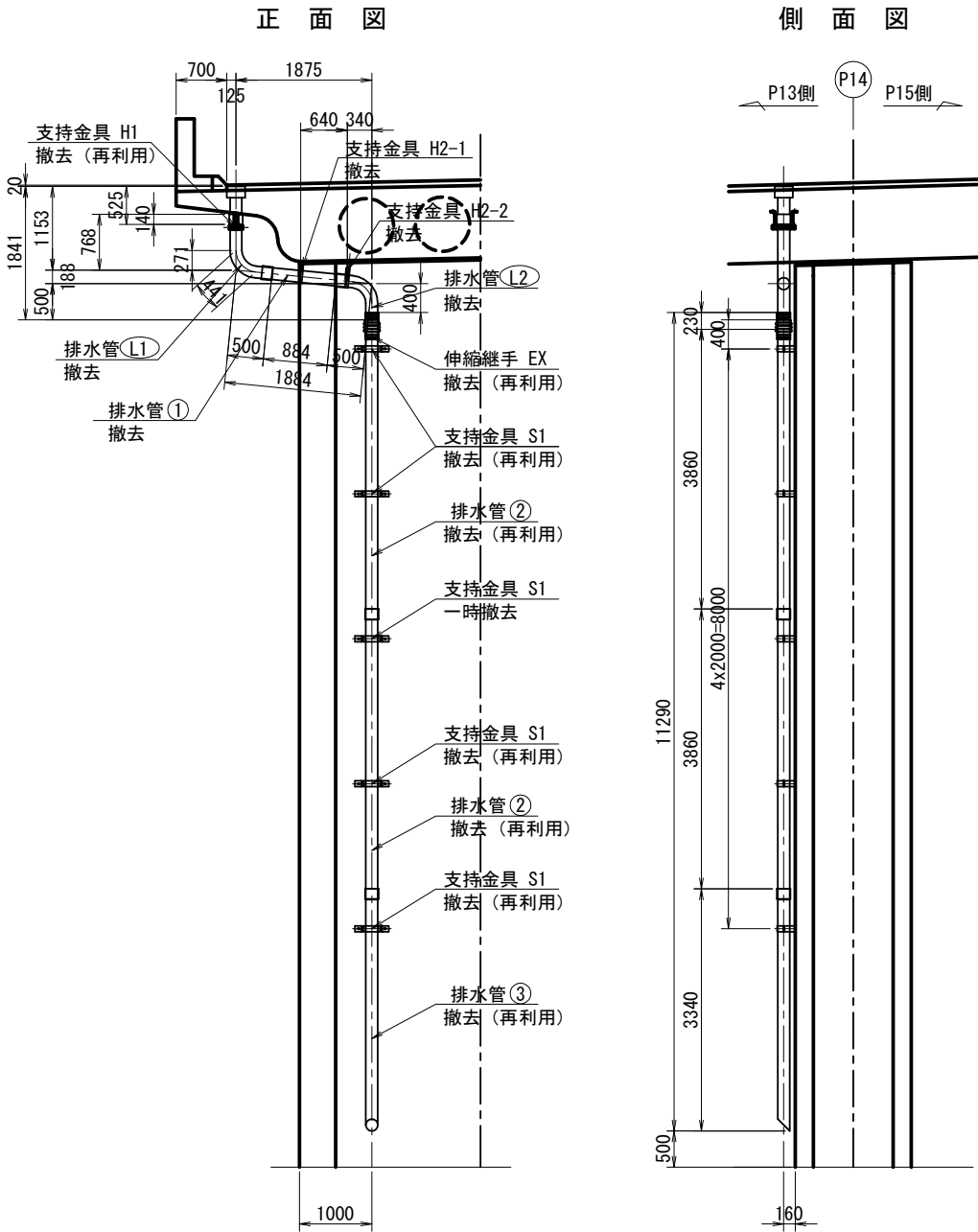


流水延長
L= (0.223-0.132)+0.662+0.143= 0.896m

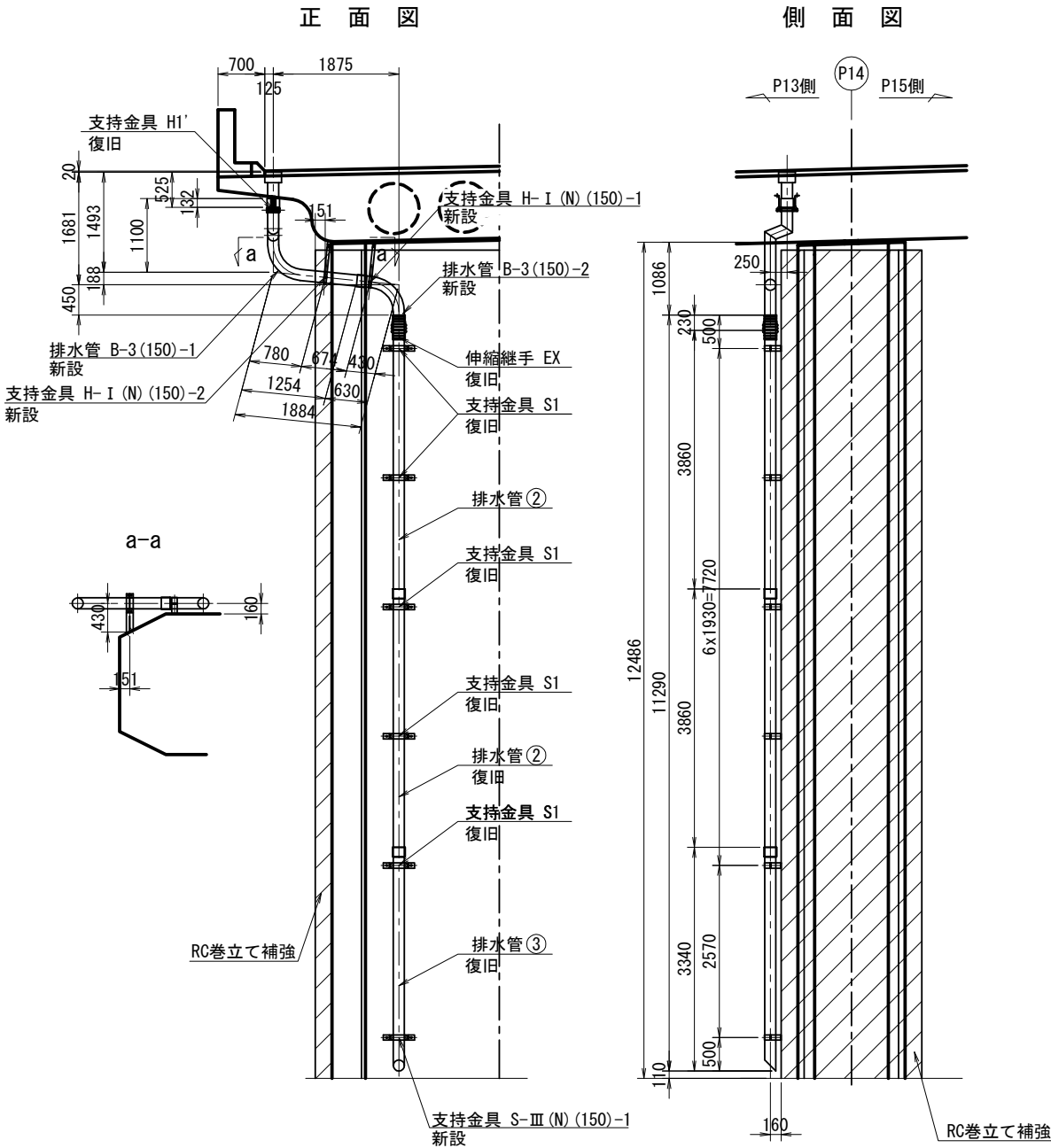
- 注 記
- 特記なき材質は、全てSS400とする。
 - ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
 - 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZT49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P13橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	24 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

既設撤去図



復旧図



撤去工 排水管

撤去流水延長
上部工 $L = 0.768 + 1.884 + 0.400 - 0.271 * 4 + 0.441 * 2 = 2.85\text{m}$
下部工
〈撤去数量〉
支持金具
H2-1 1個 (VP150A)
H2-2 1個 (VP150A)
直管
① 1-VP 150A x 1164 (スリーブ付き)
曲管
① 1個 (VP150A)
② 1個 (VP150A)

撤去・復旧工 排水管

撤去・復旧流水延長
上部工
下部工 $L = 11.290\text{m}$
〈撤去・復旧数量〉
支持金具
S1 5個 (VP150A)
H1 1個 (VP150A)
直管
② 2-VP 150A x 4000 (スリーブ付き)
③ 1-VP 150A x 3340 (スリーブ付き)
伸縮継手
EX 1個 (VP150A)

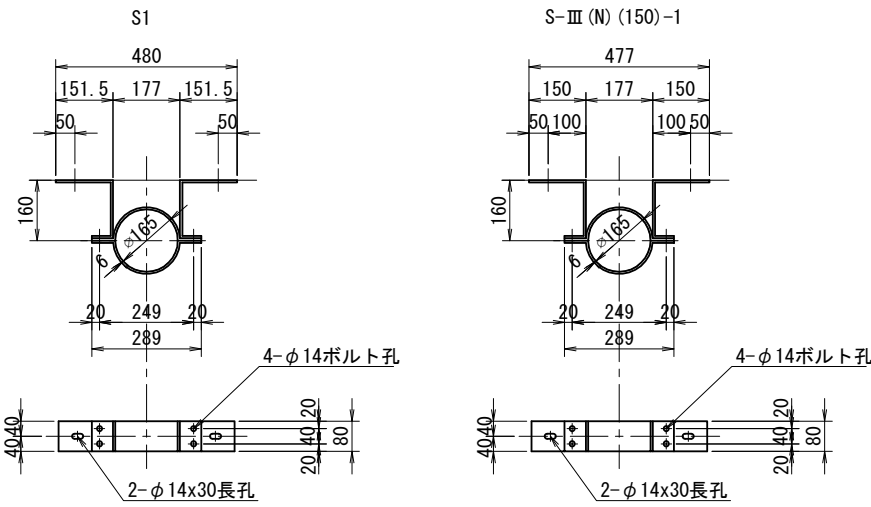
排水装置 排水管 A

新規流水延長
上部工 $L = 2.426 + 0.896 = 3.322\text{m}$
下部工
〈新設数量〉
支持金具
S-Ⅲ (N) (150)-1 1個 (VP150A)
H-I (N) (150)-1 1個 (VP150A)
H-I (N) (150)-2 1個 (VP150A)
曲管
B-3(150)-1 1個 (VP150A)
B-3(150)-2 1個 (VP150A)

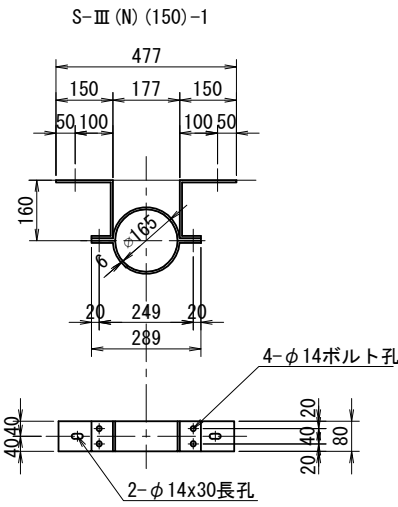
- 注 記
- 本図面は完成図より作成したものである。
また、補強一般図・構造一般図に記載している簡易計測での地形線とは異なる。
部材の製作及び施工する際には、現地確認および現地計測を行い、実施すること。
 - 特記なき材質は、全てSS400とする。
 - ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
 - 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZT49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P14橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	25 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

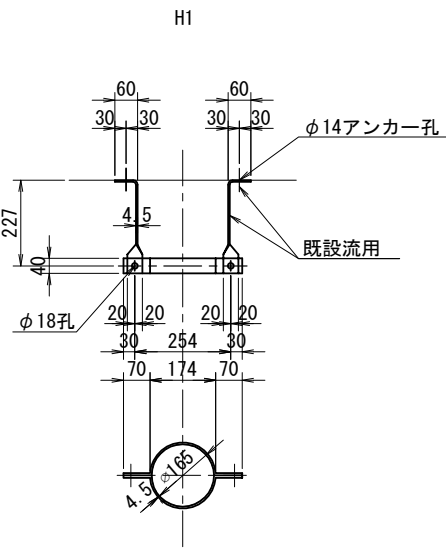
支持金具詳細



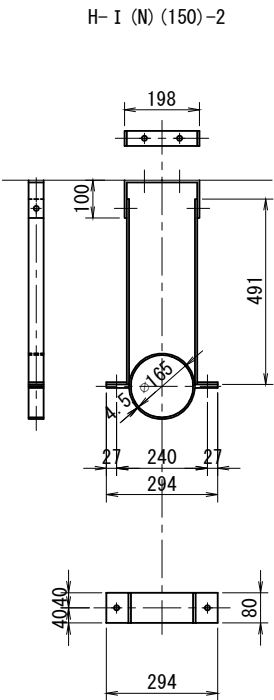
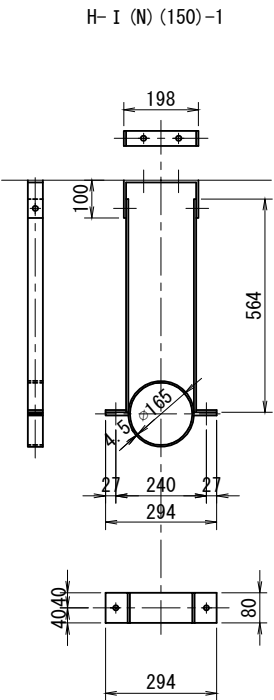
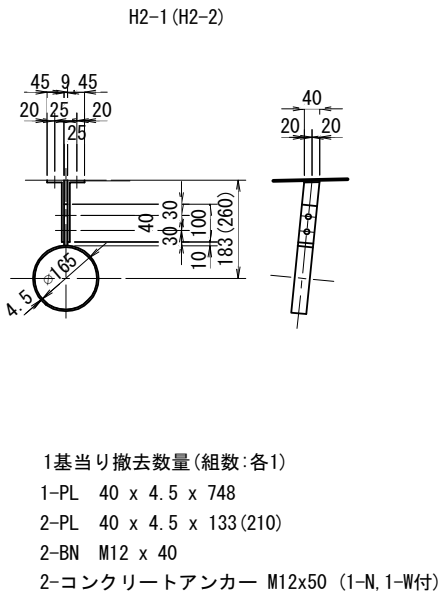
- 1基当り撤去数量(組数:5)
2-コンクリートアンカー M12x50 (1-N, 1-W付)
- 1基当り新設数量(組数:5)
2-コンクリートアンカー M12x100
- 1基当り撤去・復旧数量(組数:5)
2-PL 80 x 6 x 360
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40



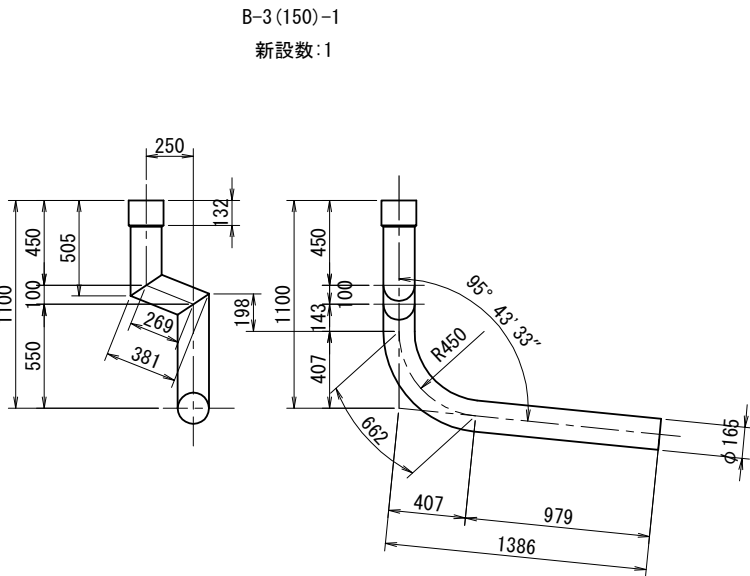
- 1基当り新設数量(組数:1)
2-PL 80 x 6 x 360
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40
2-コンクリートアンカー M12x100



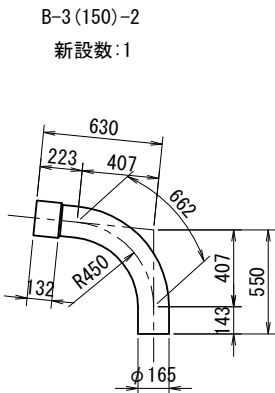
- 1基当り撤去・復旧数量(組数:1)
2-PL 40 x 4.5 x 406
2-BN M12 x 40



新設部材詳細図 S=1:40



流水延長
L= (0.450-0.132)+0.269+0.198+0.662+0.979= 2.426m

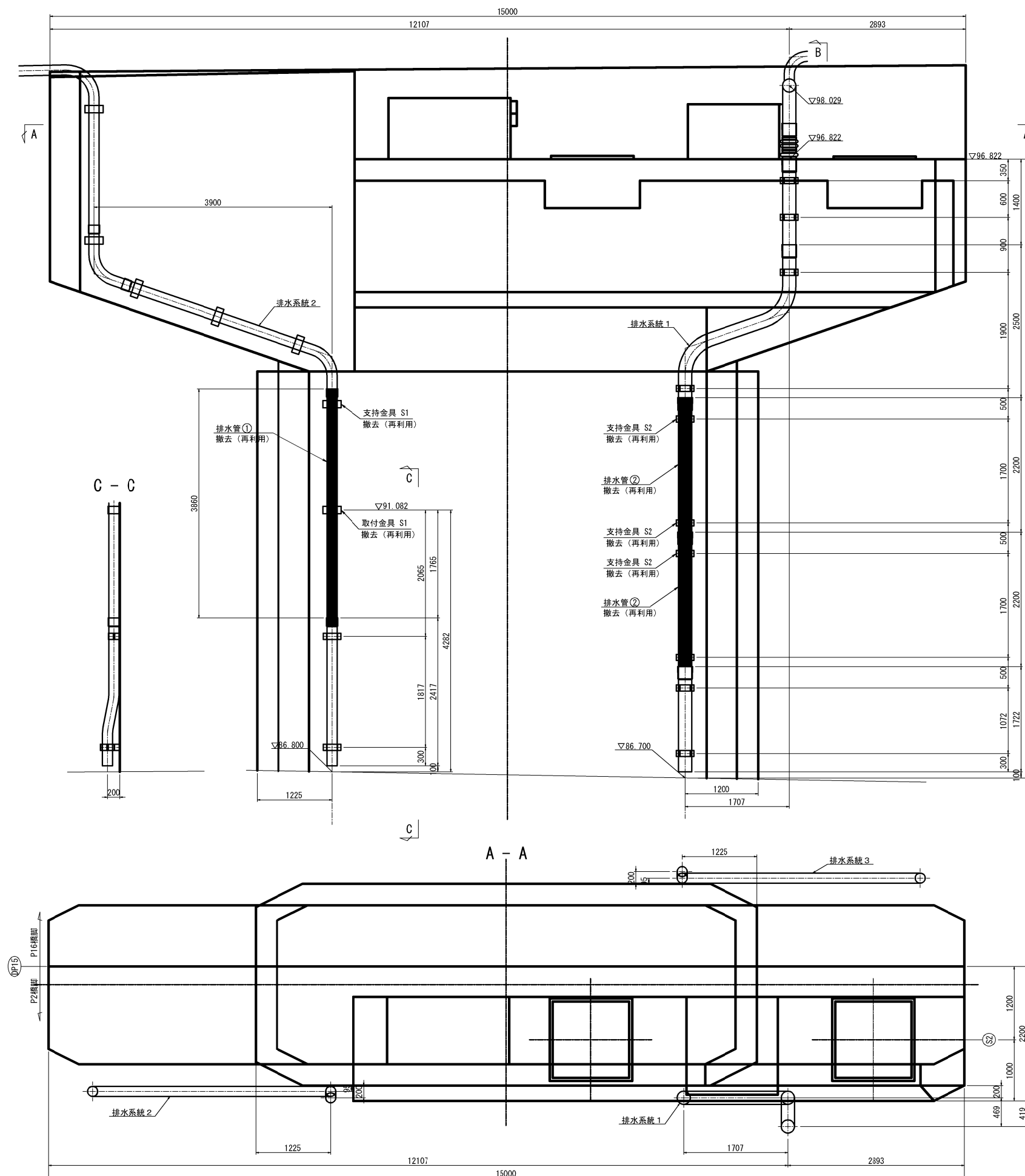


流水延長
L= (0.223-0.132)+0.662+0.143= 0.896m

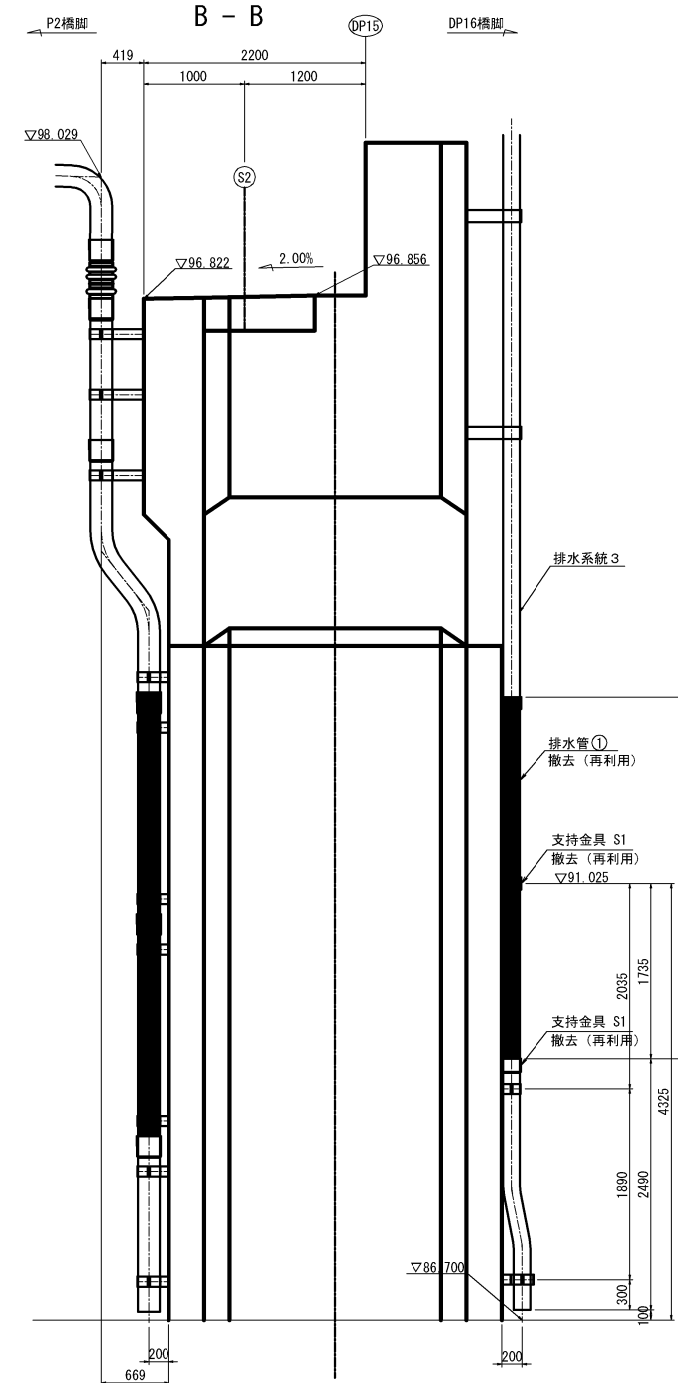
- 注 記
- 特記なき材質は、全てSS400とする。
 - ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
 - 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZT49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P14橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	26 / 65
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

既設撤去図



S=1 : 75

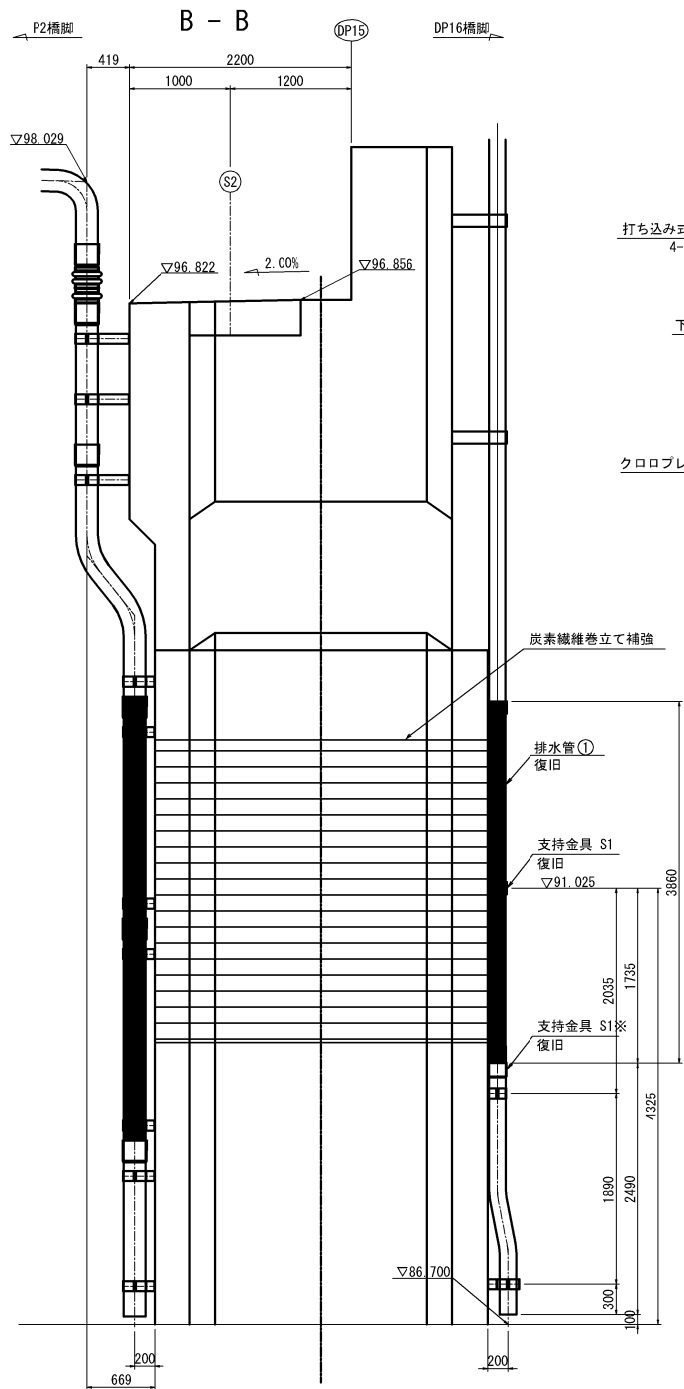
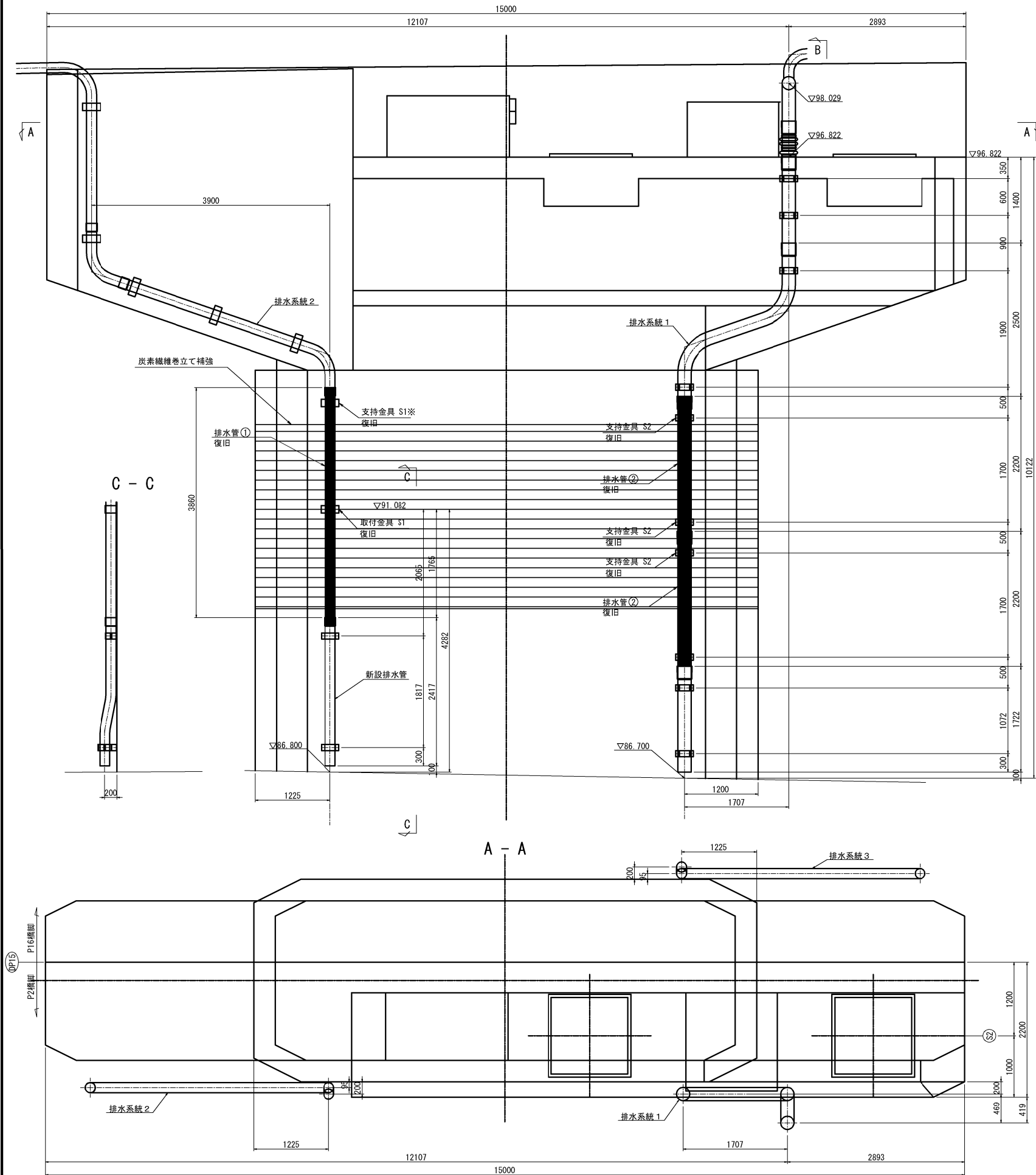


- 注 記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
 2. ナットは全て緩み止めナットを使用すること。
 3. ※印付き以外の部材は、全て溶融亜鉛めっきとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZ T77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZ T49とする。

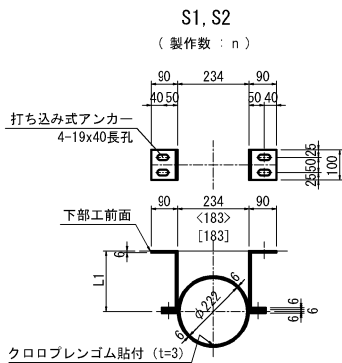
横浜横須賀道路 金谷谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金谷谷JCT第一橋 P15橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	27 / 65
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

復旧図

正面図



支持金具詳細 S=1:25



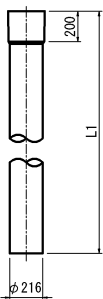
(1組当り材料)
2-FB 100x6xLL1
2-FB 100x6x468 <386>[388]
4-BN M16x50 (2-W付)
4-打込み式アンカー M16x125 (※箇所以外)
2-クロロブレンゴム 100x3x344<264>[264]

	L1	LL1	個数
S1	419	546	4
S2	200	327	4

管詳細 S=1:50

直管

① ~ ③



1-VP 200A x L1 (スリーブ付)

	L1	N
1	1600	1
2	2400	2
3	1722	1

撤去・復旧工 排水管

撤去・復旧流心延長

上部工

下部工 (排水系統1) L=2,200+2,200=4,400m
(排水系統2) L=3,860m
(排水系統3) L=3,860m
ΣL= 12,120m

<撤去・復旧数量>

支持金具

S1 4個 (VP150A) ※箇所はアンカーも再利用
S2 4個 (VP150A)

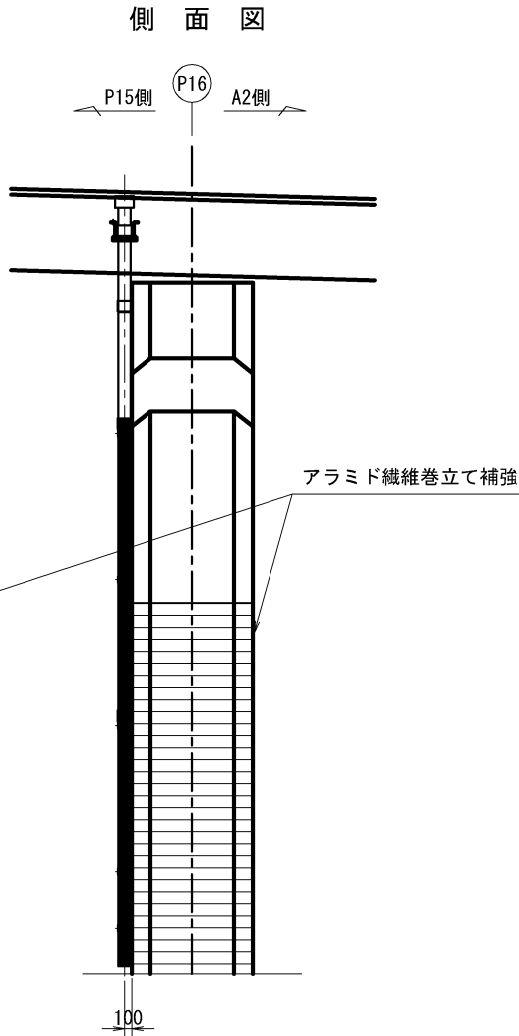
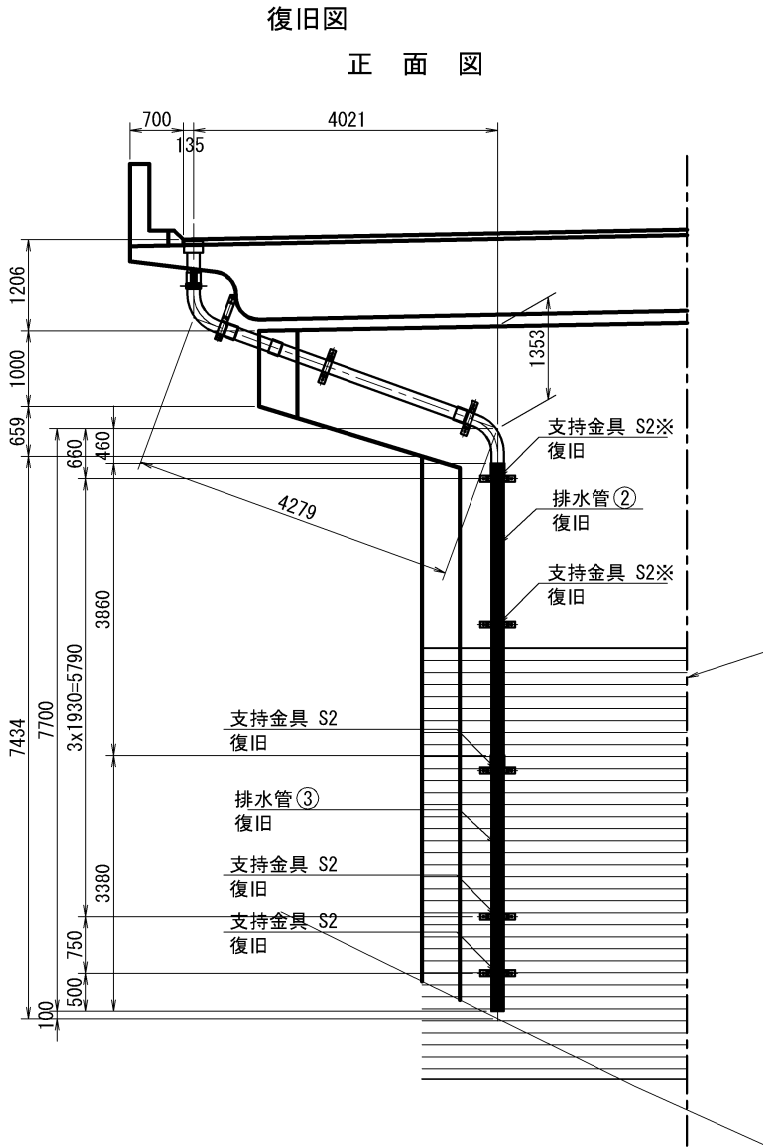
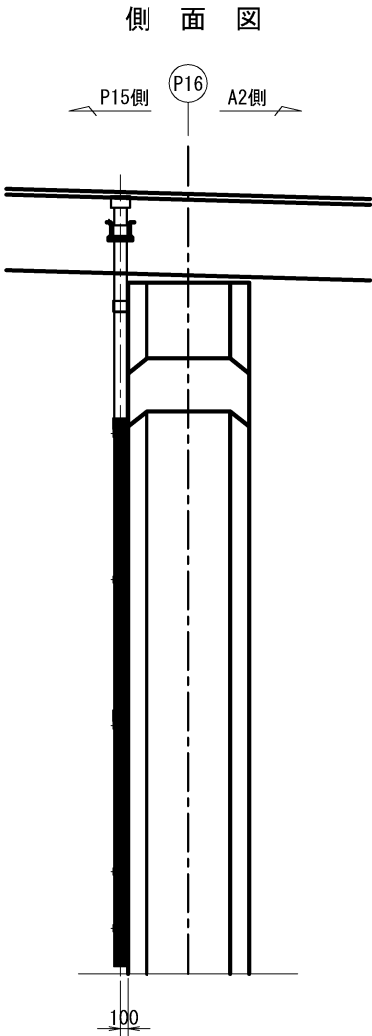
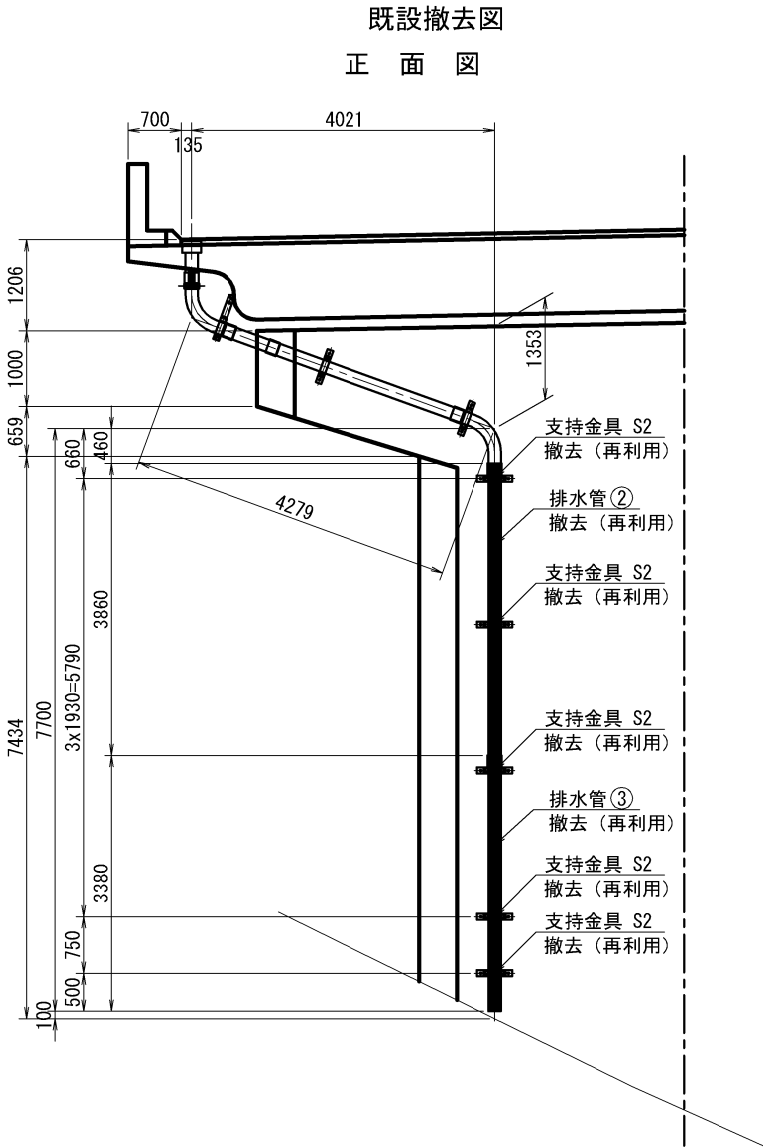
直管

② 2-VP 150A x 3860 (スリーブ付き)
③ 2-VP 150A x 2220 (スリーブ付き)

注 記

- 特記なき材質は、全てSS400とする。
- ナットは全て緩み止めナットを使用すること。
- クロロブレンゴム以外の部材は、全て溶融垂鉛めっきとする。垂鉛の膜厚は、JIS H 8641 HZT77とする。但し、ボルト・ナットおよびワッシャー類は、HDZT-9とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P15橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	28 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



撤去・復旧工 排水管

撤去・復旧流水延長

上部工

下部工 $L = 3.660 + 3.380 = 7.240\text{m}$

〈撤去・復旧数量〉

支持金具

S2 5個 (VP150A) ※箇所はアンカーも再利用

直管

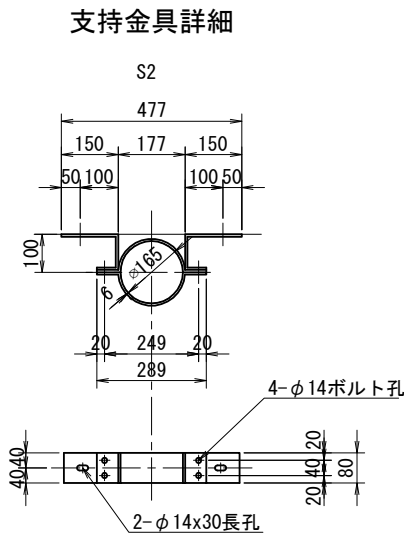
② 1-VP 150A x 3860 (スリーブ付き)

③ 1-VP 150A x 3380 (スリーブ付き)

注 記

1. 本図面は完成図より作成したものである。
また、補強一般図・構造一般図に記載している簡易計測での地形線とは異なる。
部材の製作及び施工する際には、現地確認および現地計測を行い、実施すること。
2. 特記なき材質は、全てSS400とする。
3. ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZT49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P16橋脚 排水装置撤去・復旧図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	29 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



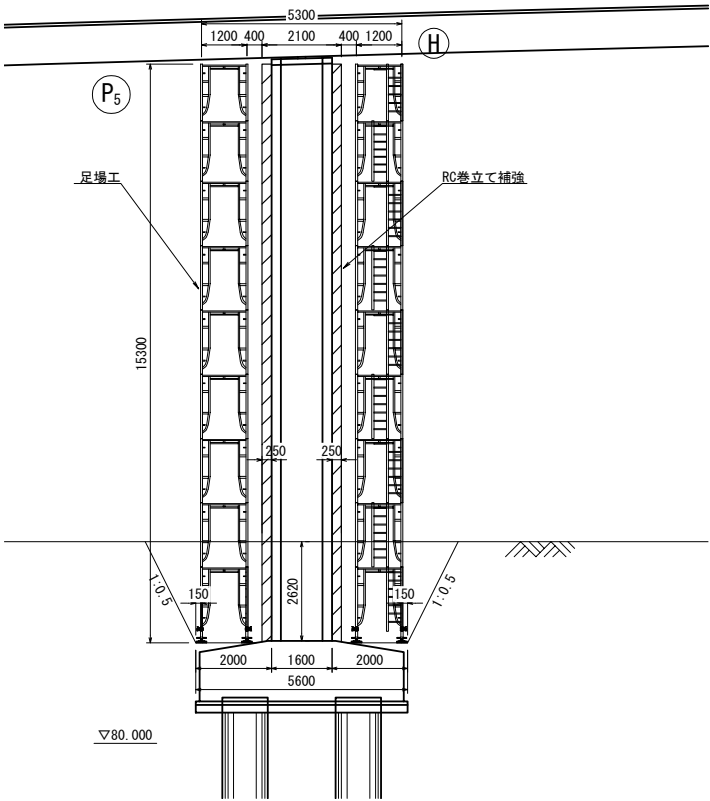
- 1基当り撤去数量(組数:3)
2-コンクリートアンカー M12x50 (1-N, 1-W付)
- 1基当り新設数量(組数:3)
2-コンクリートアンカー M12x100
- 1基当り撤去・復旧数量(組数:5)
2-PL 80 x 6 x 300
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40

- 注 記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
3. 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類は、HDZT49とする。

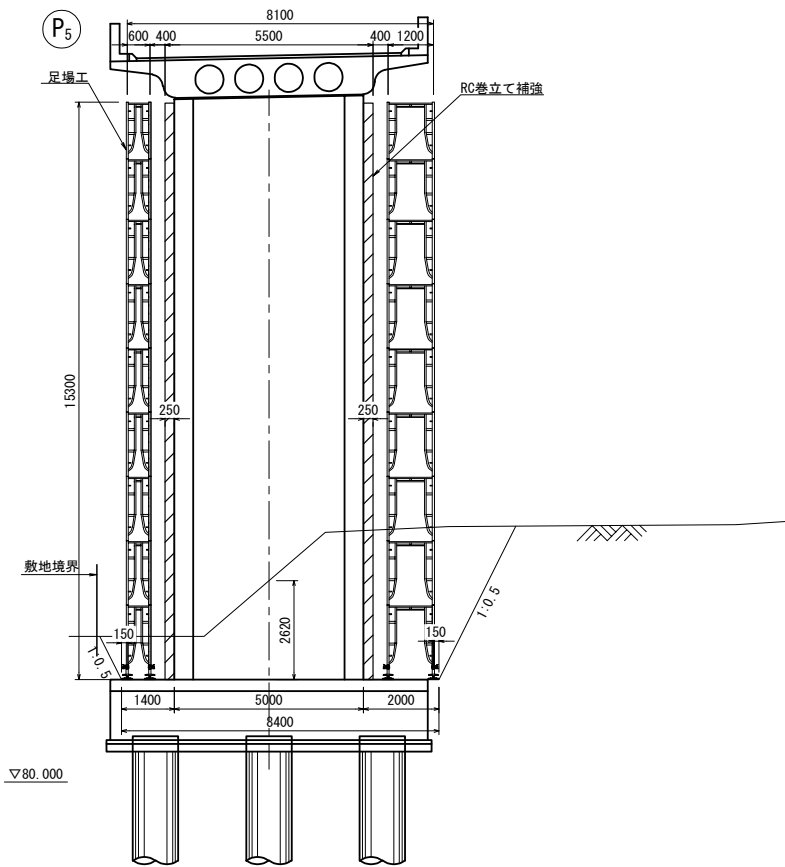
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P16橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		
	縮 尺	図 示	図面番号 30 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

【P5橋脚】

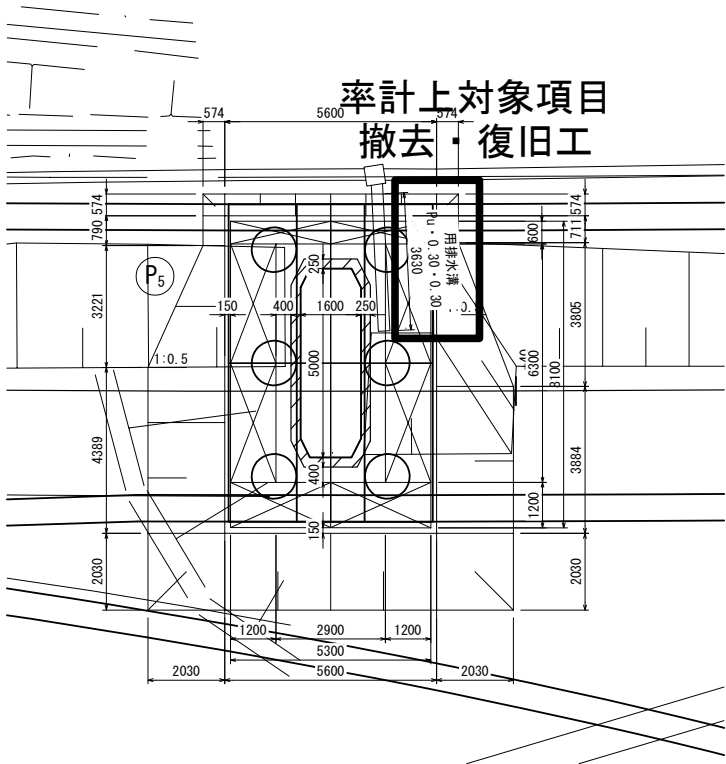
側面図



正面図



平面図

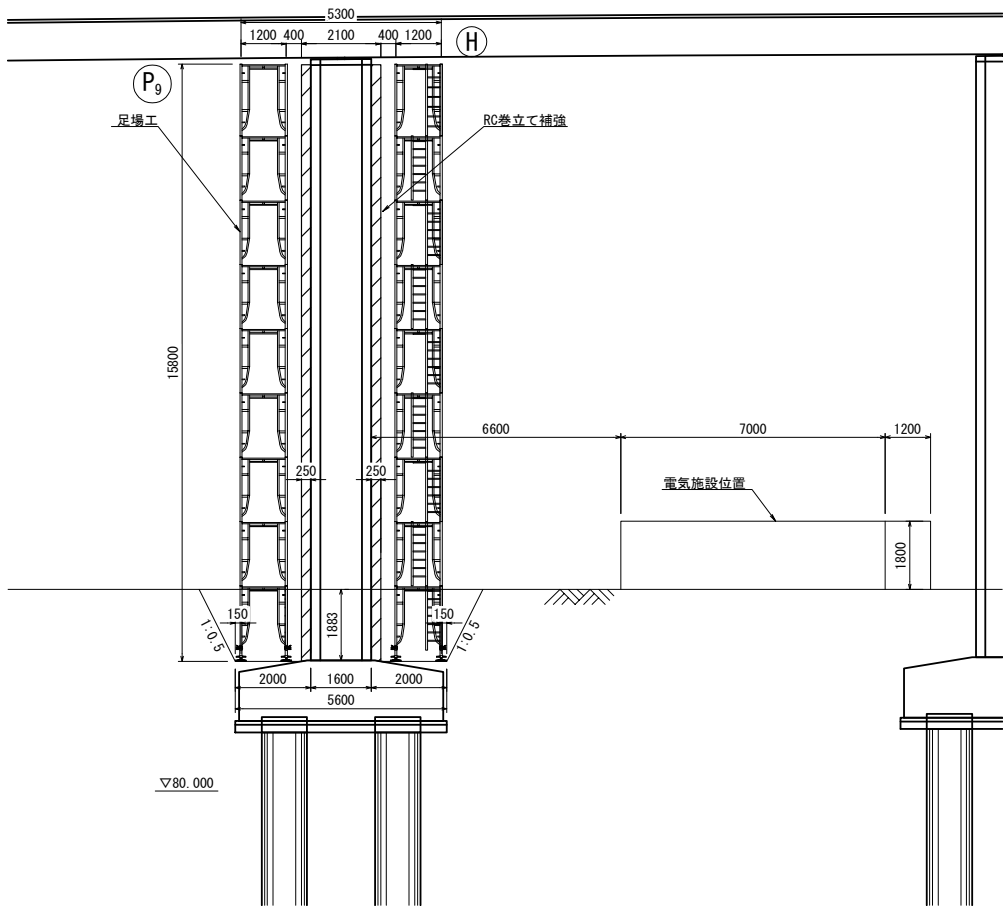


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。
2. 用排水溝は、道路中心と既設橋脚表面からの離隔を基に
位置を決定しているため、現地に寸法等を確認した上で
施工を実施すること。

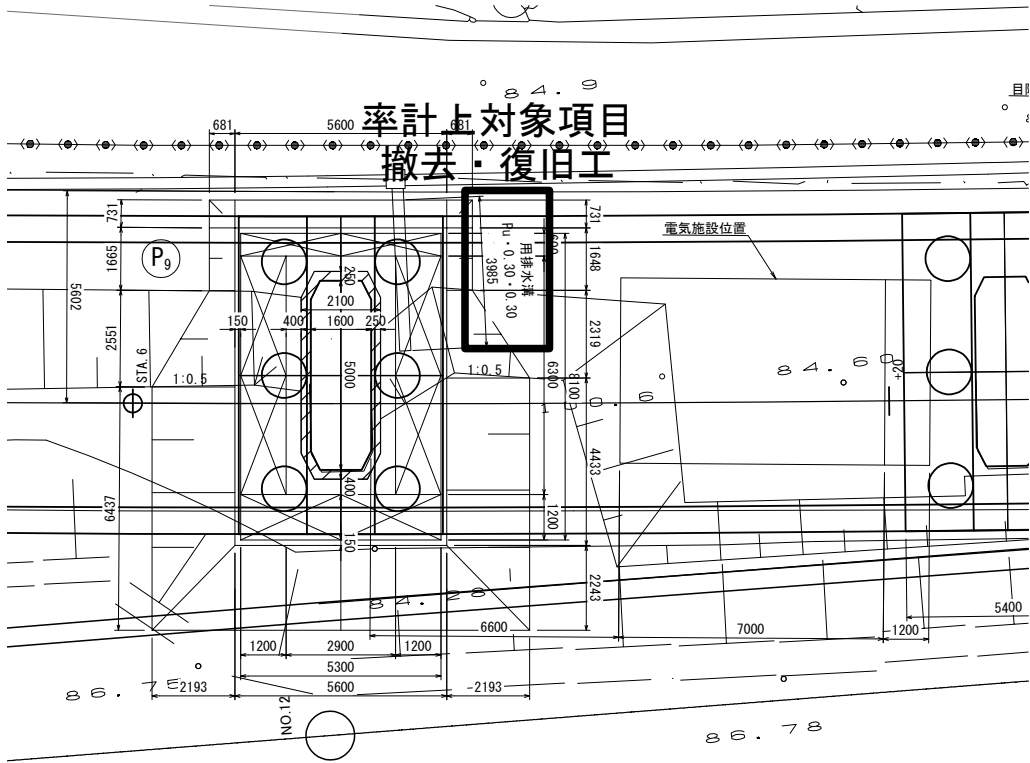
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 撤去・復旧工(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	31 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

【P9橋脚】

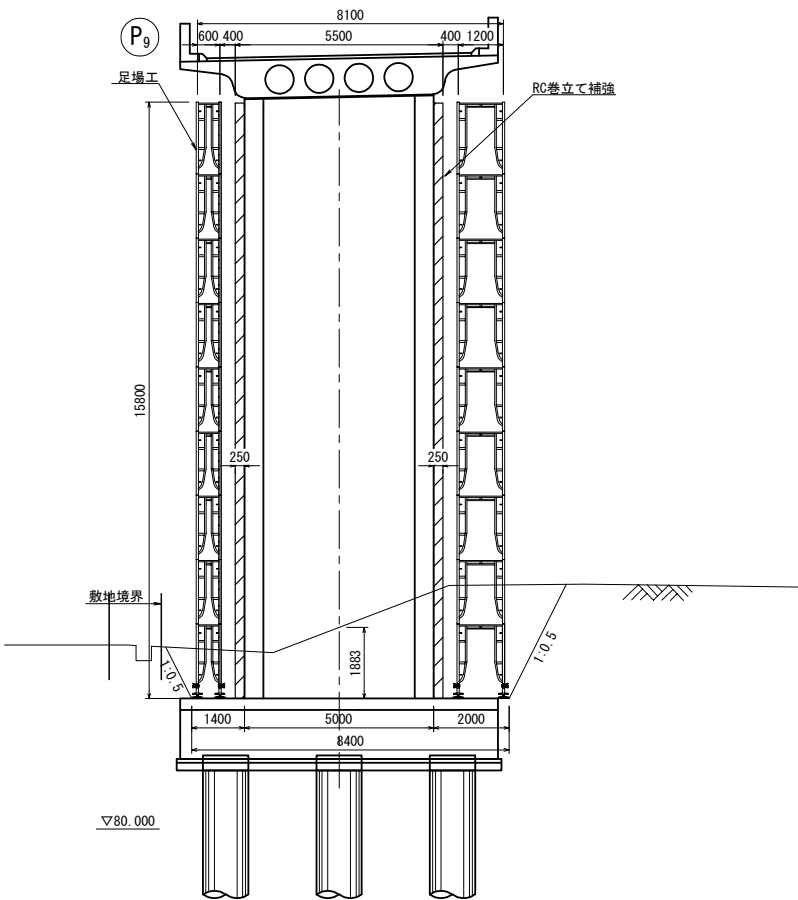
側面図



平面図



正面図

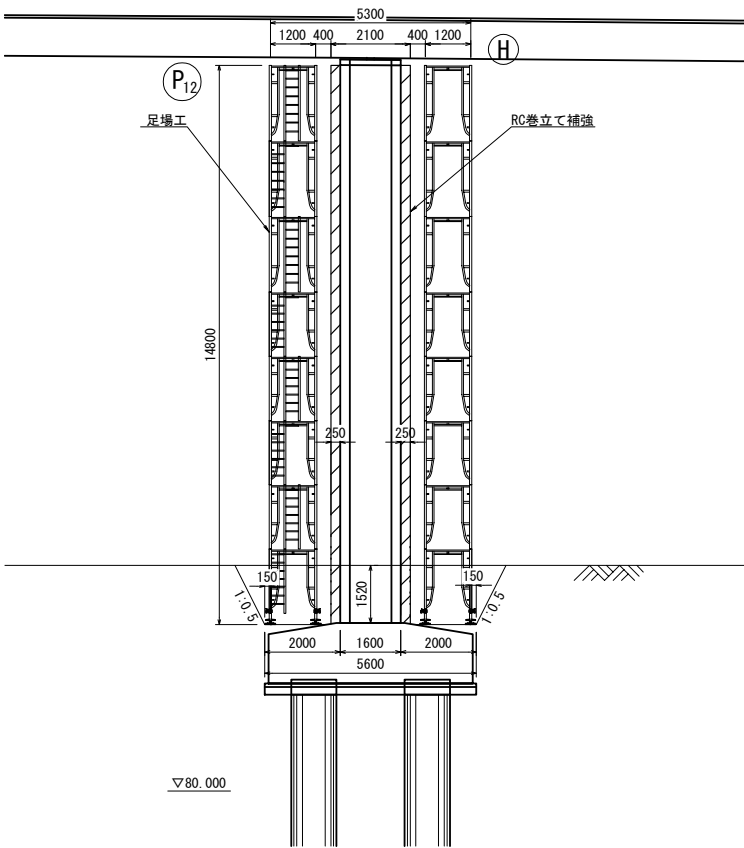


- 注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。
 2. 用排水溝は、道路中心と既設橋脚表面からの離隔を基に位置を決定しているため、現地に寸法等を確認した上で施工を実施すること。

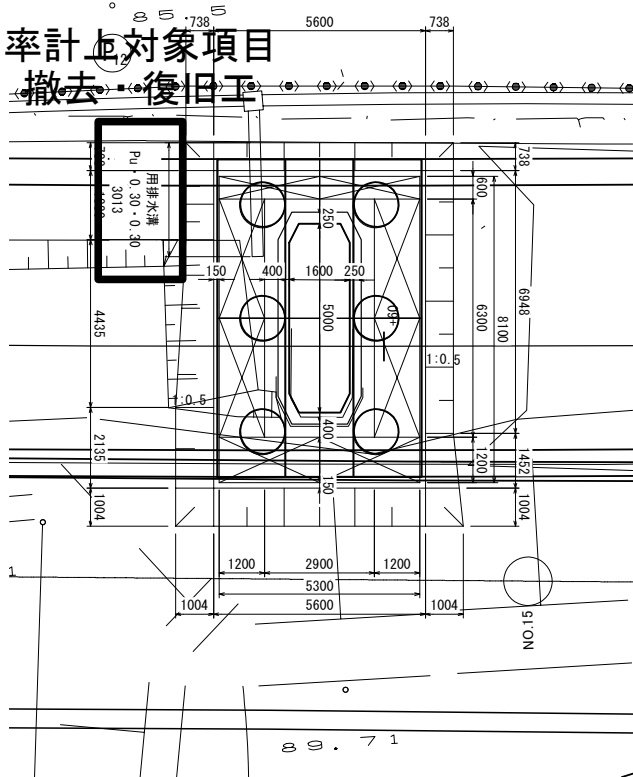
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 撤去・復旧工（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	32 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

【P12橋脚】

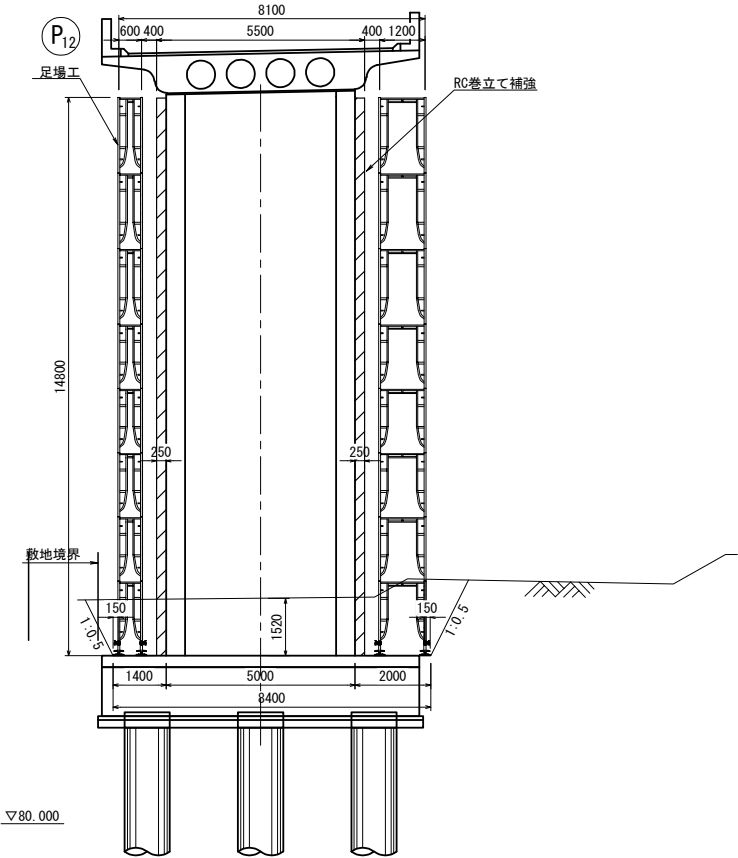
側面図



平面図



正面図

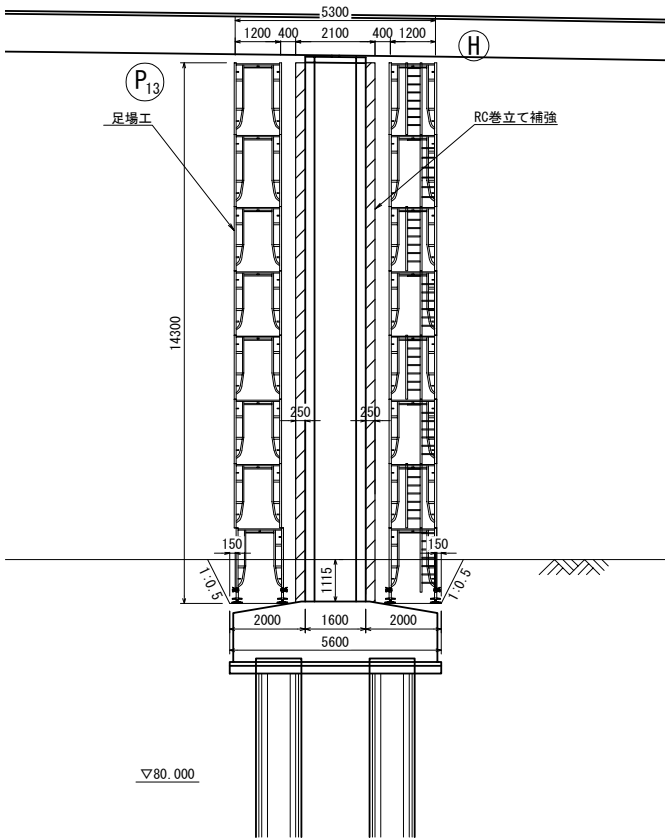


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。
2. 用排水溝は、道路中心と既設橋脚表面からの離隔を基に位置を決定しているため、現地に寸法等を確認した上で施工を実施すること。

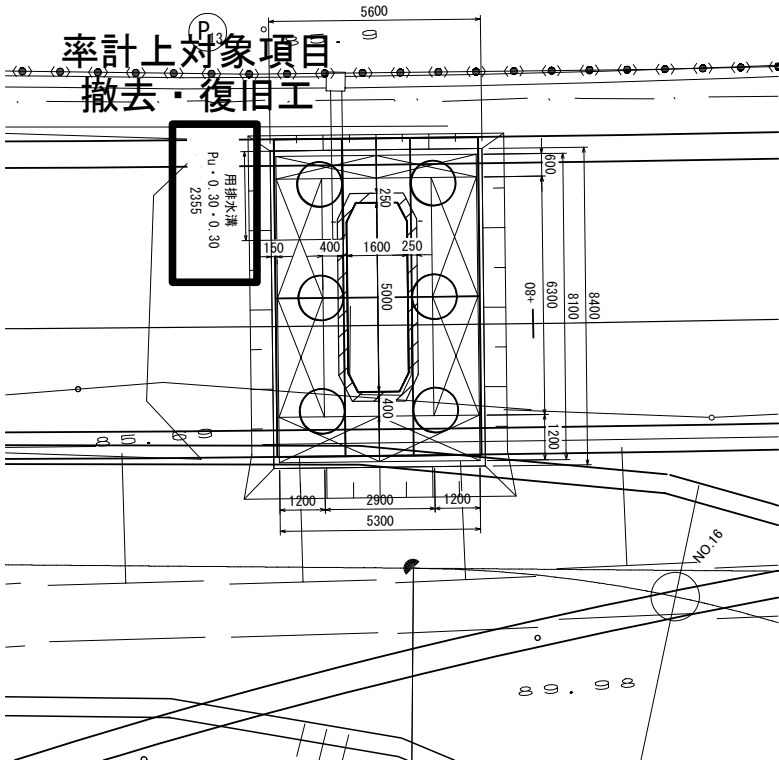
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 撤去・復旧工（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	33 / 65
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

【P13橋脚】

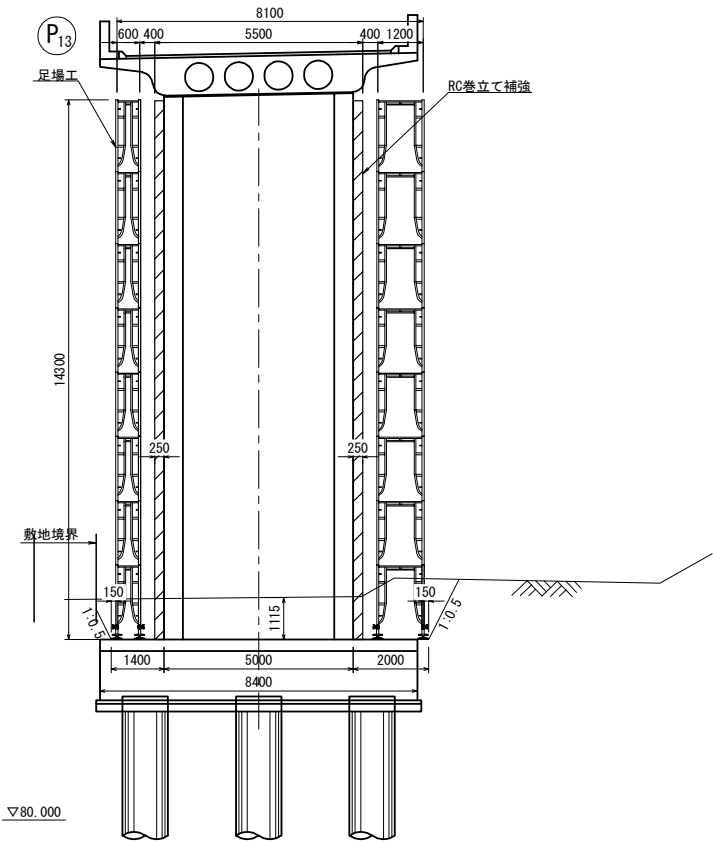
側 面 図



平 面 図



正 面 図

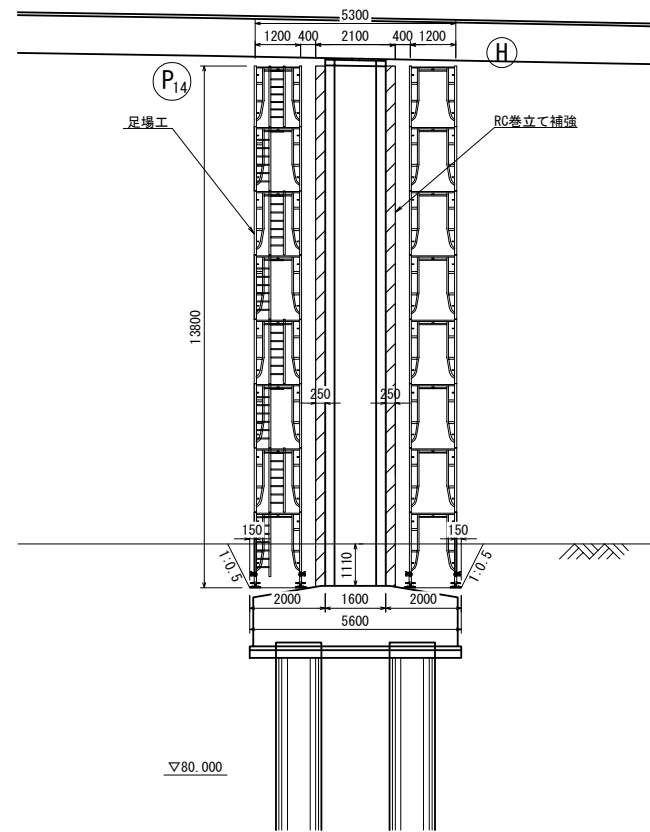


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。
2. 用排水溝は、道路中心と既設橋脚表面からの離隔を基に位置を決定しているため、現地に寸法等を確認した上で施工を実施すること。

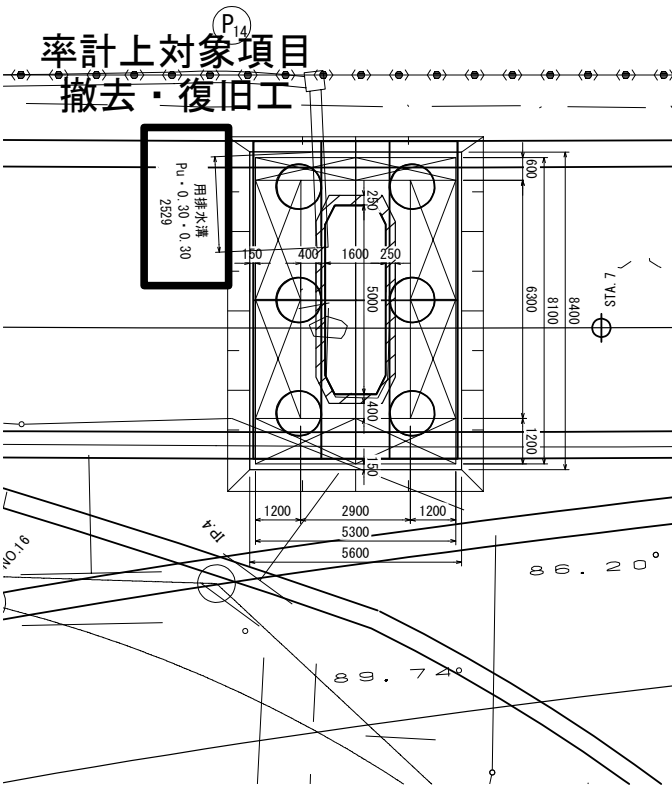
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 撤去・復旧工（その4）		
	縮 尺	図 示	図面番号 34 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

【P14橋脚】

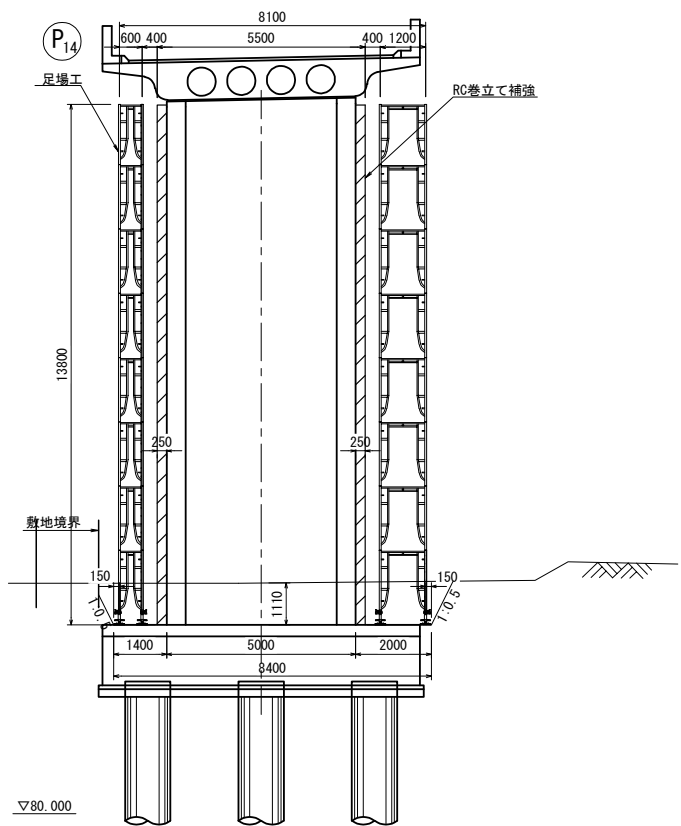
側 面 図



平 面 図



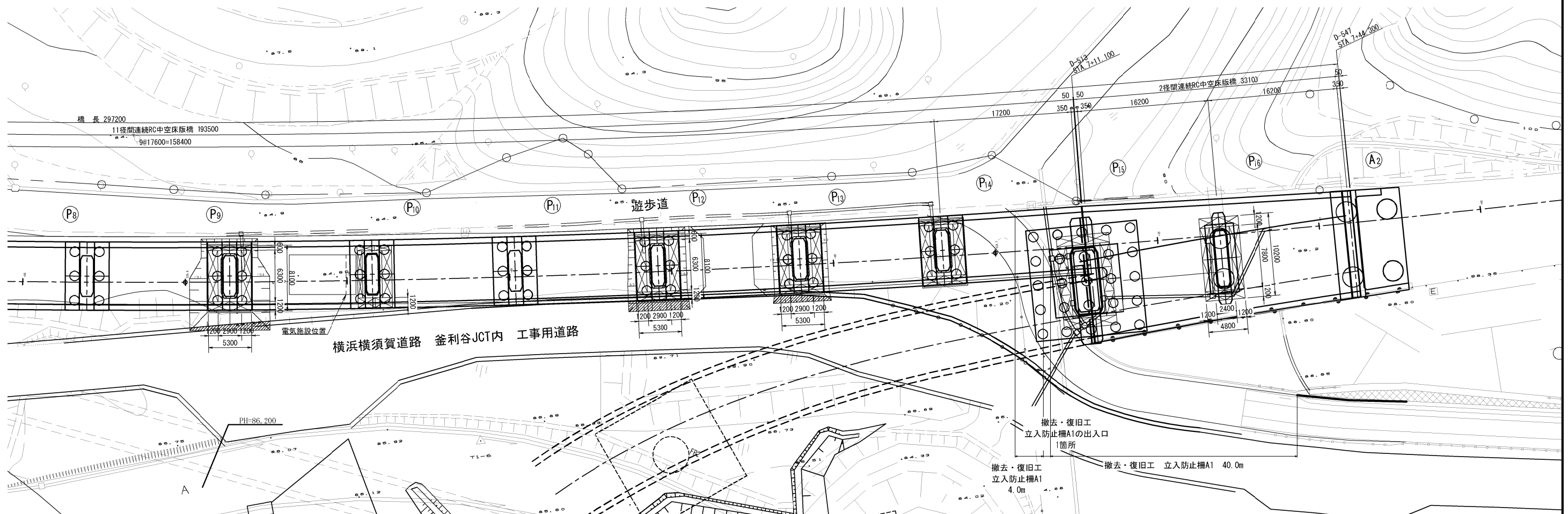
正 面 図



注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。
2. 用排水溝は、道路中心と既設橋脚表面からの離隔を基に位置を決定しているため、現地に寸法等を確認した上で施工を実施すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 撤去・復旧工（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	35 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

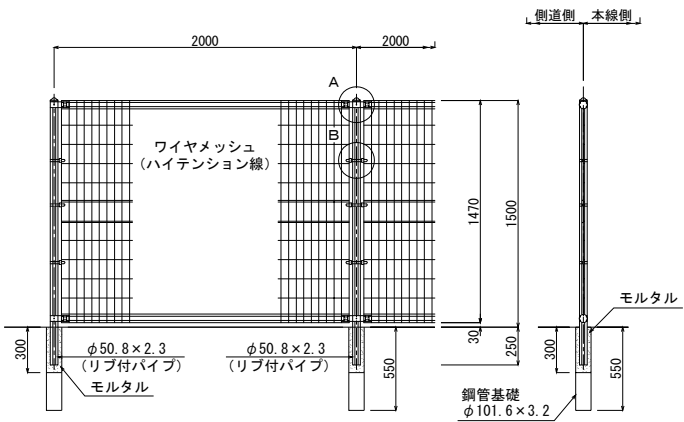
平面图 S=1:500



横浜須賀沼道路 金谷谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金谷谷JCT第一橋 撤去・復旧工（その6）		
縮 尺	図 示	図面番号	36 / 65
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

立入防止柵 A 1

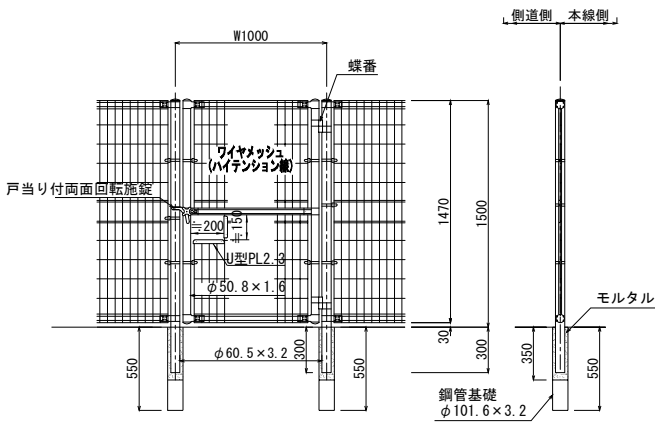
S=1:20



材 料 表 （非積雪地型A1）					10m当り
項 目	規格・寸法	単位	数 量	摘 要	
鋼管基礎	φ 101.6 L=550mm	本	5.0		
モルタル		m ³	0.010		
立ち入り防護フェンス	H=1500	m	10.0		

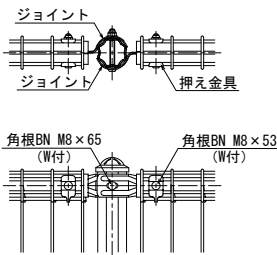
立入防止柵A1の出入口

S=1:20

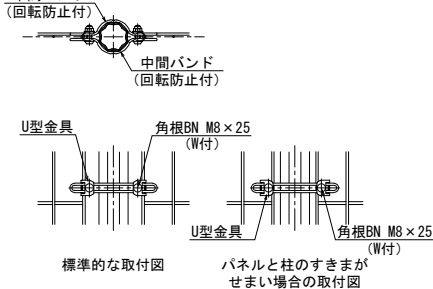


材 料 表 （非積雪地型A1用出入口）					1箇所当り
項 目	規格・寸法	単位	数 量	摘 要	
鋼管基礎	φ 101.6 L=550mm	本	2.0		
モルタル		m ³	0.004		
立入防止柵出入口	W=1000, H=1400	式	1		

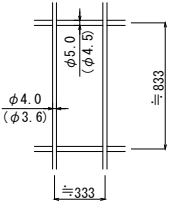
A部取付図 S=1:5



B部取付図 S=1:5



ワイヤメッシュ図
()内は芯径を示す。



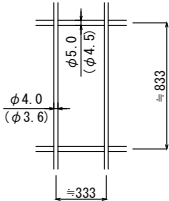
パネル断面図



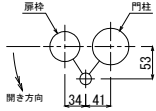
リブ付パイプ断面図
S=1:3



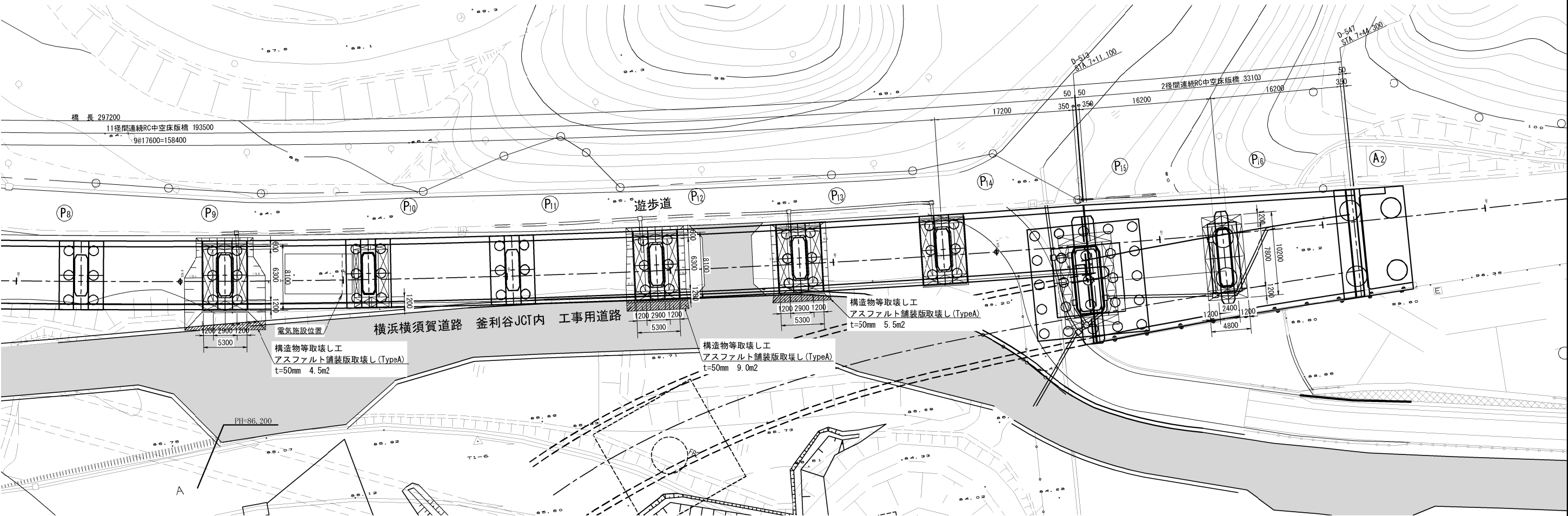
ワイヤメッシュ図
()内は芯径を示す。



門柱・扉枠位置関係図



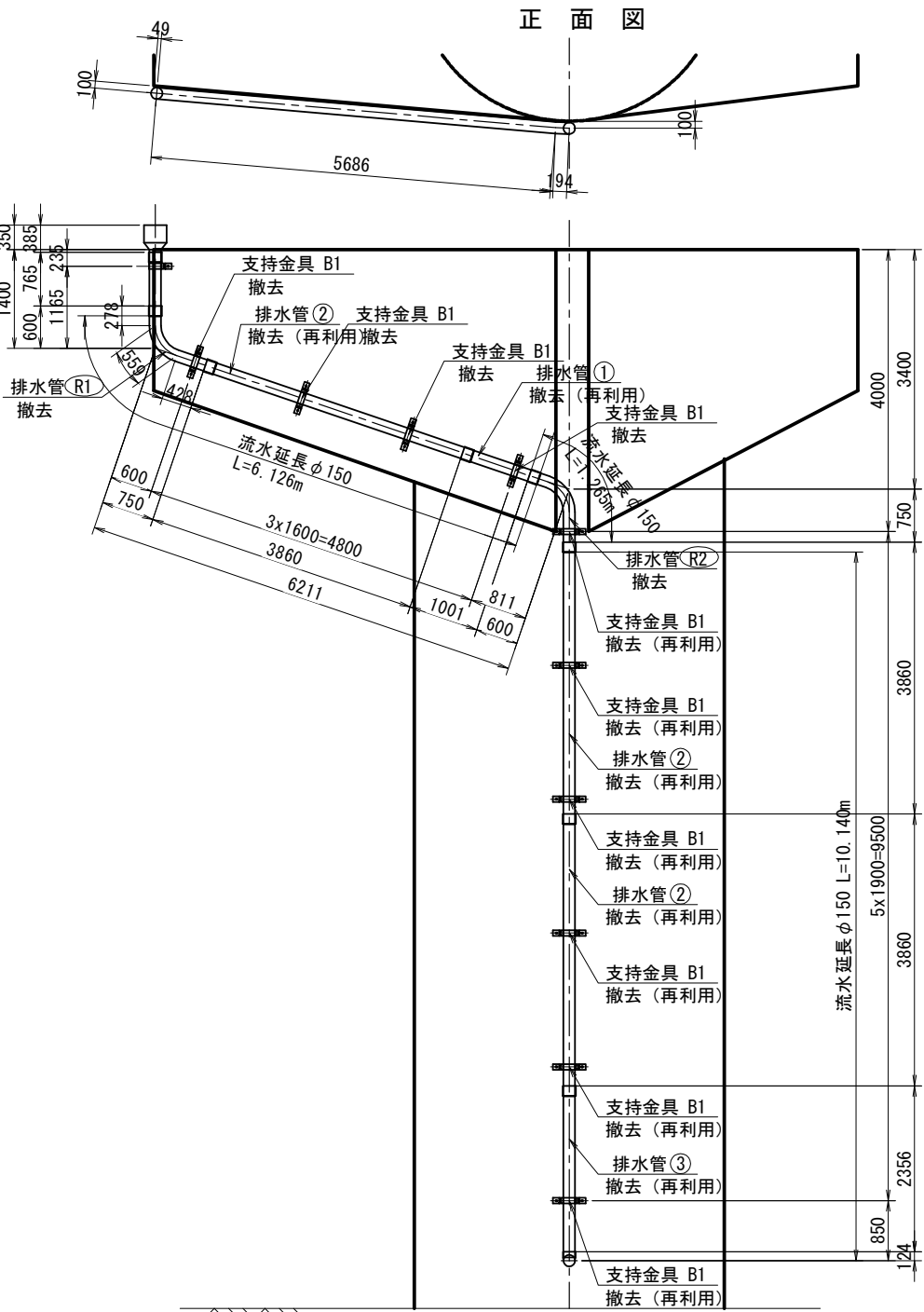
平面図 S=1:500



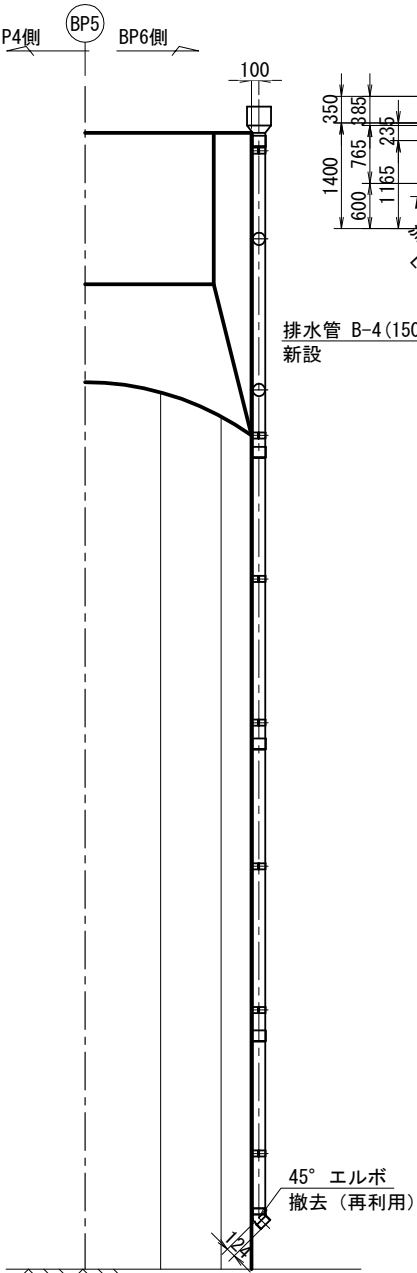
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 構造物等取壊し工		
縮 尺	図 示	図面番号	38 / 65
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

既設撤去図

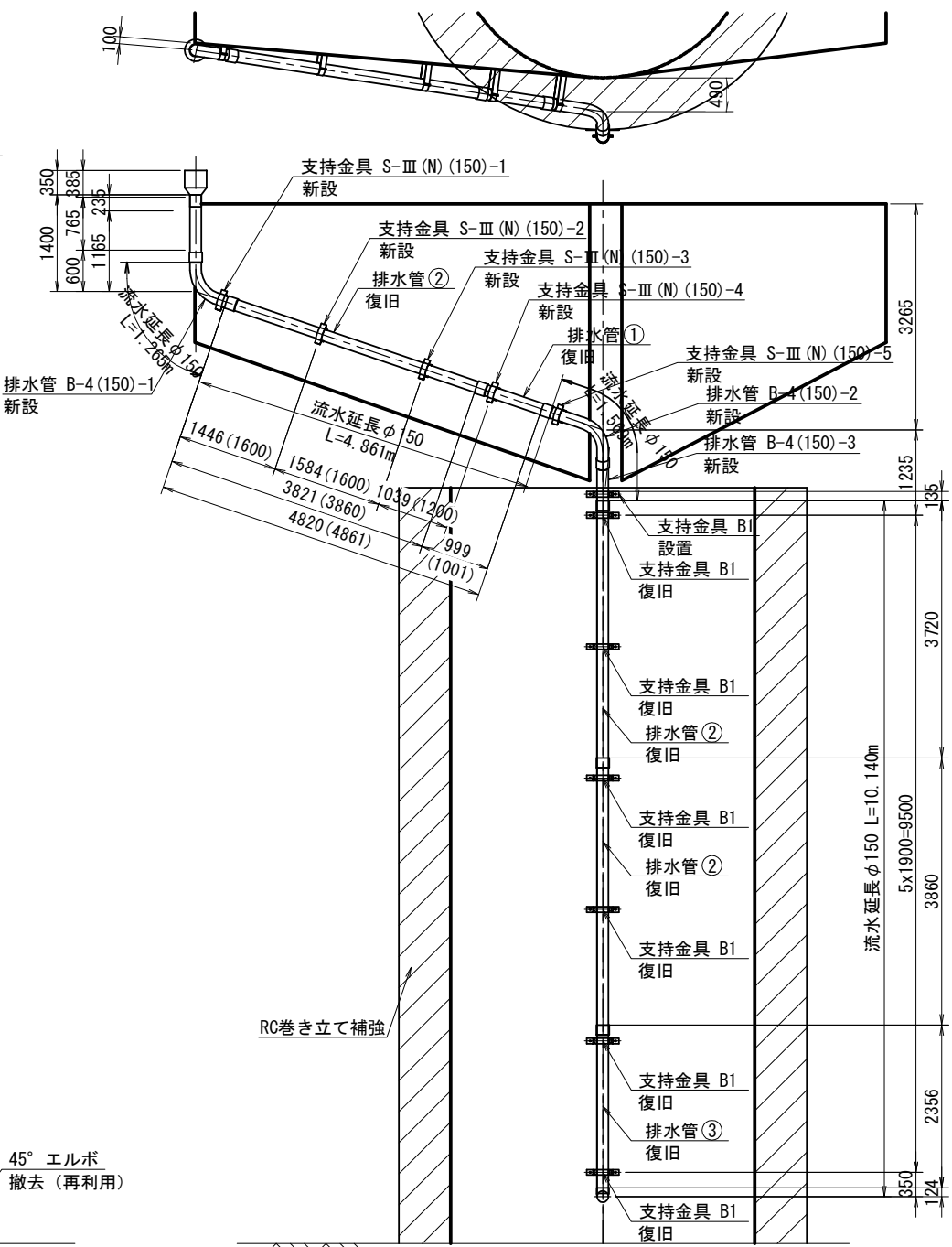
復旧図



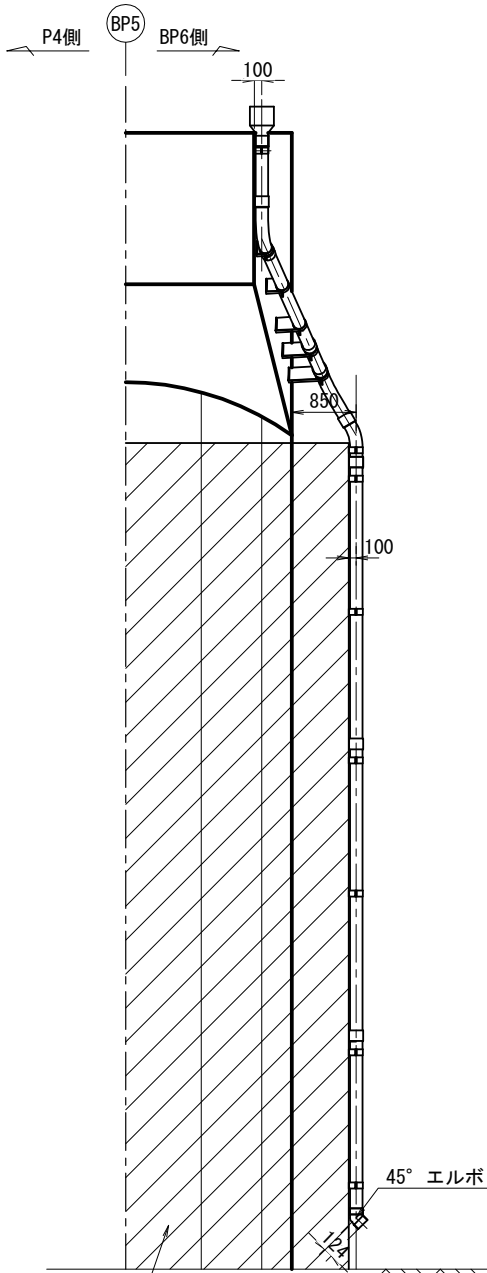
側面図



正面図



側面図



撤去流水延長		撤去工	排水管	単位:(m)
下部工	VP150A	左 : 0.278+0.559+0.428+1.265=2.530		

〈撤去数量〉
支持金具
B1 3個 (VP150A)

曲管
R1 1個 (VP150A)
R2 1個 (VP150A)

撤去・復旧流水延長		撤去・復旧工	排水管	単位:(m)
下部工	VP150A	左 : 3.860×3+1.001+2.356+0.124=15.061		

〈撤去・復旧数量〉
支持金具
B1 7個 (VP150A)

直管
① 1-VP 150A x 1140(スリーブ付き)
② 3-VP 150A x 4000(スリーブ付き)
③ 1-VP 150A x 2430(スリーブ付き)

45° エルボ
..... 1個 (VP150A)

新規流水延長		排水装置	排水管 A	単位:(m)
下部工	VP150A	左 : 1.265+0.925+0.644=2.834		

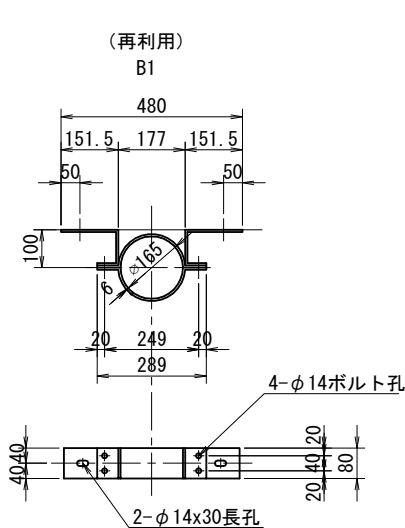
〈新設数量〉
支持金具
S-III(N)(150)-1 1個 (VP150A)
S-III(N)(150)-2 1個 (VP150A)
S-III(N)(150)-3 1個 (VP150A)
S-III(N)(150)-4 1個 (VP150A)
S-III(N)(150)-5 1個 (VP150A)

曲管
B-4(150)-1 1個 (VP150A)
B-4(150)-2 1個 (VP150A)
B-4(150)-3 1個 (VP150A)

- 注記)
- 本図面は完成図を基に作成したものである。
また、補強一般図・構造一般図に記載している簡易計測での地形線とは異なる。
部材の製作及び施工する際には、現地確認および現地計測を行い、実施すること。
 - 特記なき材質は全てSS400とする。
 - ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
 - 部材は全て溶融亜鉛めっき仕掛けとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類はHDZT49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	設計図 JCT 第二橋 BP5橋脚 排水装置 撤去・復旧図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	39 / 65
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

支持金具詳細

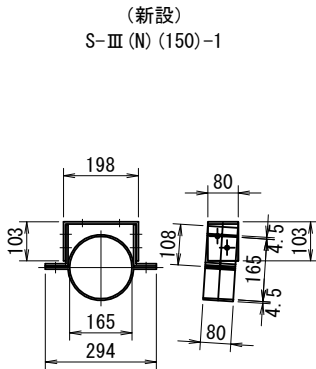


1基当り撤去数量(組数:3)
2-コンクリートアンカー M12x50 (1-N, 1-W付)

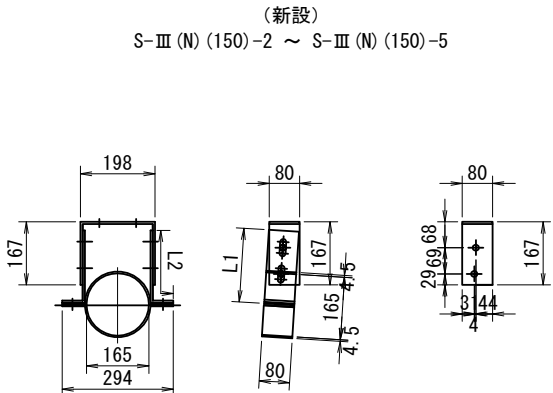
1基当り撤去数量(組数:3)
2-PL 80 x 6 x 290
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40

1基当り新設数量(組数:7)
2-コンクリートアンカー M12x100

1基当り撤去・復旧数量(組数:7)
2-PL 80 x 6 x 290
2-PL 80 x 6 x 381
4-BN M12 x 40



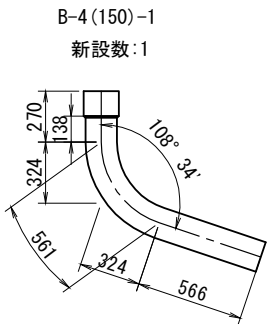
1基当り新設数量(組数:1)
2-PL 80 x 4.5 x 386
2-PL 80 x 6 x 162
1-PL 80 x 6 x 404
6-BN M12 x 45 (2-W, 1-SW)
2- ホールインアンカー M12



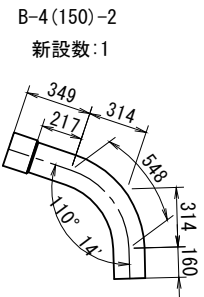
1基当り新設数量(組数:4)
2-PL 80 x 4.5 x 386
2-PL 80 x 6 x L2
1-PL 80 x 6 x 532
6-BN M12 x 45 (2-W, 1-SW)
2- ホールインアンカー M12

	L1	L2
S-Ⅲ (N) (150)-2	212	266
S-Ⅲ (N) (150)-3	310	364
S-Ⅲ (N) (150)-4	384	438
S-Ⅲ (N) (150)-5	436	490

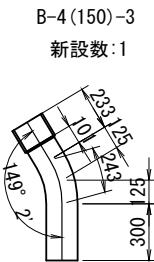
新設部材詳細図 S=1:40



流水延長 = 0.138 + 0.561 + 0.566 = 1.265m



流水延長 = 0.217 + 0.548 + 0.160 = 0.925m



流水延長 = 0.101 + 0.243 + 0.300 = 0.644m

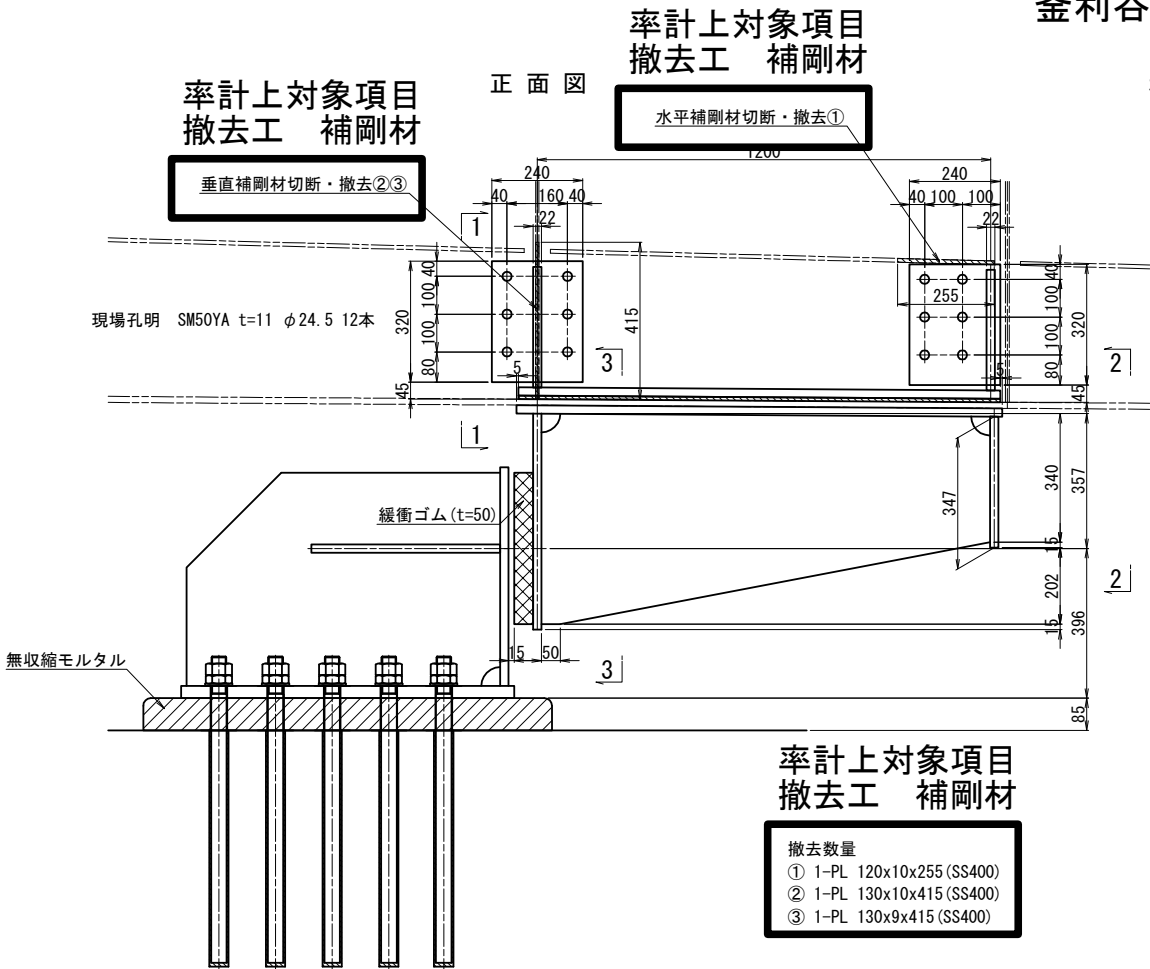
- 注記)
1. 本図面は完成図を基に作成したものである。
また、補強一般図・構造一般図に記載している簡易計測での地形線とは異なる。
部材の製作及び施工する際には、現地確認および現地計測を行い、実施すること。
 2. 特記なき材質は全てSS400とする。
 3. ナットは、全て緩み止めナットを使用すること。
 4. 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類はHDZT49とする。
 5. ボルト孔は、メッキ付着量を考慮し、ボルト径+2mmを標準とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP5橋脚 排水装置撤去・復旧図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	40 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

横浜須賀買道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 撤去工（その1）		
縮 尺	1:20	図面番号	41 / 65
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

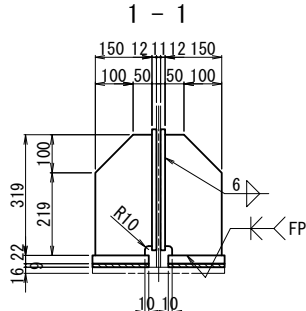
釜利谷JCT第二橋 撤去工(その2)
釜利谷JCT第二橋 BA2橋台横変位拘束構造図(その2)
上部工付きブラケット

S=1:20

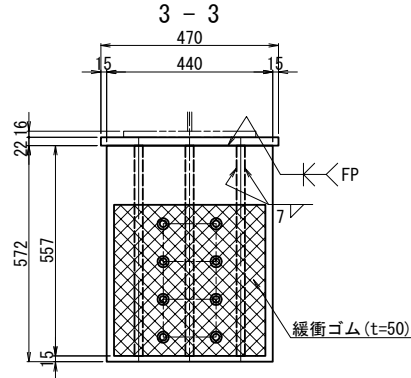
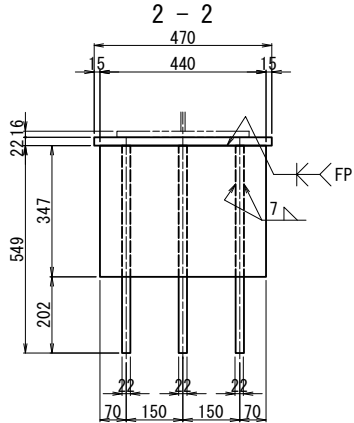


横変位拘束構造M 鋼製ブラケットA

上部工補強工C



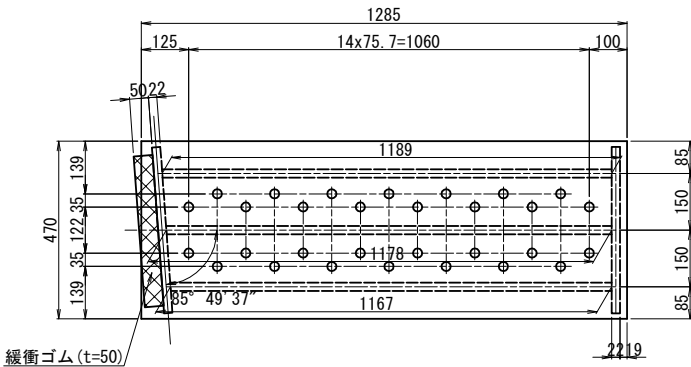
4-PL BASE 240x12x320
4-PL 150x22x319
2-PL 149x22x1275
2-FILL PL 149x9x1275 (SS400)
12-TCB M22x70 (S10T)



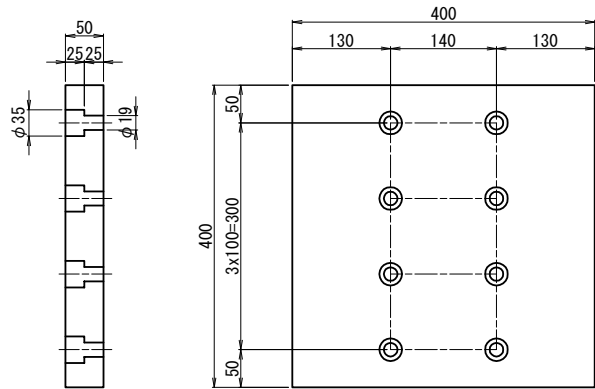
率計上対象項目
撤去工 補剛材

撤去数量
① 1-PL 120x10x255 (SS400)
② 1-PL 130x10x415 (SS400)
③ 1-PL 130x9x415 (SS400)

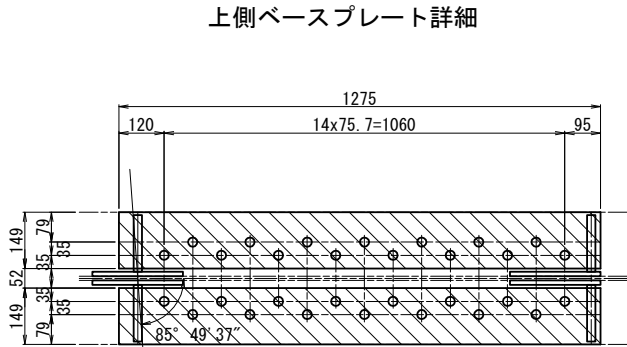
下側ベースプレート詳細



緩衝ゴム詳細図 S=1:10



1-緩衝ゴム 400x50x400(クロロプレンゴム) (硬度55° ±5° 程度)
※ 8-BN M16x75 (2-W, SS400)



現場孔明 SM50YA t=16 φ24.5 30本

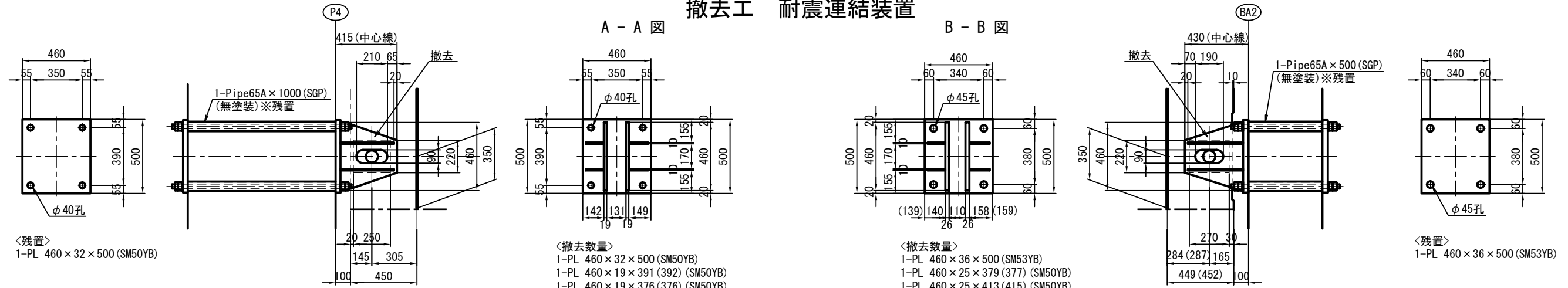
1-PL 470x22x1285
1-PL 440x22x347
1-RIB PL 1189x22x557
1-RIB PL 1178x22x557
1-RIB PL 1167x22x557
1-PL 440x22x572
30-TCB M22x105 (S10T)

- 注記)
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップは50Rとする。
 - ※印部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641:2021 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類はHDZT49とする。
 - 既設コンクリートの削孔は鉄筋探査により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。既設鉄筋と干渉した場合は、アンカーボルト本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
 - 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成している。
施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 撤去工(その2)		
縮 尺	1:20	図面番号	42 / 65
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

撤去工 耐震連結装置

S=1:30



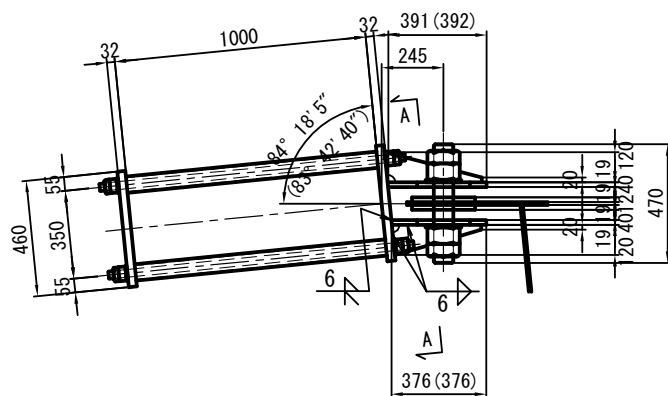
＜撤去数量＞
1-PL 460×32×500 (SM50YB)
1-PL 460×19×391 (392) (SM50YB)
1-PL 460×19×376 (376) (SM50YB)
2-PL 120×10×383 (385)
2-PL 120×10×351 (350)

＜撤去数量＞
1-PL 460×36×500 (SM53YB)
1-PL 460×25×379 (377) (SM50YB)
1-PL 460×25×413 (415) (SM50YB)
2-PL 120×10×344 (341)
2-PL 120×10×424 (429)

＜残置＞
1-PL 460×36×500 (SM53YB)

主桁補強図

主桁補強及び切欠図

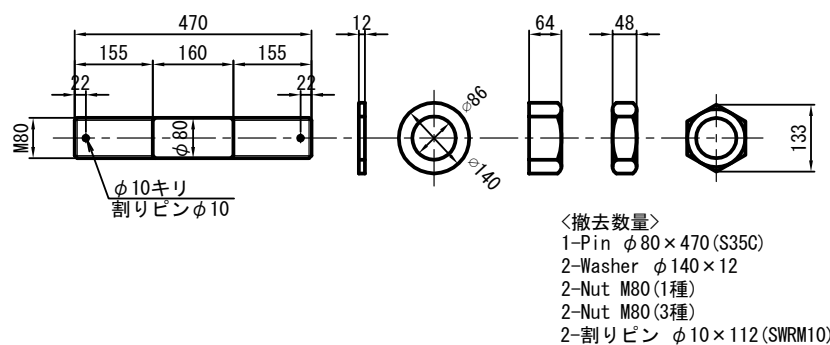


＜撤去数量＞
2-PL 220×19×250 (SM50YB) ※

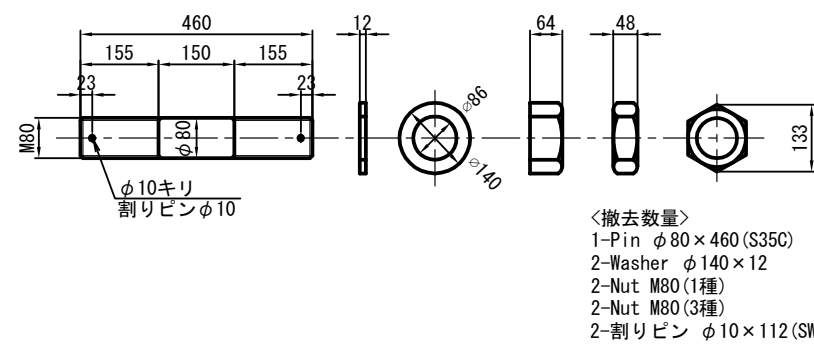
＜撤去数量＞
2-PL 220×22×270 (SM50YB) ※

連結ピン詳細図 S=1:15

連結ピン詳細図 S=1:15

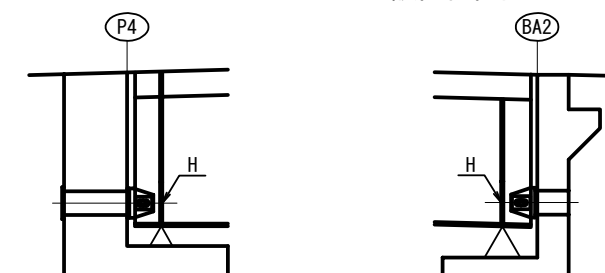


＜撤去数量＞
1-Pin φ80×470 (S35C)
2-Washer φ140×12
2-Nut M80 (1種)
2-Nut M80 (3種)
2-割りピン φ10×112 (SWRM10)



＜撤去数量＞
1-Pin φ80×460 (S35C)
2-Washer φ140×12
2-Nut M80 (1種)
2-Nut M80 (3種)
2-割りピン φ10×112 (SWRM10)

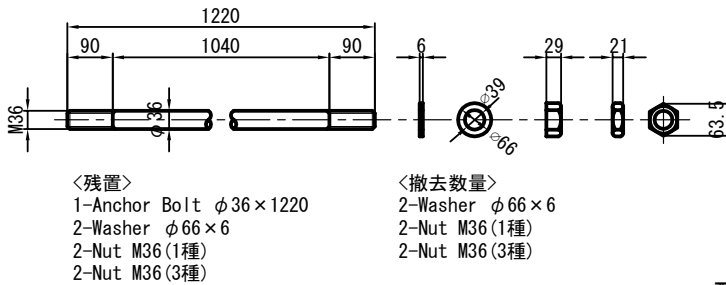
設置位置図



	H	
	(P4)	(BA2)
(G1L)	96.682	98.526
(G1R)	96.687	98.513
(G2L)	96.692	98.480
(G2R)	96.698	98.463
撤去重量 (kg)	696	816

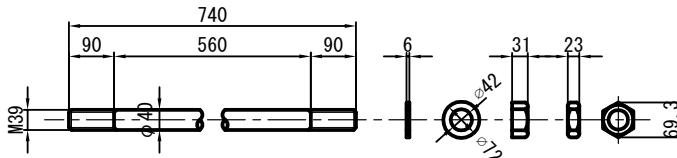
アンカーボルト詳細図 S=1:15

アンカーボルト詳細図 S=1:15



＜残置＞
1-Anchor Bolt φ36×1220
2-Washer φ66×6
2-Nut M36 (1種)
2-Nut M36 (3種)

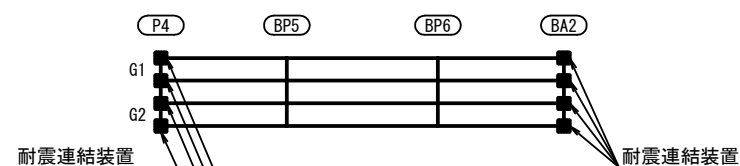
＜撤去数量＞
2-Washer φ66×6
2-Nut M36 (1種)
2-Nut M36 (3種)



＜残置＞
1-Anchor Bolt φ40×740
2-Washer φ72×6
2-Nut M39 (1種)
2-Nut M39 (3種)

＜撤去数量＞
2-Washer φ72×6
2-Nut M39 (1種)
2-Nut M39 (3種)

配置図



注記)

- 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成している。施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
- () 内寸法はG2桁を示す。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 撤去工（その3）			
縮 尺	図 示	図面番号	43 / 65	
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所			

釜利谷第二高架橋 排水装置撤去・復旧図(その1)
P1橋脚(上下線)下部工

S=1:150

正面図

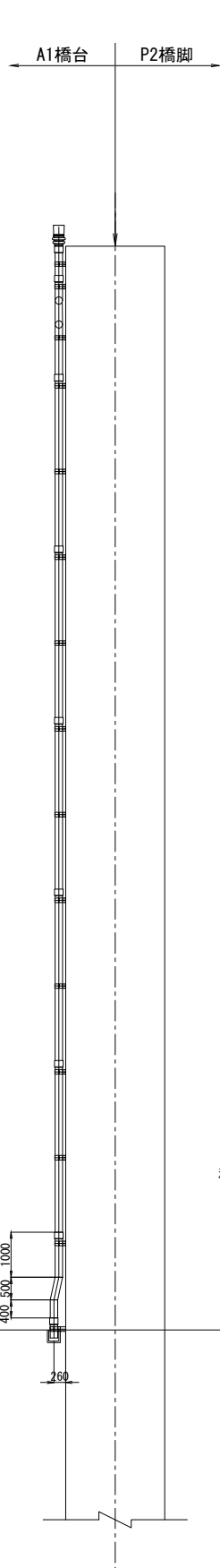
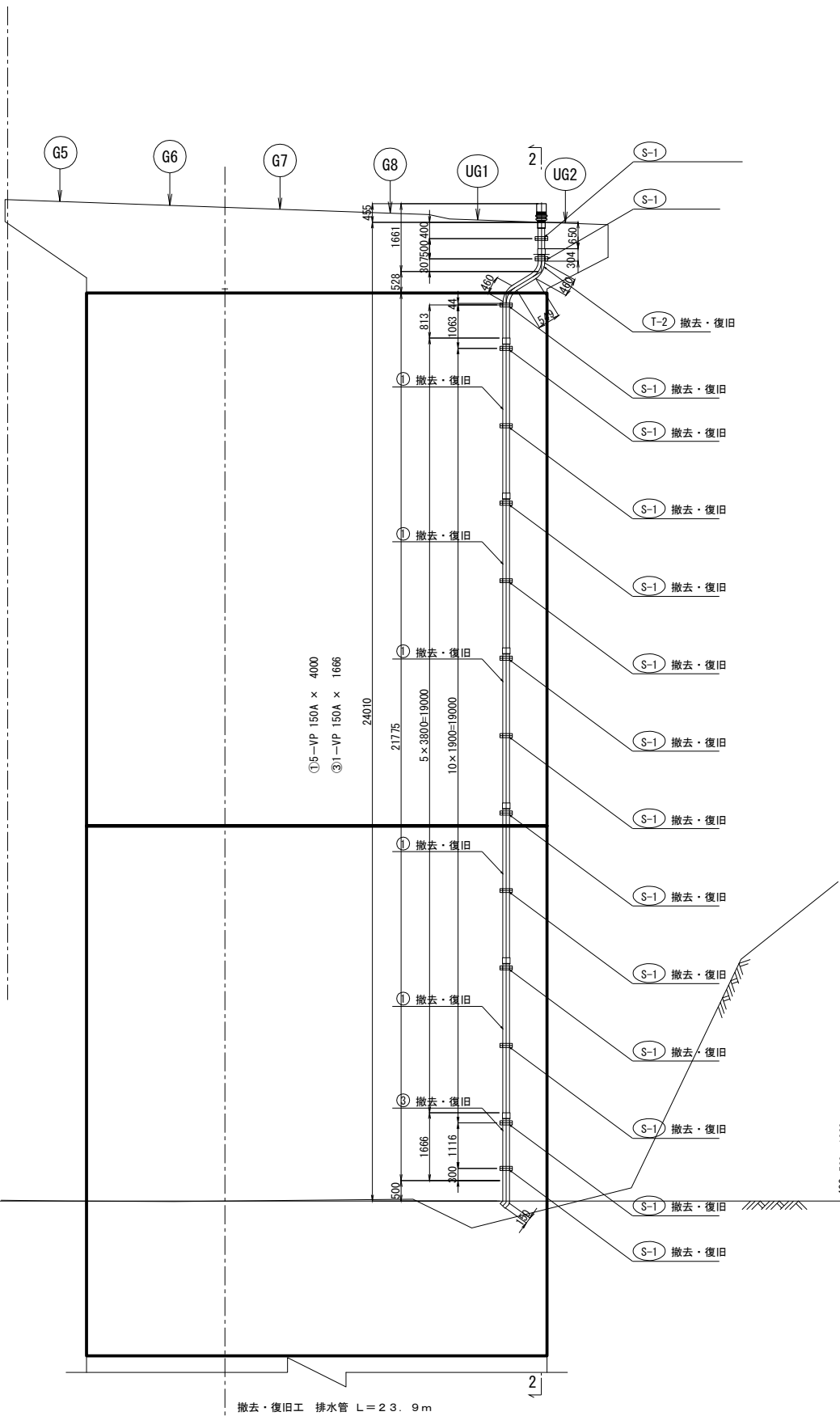
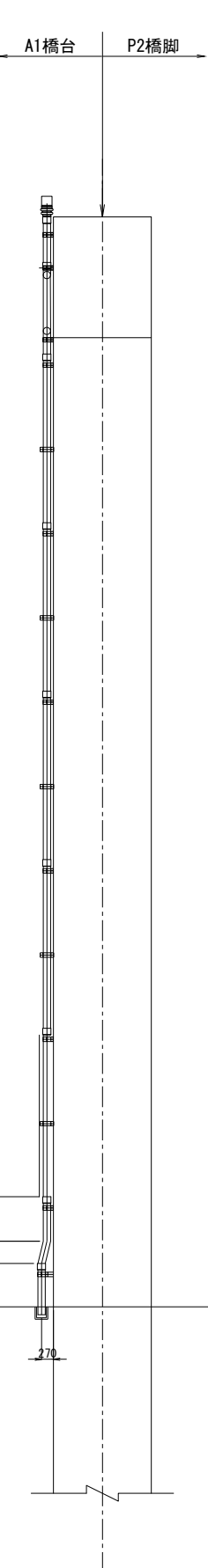
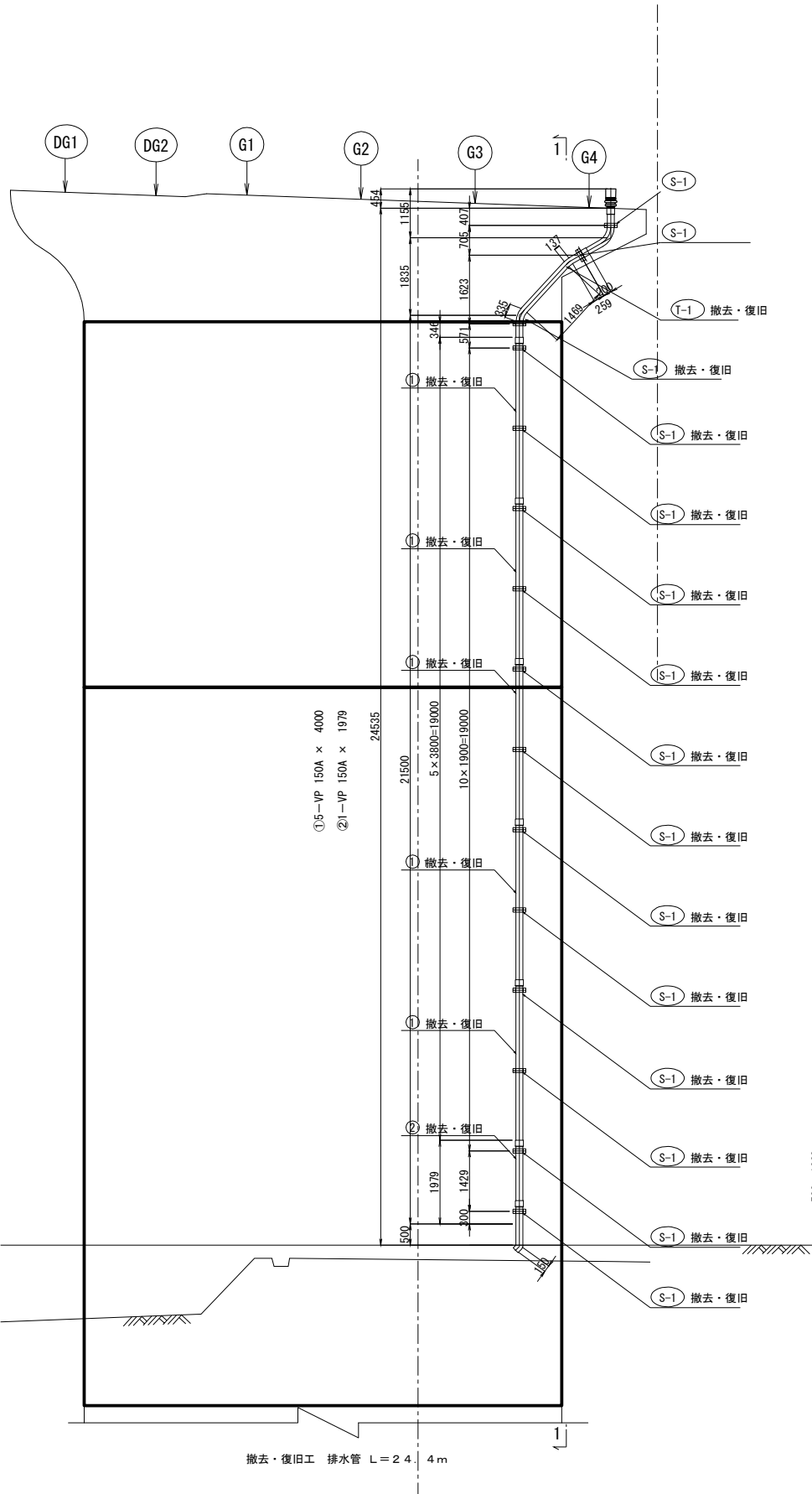
下り線

側面図(1-1)

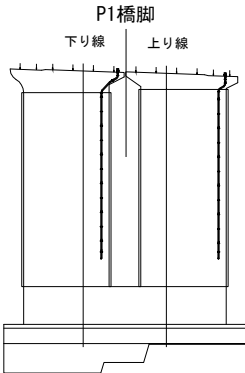
正面図

上り線

側面図(2-2)



位置図



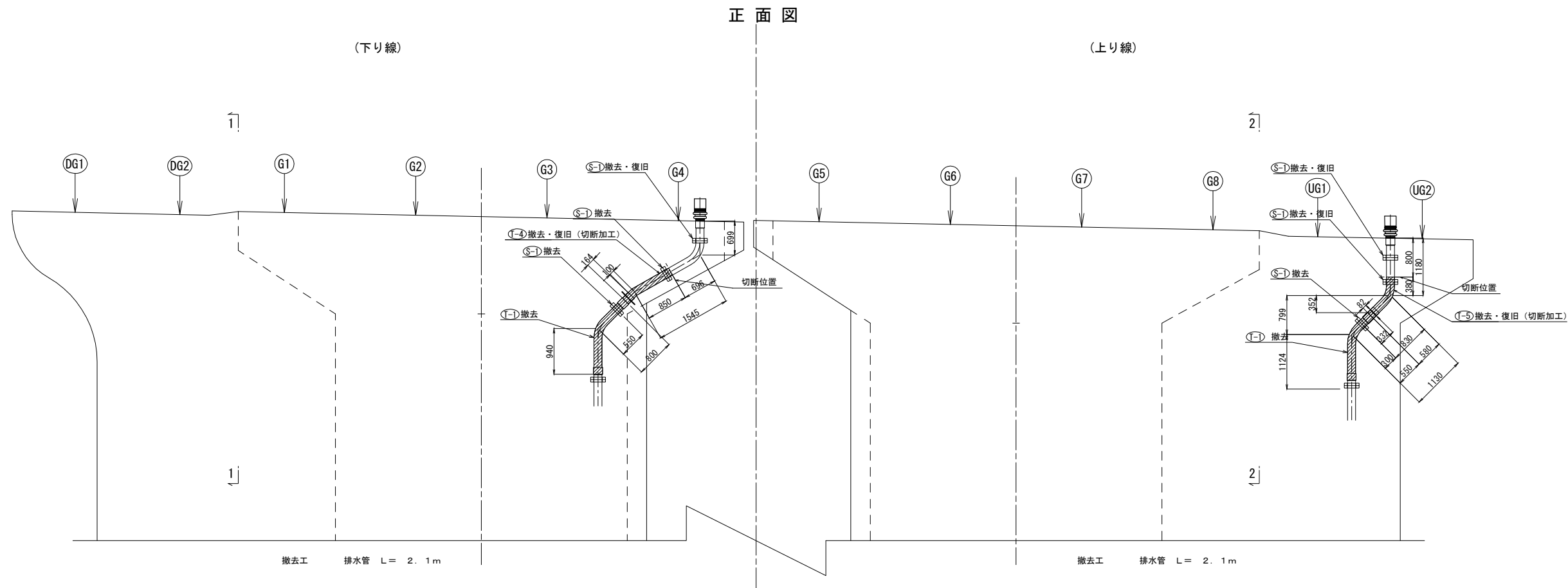
- 注記
- 特記なき材質は、全てSS400とすること。
 - 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとすること。
付着量は、JIS H 8641 HDZT77とすること。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とすること。
 - ボルト・ナットは、全てゆるみ止めのものを使用すること。
 - ピースは既設ウェブに孔明け後、設置面を清掃の上、既設塗膜の上から設置すること。
設置面の既設塗膜が健全でない場合は、別途監督員と協議すること。
 - 主桁ウェブとピース境界部にシール材を施工すること。
 - 既設ピースが干渉する場合は撤去すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 排水装置撤去・復旧図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	44 / 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

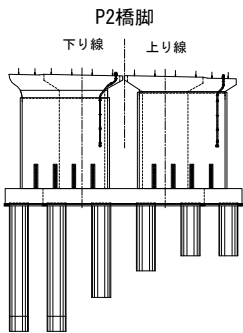
本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。

釜利谷第二高架橋 排水装置撤去・復旧図(その2)
P2橋脚(上下線)下部工 撤去図

S=1:100

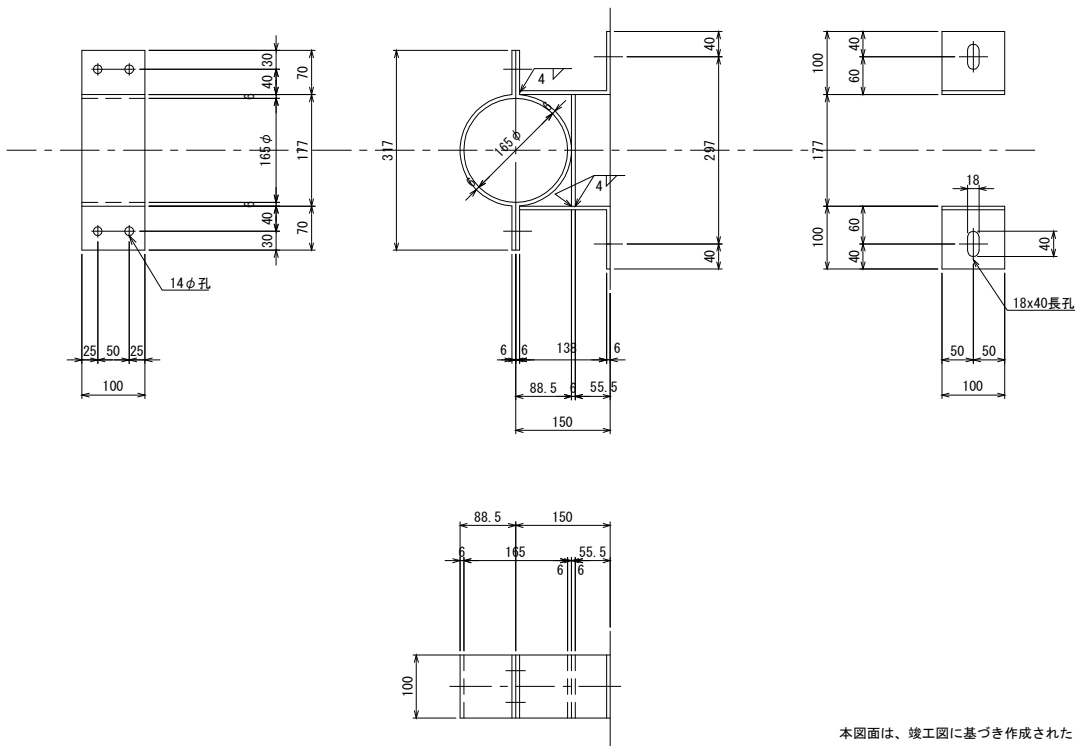


位置図

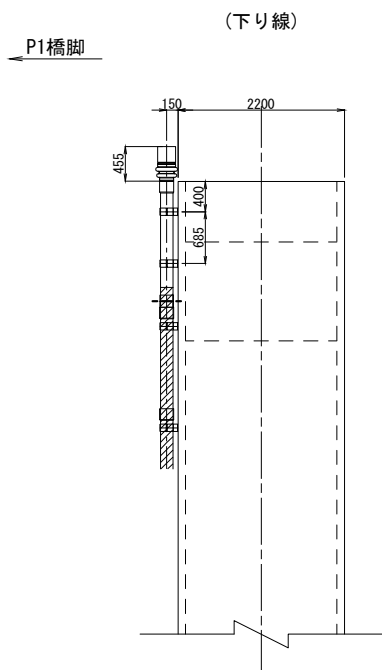


取付金具詳細 S=1:12

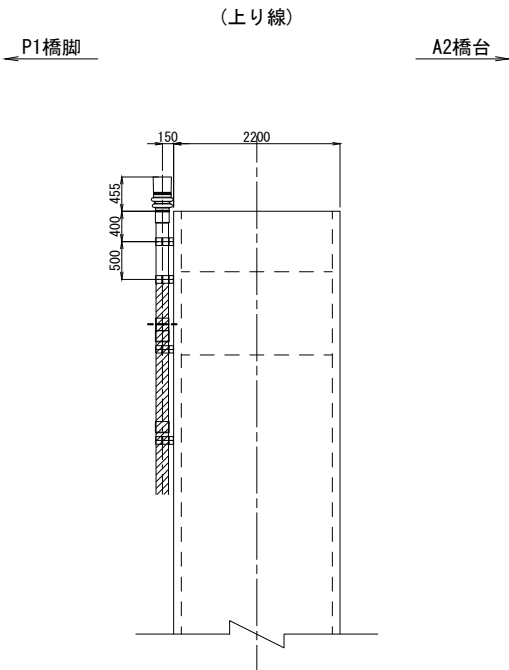
S-1



側面図 (1 - 1)



側面図 (2 - 2)



- 注記
- 特記なき材質は、全てSS400とすること。
 - 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとすること。
付着量は、JIS H 8641 HDZT77とすること。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とすること。
 - ボルト・ナットは、全てゆるみ止めのあるものを使用すること。
 - ピースは既設ウェブに孔明け後、設置面を清掃の上、既設塗膜の上から設置すること。
設置面の既設塗膜が健全でない場合は、別途監督員と協議すること。
 - 主桁ウェブとピース境界部にシール材を施工すること。
 - 既設ピースが干渉する場合は撤去すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 排水装置撤去・復旧図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	45 / 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。

釜利谷第二高架橋 排水装置撤去・復旧図(その3)
P2橋脚(上下線)下部工 改良復旧図

S=1:150

下り線

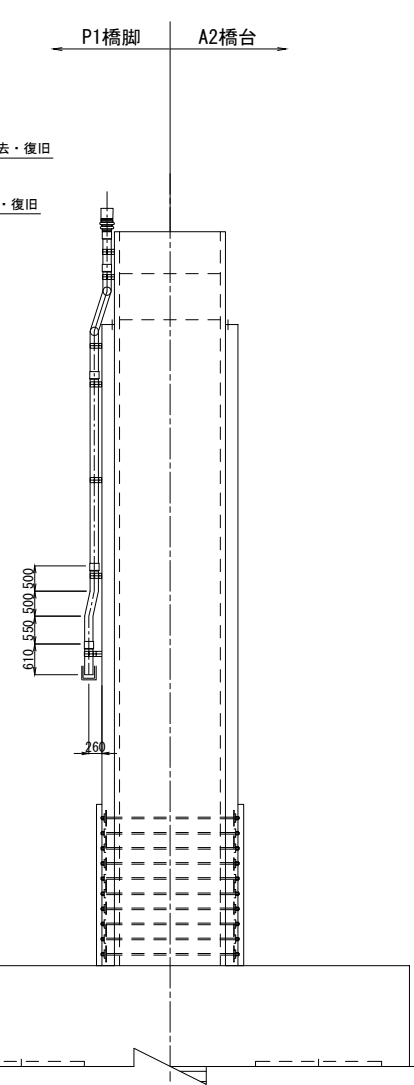
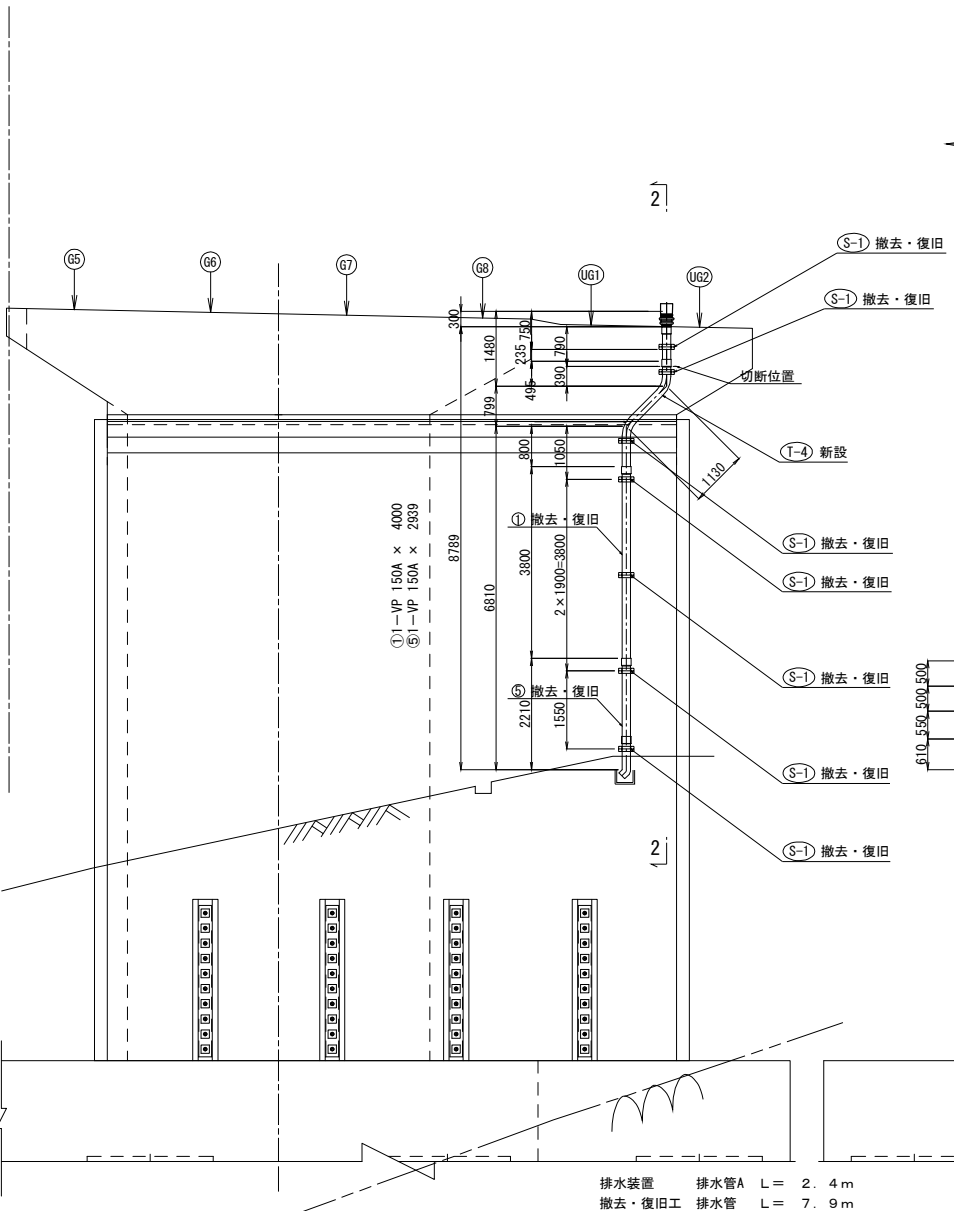
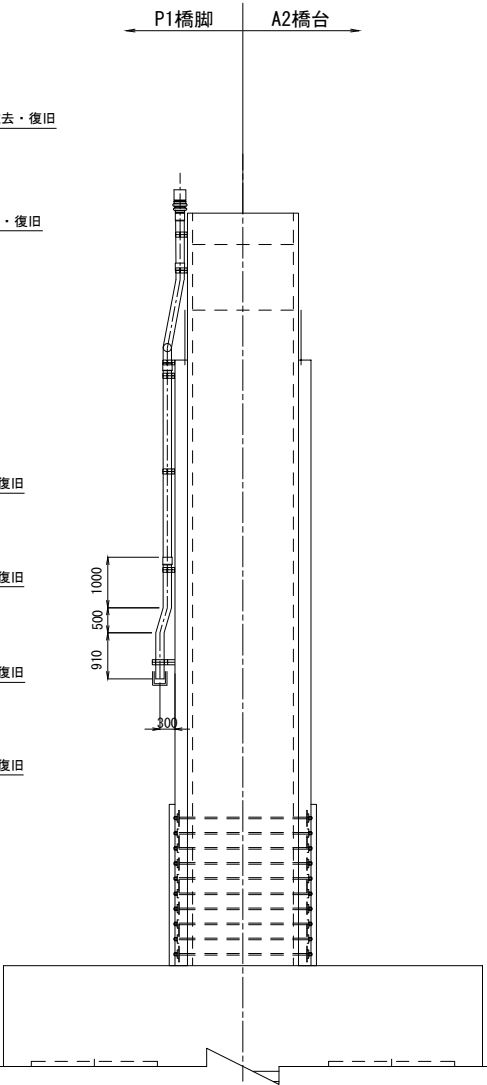
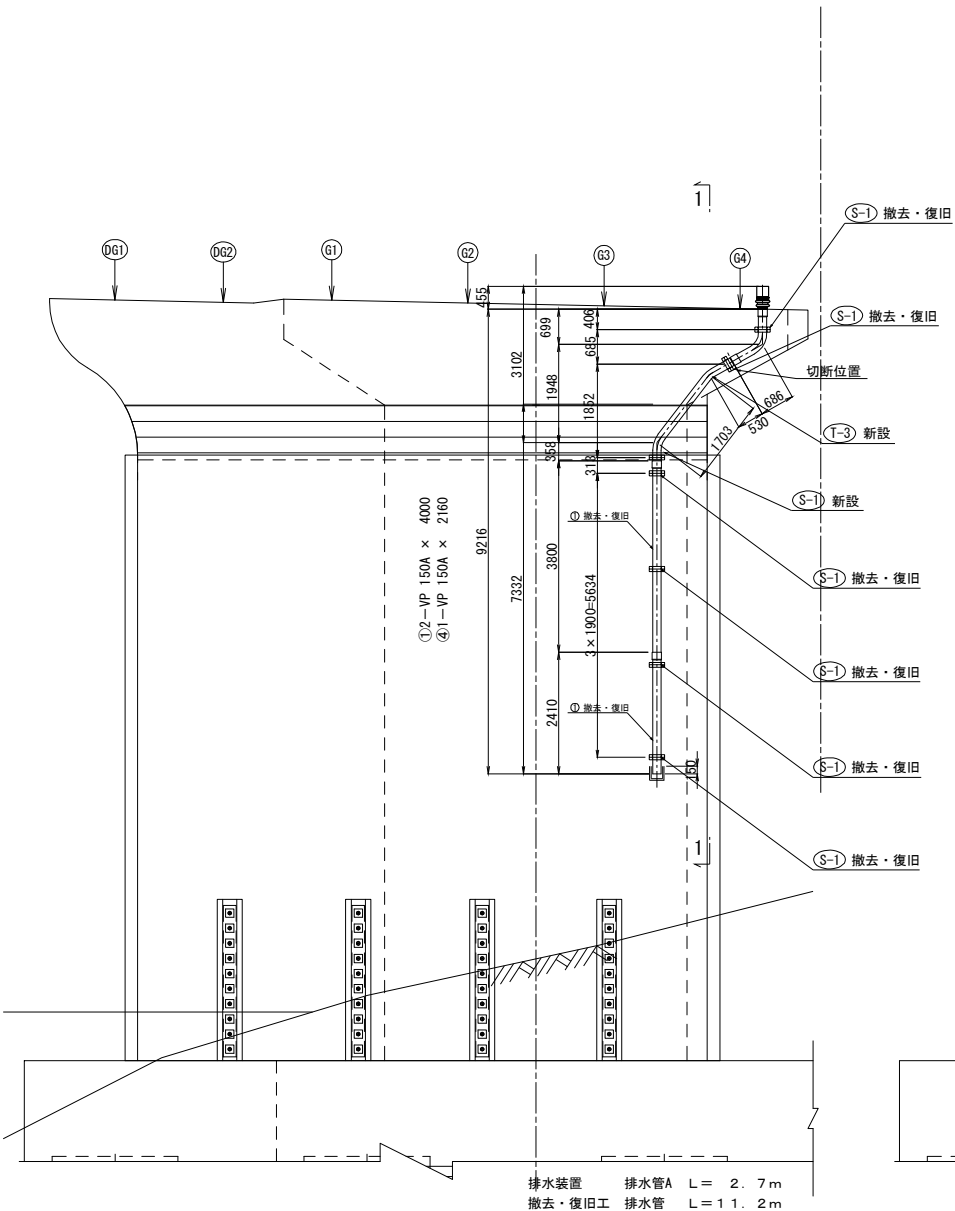
上り線

正面図

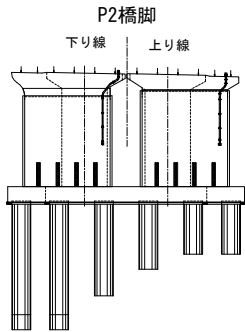
側面図(1-1)

正面図

側面図(2-2)



位置図



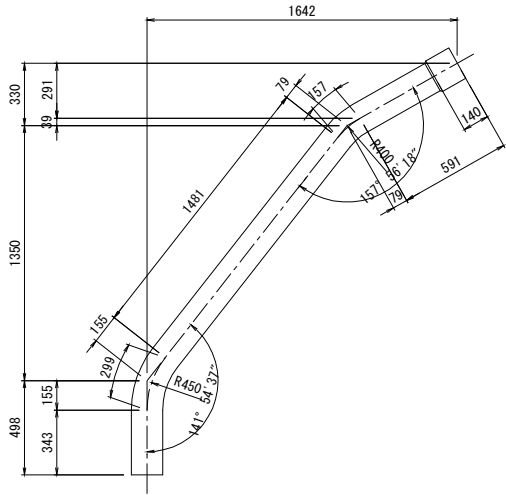
- 注記
- 特記なき材質は、全てSS400とすること。
 - 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとすること。
付着量は、JIS H 8641 HDZT77とすること。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とすること。
 - ボルト・ナットは、全てゆるみ止めのものを使用すること。
 - ピースは既設ウェブに孔明け後、設置面を清掃の上、既設塗膜の上から設置すること。
設置面の既設塗膜が健全でない場合は、別途監督員と協議すること。
 - 主桁ウェブとピース境界部にシール材を施工すること。
 - 既設ピースが干渉する場合は撤去すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 排水装置撤去・復旧図(その3)		
	縮尺	図示	図面番号 46 / 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。

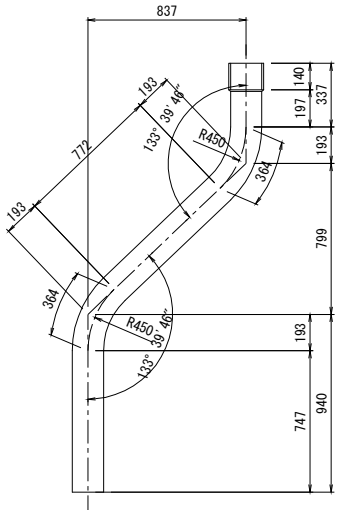
P2橋脚

下り線
T-3 (新設)
(製作数:1)



流水延長
L=(0.591-0.140)+0.157+1.481+0.299+0.343=2.731m

上り線
T-4 (新設)
(製作数:各1)



流水延長
L=(0.337-0.140)+0.364+0.772+0.364+0.747=2.444m

- 注記
- 特記なき材質は、全てSS400とすること。
 - 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとすること。
付着量は、JIS H 8641 HDZT77とすること。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とすること。
 - ボルト・ナットは、全てゆるみ止めのあるものを使用すること。
 - ピースは既設ウェブに孔明け後、設置面を清掃の上、既設塗膜の上から設置すること。
設置面の既設塗膜が健全でない場合は、別途監督員と協議すること。
 - 主桁ウェブとピース境界部にシーリング材を施工すること。
 - 既設ピースが干渉する場合は撤去すること。

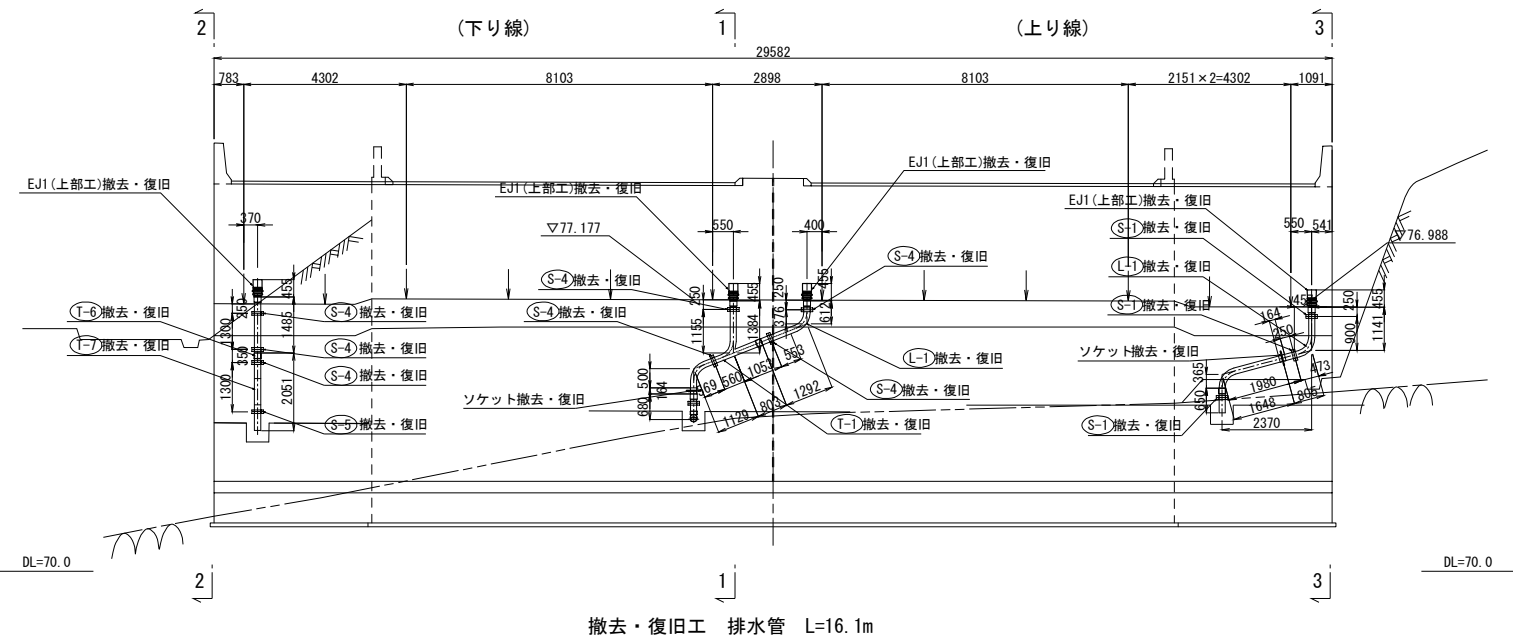
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 排水装置撤去・復旧図(その4)		
	縮尺	図示	図面番号
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京浜管理事務所		

本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。

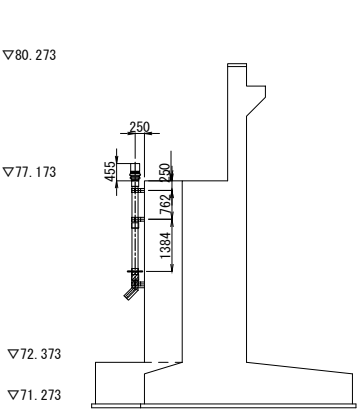
釜利谷第二高架橋 排水装置撤去・復旧図(その5)
A2橋台(上下線)下部工

S=1:200

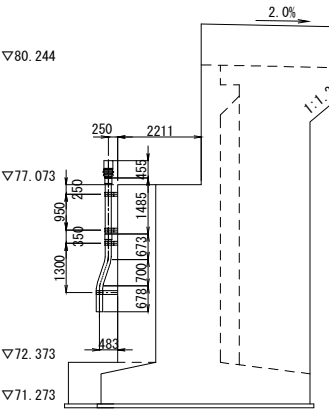
正面図



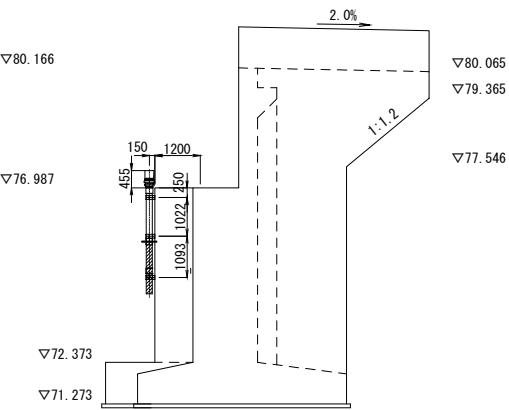
断面図(1-1)



側面図(2-2)

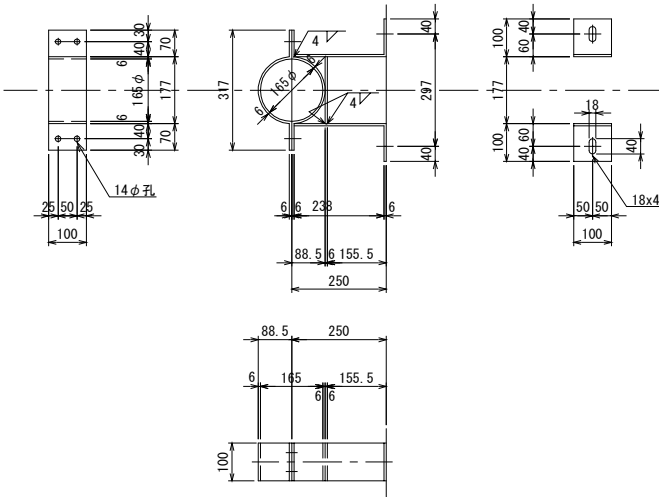


側面図(3-3)

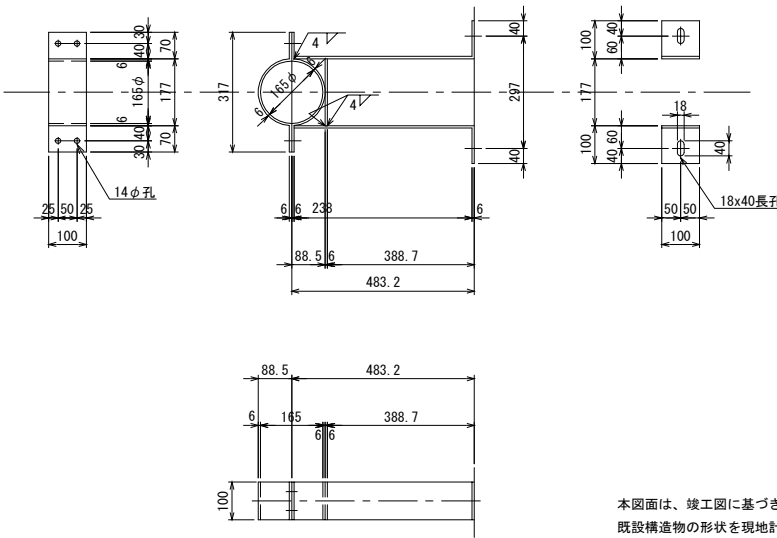


取付金具詳細 S=1:20

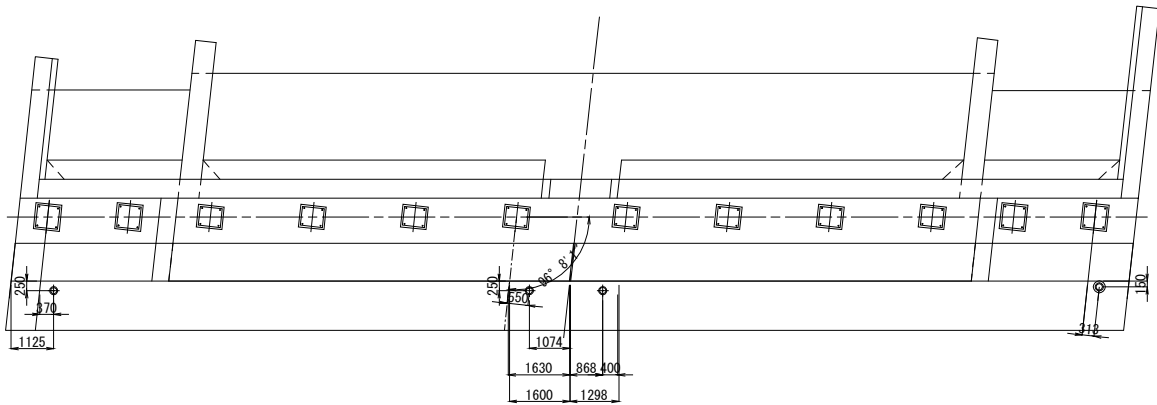
S-4



S-5



平面図

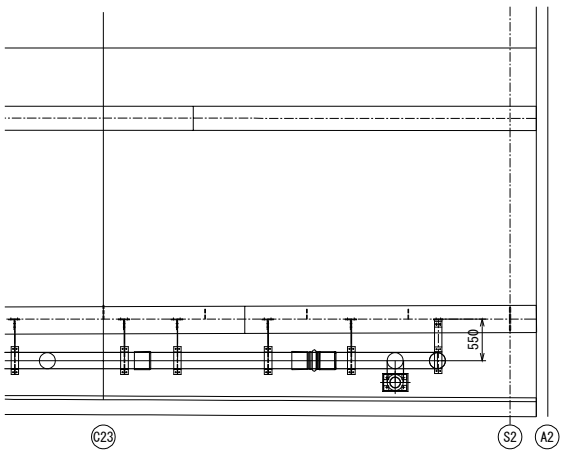
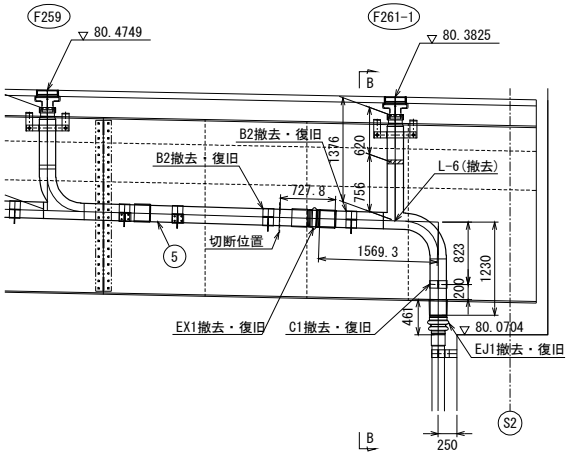


- 注記
- 特記なき材質は、全てSS400とすること。
 - 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとすること。
付着量は、JIS H 8641 HDZT77とすること。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とすること。
 - ボルト・ナットは、全てゆるみ止めのものを使用すること。
 - ピースは既設ウェブに孔明け後、設置面を清掃の上、既設塗膜の上から設置すること。
設置面の既設塗膜が健全でない場合は、別途監督員と協議すること。
 - 主桁ウェブとピース境界部にシール材を施工すること。
 - 既設ピースが干渉する場合は撤去すること。

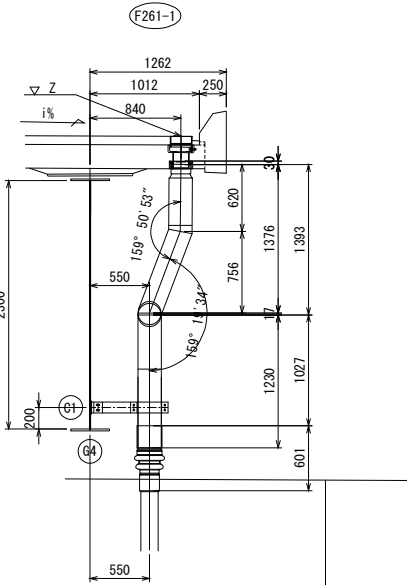
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 排水装置撤去・復旧図(その5)		
縮 尺	図 示	図面番号	48 / 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。

G4側 取替前

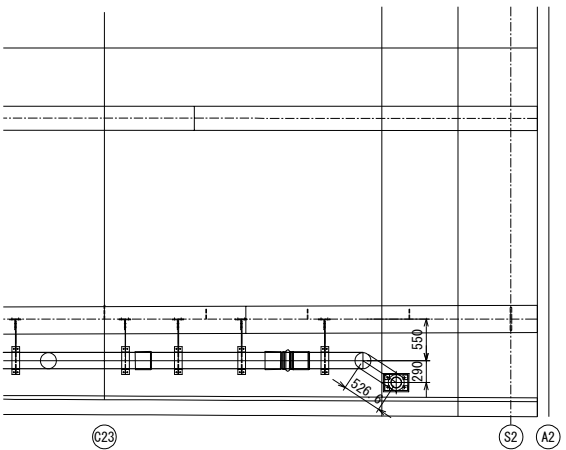
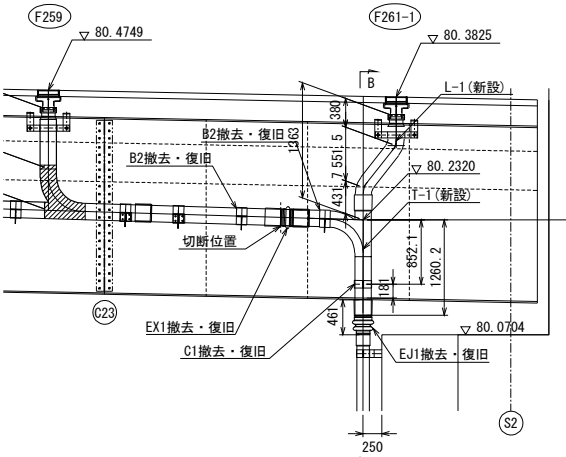


断面図 S = 1 : 70
B - B

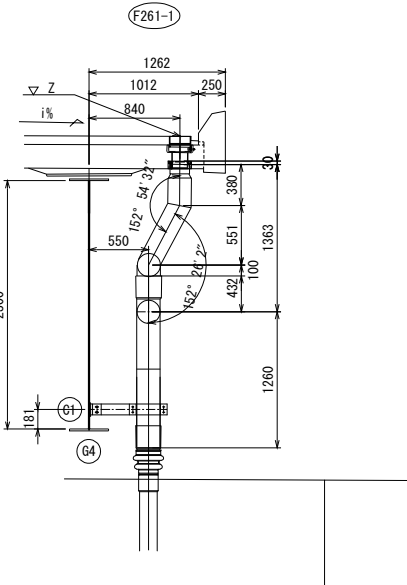


排水装置
撤去・復旧工
撤去

G4側 取替後

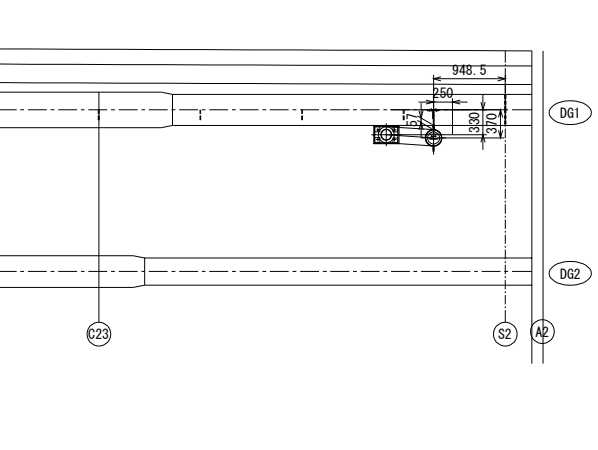
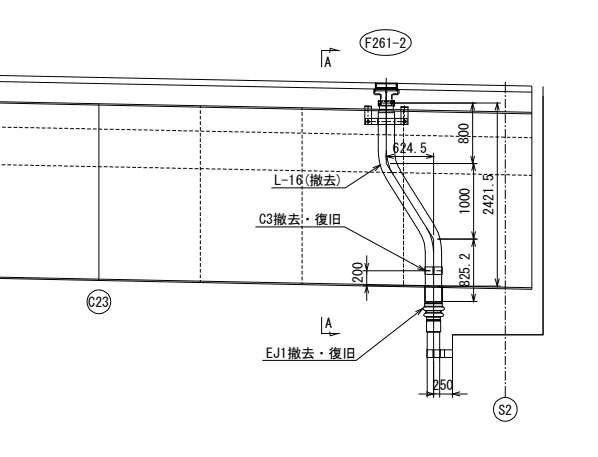


断面図 S = 1 : 70
B - B

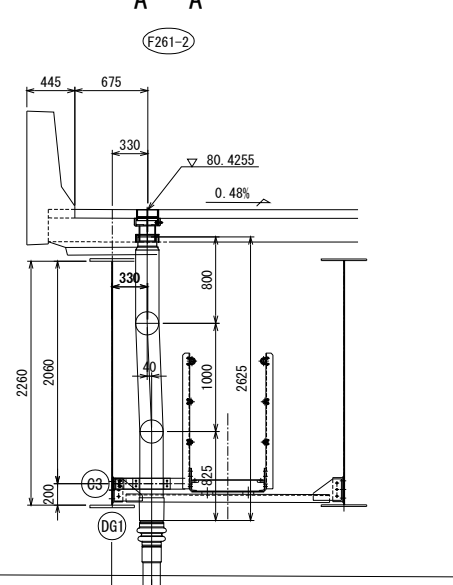


排水管A L=6.5m
排水管 L=0.4m
排水管 L=7.1m

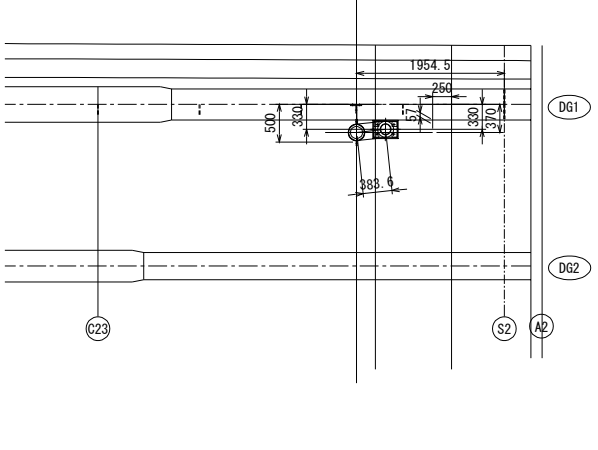
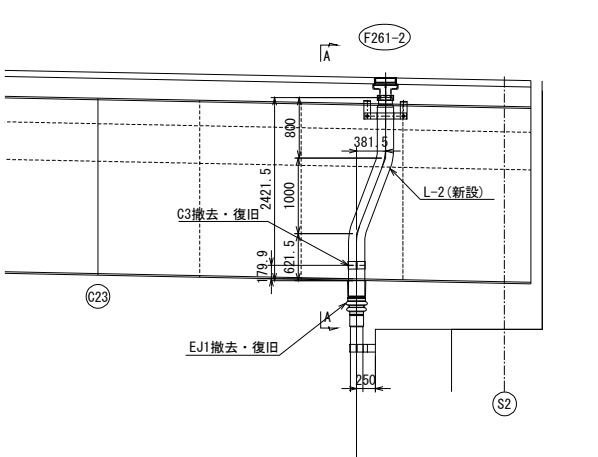
DG1側 取替前



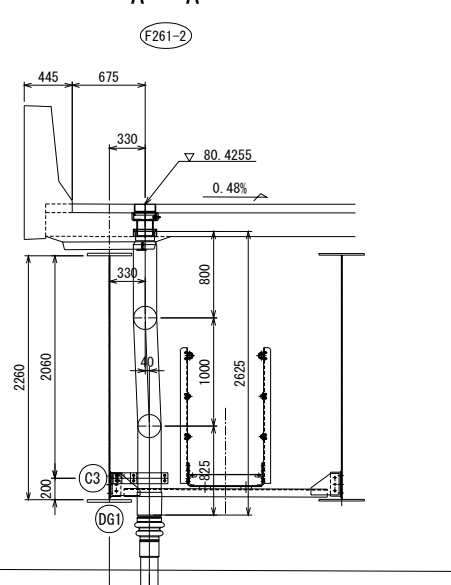
断面図 S = 1 : 70
A - A



DG1側 取替後

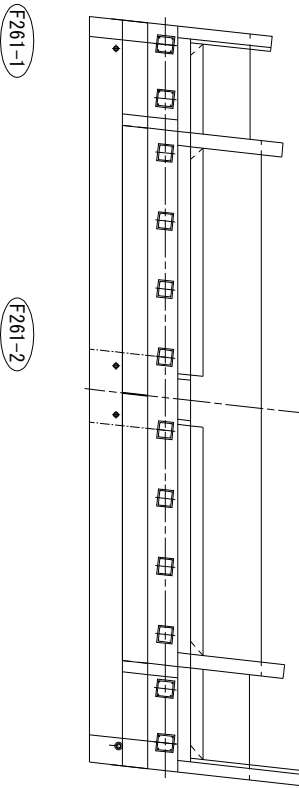


断面図 S = 1 : 70
A - A



本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。

位置図



- 注記
- 特記なき材質は、全てSS400とすること。
 - 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとすること。
付着量は、JIS H 8641 HDZT77とすること。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とすること。
 - ボルト・ナットは、全てゆるみ止めのものを
使用すること。
 - ピースは既設ウェブに孔明け後、設置面を清掃の上、
既設塗膜の上から設置すること。
設置面の既設塗膜が健全でない場合は、
別途監督員と協議すること。
 - 主桁ウェブとピース境界部にシール材を施工すること。
 - 既設ピースが干渉する場合は撤去すること。

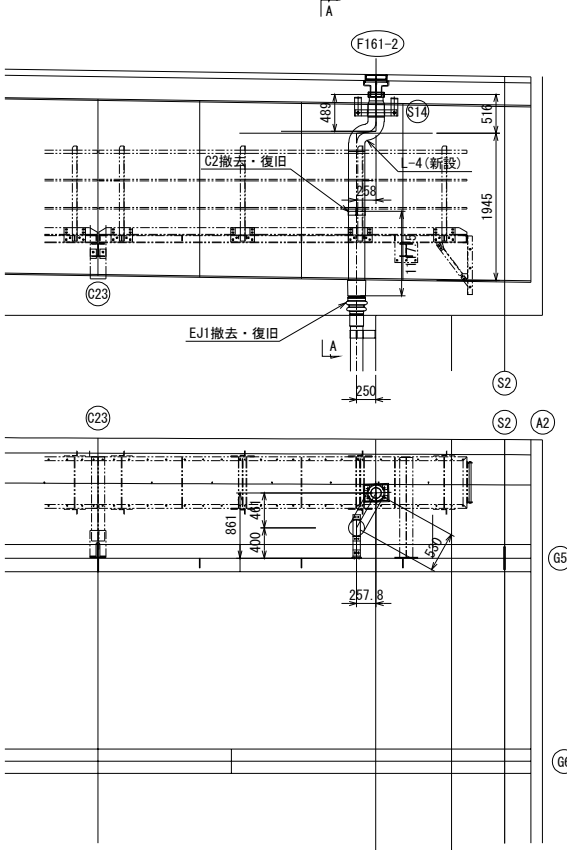
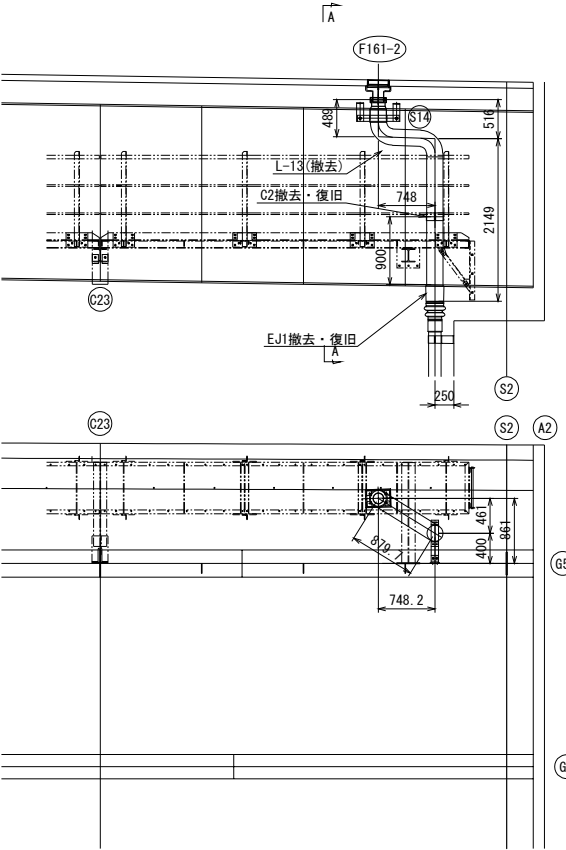
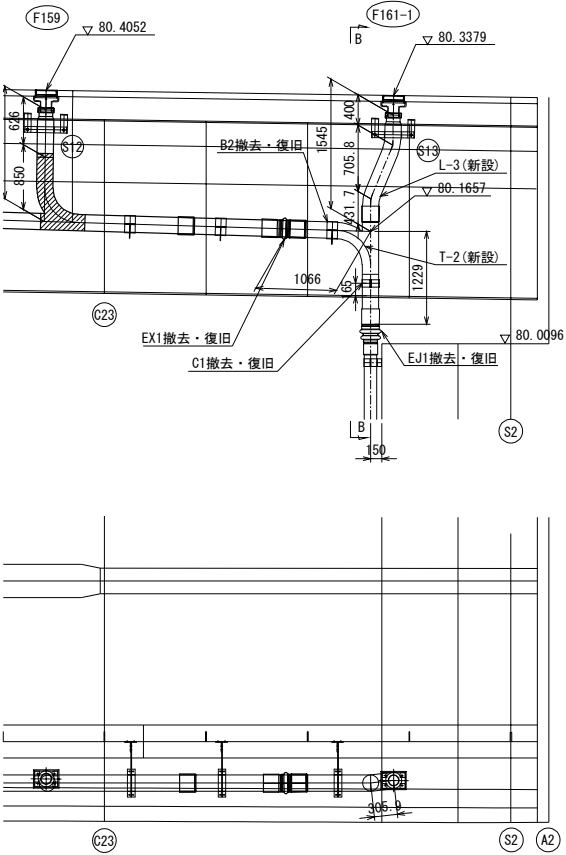
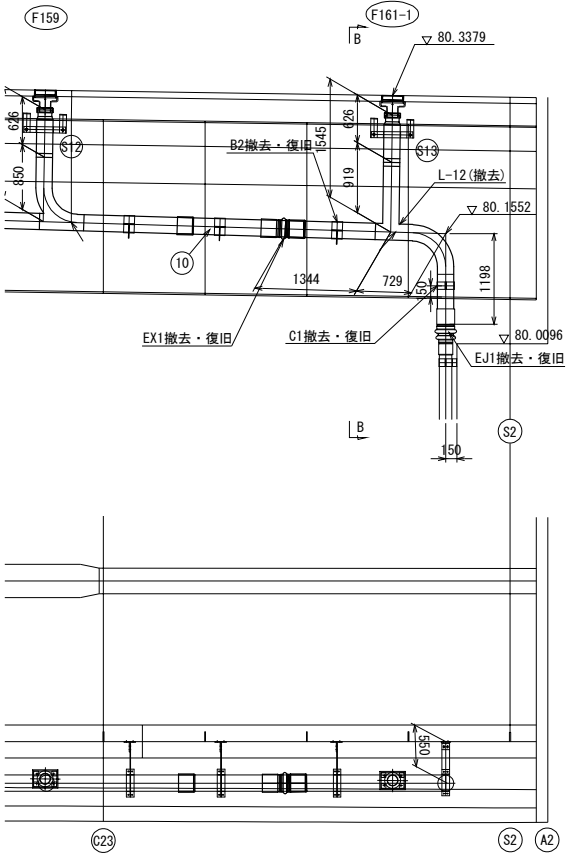
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 排水装置撤去・復旧図(その6)		
縮 尺	図 示	図面番号	/ 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

UG2側 取替前

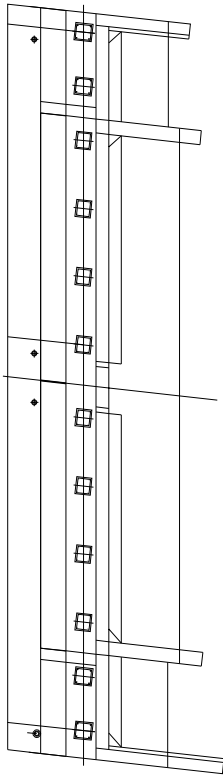
UG2側 取替後

G5側 取替前

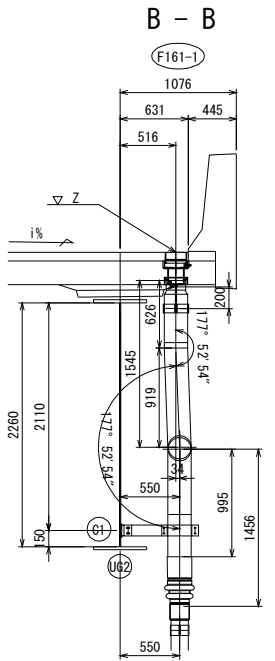
G5側 取替後



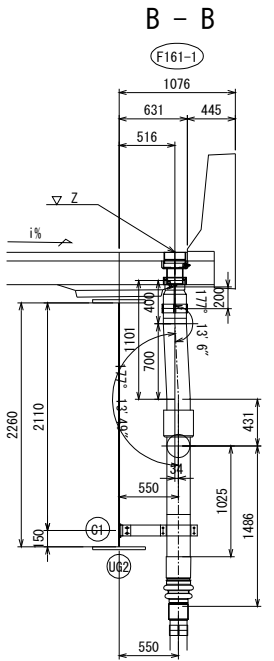
位置図



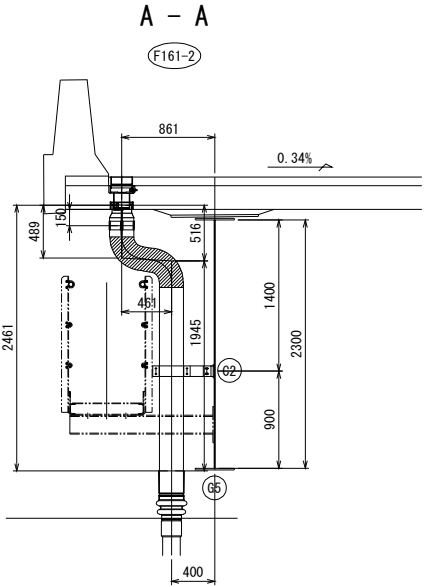
断面図 S = 1 : 70



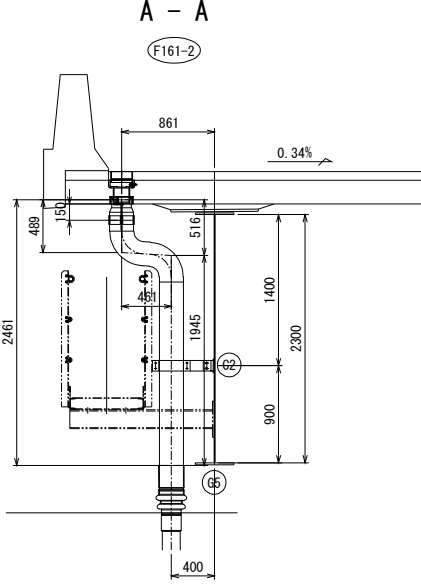
断面図 S = 1 : 70



断面図 S = 1 : 70



断面図 S = 1 : 70

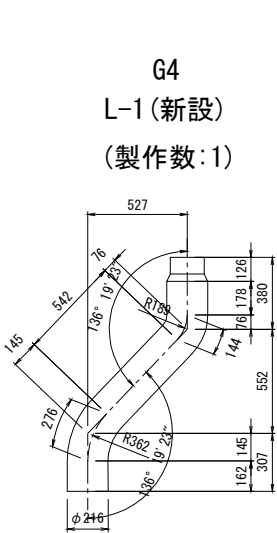


排水装置
撤去・復旧工
撤去
排水管A L=7.7m
排水管 L=0.4m
排水管 L=7.9m

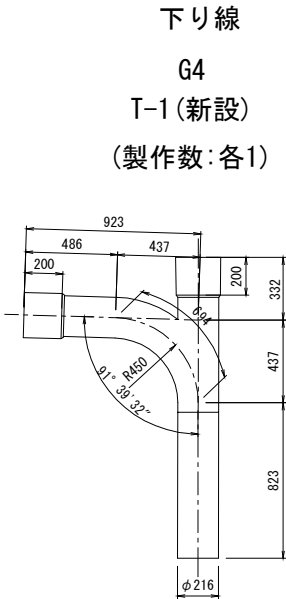
本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。

- 注記
- 特記なき材質は、全てSS400とすること。
 - 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとすること。
付着量は、JIS H 8641 HDZT77とすること。
但し、ボルト・ナットはHDZT49とすること。
 - ボルト・ナットは、全てゆるみ止めのものを
使用すること。
 - ピースは既設ウェブに孔明け後、設置面を清掃の上、
既設塗膜の上から設置すること。
設置面の既設塗膜が健全でない場合は、
別途監督員と協議すること。
 - 主桁ウェブとピース境界部にシール材を施工すること。
 - 既設ピースが干渉する場合は撤去すること。

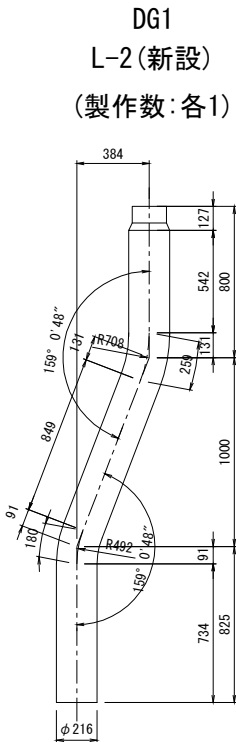
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 排水装置撤去・復旧図(その7)		
縮 尺	図 示	図面番号	/ 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



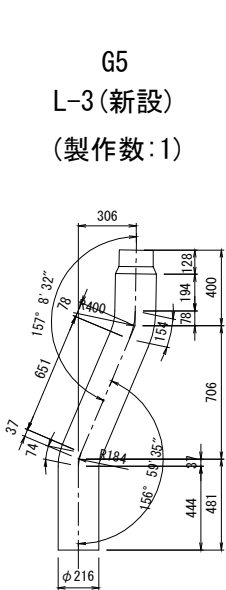
流水延長
L=0. 126+0. 178+0. 144+0. 542+0. 276+0. 162=1. 428m



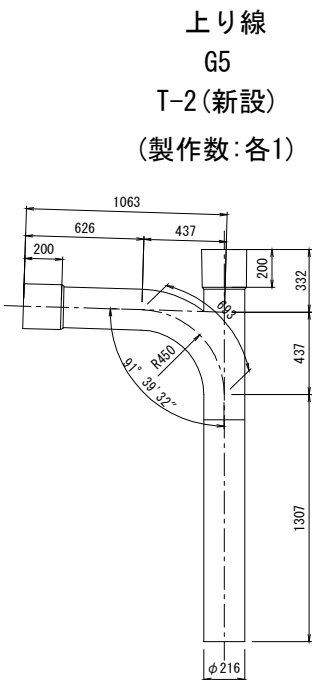
流水延長
L= (0. 486-0. 200) +0. 694+ (0. 332-0. 200) +0. 437+0. 823=2. 372m



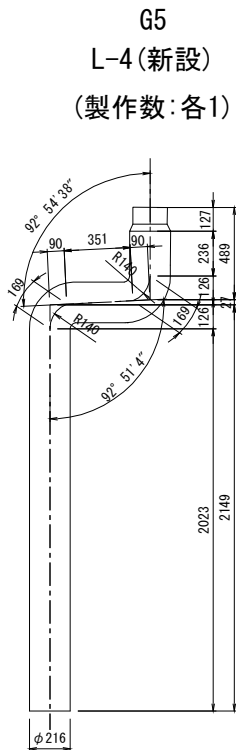
流水延長
L=0. 127+0. 542+0. 259+0. 849+0. 180+0. 734=2. 691m



流水延長
L=0. 128+0. 194+0. 154+0. 651+0. 074+0. 444=1. 645m



流水延長
L= (0. 626-0. 200) +0. 693+ (0. 332-0. 200) +0. 437+1. 307=2. 995m



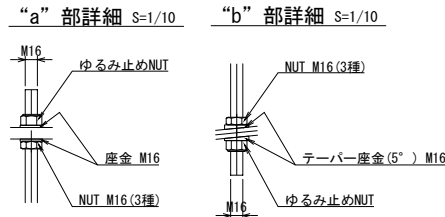
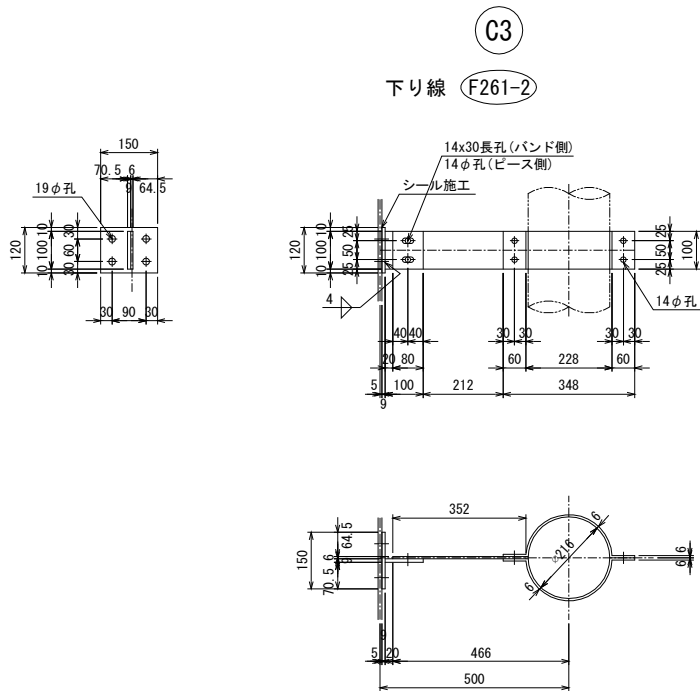
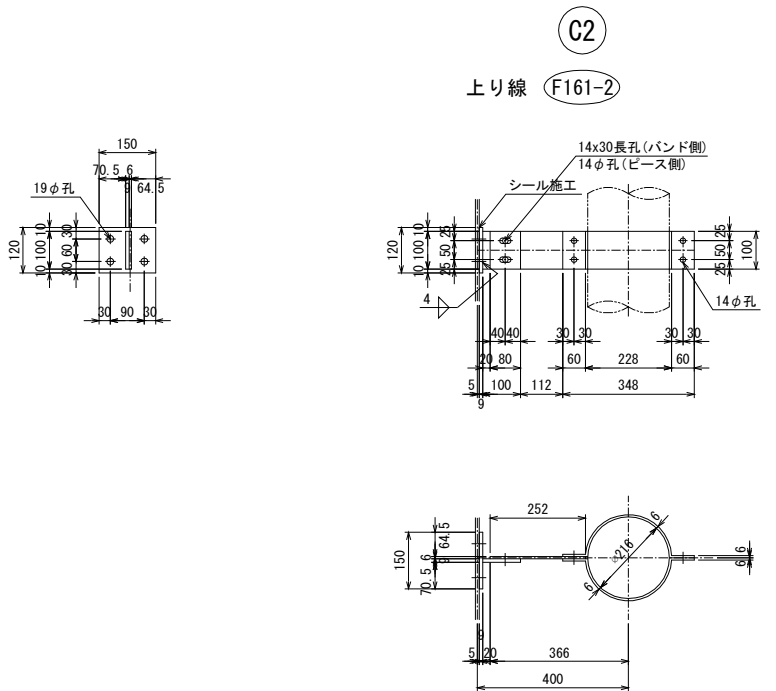
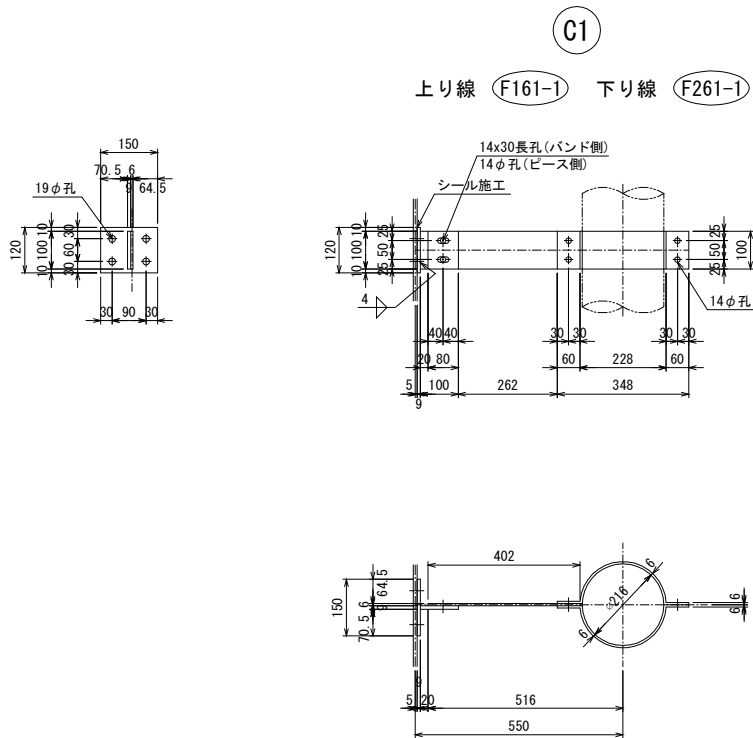
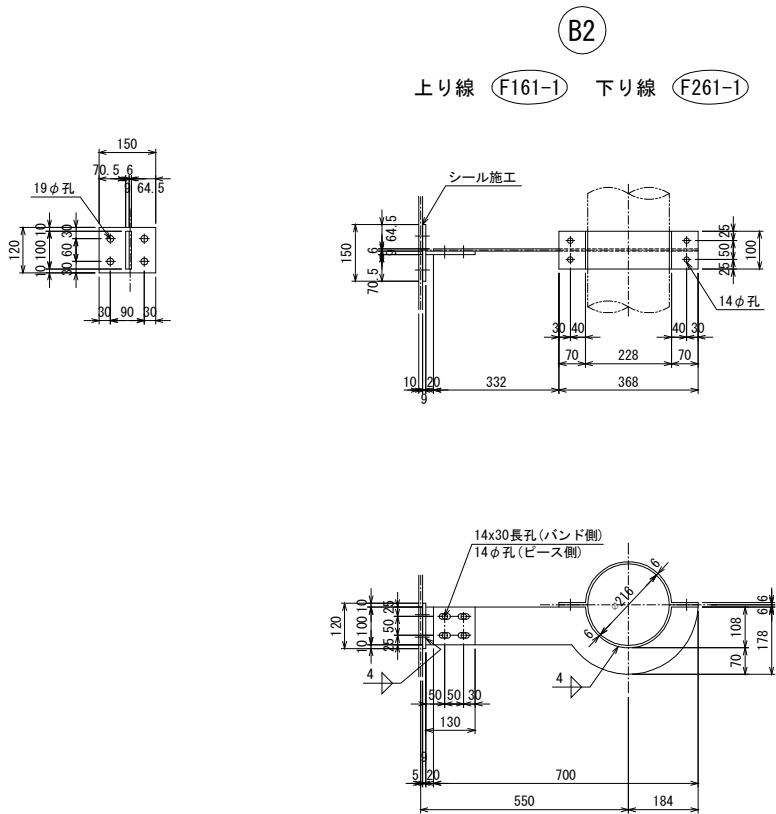
流水延長
L=0. 127+0. 236+0. 169+0. 351+0. 169+2. 023=3. 075m

- 注記
- 特記なき材質は、全てSS400とすること。
 - 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとすること。
付着量は、JIS H 8641 HDZT77とすること。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とすること。
 - ボルト・ナットは、全てゆるみ止めのものを使用すること。
 - ピースは既設ウェブに孔明け後、設置面を清掃の上、既設塗膜の上から設置すること。
設置面の既設塗膜が健全でない場合は、別途監督員と協議すること。
 - 主桁ウェブとピース境界部にシール材を施工すること。
 - 既設ピースが干渉する場合は撤去すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 排水装置撤去・復旧図(その8)		
縮 尺	図 示	図面番号	51 / 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。

釜利谷第二高架橋 排水装置撤去・復旧図(その9) S=1:20
上部工排水装置 支持金具詳細図

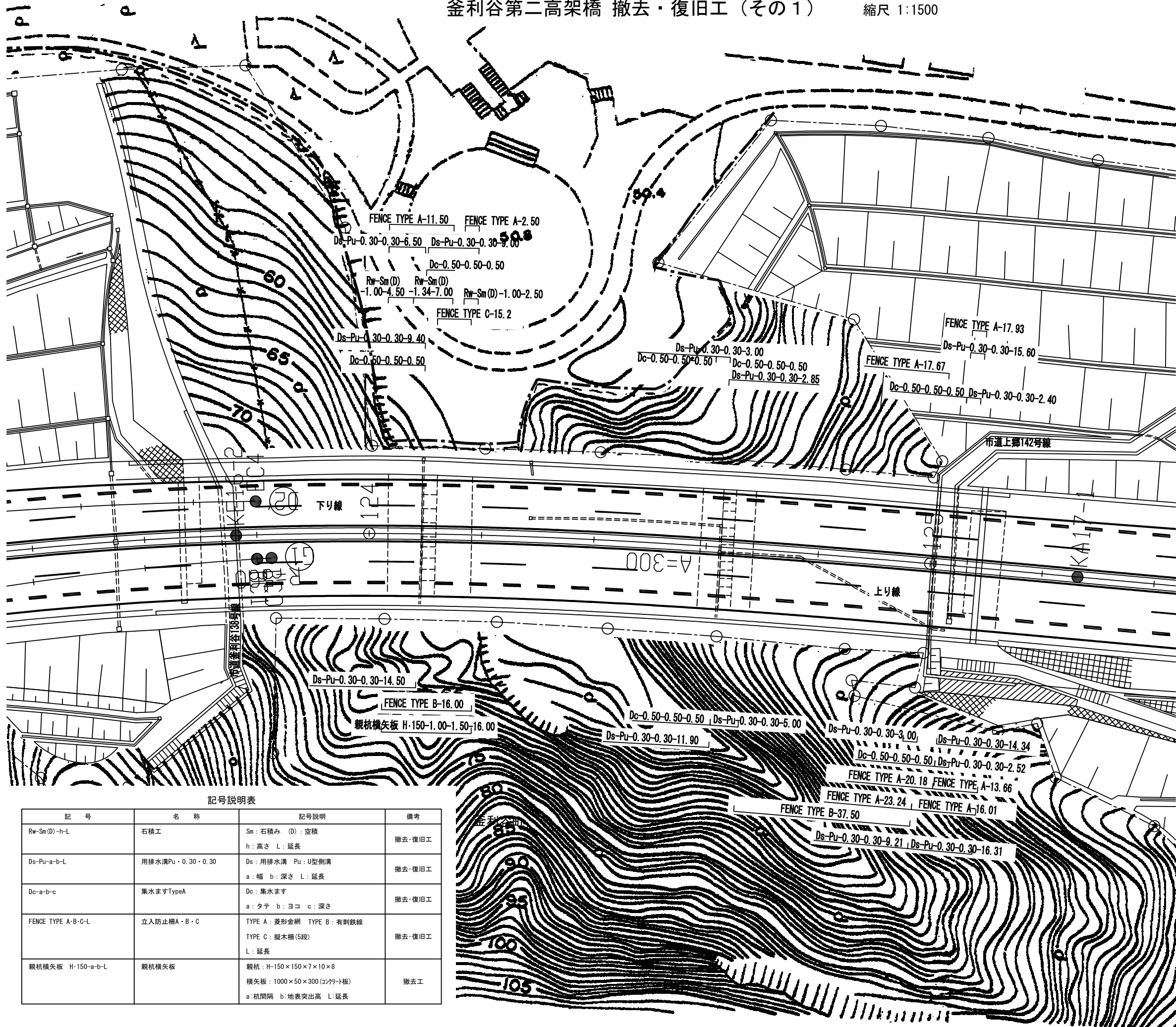


- 注記
- 特記なき材質は、全てSS400とすること。
 - 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとすること。
付着量は、JIS H 8641 HDZT77とすること。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とすること。
 - ボルト・ナットは、全てゆるみ止めのものを使用すること。
 - ピースは既設ウェブに孔明け後、設置面を清掃の上、既設塗膜の上から設置すること。
設置面の既設塗膜が健全でない場合は、別途監督員と協議すること。
 - 主桁ウェブとピース境界部にシール材を施工すること。
 - 既設ピースが干渉する場合は撤去すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 排水装置撤去・復旧図(その9)		
縮 尺	図 示	図面番号	52 / 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。

横浜横須賀道路 金沢谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	金沢谷第二高架橋 構造物等取壊し工			
縮 尺	図 示	図面番号	53 / 65	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社			
施工会社名				
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所			



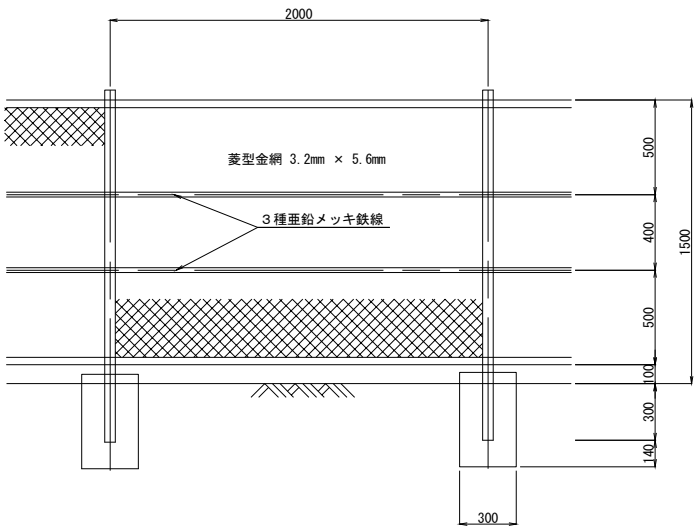
記号説明表

記 号	名 称	記号説明	備考
Rw-Sm(D)-h-L	石積工	Sm: 石積み (D): 空積 h: 高さ L: 延長	撤去・復旧工
Ds-Pu-a-b-L	用排水溝Pu・0.30×0.30	Ds: 用排水溝 Pu: U型側溝 a: 幅 b: 深さ L: 延長	撤去・復旧工
Dc-a-b-c	集水ますTypeA	Dc: 集水ます a: タテ b: ヨコ c: 深さ	撤去・復旧工
FENCE TYPE A・B・C-L	立入防止柵A・B・C	TYPE A: 菱形金網 TYPE B: 有刺鉄線 TYPE C: 擬木柵(5段) L: 延長	撤去・復旧工
親杭横矢板 H・150-a-b-L	親杭横矢板	親杭: H・150×150×7×10×8 横矢板: 1000×50×300(コンクリート板) a: 杭間隔 b: 地表突出高 L: 延長	撤去工

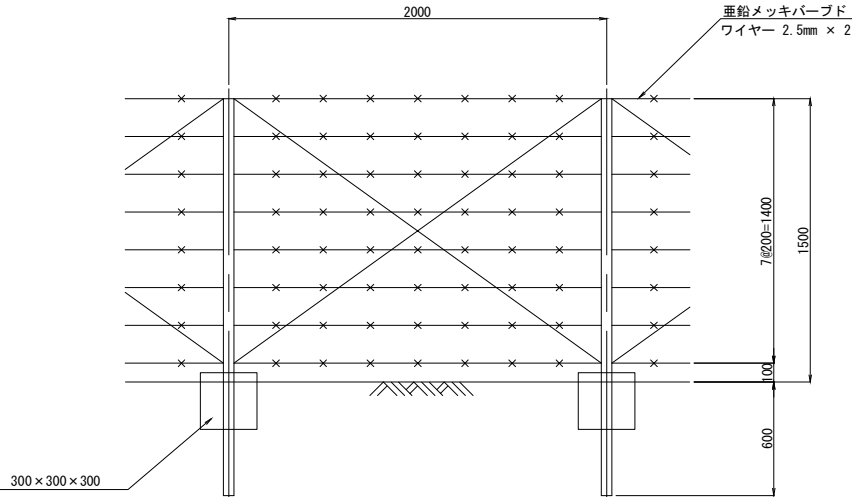
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 撤去・復旧工（その1）		
縮 尺	図 示	図面番号	54 / 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

立入防止標準図 S=1:40

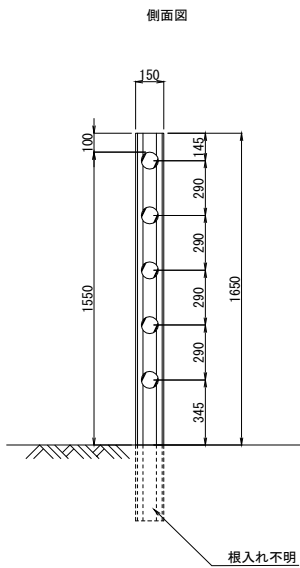
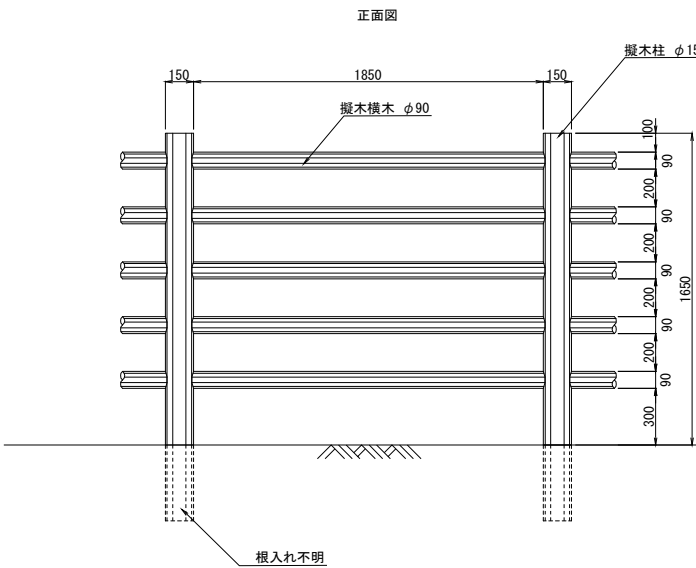
撤去・復旧工 立入防止柵A



撤去・復旧工 立入防止柵B

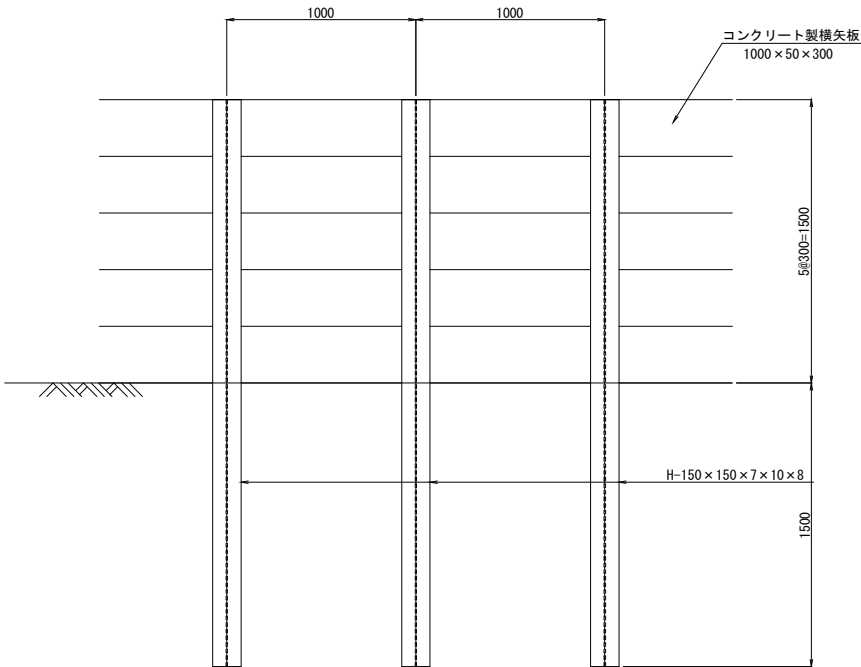


撤去・復旧工 立入防止柵C



撤去工 親杭横矢板

親杭横矢板詳細図 S=1:40



1)本図面に記載の標準図は、横浜横須賀道路(釜利谷JCT～朝比奈IC)完成図をトレースしたもの又は現地計測結果を基に作図したものである。
2)親杭横矢板は完成図が入手ができなかったため、現地調査結果及び掘削深さ3m未満の最小根入れ長で作図している。

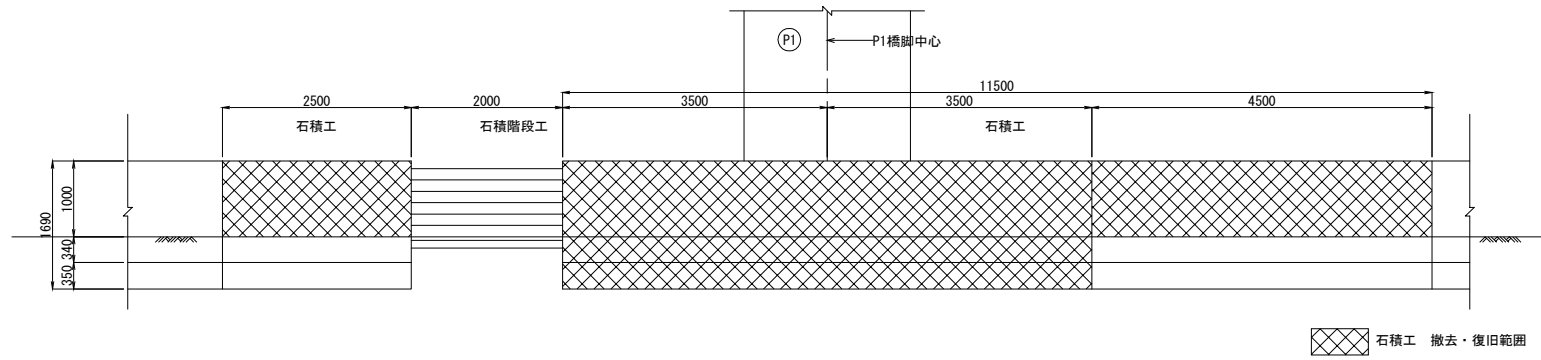
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 撤去・復旧工（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	55 / 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷第二高架橋 撤去・復旧工（その3）

撤去・復旧工 石積工

石積工 正面図
(奥座公園)

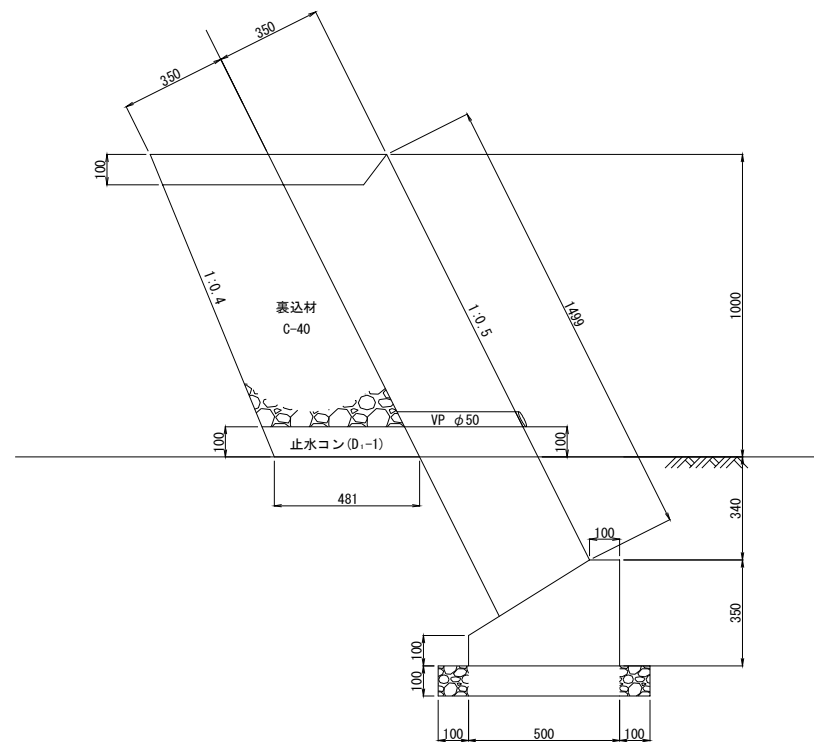
S=1 : 100



石積工 断面図

S=1 : 25

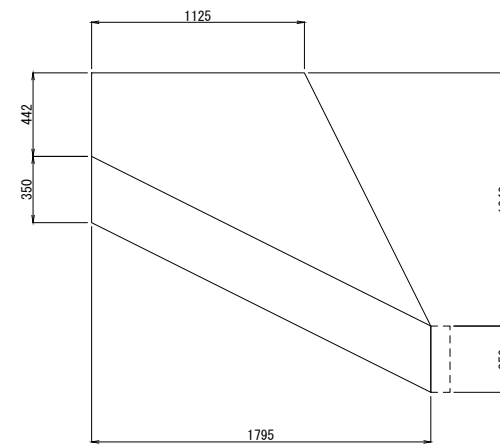
C - C



石積工
階段部平面図

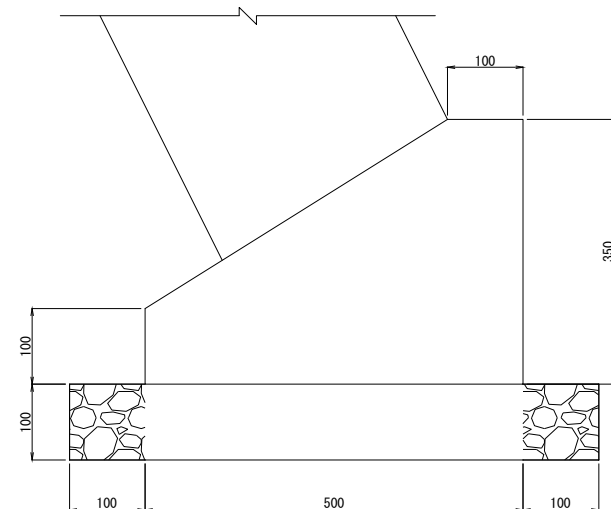
S=1:40

A - A



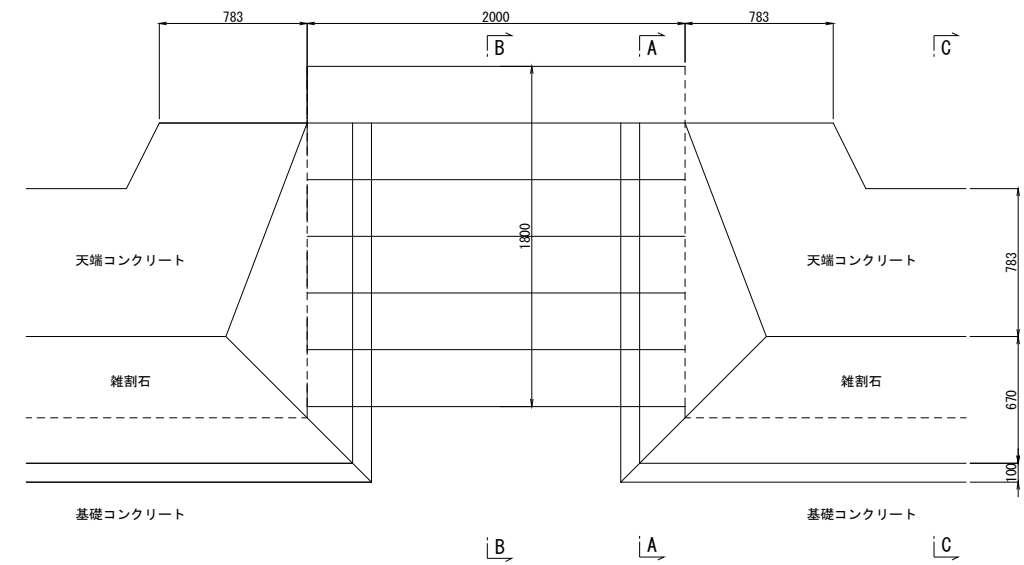
基礎コンクリート詳細図

S=1:10



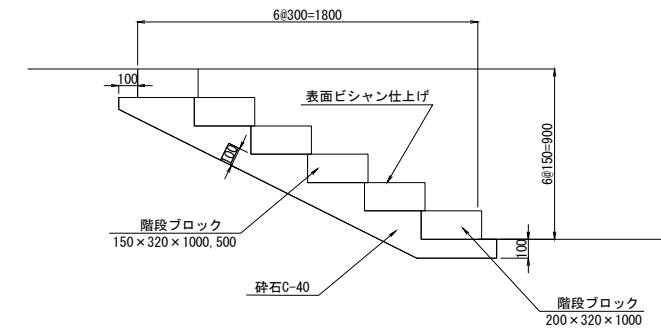
石積階段
平面図

S=1 : 40



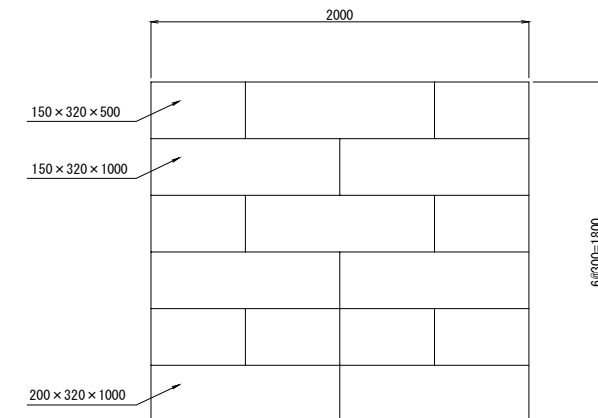
石積階段工 雑割石配置図 S=1:40

B - B



階段工 雑割石配置図

S=1 : 40

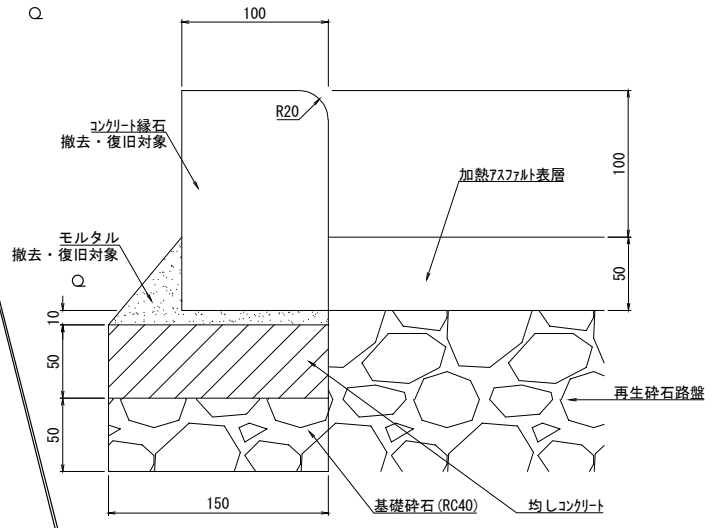


※本図面に記載の詳細図は、横浜横須賀道路(釜利谷JCT～朝比奈IC)完成図をトレースしたものである。

横浜横須賀道路 金谷谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金谷谷第二高架橋 撤去・復旧工（その３）		
縮 尺	図 示	図面番号	56 / 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

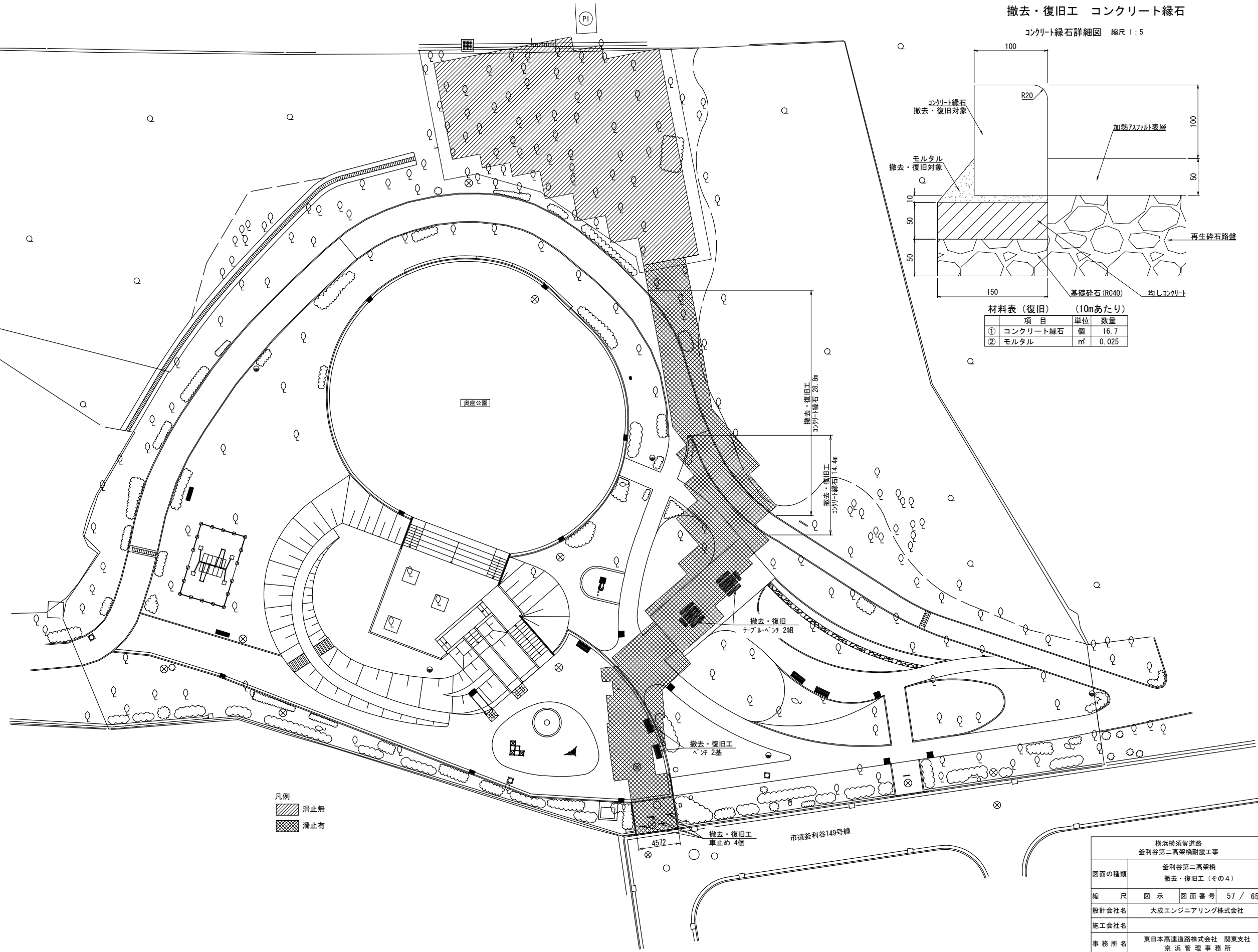
撤去・復旧工 コンクリート縁石

コンクリート縁石詳細図 縮尺 1:5



材料表（復旧） (10mあたり)

項目	単位	数量
① コンクリート縁石	個	16.7
② モルタル	m ³	0.025



凡例
滑止無
滑止有

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 撤去・復旧工（その4）		
縮 尺	図 示	図 面 番 号	57 / 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

横浜横須賀道路 金沢谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金沢谷第二高架橋 撤去工（その1）		
縮 尺	図 示	図面番号	58 / 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

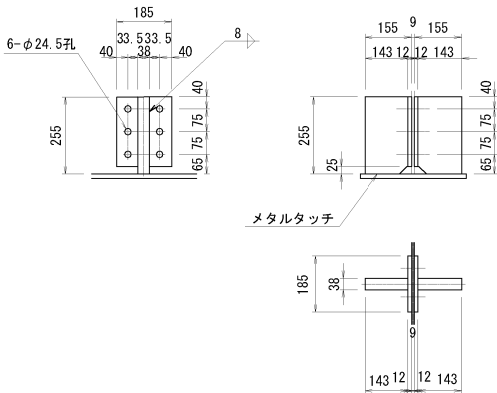
釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線) 支承取替工(その3)

上部工補強工B

主桁補強材

支点上部補強材詳細図

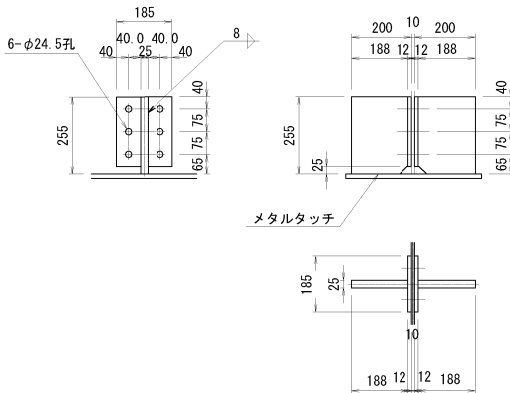
〈G1～G4〉



製作数 : 8
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 143×38×255 (SM400B)
6-TCB M22×70 (S10T)

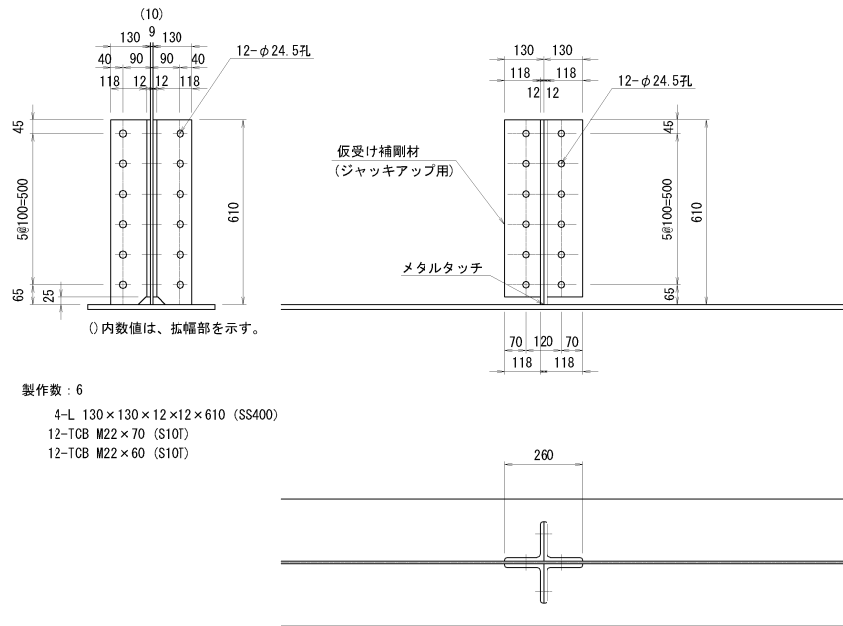
支点上部補強材詳細図

〈DG1, DG2〉



製作数 : 4
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 188×25×255 (SM400A)
6-TCB M22×70 (S10T)

仮受け補剛材(ジャッキアップ用)



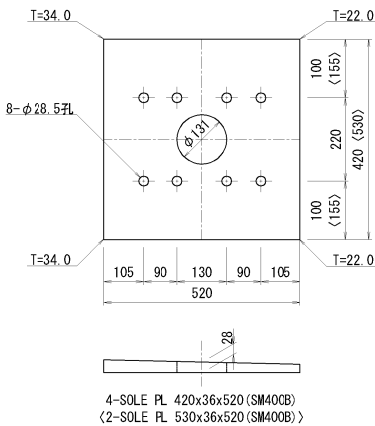
製作数 : 6
4-L 130×130×12×12×610 (SS400)
12-TCB M22×70 (S10T)
12-TCB M22×60 (S10T)

主桁補強材側面図 縮尺1:50

支承取替工 E-1100(1582)

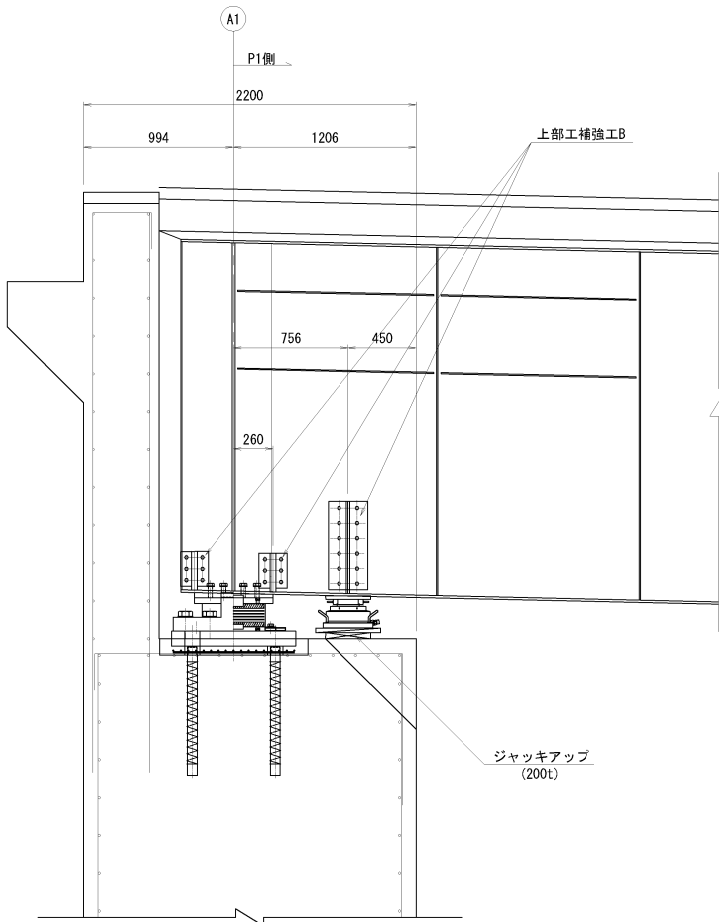
ソールプレート詳細図 縮尺1:20

〈〉内数値は、拡幅部を示す。

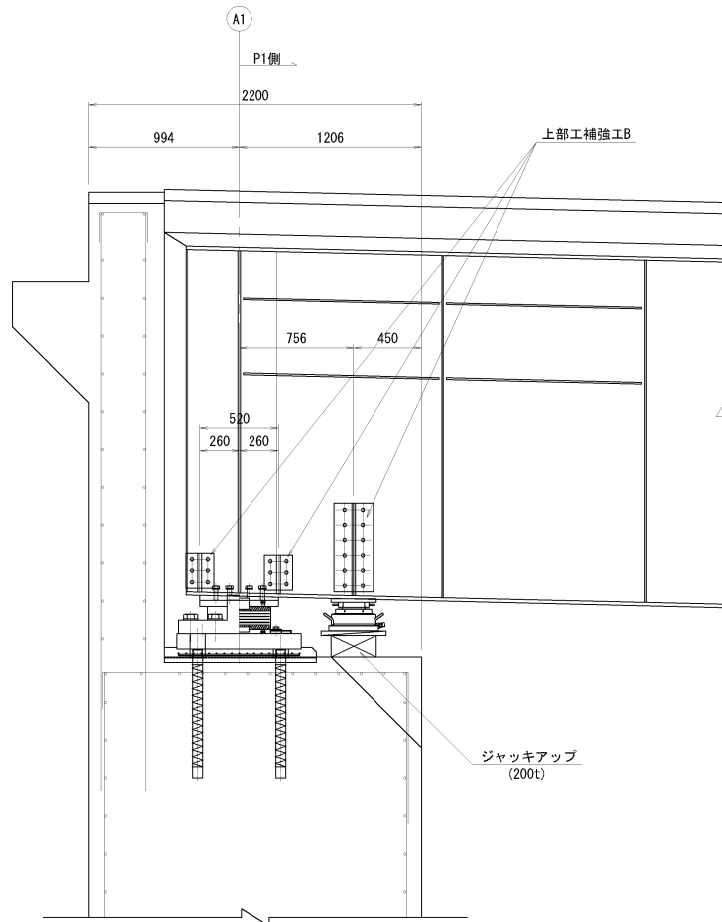


4-SOLE PL 420x36x520 (SM400B)
(2-SOLE PL 530x36x520 (SM400B))

側面図(建設当初 G1)

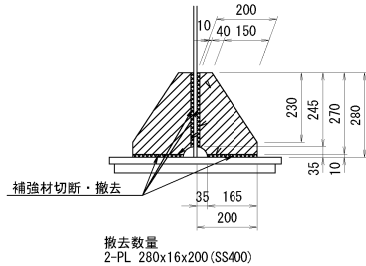


側面図(拡幅部 DG1)



率計上対象項目
撤去工 補剛材

既設支点上部補強材撤去詳細図



撤去数量
2-PL 280x16x200 (SS400)

- 注 記
1. 本体補強材は全て塗装仕様とする。
 2. アンカーボルトは、全長に渡り、溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の付着量は、JIS H 8641のHDZT77とする。
但し、ナット、ワッシャーはHDZT49とする。
 3. 高力ボルトは転用しないこと

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 撤去工(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	59 / 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

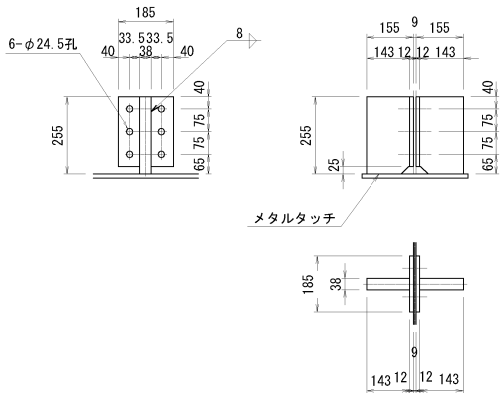
釜利谷第二高架橋 A1橋台(上り線)支承取替工(その3)

上部工補強工B

主桁補強材

支点上部補強材詳細図

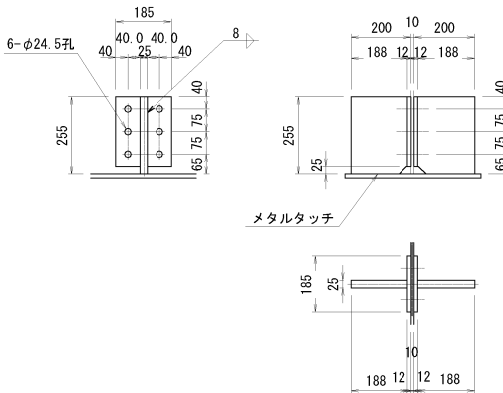
〈G5～G8〉



製作数：8
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 143×38×255 (SM400B)
6-TCB M22×70 (S10T)

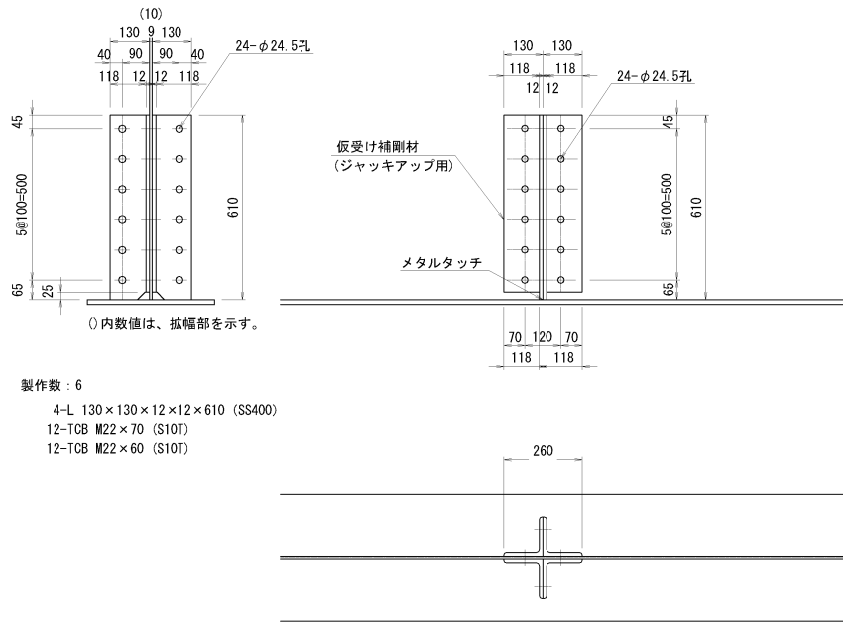
支点上部補強材詳細図

〈UG1, UG2〉



製作数：4
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 188×25×255 (SM400A)
6-TCB M22×70 (S10T)

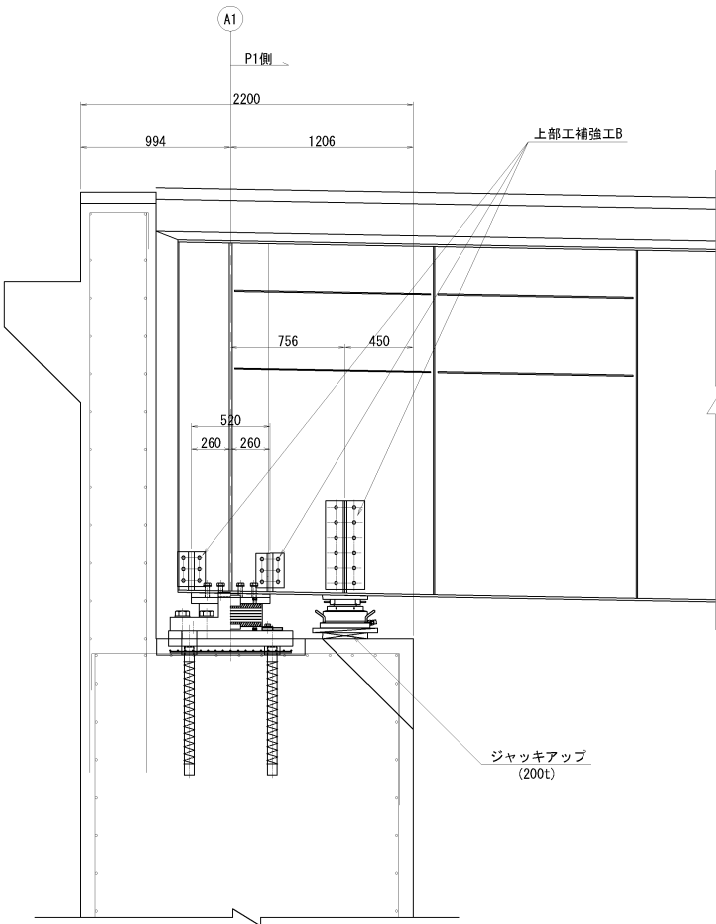
仮受け補剛材(ジャッキアップ用)



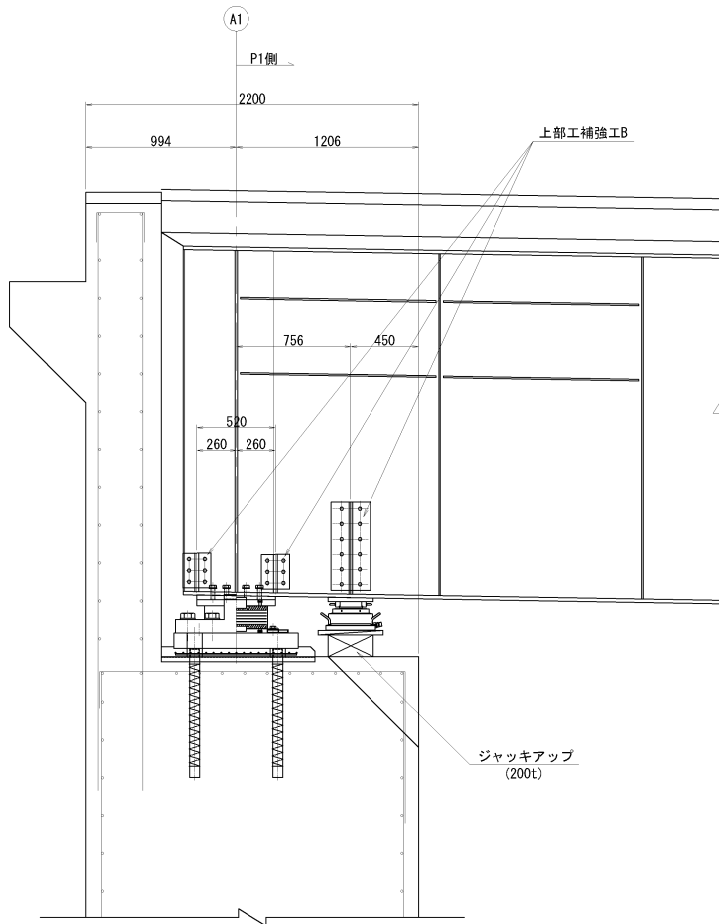
製作数：6
4-L 130×130×12×12×610 (SS400)
12-TCB M22×70 (S10T)
12-TCB M22×60 (S10T)

主桁補強材側面図 縮尺1:50

側面図(建設当初 G8)

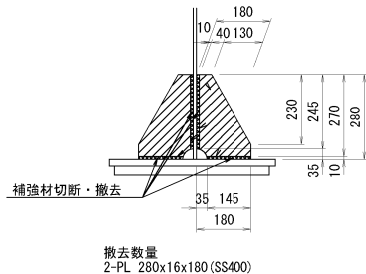


側面図(拡幅部 UG2)



率計上対象項目
撤去工 補剛材

既設支点上部補強材撤去詳細図



- 注 記
1. 本体補強材は全て塗装仕様とする。
 2. アンカーボルトは、全長に渡り、溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の付着量は、JIS H 8641のHDZT77とする。
但し、ナット、ワッシャーはHDZT49とする。
 3. 高力ボルトは転用しないこと

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 撤去工(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	60 / 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

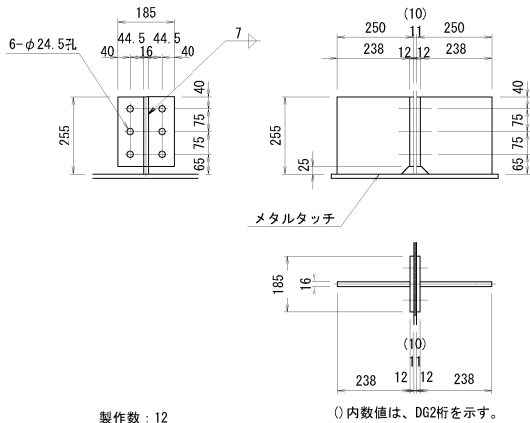
釜利谷第二高架橋 撤去工(その4)
釜利谷第二高架橋 P1橋脚(下り線) 支承取替工(その3)

縮尺 1:25

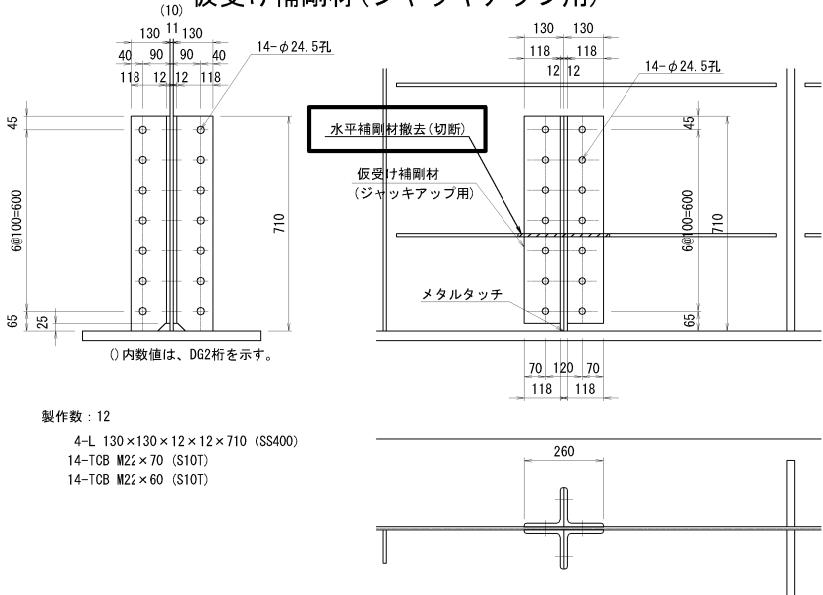
主桁補強材

上部工補強工B

支点上部補強材詳細図
(G1~G4, DG1, DG2)

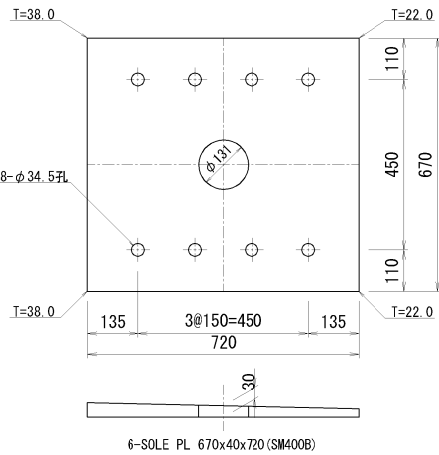


仮受け補剛材(ジャッキアップ用)

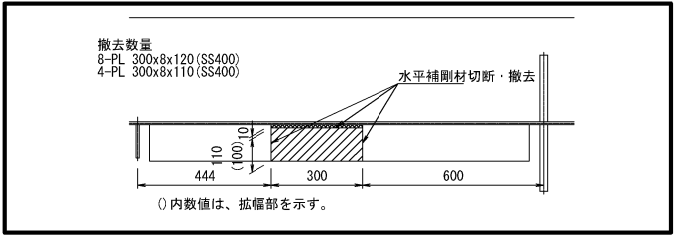


支承取替工 E-3070(1598)

ソールプレート詳細図 縮尺1:20

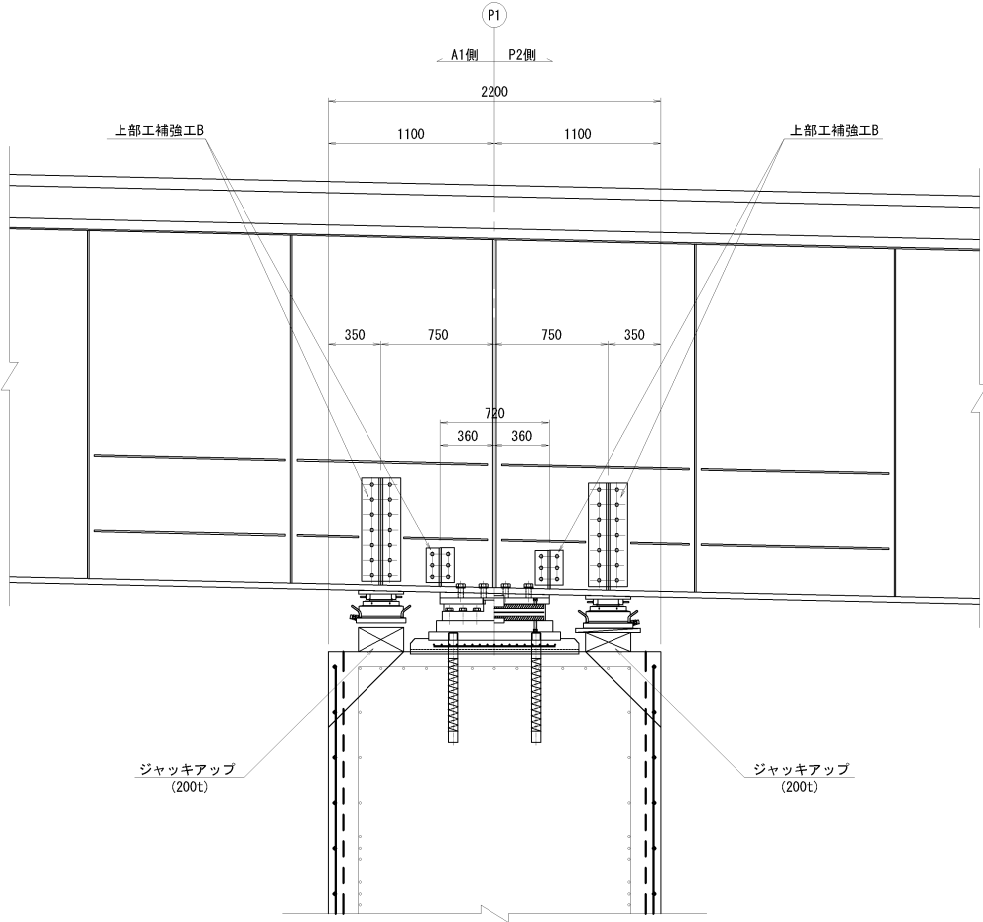


率計上対象項目
撤去工 補剛材

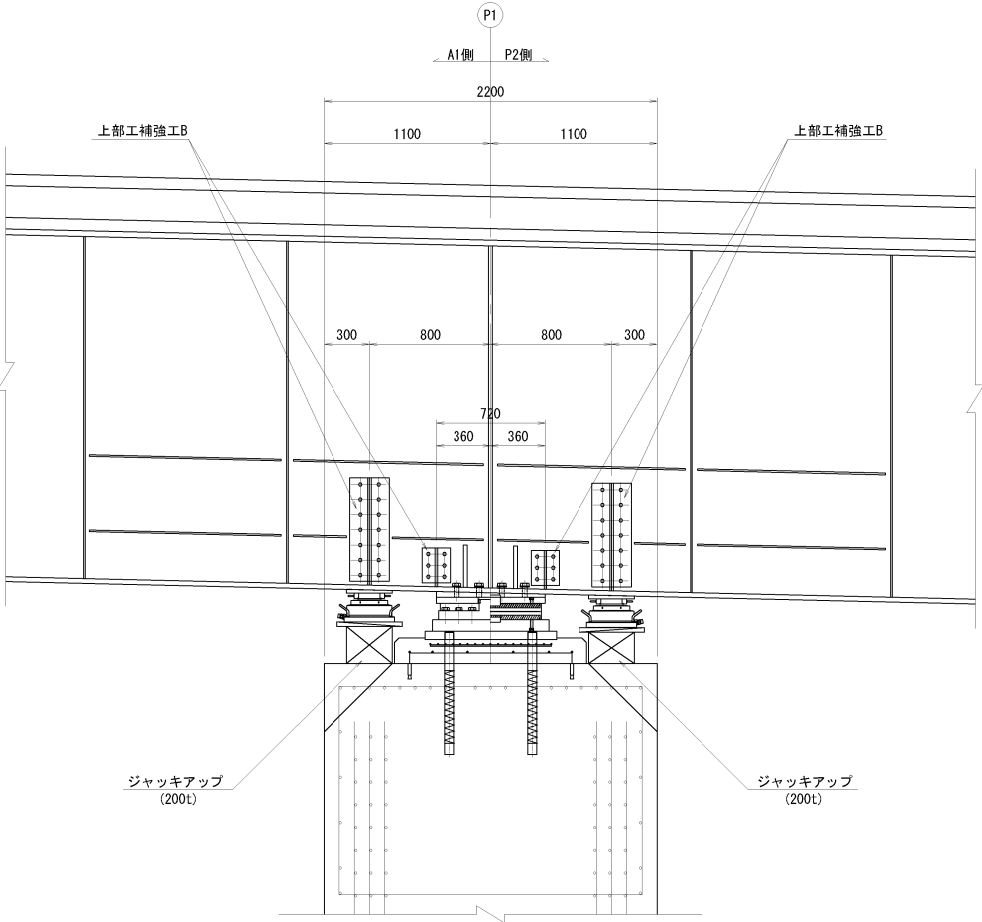


主桁補強材側面図 縮尺1:50

側面図(建設当初 G1)



側面図(拡幅部 DG2)

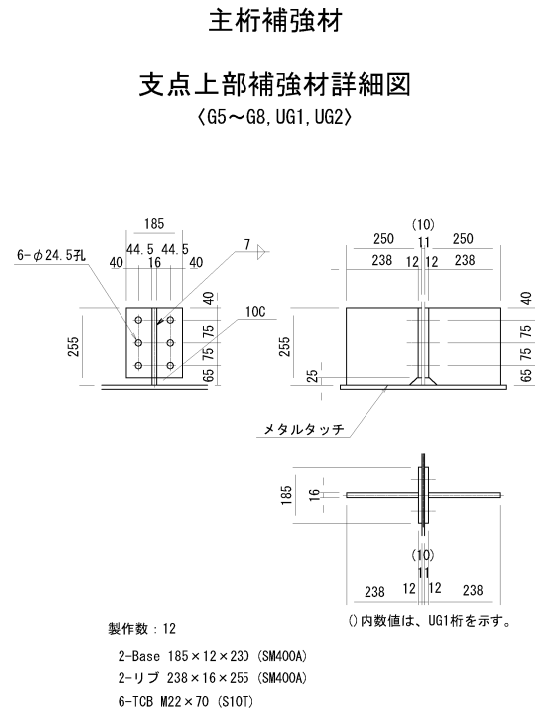


- 注 記
1. 本体補強材は全て塗装仕様とする。
 2. アンカーボルトは、全長に渡り、溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の付着量は、JIS H 8641のHDZT77とする。
但し、ナット、ワッシャーはHDZT49とする。
 3. 高力ボルトは転用しないこと

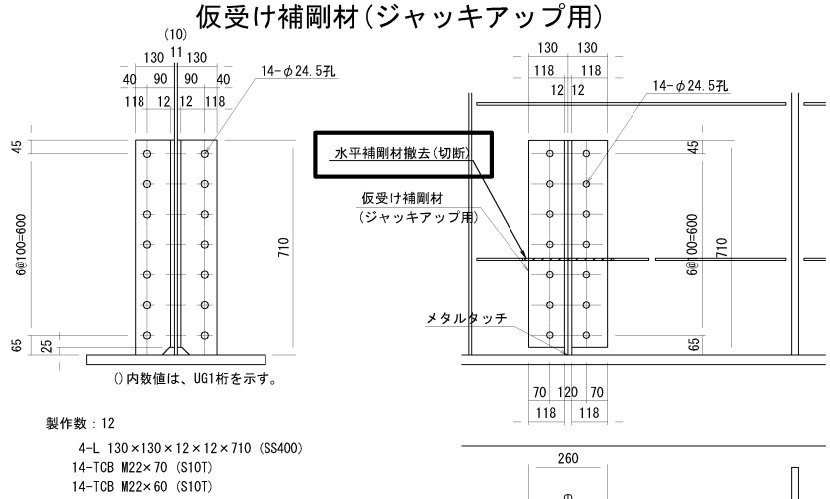
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 撤去工(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	61 / 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷第二高架橋 撤去工(その5)
釜利谷第二高架橋 P1橋脚(上り線)支承取替工(その3)

縮尺 1:25

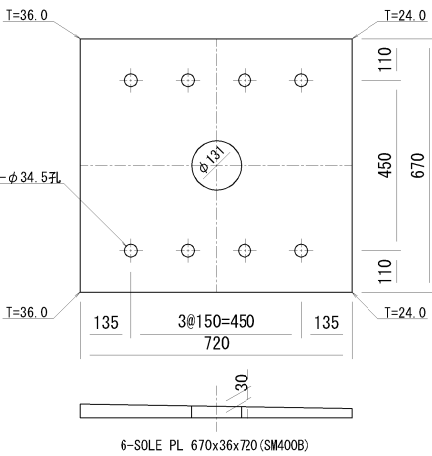


上部工補強工B

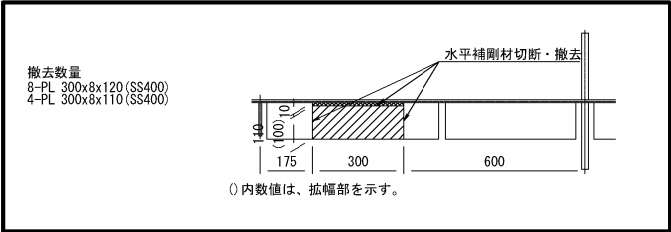


支承取替工 E-2830(1598)

ソールプレート詳細図 縮尺1:20

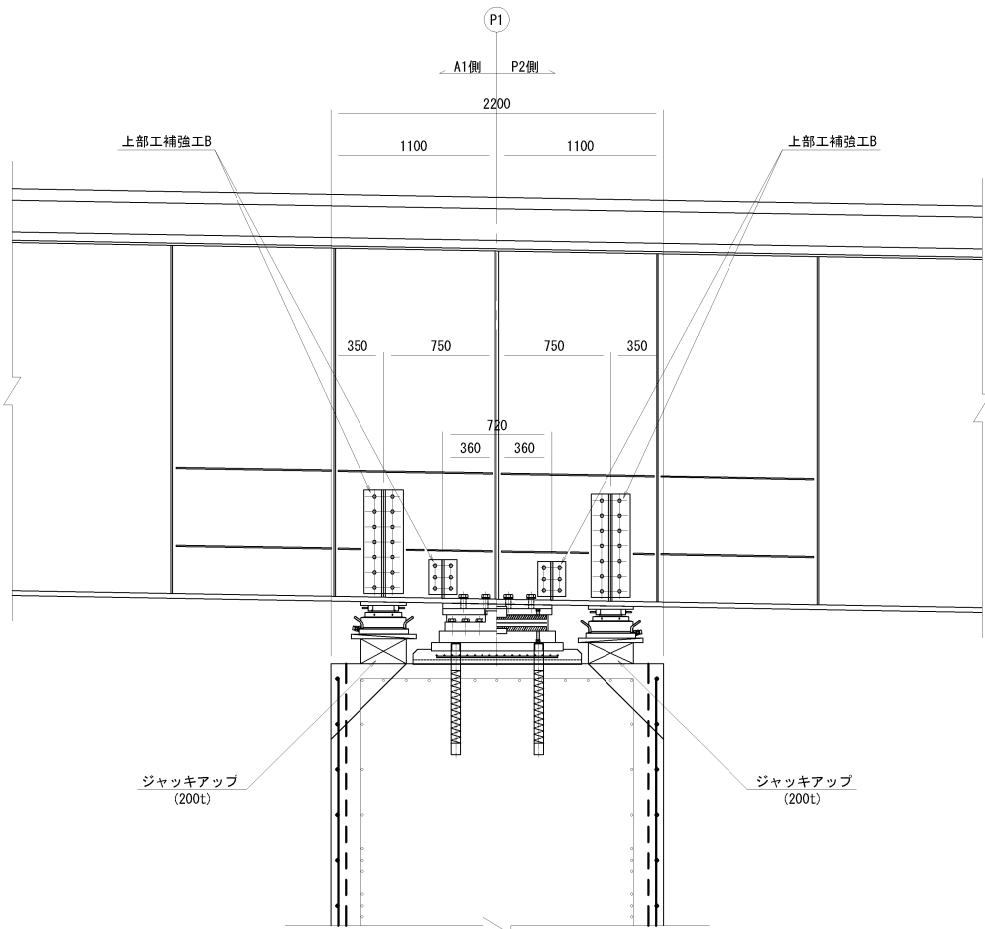


率計上対象項目
撤去工 補剛材

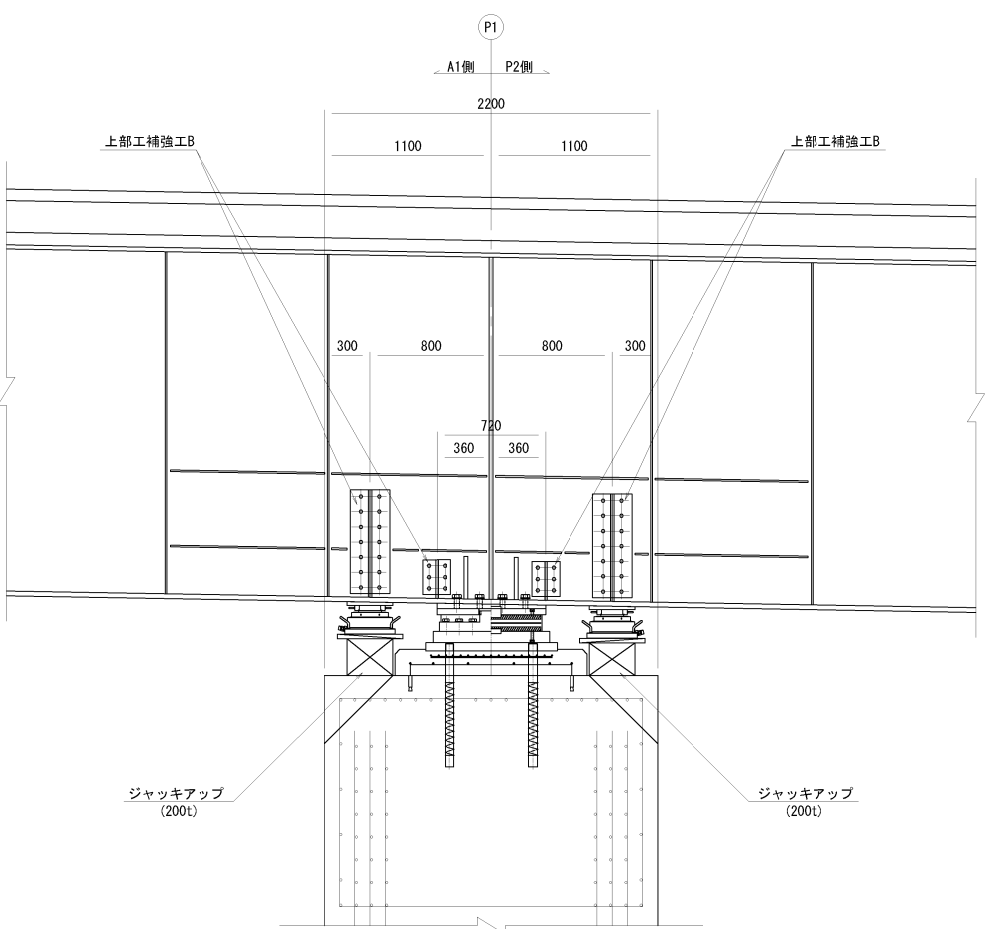


主桁補強材側面図 縮尺1:50

側面図(建設当初 68)



側面図(拡幅部 UG1)



- 注 記
1. 本体補強材は全て塗装仕様とする。
 2. アンカーボルトは、全長に渡り、溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の付着量は、JIS H 8641のHDZT77とする。
但し、ナット、ワッシャーはHDZT49とする。
 3. 高力ボルトは転用しないこと

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 撤去工(その5)		
縮 尺	図 示	図面番号	62 / 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷第二高架橋 撤去工(その6)
釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線) 支承取替工(その3)

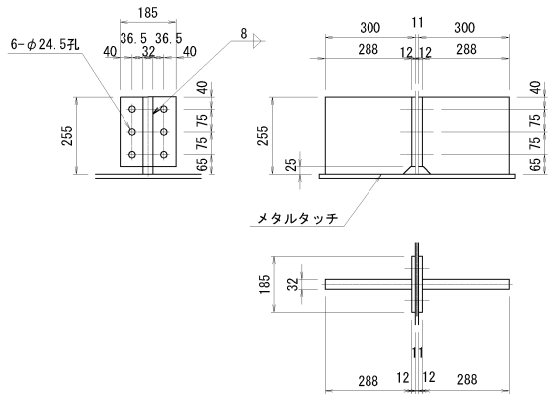
縮尺 1:25

主桁補強材

上部工補強工B

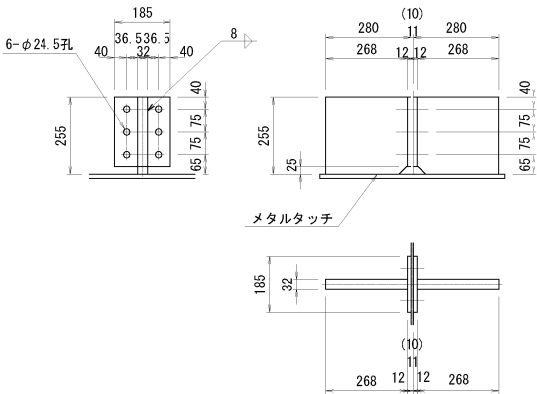
仮受け補剛材(ジャッキアップ用)

支点上部補強材詳細図
(G1~G4)



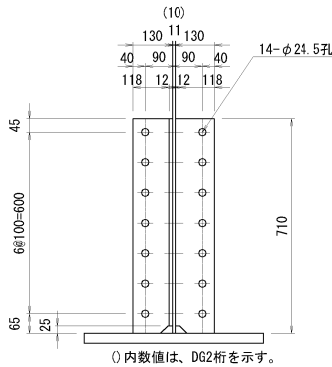
製作数 : 8
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 288×32×255 (SM400A)
6-TCB M22×70 (S10T)

支点上部補強材詳細図
(DG1, DG2)



製作数 : 4
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 268×32×255 (SM400A)
6-TCB M21×70 (S10T)

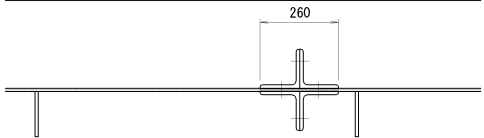
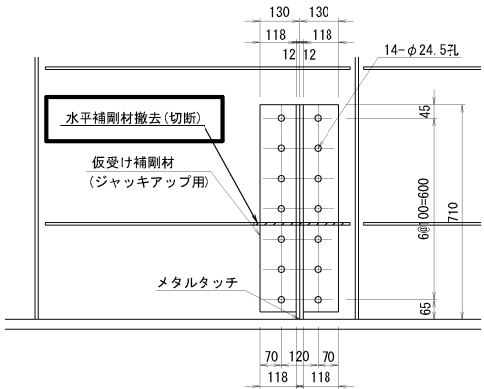
() 内数値は、DG2桁を示す。



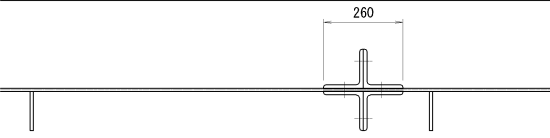
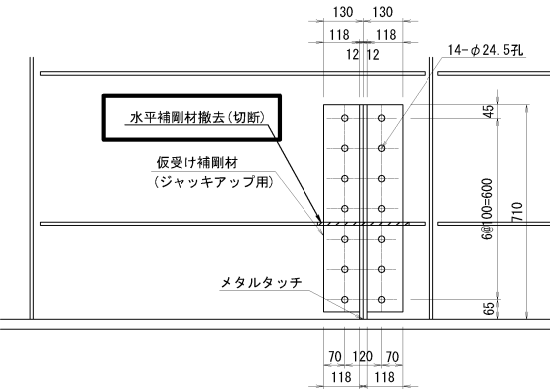
製作数 : 12
4-L 130×130×12×12×710 (SS400)
14-TCB M22×70 (S10T)
14-TCB M22×60 (S10T)

() 内数値は、DG2桁を示す。

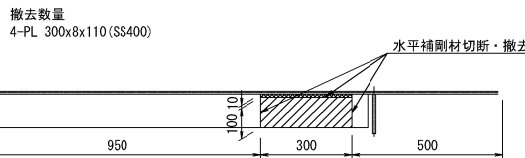
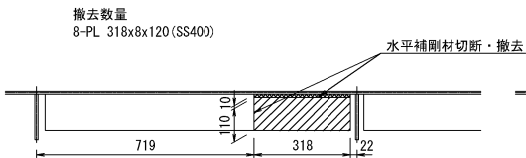
建設当初



拡幅部

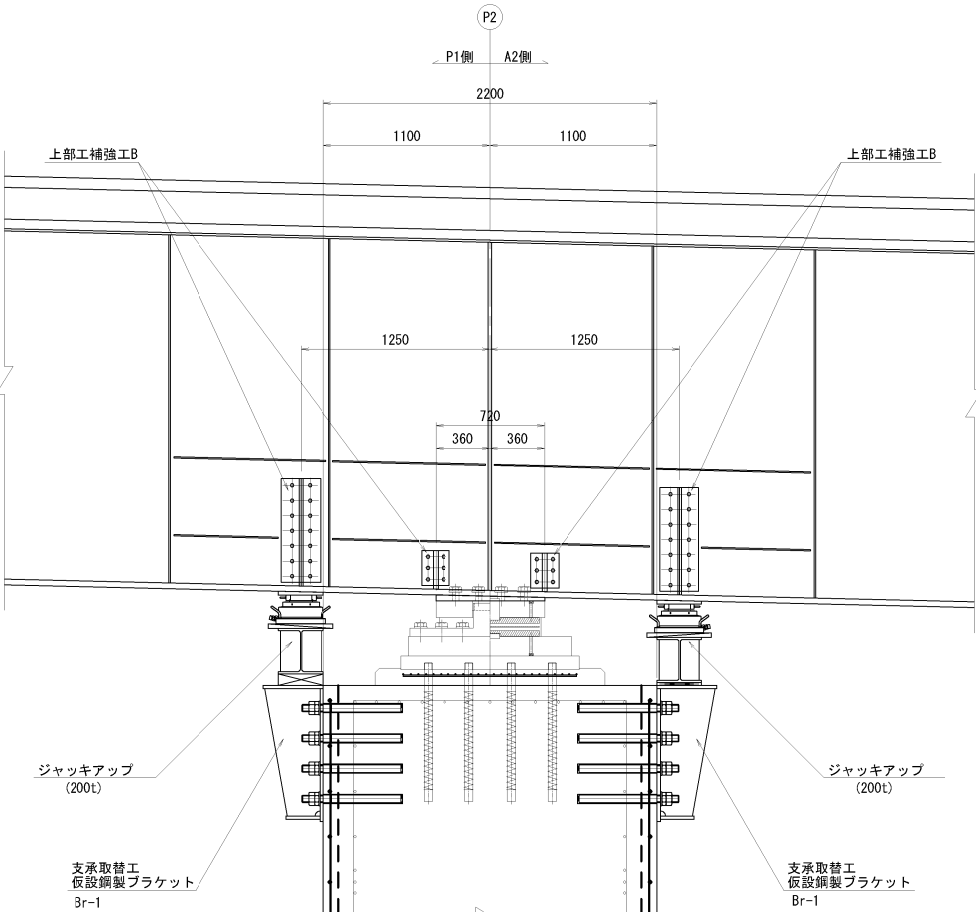


率計上対象項目
撤去工 補剛材

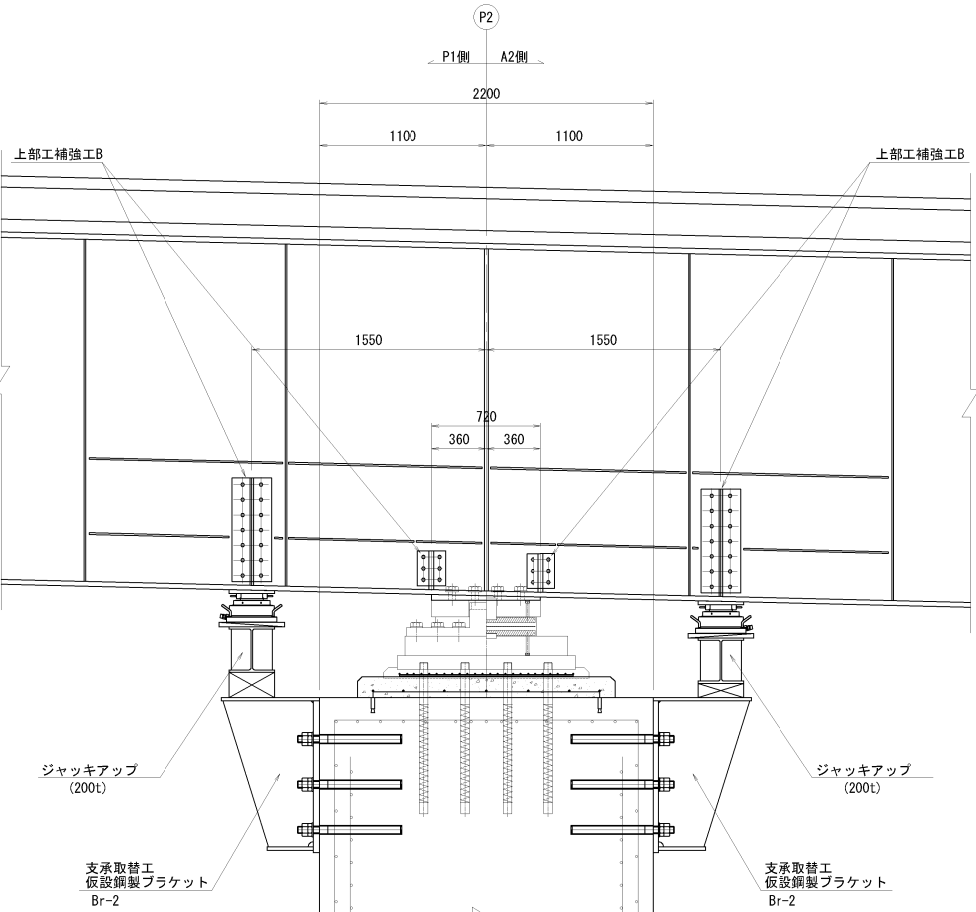


主桁補強材側面図 縮尺1:50

側面図(建設当初 G1)



側面図(拡幅部 DG2)

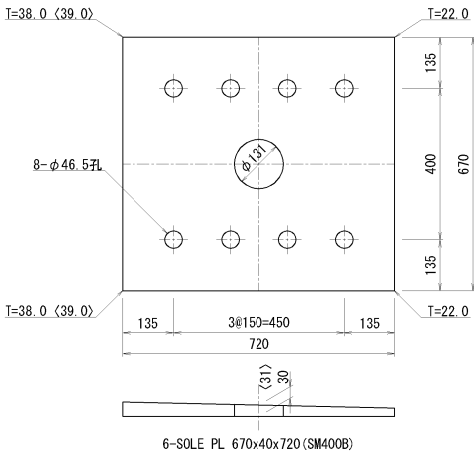


- 注 記
- 本体補強材は全て塗装仕様とする。
 - アンカーボルトは、全長に渡り、溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の付着量は、JIS H 8641のHDZT77とする。
但し、ナット、ワッシャーはHDZT49とする。
 - 高力ボルトは転用しないこと

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 撤去工(その6)		
縮 尺	図 示	図面番号	63 / 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

支承取替工 E-2900(4089)

ソールプレート詳細図 縮尺1:20
() 内数値は、拡幅部を示す。



ジャッキアップ
(200t)

支承取替工
仮設鋼製ブラケット
3r-1

ジャッキアップ
(200t)

支承取替工
仮設鋼製ブラケット
Br-1

ジャッキアップ
(200t)

支承取替工
仮設鋼製ブラケット
Br-2

ジャッキアップ
(200t)

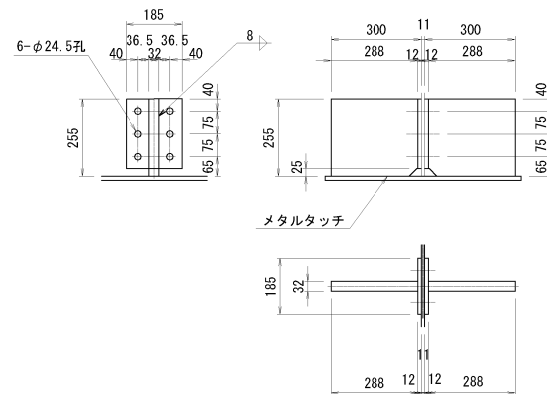
支承取替工
仮設鋼製ブラケット
Br-2

釜利谷第二高架橋 撤去工(その7)
釜利谷第二高架橋 P2橋脚(上り線) 支承取替工(その3)
上部工補強工B 仮受け補剛材(ジャッキアップ用)

縮尺 1:25

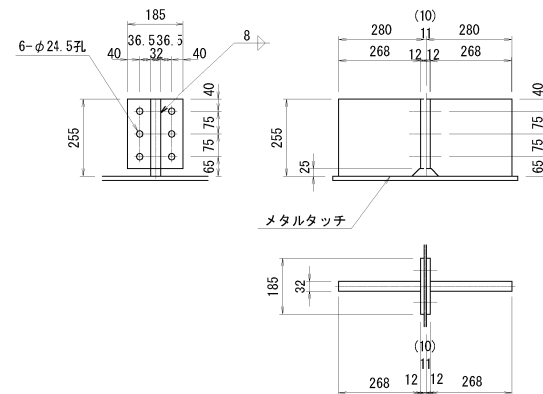
主桁補強材

支点上部補強材詳細図
(G5~G8)



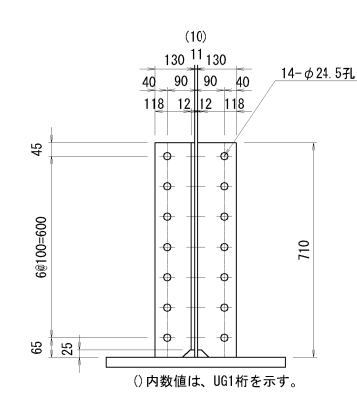
製作数 : 8
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 288×32×255 (SM400A)
6-TCB M22×70 (S10T)

支点上部補強材詳細図
(UG1, UG2)



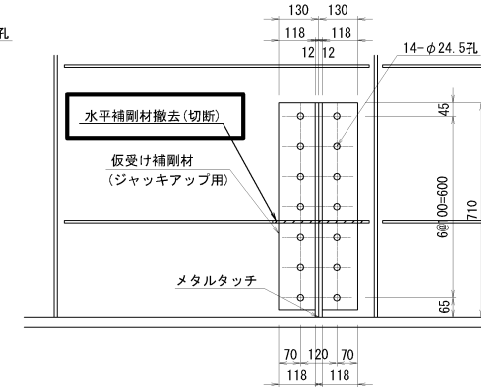
製作数 : 4
2-Base 145×12×230 (SM400A)
2-リブ 248×32×255 (SM400A)
6-TCB M21×70 (S10T)

率計上対象項目
撤去工 補剛材

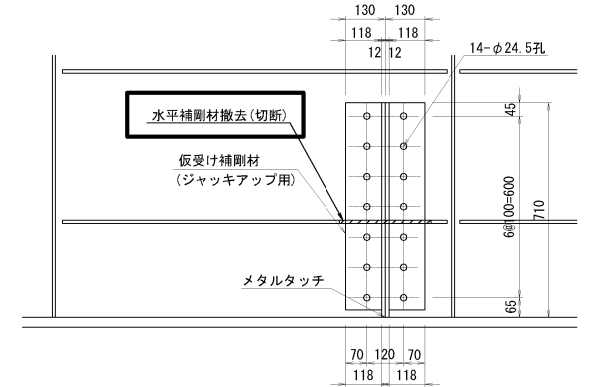


製作数 : 12
4-L 130×130×12×12×710 (SS400)
14-TCB M22×70 (S10T)
14-TCB M22×60 (S10T)

建設当初

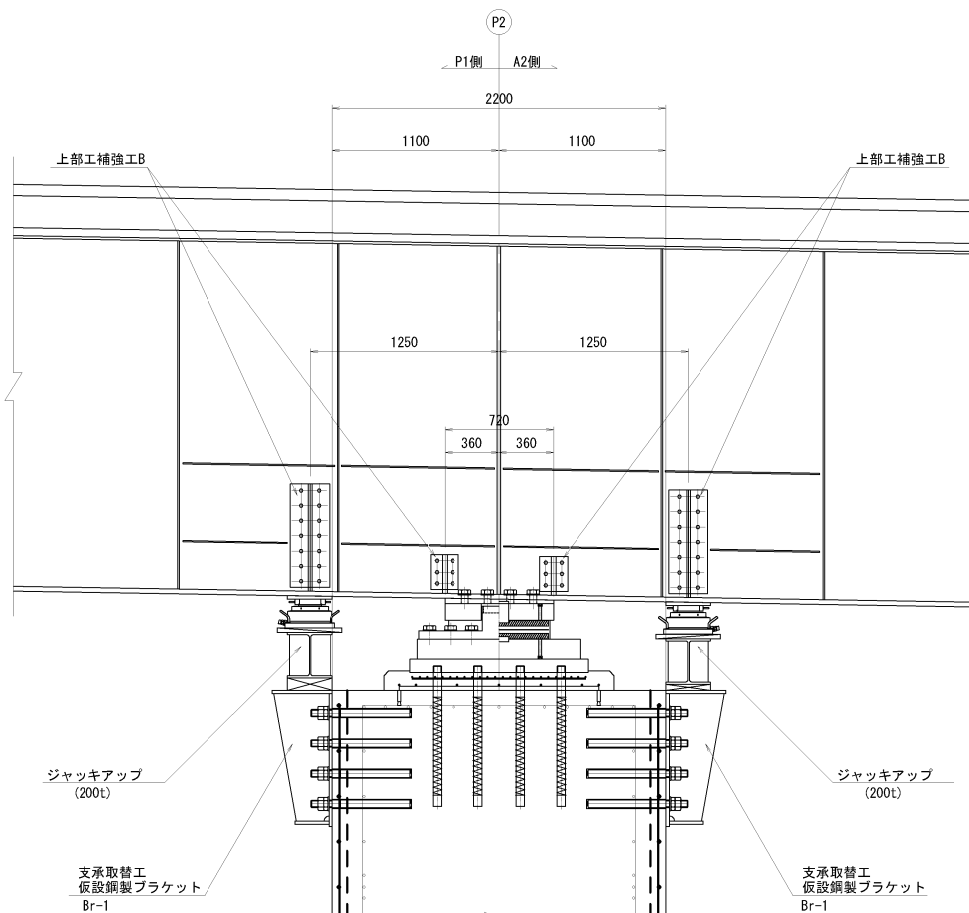


拡幅部

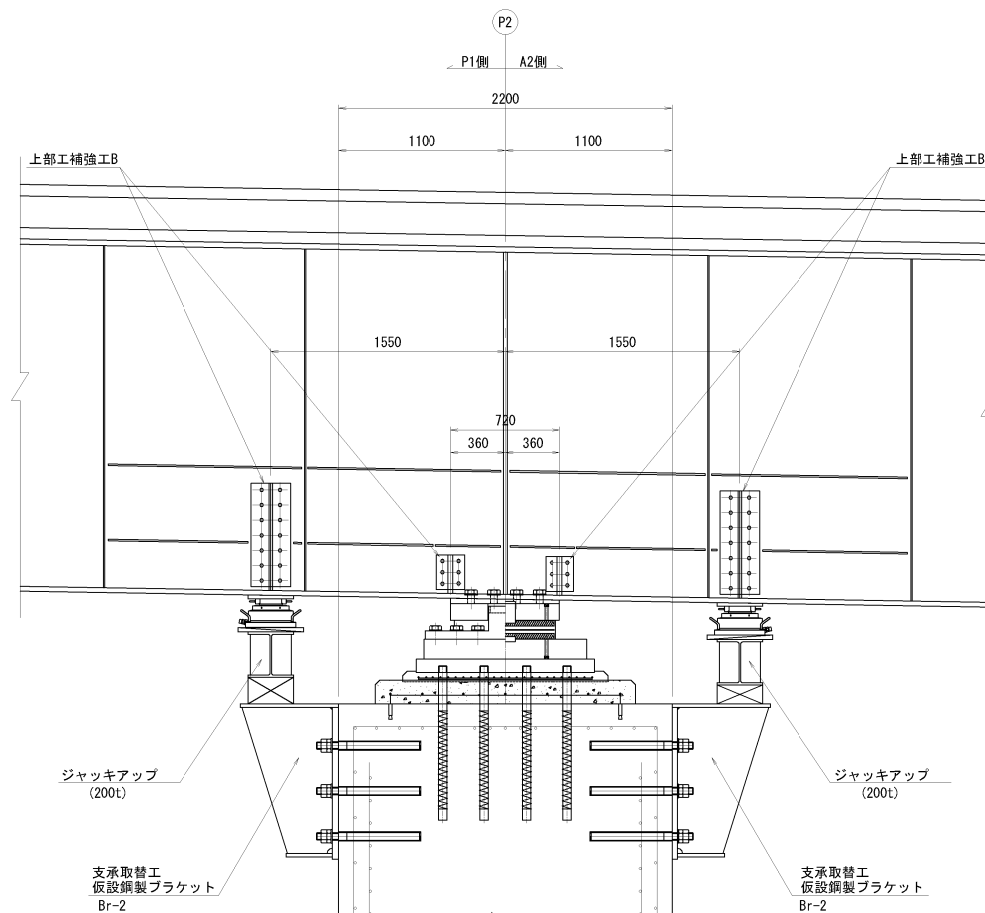


主桁補強材側面図 縮尺1:50

側面図(建設当初 G8)



側面図(拡幅部 UG1<UG2>)

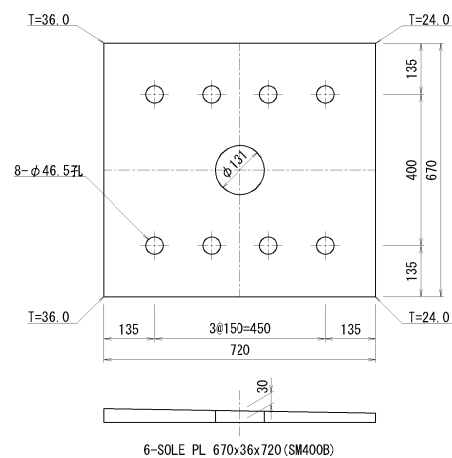


- 注 記
1. 本体補強材は全て塗装仕様とする。
 2. アンカーボルトは、全長に渡り、熔融亜鉛めっき仕上とする。
亜鉛の付着量は、JIS H 8641のHDZT77とする。
但し、ナット、ワッシャーはHDZT49とする。
 3. 高力ボルトは転用しないこと

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 撤去工(その7)		
縮 尺	図 示	図面番号	64 / 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

支承取替工 E-2780(4089)

ソールプレート詳細図 縮尺1:20

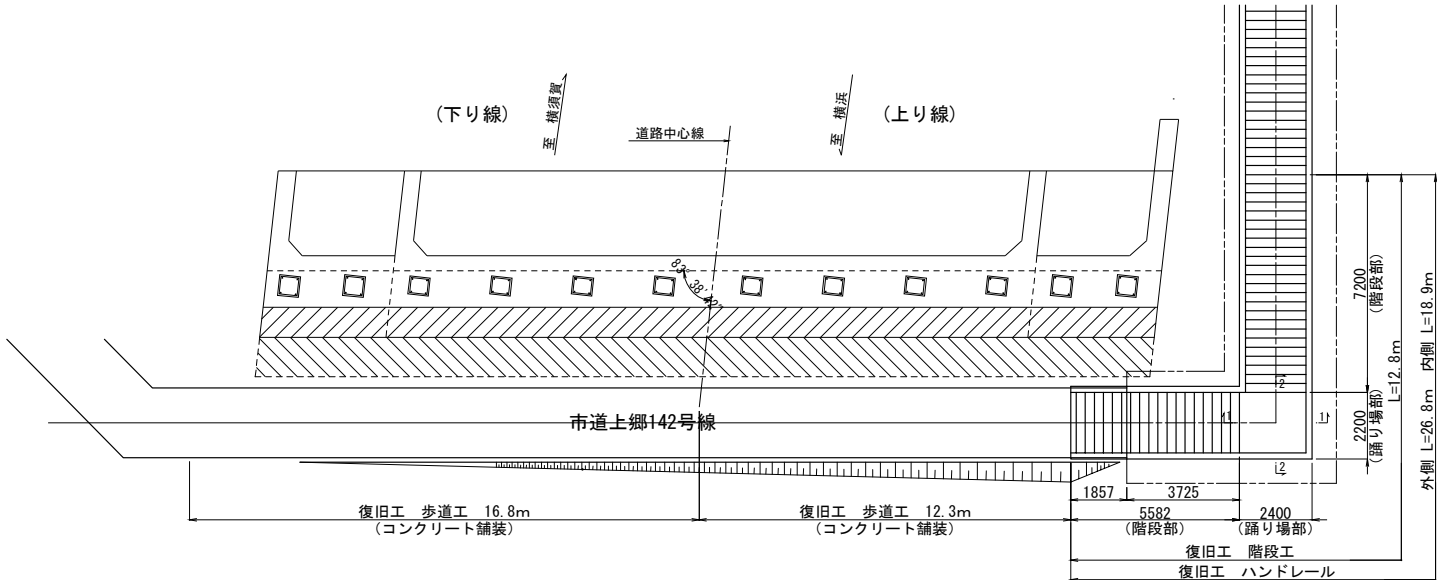


6-SOLE PL 670x36x720 (SM400B)

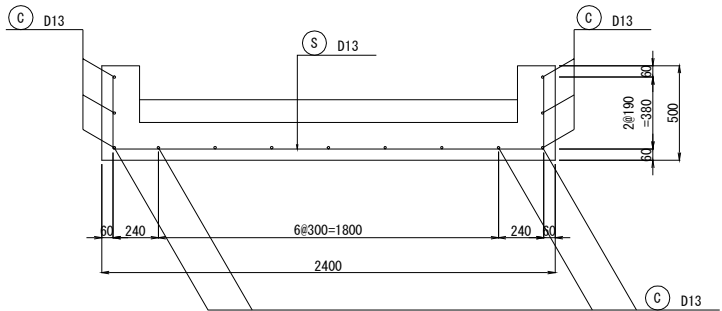
復旧工 階段工

階段部詳細図 S=1:40

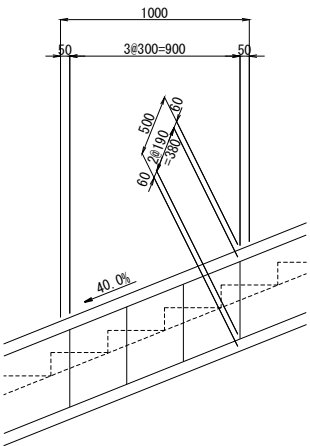
平面図 1:250



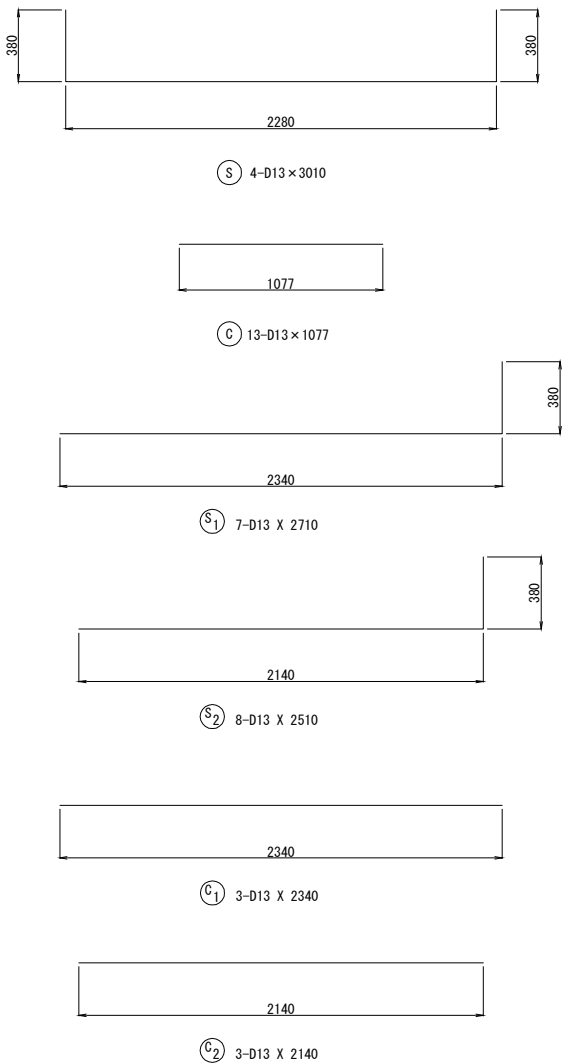
標準断面図



側面図

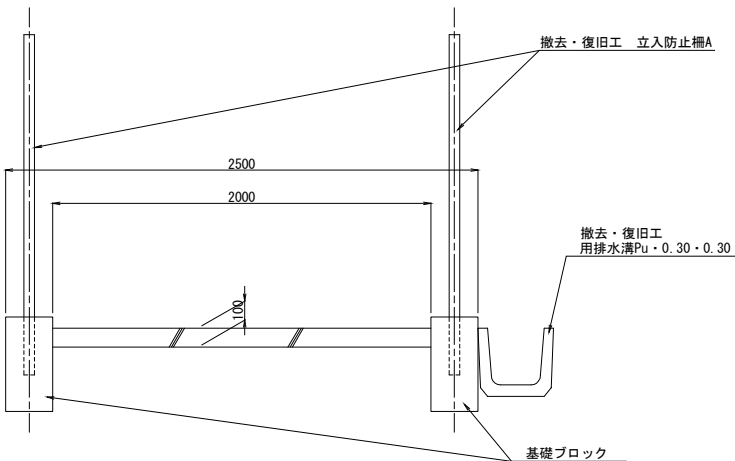


鉄筋加工図

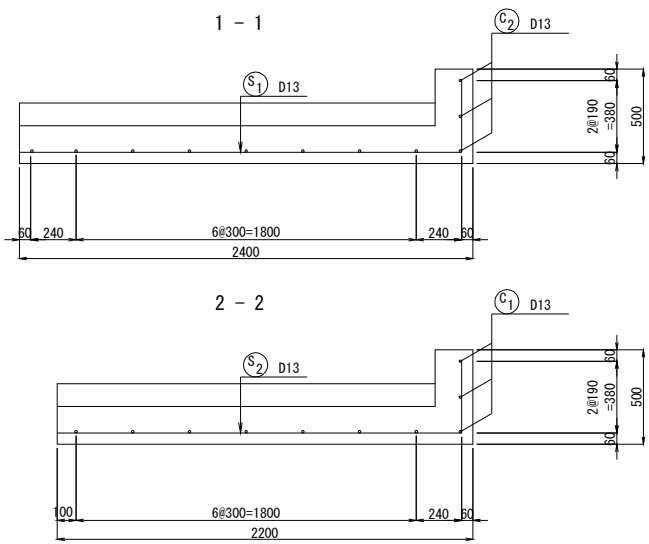


復旧工 歩道工

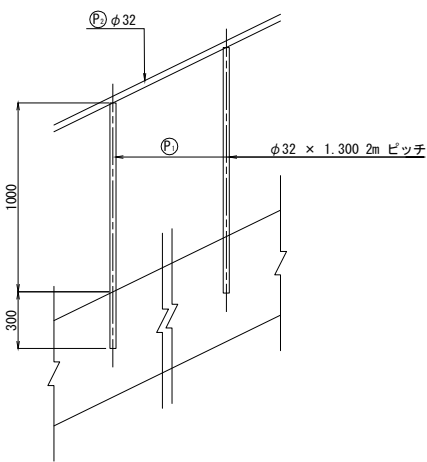
コンクリート舗装 断面図 S=1:40



踊り場部 断面図 S=1:40



復旧工 ハンドレール



鉄筋表 (階段部)

記号	径	長さ	本数	単位数量	1本当り	重量	摘要
S	D13	3,010	4	0.995	2.99	12	
C	D13	1,077	13	0.995	1.07	14	
26kg							

鉄筋表 (踊り場部)

記号	径	長さ	本数	単位数量	1本当り	重量	摘要
S1	D13	2,710	7	0.995	2.70	19	
S2	D13	2,510	8	0.995	2.50	20	
C1	D13	2,340	3	0.995	2.33	7	
C2	D13	2,140	3	0.995	2.13	6	
52kg							

※本図面に記載の詳細図は、横浜横須賀道路(釜利谷JCT～朝比奈IC)完成図をトレースしたものである。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 復旧工		
縮 尺	図 示	図面番号	65 / 65
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		